

年報の発刊にあたって

平成27年度は、独立行政法人国立文化財機構（2007（平成19）年4月発足）が定めた第3期5ヵ年中期計画（2011～2015）の最終年度にあたります。今期中期計画において、当研究所の果たすべき社会的使命と役割について「わが国の文化財研究を、基礎的なものから先端的・実践的なものまで、多様な手法により行い、その成果を積極的に公表する。また、文化財担当者の研修、地方公共団体への専門的な助言を行う。さらに、保存科学・修復技術に関するわが国の拠点としての役割を果たす。また、世界の文化財保護に関する国際的な研究交流、保護事業への協力、専門家の養成、情報の収集と活用等を実施し、文化財保護における国際協力の拠点としての役割を果たす」と決めました。

この目標を達成するため、当研究所では企画情報部、無形文化遺産部、保存修復科学センター、文化遺産国際協力センターの2部2センターからなる研究部門と、これを支える研究支援推進部（事務部門）が連携して以下に掲げたような多様な調査研究や事業を行ってきました。

（1）文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進

- ①有形文化財及びそれに係わる諸外国の文化財に関する調査・研究
- ②無形文化遺産の伝承・公開の基盤の形成等を図るための調査・研究

（2）科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する調査・研究の推進

- ①文化財の生物被害の予防と対策に関する調査・研究
- ②文化財の安定的な保存環境構築に関する調査・研究
- ③文化財の劣化防止、保存修復に必要な先端的研究

（3）文化財保護に関する国際協力の推進

- ①文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力等の情報の収集と公開
- ②海外の保存修復技術に関する研究情報の収集とアジア地域を中心とする諸外国の文化財保護事業に対する協力推進

それぞれの研究テーマに関する5年間の総括は個々に示していますが、今期計画の中で特に力を入れてきたのは、これらの研究テーマの成果を含め当研究所が蓄積してきた研究成果や研究資料のアーカイブ化とデータベース化、及びこのような情報を効果的に発信するためのシステム開発です。また、発生から5年目となった東日本大震災で救出した被災文化財の修復についての指導・助言は引き続き行っていますが、その教訓の一つである有形・無形の文化遺産の所在地把握のための調査活動も関係機関の協力を得ながら取り組み始めました。

今後とも文化財保護に資する基礎的な調査・研究は継続していきますが、各方面からの多様な文化財保護のための社会的要請に対して確実に応えるべく、全所員一丸となって取り組んでいく決意です。当研究所への関係各位の一層のご支援ご協力をお願いする次第です。

2016（平成28）年6月

独立行政法人国立文化財機構
東京文化財研究所
所長 亀井伸雄

独立行政法人国立文化財機構
東京文化財研究所年報 2015年度

目 次

年報の発刊にあたって

1. 機 構

1. 組織図	1
2. 組織の概要と職員	2
(1) 研究支援推進部	2
(2) 企画情報部	3
(3) 無形文化遺産部	5
(4) 保存修復科学センター	6
(5) 文化遺産国際協力センター	8

2. 年度計画及びプロジェクト報告

1. 年度計画と各種プロジェクトとの対応一覧表	11
2. プロジェクト報告	23
① プロジェクト研究に関する事業	23
② 国際協力・交流等に関する事業	41
③ 資料作成・公開に関する事業	51
④ 研究集会・講座等に関する事業	59
⑤ 研究指導・研修等に関する事業	67
⑥ 刊行物に関する事業	79

3. その他の研究活動

1. 科学研究費助成事業による研究	89
2. 受託調査研究・外部機関との共同研究及び外部資金による研究	121
3. その他の研究活動	157

4. 個人の研究業績

.....	159
-------	-----

5. 研究交流

1. 職員の海外渡航	207
2. 招聘研究員等	213
3. 海外研究者等の来訪	216
4. 主要来訪者、施設見学	217

6. 主な所蔵資料

1. 図書資料	219
(1) 美術関係図書	219
(2) 無形文化遺産関係図書	219
(3) 保存科学・修復技術関係図書	219
(4) 外国文化財関係図書	219
2. その他	220
(1) 美術関係資料	220
(2) 無形文化遺産関係資料	220
(3) 保存科学・修復技術関係資料	220
(4) 国際資料室保管資料	220

7. 研究所関係資料

1. 設立の経緯	221
2. 年代別重要事項	221
3. 歴代所長（昭和5年～平成28年度）	225
4. 名誉研究員	226
5. 2015（平成27）年度予算等	227

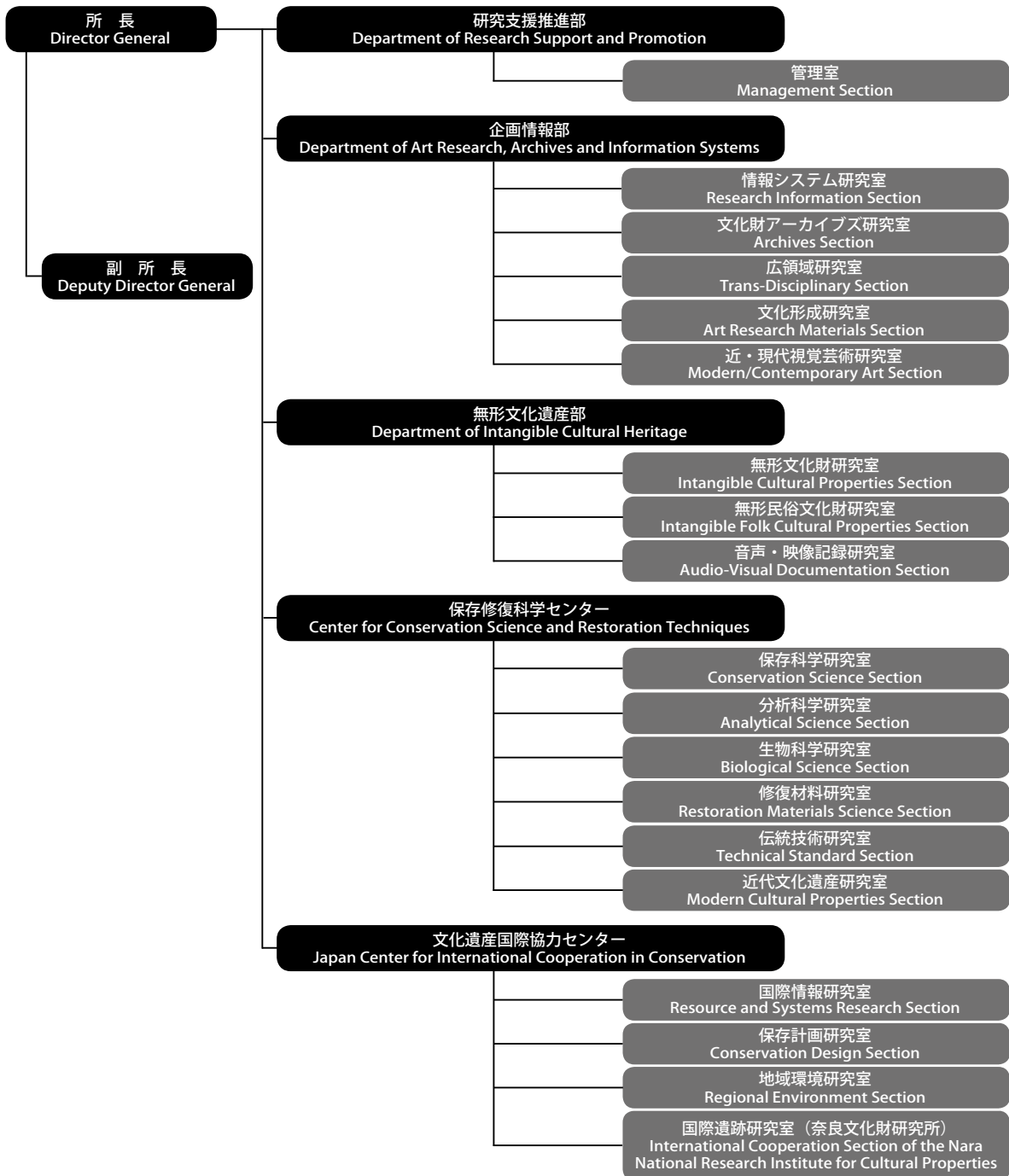
8. 東京文化財研究所プロジェクト索引

..... 233

1. 機 構

1. 組 織 図

独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所
Independent Administrative Institution
National Research Institute for Cultural Properties, Tokyo



2. 組織の概要と職員

所 長 亀井 伸雄（建築史）、副所長 田中 淳（日本近代絵画史）

(1) 研究支援推進部

研究支援推進部は、東京文化財研究所の事務部門として、管理室に総務係、企画渉外係、財務係、契約係を置き、総務、人事、他機関との渉外、国際交流、財務管理、会計、施設管理等の業務を通じ研究支援を行っている。

本年度も継続して、各係内の担当業務の整理を行うなど合理化を検討・実施し、各研究部門との連携を深め、研究所の円滑な運営に努めた。

総 務 係

東京文化財研究所における業務方法書の変更、中期計画及び年度計画の取りまとめ、事業年度の業務実績についての評価委員会の評価に関する事務を行っている。また、情報公開に関する事務、秘書業務に関する事務、文書の授受・発送に関する事務、文化庁等の他機関、法人本部及び各施設並びに所内の連絡調整に関する事務、人事管理に関する事務（アソシエイトフェロー、有期雇用職員、客員研究員、調査・研究アシスタントの任免に関する事務を含む）、共済組合に関する事務、栄典及び叙勲に関する事務等を行っている。

企画渉外係

海外渡航に関する事務、研修及び国際研究集会等の実施に関する事務、国際交流等に係る政府機関及び関係団体との連絡調整に関する事務等を行っている。また、外部資金に関する事務、在外日本古美術品修復協力事業に関する事務、寄付金の受入、研究所視察及び見学の受入と対応、所蔵の写真、出版物等の使用許可に関する事務、規定の制定・改廃に関する事務等を行っている。

財 務 係

財務諸表の作成に関する事務、決算報告書の作成に関する事務、監事及び会計監査人の監査に関する事務、予算・決算に関する事務、資金管理及び出納に関する事務等を行っている。

契 約 係

物品及び役務の調達、契約の執行に関する事務、給与計算及び給与の支払いに関する事務、諸謝金及び、旅費の執行に関する事務、物品、建物及び設備等の管理に関する事務等を行っている。

<組織概要>

研究支援推進部長	島 崎 正 弘	事務補佐員	小田切 真 梨
管 理 室 長	平 出 秀 文	財 務 係 長	古 澤 誠
総 務 係 長	長 澤 由美子*1	事務補佐員	前 田 桐 里
総務係主任	安 川 政 和*2	事務補佐員	中 村 知 華*10
事務補佐員	平 野 好 美*3	事務補佐員	町 田 沙 織*8
事務補佐員	小 林 美 貴	契 約 係 長	中 濱 拓 郎
事務補佐員	上 松 祐貴子*4	事務補佐員	松 井 理 恵*11
事務補佐員	尾 池 彩 子*5	事務補佐員	吉 丸 美由紀
事務補佐員	滝 口 麻 理*6	事務補佐員	谷 口 彩*12
事務補佐員	光 富 麻李香*7	事務補佐員	高 橋 望*4
事務補佐員	勝 田 こ と*8	事務補佐員	荒 木 晶*13
企画渉外係長	林 昌 宏*9	事務補佐員	小 河 みづほ*13
企画渉外係主任	今 城 裕 香	事務補佐員	佐 藤 由可子*14
アソシエイトフェロー	鈴 木 絢 香	事務補佐員	鈴 木 諒 子*7

事務補佐員 白井穂奈美*7

事務補佐員 杉本朋世*15

*1平成28年1月1日付東京国立博物館へ配置換、*2平成28年1月1日付東京国立博物館より配置換、*3平成27年6月30日付退職、*4平成27年4月30日付退職、*5平成27年4月1日付採用、平成27年9月30日付退職、*6平成27年5月25日付採用、*7平成27年7月1日付採用、*8平成27年11月1日付採用、*9平成28年1月1日付本部事務局より配置換、*10平成27年4月1日付採用、平成27年10月31日付退職、*11平成27年7月19日付退職、*12平成27年11月30日付退職、*13平成27年4月1日付採用、14平成27年5月18日付採用、*15平成28年1月18日付採用

(2) 企画情報部

企画情報部は、文化財に関する専門的アーカイブを構築して外部に発信するほか、所内の情報システムを管理し、広報企画事業を行い、資料閲覧室や画像情報室を通じて資料の作成と公開を担う。また、日本及び東アジアの美術に関する調査研究を行い、美術史研究のための高質な資料や情報を作成し、その成果を積極的に刊行することを目指す。研究に際しては、時代や地域などの枠にとらわれない広領域的な研究テーマを設定して、他の分野との連携を進める。

情報システム研究室

情報システムの構築・管理を行い、年報の編集・刊行やウェブサイトの構築・運用を通じて、研究成果の公開を行う。また、研究支援推進部と連携して広報事業を行う。

文化財アーカイブズ研究室

文化財の専門的アーカイブとして、文化財に関する画像や図書等の情報・資料を収集、整理し、全所的にとりまとめて公開する。

資料閲覧室：受け入れた文化財関連の図書や定期刊行物、展覧会カタログ、写真資料などを整理し、月・水・金曜日に一般の利用者に公開するほか、各種の書誌や研究情報のデータベースを作成する。また、所蔵資料のデジタル化と目録作成を進め、提供する。図書資料、写真資料等のオンライン検索に対応するとともに、写真資料は主題別・作家別に分類・配架し、閲覧に供する。

広領域研究室

美術のジャンルや時代、地域を横断する課題に取り組み、文化財に関わる諸分野と連携して、広い視野から美術を研究し、その材料、技法、制作過程等を明らかにする。

画像情報室：各研究部門の依頼や外部機関の要請により、文化財を撮影し、画像を形成するほか、光学的理論やデジタル技術を応用した最先端の画像形成を開発・駆使し、視覚的な研究情報を提示する。

文化形成研究室

江戸時代までの日本と東アジアの美術を研究する。美術の価値形成の多様性を解明するため、美術史研究のための資料学的な基盤を整備する。

近・現代視覚芸術研究室

明治以降の日本美術を研究する。近現代美術に関わる研究資料を収集、整理し、研究手法を開発するとともに、現代美術の動向を調査、研究する。

企画情報部は以下の事業を行う。

(1) 文化財に関する専門的アーカイブの拡充

他機関との共同調査研究により高精細デジタル画像を作成するとともに、当所の各研究部門と共同で画像資料のデジタル化等を推進し、画像管理と内部閲覧を目的とする画像データベースを運用する。また、これらの画像資料に、文献資料、および研究的情報を付加し、より充実した文化財アーカイブの形成を進める。

(2) 研究情報の自己評価

所内の各部門が遂行する研究の新しい成果を共有し、かつ互いに評価し合う場として総合研究会（年5回程度）を企画、開催するとともに、各年度の研究や事業を総括した年報を編集する。

(3) 研究情報の外部発信と共有化

研究情報発信のため、ウェブサイト及び外部公開データベースの一層の充実を目指す。広報委員会の情報システム部会を運用し、情報システムの効率化とウェブサイトの充実について協議し、LANを活用して所内の情報化を進め、情報公開の要請に即応できる体制を整える。

(4) プロジェクト研究

歴史的な観点から美術を捉えることによって、モノに対する理解を深めると同時に、その成果を文化財の保存、修復、保護、公開に役立て、かつ常に新しい研究方法と研究領域を開拓して、社会に貢献することを目指す。1930（昭和5）年の美術研究所の創設以来、東京文化財研究所が今日まで果たしてきたアーカイブとしての任務を認識し、美術研究のための資料や情報を、より高品質で信頼性のあるものにする、そしてそれらの有効な活用と社会への還元を心がける。また、新しい研究方法や研究領域の開拓のためには、関連分野との連携のみならず、国内外の研究機関や研究者との研究交流が重要と考え、研究のためのネットワークを構築し、その中心的役割を担う努力を続ける。その実現のために、高精細デジタル画像の応用に関する調査研究、東アジアの美術に関する資料学的研究、近現代美術に関する総合的研究、美術の技法・材料に関する広領域的研究を遂行する。

(5) 研究成果・研究情報の公開

『美術研究』（年3冊）、『日本美術年鑑』（年1冊）、種々の報告書を公刊して、調査研究の成果を公表する。また研究成果の一端を、一般向けの講演会であるオープンレクチャーにて披露する。

(6) 黒田記念館の運営と黒田清輝に関わる研究情報の公開

黒田清輝（1866-1924）の遺言に基づいて造られた黒田記念館には、東京文化財研究所の前身である美術研究所と黒田記念室が置かれた。独立行政法人国立文化財機構の発足に伴い、黒田記念館と黒田清輝作品の管理を東京国立博物館が行うことになったが、作品と研究成果の展示については当部が担当する。また当研究所のウェブサイトで、作品の高精細画像や黒田が書いた日記のテキスト等、黒田研究のための基礎資料を公開する。

<組織概要>

企画情報部部长	山 梨 絵美子（日本近代絵画史）	研究補佐員	田 中 潤（近代美術史料）
情報システム研究室長	二 神 葉 子（考古科学）	研究補佐員	阿 部 朋 絵（美術資料）
文化アーカイブズ研究員	津 田 徹 英（日本彫刻史）	研究補佐員	細 川 民 子（美術資料）*3
広領域研究室長	小 林 公 治（物質文化史）	研究補佐員	谷 口 每 子（画像形成）*5
文化形成研究室長	小 林 達 朗（日本中世絵画史）	研究補佐員	渡 邊 美 里（画像形成）*6
近・現代視覚芸術研究員	塩 谷 純（日本近代絵画史）	研究補佐員	三 木 美奈子（画像形成）*7
主任 研究員	皿 井 舞（日本彫刻史）	客員研究員	吉 田 千鶴子（日本近代美術史）
研 究 員	安 永 拓 世（日本近世絵画史）	客員研究員	三 上 豊（近現代美術）
研 究 員	橘 川 英 規（美術資料）*1	客員研究員	丸 川 雄 三（情報学）
専 門 職 員	城 野 誠 治（画像情報室・文化財写真）	客員研究員	中 野 照 男（東洋絵画史）
アソシエイトフェロー	橘 川 英 規（美術資料）*2	客員研究員	津 村 宏 臣（情報学）
アソシエイトフェロー	福 永 八 朗（情報システム）	客員研究員	近 松 鴻 二（近代史料）
アソシエイトフェロー	田 所 泰（日本近代美術史）*3	客員研究員	吉 崎 真 弓（美術資料）
研究補佐員	竹 花 真由子（画像形成）	客員研究員	河 合 大 介（美学・現代美術）*3
研究補佐員	野 田 吉 郎（美術資料）	客員研究員	片 山 ま び（東洋陶磁史）*8
研究補佐員	永 野 ひかり（画像形成）*4	兼 務	久 保 田 裕 道（無形文化遺産部）
研究補佐員	小山田 智 寛（フランス美学）	兼 務	早 川 泰 弘（保存修復科学センター）
研究補佐員	高 橋 佑 太（中国書道史）		

*1 平成27年7月1日付採用、*2 平成27年6月30日付退職、*3 平成27年4月1日付採用、*4 平成27年10月31日付退職、*5 平成27年5月1日付採用、*6 平成27年5月1日付採用、平成27年8月31日付退職、*7 平成27年12月1日付採用、平成28年1月31日付退職、*8 平成27年12月1日付採用

(3) 無形文化遺産部

無形文化遺産部は、無形文化財（伝統的工芸技術、古典芸能）、無形民俗文化財（風俗慣習、民俗芸能、民俗技術）及び文化財保存技術という、日本における無形文化遺産の全体を対象として、その保存継承に資する基礎的な調査研究を実施している。また重要な保護手法である音声・映像による記録については、その作成の実施とともに新たな手法開発についての研究を行っている。また、無形文化遺産分野について国内外との研究交流も実施している。

無形文化財研究室

古典芸能、伝統的工芸技術などの無形文化財、及び文化財保存技術について、伝承実態の調査や技法技術の変遷の研究など、その保護に資するための基礎的調査研究を行っている。

無形民俗文化財研究室

風俗慣習、民俗芸能、及び民俗技術などの無形民俗文化財について、その保護に資するための基礎的調査研究を、現在における伝承の実態、伝承組織、公開のあり方等の実地調査に基づいて行っている。また、映像記録作成、公開事業等、現実的な問題について全国の関係者との協議を実施し、その対策の検討も行っている。

音声・映像記録研究室

無形文化遺産に関する記録のアーカイブ化、記録作成手法について研究を行っている。また無形文化財、無形民俗文化財の現状を把握し、後世へ継承するために、それらの音声・映像記録を作成している。

無形文化遺産部は以下の事業を行う。

(1) 無形文化遺産に関する調査研究：技法・技術・慣習等、無形文化遺産は多岐にわたっており、保護対象の確定や適切な保護手法の確立のためには、無形文化遺産を構成する諸要素の専門的な調査・研究が重要である。また、人によって伝承されるために、年代や社会情勢の変化に伴って変容する要素も大きい。このため、従来の文献的研究の蓄積に加えて、伝承の実態に即した調査研究を実施している。

(2) 音声映像記録作成とデジタルアーカイブ化：無形文化遺産保護にとって、音声・映像記録は、記録保存的役割はもちろんのこと、その伝承ツールとしても重要な意味を持つ。このため、無形文化遺産部では、他機関では行えない希少演目等の記録保存事業を実施すると同時に、既存の記録活用のために、デジタルアーカイブ構築に向けての研究を行っている。

〈組織概要〉

無形文化遺産部長	飯島 満 (古典芸能)	客員研究員	齋藤 裕嗣 (伝統芸能・民俗芸能)
無形文化財研究室長	高桑 いづみ (古典芸能)	客員研究員	山崎 剛 (工芸技術)
無形民俗文化財研究室長	久保田 裕道 (民俗芸能)	客員研究員	原田 一敏 (工芸技術)
音声・映像記録研究室長(兼務)	飯島 満	客員研究員	荒川 正明 (工芸技術)
主任研究員	石村 智 (文化遺産学)*1	客員研究員	俵木 悟 (民俗芸能)
研究員	菊池 理予 (工芸技術)	客員研究員	松山 直子 (工芸技術)
研究員	今石 みぎわ (民俗学)	客員研究員	今岡 謙太郎 (古典芸能)
アソシエイトフェロー	佐野 真規 (映像アーカイブ)	客員研究員	永井 美和子 (修復技術)
研究補佐員	橋本 かおる (情報処理)	客員研究員	大西 秀紀 (古典芸能)
研究補佐員	伊藤 純 (民俗学)*2	客員研究員	鎌田 紗弓 (古典芸能)*3
客員研究員	星野 厚子 (古典芸能)	客員研究員	菊池 健策 (民俗学)*3

*1 平成27年4月1日奈良文化財研究所より配置換、*2 平成27年4月1日付採用、*3 平成27年6月1日付採用

(4) 保存修復科学センター

保存修復科学センターは、文化財の保存科学・修復技術の調査研究を行うナショナルセンターとしての役割を担うため、2007（平成19）年に保存科学部と修復技術部を統合して設立された。文化財保護の行政的要請に応え、文化財の所蔵者や保存修復の現場が直面する課題を解決するため、様々な科学分析や実験・観察により、調査研究を行っている。

保存科学研究室

文化財を安全に収蔵し公開活用するために、温度湿度・光・空気汚染物質など環境中の劣化因子が文化財に与える影響を調べ、劣化を予防する研究をしている。劣化因子の測定方法の基準化や基準値の設定、シミュレーションを利用した劣化予測研究を行い、安全に文化財を管理できる方法の確立を目指している。

分析科学研究室

文化財の材質や構造を様々な科学的分析手法によって調査し、文化財の化学的な特徴を明らかにする研究を行っている。特に文化財の材質分析調査をその場で行うことを目的に、各種小型可搬型機器を用いた調査方法の開発とその応用研究を行っている。

生物科学研究室

生物による文化財の劣化機構の解明と防除法の研究を行っている。現在は特に、歴史的建造物や古墳など屋外に近い環境に置かれた文化財の生物被害、カビなどの微生物による被害について文化財の安全性はもとより、環境や人体への影響をも視野に入れた対策の開発に力を入れている。

修復材料研究室

伝統的修復材料の評価と改良、新しい修復材料の開発評価及び修復材料の適用方法の開発を行っている。最適な材料を選択するために、材料に影響を与える環境条件に関する研究も併せて行っている。

伝統技術研究室

文化財の伝統的修復材料と技術に関する情報収集と研究を行い、従来の材料・技術の改良や新たな開発を行っている。これらの研究は、文化財保存の適切な概念の構築も目標とし、国内のみならず海外での日本美術品の保存にも寄与している。

近代文化遺産研究室

航空機、鉄道車両、ダムやトンネルなど日本の近代化を担ってきた文化遺産に関して、保存修復のための情報収集、技術・材料の調査及び開発を行い、近代文化遺産として後世に伝えていくための保存手法・保存計画のあり方等を研究している。

保存修復科学センターは以下の事業を行う。

(1) プロジェクト研究

文化財に関連する各種領域の専門研究者を6室に配置し、文化財の材質及び構造、劣化・損傷の状態とその発生要因、劣化防止のための対策、修復のための材料・技法、伝統的な制作材料の化学的特性、さらに近代以降の新しい素材による文化財の保存方法などに関する研究を行っている。2011（平成23）年に始まる第3期中期計画（5カ年）においては、「文化財の材質及び劣化調査法に関する研究」「文化財のカビ被害予防と対策のシステム化についての研究」「文化財の保存環境の研究」「周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究」「文化財の防災計画に関する調査研究」「伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究」「修復材料の適用に関する調査研究」「近代の文化遺産の保存修復に関する研究」の8テーマによるプロジェクト研究を展開し、いずれも重要な成果を上げた。

(2) 受託研究・共同研究

文化財は自然環境の変化や不意の事故などによって劣化が進行することがあり、また社会構造や産業の変化によってこれまで使っていた修復材料が入手困難になる場合もある。さらに各種の分析手法の応用によっ

て文化財を調査し、材質や構造に関する新たな知見を得ることによって文化財としての再評価がなされる場合がある。文化財行政の要請に応じ、所蔵者との協議を経て、多くの受託研究・共同研究を実施し、さらに多くの成果をあげている。

(3) 調査・助言

地方公共団体に対して協力を行うことにより、地域の文化財保護の質的向上に寄与している。「文化財の修復及び整備に関する調査・助言」「文化財の虫菌害に関する調査・助言」「文化財の材質・構造に関する調査・助言」「美術館・博物館等の環境調査と援助・助言」の4項目を実施している。

(4) 研修・教育

博物館・美術館・資料館等の文化財保存施設の学芸員や地方公共団体の文化財行政担当者を対象として、文化財保存に関する基礎的な知識や方法論を習得するための「博物館・美術館等保存担当学芸員研修」を毎年2週間の日程により実施している。本研修はすでに32回を数え、これまでの受講者に保存修復に関連する新しい情報を提供し続けることを目的としてフォローアップ研修を実施している。また1995（平成7）年から東京藝術大学と連携してシステム保存学コースを開設し、21世紀の文化財保存を担う人材を育成している。

(5) 国立文化財機構における保存修復担当研究者の併任

国立文化財機構内の2研究所・4博物館の保存修復担当の研究者を保存修復科学センターの併任とし、先進的な分析方法による文化財の構造・材質調査や文化財の保存管理上の課題解決等について、相互の連携により、随時取り組む体制を構築している。

<組織概要>

保存修復科学センター長	岡田 健（文化財学）	事務補佐員	山田 くりか
保存修復科学センター副センター長	佐野 千絵（保存環境学）	客員研究員	呂 俊民（建築環境学）
保存科学研究室長	吉田 直人（分光分析学）	客員研究員	渡 邊 真樹子（絵画修復）
分析科学研究室長	早川 泰弘（分析化学）	客員研究員	酒井 清文（酵素工学）
生物科学研究室長	木川 りか（生物化学）*1	客員研究員	古田嶋 智子（保存科学）
修復材料研究室長	朽津 信明（地質学）	客員研究員	三浦 定俊（物理計測）
伝統技術研究室長	北野 信彦（塗装技術史）	客員研究員	藤井 義久（木材科学）
近代文化遺産研究室長	中山 俊介（船舶工学）	客員研究員	間 渕 創（保存環境学）
主任研究員	犬塚 将英（物理計測）	客員研究員	横山 晋太郎（航空機保存）
主任研究員	早川 典子（高分子化学）	客員研究員	長島 宏行（航空機）
主任研究員	森井 順之（土木工学）	客員研究員	小堀 信幸（船舶）
研究員	佐藤 嘉則（微生物生態学）	客員研究員	本多 貴之（高分子分析）
アソシエイトフェロー	吉原 大志（日本近代・物産史学）*1	客員研究員	高林 弘実（文化財科学）
アソシエイトフェロー	石田 真弥（建築史）*2	客員研究員	堤 一郎（産業技術史）
研究補佐員	小林 芳妃（立体作品保存修復）*3	客員研究員	北原 博幸（建築環境学）
研究補佐員	小野寺 裕子（文化財保存修復学）*4	客員研究員	石崎 武志（保存科学）
研究補佐員	石井 恭子（保存修復日本画）	連携併任	神庭 信幸（東京国立博物館）
研究補佐員	内田 優花（保存科学）	連携併任	高橋 裕次（東京国立博物館）*7
研究補佐員	佐多 麻美（保存修復）	連携併任	荒木 臣紀（東京国立博物館）
研究補佐員	國元 麻里奈（漆工技術）*5	連携併任	和田 浩（東京国立博物館）
研究補佐員	濱田 翠（文化財科学）*6	連携併任	土屋 裕子（東京国立博物館）
研究補佐員	山府木 碧（漆工品保存修復）*2	連携併任	鷲塚 麻季（東京国立博物館）*8
事務補佐員	矢野 幹子	連携併任	酒井 元樹（東京国立博物館）

連 携 併 任	瀬 谷 愛 (東京国立博物館)*7	連 携 併 任	木 川 り か (九州国立博物館)*9
連 携 併 任	大 原 嘉 豊 (京都国立博物館)*7	連 携 併 任	志 賀 智 史 (九州国立博物館)
連 携 併 任	羽 田 聡 (京都国立博物館)	連 携 併 任	秋 山 純 子 (九州国立博物館)
連 携 併 任	鳥 越 俊 行 (奈良国立博物館)	連 携 併 任	高 妻 洋 成 (奈良文化財研究所)
連 携 併 任	本 田 光 子 (九州国立博物館)	連 携 併 任	脇 谷 草 一 郎 (奈良文化財研究所)
連 携 併 任	今 津 節 生 (九州国立博物館)	連 携 併 任	田 村 朋 美 (奈良文化財研究所)

* 1 平成 27 年 10 月 1 日付九州国立博物館へ配置換、* 2 平成 27 年 12 月 1 日付採用、* 3 平成 27 年 10 月 31 日付退職、
 * 4 平成 27 年 6 月 30 日付退職、* 5 平成 27 年 4 月 1 日付採用、* 6 平成 27 年 5 月 1 日付採用、* 7 平成 27 年 4 月 1 日付併任、
 * 8 平成 27 年 12 月 1 日付併任解除、* 9 平成 27 年 10 月 1 日付併任

(5) 文化遺産国際協力センター

国際情報研究室

国際社会における文化財に関する理念、法理念、条約・憲章や、諸外国の文化財保護に関する法制度、保護の状況及び文化財と政治、宗教、民族との関わりなどについての調査研究を行う。また、東京文化財研究所が行う国際交流・協力等の専門的事項についての連絡調整を行う。

保存計画研究室

世界各国の文化財の保存・整備・活用計画、地域開発・観光開発と文化財との関わり等に関する調査研究と保存計画立案を行う。

地域環境研究室

世界各地の文化財をとりまく自然環境、歴史的・人文的環境、経済的環境と、それらが文化財に及ぼす影響ならびにその保存対策に関する調査研究を行う。

世界各国に存在する文化財は、国や地域を越えて人類共有の財産として認識され、多くの人々がその価値を享受する権利とともに、国際協力の下にそれらを守る義務をも課せられている。多様で豊かな文化財を有し、100年以上に及ぶ文化財保護の歴史と充実した保護制度を持ち、保存・修復のための科学研究と技術を発展させてきた日本が果たすべき役割は大きく、世界各国からの協力要請も年々増加している状況にある。

日本が文化財の分野における国際協力に取り組みだしたのは、比較的最近のことである。そのなかにあつて、当所の前身である東京国立文化財研究所は、1990（平成2）年に「アジア文化財保存研究室」を設置し、3年後にはこれを「国際文化財保存修復協力室」と改称し、1995（平成7）年に至り「国際文化財保存修復協力センター」に改組して体制を充実させてきた。2001（平成13）年の独立行政法人発足にあたっては、奈良文化財研究所国際遺跡研究室との間に、独立行政法人文化財研究所の国際関係活動の全般について連携協力する体制がとられた。さらに、2006（平成18）年には「文化遺産国際協力センター」と改称し、世界各国の文化財の保存・修復に関する国際協力の我が国における中心的な存在として活動している。

文化遺産国際協力センターが行っている国際関係の活動には、諸外国の専門機関・専門家との共同研究や研究交流、諸外国の文化財に関する保存修復協力事業、文化財保存専門家の人材育成、文化財の保護に関する国際情報の収集と解析、成果の公表などがある。これらの共同研究や研修、協力事業、情報収集、公表の具体的活動の詳細は、プロジェクト毎に別途記載している。

〈組織概要〉

文化遺産国際協力センター長	川野邊 渉 (高分子化学)	研究補佐員	嶋原 由美 (絵画修復)
国際情報研究室長	加藤 雅人 (製紙科学)	研究補佐員	木原山 奈々 (文化財科学)*5
保存計画研究室長	友田 正彦 (建築学)	研究補佐員	後藤 里架 (保存修復)*6
地域環境研究室長	山内 和也 (考古学)	研究補佐員	橋本 広美 (保存科学)*6
主任研究員	江村 知子 (日本絵画史)	事務補佐員	長谷川 泉*7
任期付研究員	山下 好彦 (漆工品保存修復)	事務補佐員	川嶋 陶子*2
アソシエイトフェロー	楠 京子 (絵画修復)*1	事務補佐員	半戸 文 (日本近代史)
アソシエイトフェロー	山田 祐子 (絵画修復)	事務補佐員	栗原 浩邦*8
アソシエイトフェロー	佐藤 桂 (建築学)	事務補佐員	河野 輝美*6
アソシエイトフェロー	境野 飛鳥 (保護制度)	客員研究員	石井 美恵 (染織修復・染織品保存科学)
アソシエイトフェロー	久米 正吾 (考古学)	客員研究員	前川 佳文 (壁画保存修復)
アソシエイトフェロー	川口 雄嗣 (木造建造物)	客員研究員	間 舎裕生 (考古学)
アソシエイトフェロー	田島 さか恵 (世界遺産・遺産マネジメント)	客員研究員	谷口 陽子 (保存科学)
アソシエイトフェロー	山田 大樹 (地域計画)	客員研究員	松田 泰典 (保存科学)
アソシエイトフェロー	井内 千紗 (文化政策)	客員研究員	大河原 典子 (日本画)
アソシエイトフェロー	狩野 麻里子 (文化マネジメント)*2	客員研究員	原本 知実 (国際政治学)
アソシエイトフェロー	増 渕 麻里耶 (考古冶金学、分析化学)	客員研究員	藤澤 明 (保存科学)
アソシエイトフェロー	山藤 正敏 (考古学)	客員研究員	古川 尚彬 (歴史的環境保全)*9
アソシエイトフェロー	小田 桃子 (絵画修復)*3	客員研究員	杉山 恵助 (東洋絵画修復)*9
アソシエイトフェロー	川嶋 陶子 (考古学)*3	兼 務	二神 葉子 (企画情報部)
研究補佐員	近藤 洋 (アンデス考古学・文化人類学)	兼 務	石村 智 (無形文化遺産部)
研究補佐員	山之上 理加 (絵画修復)	・国際遺跡研究室 (併任)	
研究補佐員	北川 瑞季 (建築史)	室 長	森本 晋 (奈良文化財研究所)
研究補佐員	草薙 綾 (東アジア地域研究)*4	研 究 員	田村 朋美 (奈良文化財研究所)

*1 平成28年2月29日付退職、*2 平成27年6月30日付退職、*3 平成27年7月1日付採用、*4 平成27年5月31日付退職、*5 平成27年7月31日付退職、*6 平成27年8月1日付採用、*7 平成27年12月31日付退職、*8 平成27年6月1日付採用、*9 平成27年4月1日付採用

2. 年度計画及びプロジェクト報告

1. 年度計画（平成27年度）と各種プロジェクトとの対応一覧

凡 例

- (1) この対応表は、独立行政法人国立文化財機構に関する平成27年度の年度計画から「I4 文化財に関する調査及び研究の推進」以下において、東京文化財研究所にかかわる箇所を掲載し、予算化された各プロジェクトとの対応関係をあらわしたものである。
- (2) 年度計画の各項目に対応するプロジェクトは、項目の後に四角で囲って示すとともに、各プロジェクトの成果報告からの逆引きの便を図るため、Area番号を付した。Area番号は年度計画の項目の記載順とし、同じ項目に対応するプロジェクトには同じArea番号が付される。各プロジェクトのページでは、Area番号を上部に記した。
- (3) プロジェクトには、下記の分類項目と担当部門の記号を併記し、成果報告の予算項目にしたがって背番号（2桁）を付した。

分類項目

- ①プロジェクト研究
- ②国際協力・交流等
- ③資料作成・公開
- ④研究集会・講座等
- ⑤研究指導・研修等
- ⑥刊行物

担当部門

- 企：企画情報部
無：無形文化遺産部
保修：保存修復科学センター
セ：文化遺産国際協力センター
支：研究支援推進部
共：共通

例 ○文化財の研究情報の公開・活用のための総合的研究（①企01）

企画情報部が担当するプロジェクトで、①のプロジェクト研究の掲載頁に研究成果が報告されていることを示す。

科学研究費・受託研究等の研究調査は、研究および業務の性格上、この対応一覧には掲載していない。

※なお、年度計画の全文、ならびに「国立文化財機構の中期目標、中期計画」「関連法規一覧」については国立文化財機構のウェブサイト参照されたい。

平成27年度独立行政法人国立文化財機構に係る年度計画

独立行政法人通則法（平成十一年法律第百三号）第三十一条の規定により、平成23年3月31日付け22受庁財第2341号で認可を受けた独立行政法人国立文化財機構中期計画に基づき、平成27年度の業務運営に関する計画を次のとおり定める。

I 国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

- 1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
- 2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
- 3 我が国における博物館の中核としての機能の強化
- 4 文化財に関する調査及び研究の推進

(1) 文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進

国内外の機関との共同研究や研究交流を含め、文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究を推進することにより、国・地方公共団体における文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関する基盤の形成に寄与する。

- ① 我が国の美術を中心とする有形文化財及びそれに関わる諸外国の文化財に関し、以下の課題に重点的に取り組む。

ア 他機関との連携を図りつつ、文化財情報の公開・活用のための、より望ましい手法等の研究を行う。

Area1 ○文化財の研究情報の公開・活用のための総合的研究 (①企01)

イ 日本を含む東アジア地域における美術の価値形成の多様性を解明するために、近年の記録媒体や分析手法等の進展に対応しながら調査研究を行い、文化財を対象とする資料学的基盤を整備、確立する。併せて、その基盤を礎としながら国内外の研究交流を推進し、成果を広く一般に公開する。

Area1 ○文化財の資料学的研究 (①企02)

ウ 日本を含む東アジア諸地域における近現代美術の研究資料の収集、整理、調査研究を行うとともに、その交流を明らかにする有効な視点と調査研究方法の開発を目指す。また、多様化する我が国の現代美術の動向に関する調査研究を行い、基礎資料を作成する。

Area1 ○近現代美術に関する交流史的研究 (①企03)

エ 美術や文化財についてのより深い理解を形成するため、彫刻や絵画を中心に、その表現・技法・材料の問題に対して基礎的な情報を収集・整理・蓄積するとともに、関連諸分野と連携した多角的な調査研究を行う。

Area1 ○美術の表現・技法・材料に関する多角的研究 (①企04)

- ④-1 無形文化財の伝承実態に関する基礎的な調査研究及び資料の収集、記録作成を行い、その成果の一部を公開学術講座として発表する。具体的には伝統音楽・伝統芸能で用いる楽器、能楽の文献資料、未調査の音声・映像資料の整理と古い媒体による音声・映像資料の再生及びデジタルアーカイブ化、工芸技術に関する技法書及び工芸技術記録等を対象に調査を行い、能楽及び講談等の記録作成を行う。

Area2 ○無形文化財の保存・活用に関する調査研究 (①無01)

- ④-2 我が国の風俗慣習、民俗芸能、民俗技術等無形民俗文化財のうち、近年の変容の著しいものを中心に、現在における伝承の実態、伝承組織、公開のあり方等を明らかにするとともに、各地の保存団体や保護行政担当者等とこれら研究成果及び問題意識の共有化を図る。

また、これまでに研究所で収集・保管している記録・資料の整理を行い、必要に応じて媒体転換等の措置を講ずる。さらに、無形文化遺産の記録やその所在情報を継続的に収集し、その情報の整理・公開に努める。

Area2 ○無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究 (①無02)

- ④-3 日本と関連の深いアジア諸国等との間において研究員交流や無形文化遺産関連調査を行うなど、無形文化遺産分野における研究交流事業を実施する。

Area2 ○無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集 (①無06)

(2) 文化財の研究に関する調査手法の研究・開発の推進

文化財の調査手法に関する研究・開発を推進し、文化財を生み出した文化的・歴史的・自然的環境等の背景やその変化の過程を明らかにすることに寄与する。

- ① 高精細デジタル撮影により、文化財が本来有する多様な情報を目的に応じて正確・詳細に視覚化するとともに、その公開を目指して、調査・研究を行う。

Area3 ○文化財デジタル画像形成に関する調査研究 (①企05)

(3) 科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中核的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進

最新の科学技術の活用による保存科学に関する先端的な調査及び研究や、伝統的な修復技術、製作技法、利用技法に関する調査・研究としての課題に取り組むことにより、文化財の保存や修復の質的向上に寄与する。

- ① 博物館、美術館、図書館などの屋内環境におけるカビの予防、対策のみならず、寺社等の歴史的建造物や古墳環境などの屋外に近い、環境管理が難しい場所での制御方法についても検討を行う。

Area4 ○文化財のカビ被害予防と対策のシステム化についての研究 (①保修02)

- ② 保存環境を考慮した文化財の展示・収蔵施設の省エネ化の研究及び環境データやシミュレーション技術を用いた文化財の保存環境改善のための研究を推進する。

Area5 ○文化財の保存環境の研究 (①保修03)

- ③ 文化財の材質分析及び劣化診断を目的とした計測手法に関する調査研究を進める。

ア 小型可搬型機器を活用して絵画等や金属製文化財等の材質・劣化状態調査を行い、データ蓄積を進めるとともに、これまでに取得したデータの整理・解析を行い、調査データを公開する。

Area6 ○文化財の材質及び劣化調査法に関する研究 (①保修01)

- ④ 石造・木質文化財を対象に、周辺環境等の劣化要因の究明及び修復材料・技術に関する研究を行う。また、石造文化財及び美術工芸品の災害対策に関する基礎的調査を行う。

Area7 ○周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究 (①保修04)

さらに、被災文化財に関して、被災状況に合わせた保存・修復方法の研究を行う。

Area7 ○文化財の防災計画に関する研究 (①保修05)

- ⑤ 文化財の真正性を考慮した修復に寄与するために、伝統的修復技術及び材料の調査・分析を行う。また、これまで使用されてきた修復材料の追跡調査を行うことにより、それらの評価を行う。さらに、修復に今後使用されることが想定される材料について、それを文化財に適切に使用するための調査・研究を行う。

Area8 ○文化財における伝統技術及び材料に関する調査研究 (①保修06)
○文化財修復材料の適用に関する調査研究 (①保修12)

- ⑥ 近代文化遺産の特徴であるレンガ・石・コンクリート・各種金属・各種合成樹脂・各種繊維等の多種多様な材料の劣化状況や保存手法に関する調査・研究を行う。写真や図面等紙資料類等の保存修復に関する研究を進める。史跡の構成要素となっている建造物や構造物の保存理念や活用手法に関する研究を進める。ドイツ技術博物館との共同研究及び欧米での保存や修復事例調査を行う。

Area9 ○近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究（①保修07）

- (4) 高松塚古墳、キトラ古墳の保存対策事業等、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、国・地方公共団体の要請に応じて、保存措置等のために必要な実践的な調査・研究を迅速かつ適切に実施する。

受託調査研究・外部機関との共同研究及び外部資金による研究の報告を参照

- ① 文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関して技術的に協力する。

Area19 ○文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力（⑤保修）

5 文化財保護に関する国際協力の推進

文化財保護に関する国際協力に関して、以下の事業を有機的・総合的に展開することにより、人類共通の財産である文化財保護に関する国際協力を通じて、我が国の国際貢献に寄与する。

- (1) 文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力等の情報を収集、分析して活用するとともに、国際共同研究を通じて保存・修復事業を実施するために必要な研究基盤整備を行う。また、国内の研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化を図るとともに、継続的な国際協力のネットワークを構築し、その成果をもとにアジア地域を中心とする諸外国において文化財の保護事業を推進する。
- ① 海外、特に国際協力活動の対象となる地域の文化遺産に関する情報の収集、諸外国の文化遺産保護施策等に関する調査を実施する。ユネスコ等が行う主要な国際会合へ出席して情報の収集を行うとともに、文化遺産の保護をめぐる今日的課題等に関する調査研究を行う。また、収集した情報の整理・公開及び比較研究等を通じて、今後の我が国の文化財保護施策の検討の用に供する。

Area10 ○文化財保護に関する国際情報の収集・研究・発信（②セ01）

- (2) 国際共同研究等を通じて諸外国の保存・修復の考え方や技術に関する研究を進め、国際協力を推進するための基盤を形成するとともに、その成果をもとにアジア地域を主とする諸外国において文化財保護事業を推進する。
- ① 文化財の保存修復事業及び国際共同研究事業を以下のように実施し、成果を広く公表する。
- ア 敦煌莫高窟壁画をはじめとする中国の文化遺産の保存修復のための共同研究を実施する。

Area11 ○ユーラシア壁画の調査研究と保存修復（②セ06）

- イ 韓国及び日本の石造文化財を対象に保存修復のための共同研究を実施し、その成果を公表する。

Area7 ○周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究（①保修04）

- ウ カンボジア・アンコール遺跡群（特に西トップ遺跡及びタ・ネイ遺跡）をはじめとする東南アジア地域等の文化財保護に関する調査研究及び保存修復協力事業を実施する。

Area11 ○東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力（②セ02）

- エ アフガニスタン（主としてパーミヤーン）及びイラクの文化財保存修復協力事業を実施する。また、併せて周辺地域（西アジア諸国等）において、文化財調査研究及び保存修復協力事業を実施する。

Area11 ○西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業（②セ03）

オ 上記各事業と連携しつつ、中央アジア諸国等ユーラシア地域における文化財の保存及び修復に係る調査研究を推進する。また、文化財の保存修復手法に関するワークショップの開催等を通じて国内外の専門家との情報の共有化を図る。

Area11 ユーラシア壁画の調査研究と保存修復 (②セ06)

(3) 文化財保護の担当者や学芸員及び保存修復専門家を対象とした研修や専門家の派遣を通じて諸外国における文化財の保存・修復に関する人材育成と技術移転を積極的に進める。

① 国内外の諸機関等と連携して人材育成や技術移転等の国際支援を実施する。また海外の文化財保存担当者を対象に、国内外において和紙及び紙・絹文化財、漆及び漆文化財についての材料学・保存修復等の講義と、修復、装丁等の実技を行い、基礎的な知識を教授する。

Area12 国際研修「紙の保存と修復」(⑤セ05)

在外の日本古美術品を対象に事前調査を行い、その結果をもとに修復を行う。

Area12 在外日本古美術品保存修復協力事業 (②セ04)

6 情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信

以下のとおり、調査・研究に基づく資料の作成及び文化財に関連する資料の収集・整理・保管を行うとともに、調査・研究成果を積極的に公表・公開し、国内外の研究者や広く一般の人が調査・研究成果を容易に入手できるようにする。

(1) 文化財関係の情報を収集して積極的に発信するため、ネットワークのセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備・充実を行う。また、文化財情報の計画的収集・整理・保管及びそれらの電子化の推進による文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査・研究に基づく成果としてのデータベースの充実を行う。

① 文化財に関するデータベースの充実とアーカイブ機能の更新と拡張を図る。

Area13 文化財情報基盤の整備・ウェブサイトの運用 (③企06)

② 被災文化財関連情報に関するデータベースの充実とアーカイブ機能の更新と拡張を図る。

Area13 文化財情報基盤の整備・ウェブサイトの運用 (③企06)

③ 文化財関係資料や図書の収集・整理・公開・提供について充実するよう努める。

Area14 専門的アーカイブの拡充 (資料閲覧室運営) (③企07)
 無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化 (③無03)

(2) 文化財に関する調査・研究に基づく成果について、定期的な刊行物を刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、国際シンポジウムの開催等により、積極的に公開・提供する。また、研究所の研究・業務等を広報するためウェブサイトの充実を図るとともに、アクセス件数の向上を図る。

① 定期刊行物の刊行

- 『東京文化財研究所年報』
- 『東京文化財研究所概要』
- 『東文研ニュース』

Area15 広報企画事業 (ニュースレター・概要・年報) (③企08)

『美術研究』(年3冊)

○『日本美術年鑑』

Area15

○平成26年版『日本美術年鑑』 刊行事業・出版事業『美術研究』（調査・研究成果の公開）（⑥企09）

○『無形文化遺産研究報告』

○『無形民俗文化財研究協議会報告書』

Area15

○無形文化遺産部出版関係事業（⑥無04）

○『保存科学』

Area15

○『保存科学』55号の出版（⑥保修09）

Area16

- 『四季花鳥図屏風 光学調査報告書』→（①保修01）で実施
- 『平等院鳳凰堂内 光学調査報告書』→（①保修01）で実施
- 『未来につなぐ人類の技15—洋紙の保存と修復』→（①保修07）で実施
- Conservation and restoration of modern textiles（①保修07）で実施
- 『世界遺産用語集』→（②セ01）で実施
- 『各国の文化財保護法令シリーズ [20] メキシコ』→（②セ01）で実施
- 『選定保存技術に関する調査報告書 1 和鋼』→（②セ01）で実施
- カレンダー2016「文化財を守る日本の伝統技術」（壁掛版・卓上版）→（②セ01）で実施
- 『東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力 平成27年度成果報告書』→（②セ02）で実施
- 『東南アジアの遺跡保存をめぐる技術的課題と展望』→（②セ02）で実施
- Riset Integrasi Berlandaskan Rekonstruksi Warisan Budaya Kawasan Padang Lama di Padang, Sumatera Barat→（②セ02）で実施
- Laporan 'Workshop mengenai Rehabilitasi Kawasan Padang Lama di Provinsi Sumatera Barat'→（②セ02）で実施
- Preliminary Report on the Safeguarding of the Bamiyan Site 2013: 11th Mission→（②セ03）で実施
- 『キルギス共和国チュール川流域の文化遺産の保護と研究 アク・ベシム遺跡、ケン・ブルン遺跡—2011～2014年度—』→（②セ03）で実施
- 『紛争と文化遺産—紛争下・紛争後の文化遺産保護と復興—』→（②セ03）で実施
- 『フルブック遺跡出土壁画断片の保存修復』→（②セ06）で実施
- 在外日本古美術品保存修復協力事業 The Cooperative Program for the Conservation of Japanese Art Objects Overseas→（②セ04）で実施
- 国際研修「日本の材料と技術による保存修復」→（②セ04）（②セ05）で実施

② 公開講演会、現地説明会、国際シンポジウムの開催等

○公開講座（オープンレクチャー）（年1回）

Area17

○平成27年度オープンレクチャー（調査・研究成果の公開）（④企10）

○公開講演会

- Area18
- 第10回無形文化遺産部公開学術講座 → (①無01) で実施
 - 無形民俗文化財研究協議会 → (①無02) で実施
 - 文化財の保存環境に関する研究会 → (①保修03) で実施
 - 文化財における伝統技術及び材料に関する研究会 → (①保修06) で実施
 - 近代の文化遺産の保存修復に関する研究会 → (①保修07) で実施

③ アクセス件数の向上を図るため、ウェブサイトの内容の充実を図る

- Area13
- 文化財情報基盤の整備・ウェブサイトの運用 (③企06)

7 地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上

我が国の文化財に関する調査・研究の中核として、これまでの調査・研究の成果を活かし、国・地方公共団体等に対する専門的・技術的な協力・助言を行うことにより、我が国全体の文化財の調査・研究の質的向上に寄与する。また、専門指導者層を対象とした研修等を行い、文化財保護に必要な人材を養成する。

- (1) 地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査・研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言の円滑かつ積極的な実施を行う。
- ① 地方公共団体等からの要請に応じ、それへの協力・助言・専門的知識の提供等を実施する。

- Area19
- 専門的アーカイブの拡充（資料閲覧室運営）(③企07)
 - 無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化 (③無03)

② これまで蓄積した調査・研究の成果を活かし、他機関等との共同研究及び受託研究を実施する。

→その他の研究活動の項目を参照

(2) 文化財に関する高度な研究成果をもとに、地方公共団体等で中核となる文化財担当者に対し埋蔵文化財等に関する研修を実施するとともに、保存担当学芸員に対し保存科学に関する研修を実施する。

② 博物館・美術館等の保存担当学芸員研修の実施

期間 2 週間、受講生 25 名

- Area20
- 保存担当学芸員研修 (⑤保修10)

③ 東京藝術大学、京都大学、奈良女子大学との連携大学院教育等の推進

○東京藝術大学：システム保存学(保存環境学、修復材料学)

- Area21
- 連携大学院教育 (⑤共)

II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 一般管理費の削減

- (1) 共通的な事務の一元化による業務の効率化
- 1) 共通的な事務の一元化を推進し事務の効率化を引き続き図る。
 - 2) 国立博物館各館における翌年度以降の展覧会企画等について「研究・学芸系職員連絡協議会」において連絡・調整を行い、企画機能強化を図る。
 - 3) 機構共通のネットワーク及びシステムにより、業務の効率的な運用及び情報の共有化を引き続き推進する。

(2) 計画的なアウトソーシング

以下の業務の外部委託を継続して実施する。

(東京国立博物館)

- ・警備及び看視案内の一部並びに売札及び清掃業務
- ・資料館業務の一部
- ・施設内店舗業務

(京都国立博物館)

- ・看視案内業務及び設備保全業務の一部
- ・受付・案内・警備業務、売札業務及び清掃業務

(奈良国立博物館)

- ・建物設備の運転・管理業務
- ・警備及び看視案内の一部並びに売札及び清掃業務

(九州国立博物館)

- ・建物設備の運転・管理業務等
- ・警備業務、看視案内業務及び清掃業務

(東京文化財研究所・奈良文化財研究所)

- ・警備業務、清掃業務及び建物設備の運転・管理業務等

(3) 使用資源の減少

- ・省エネルギー

1) 光熱水量の使用状況を把握し、管理部門を中心に引き続き節減に努める。

(エネルギー使用量は、5年計画期間中に5%削減)

- ・廃棄物減量化

1) 使用資源の節減に努め、廃棄物の減量化に引き続き努める。

- ・リサイクルの推進

1) 廃棄物の分別収集を徹底し、リサイクルを引き続き推進する。

(4) 自己収入の増大

独立行政法人整理合理化計画（19年12月24日閣議決定）の方針に基づき設定した外部資金の活用及び自己収入の増大に向けた定量的目標の達成を、引き続き目指す。

1) 機構全体において、入場料収入（共催展を除く）及びその他収入について、1.16%の増加を目指す。

2) 機構全体において、寄附金400件及び科学研究費補助金76件の確保を目指す。

2 給与水準の適正化等

国家公務員の給与水準とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指数は国家公務員の水準を超えないよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表する。また人件費改革の取り組みについて、今後の独立行政法人制度の見直し等を踏まえて検討する。

3 契約の適正化の推進

1) 契約監視委員会を実施する。

2) 施設内店舗の貸付・業務委託について引き続き企画競争を実施する。

4 保有資産の有効利用の推進

(博物館4施設)

1) 講座・講演会等を開催する。

2) 講堂等の利用案内を関係団体、学校等外部に対し積極的に行う。

- 3) 国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサートなどを実施し、施設の有効利用を図る。

(文化財研究所 2 施設)

セミナー室、講堂等一般の利用の供することが可能な施設の有料貸付を実施するとともに、展示公開施設におけるミュージアムショップの運営委託等、施設の有効利用の推進を引き続き図る。

5 内部統制の充実・強化

(1) 理事長のマネジメント強化

1) モニタリングの実施

- ・自己点検評価を行う。
- ・監事監査を行う。
- ・内部監査を行う。

2) 内部統制の推進に関連する諸規程の整備・見直しを行う。

3) リスクマネジメントの実施

- ・リスク管理の必要に応じて、関連する諸規程の整備・見直しを行う。
- ・危機管理マニュアルの見直し等を随時行う。

(2) 外部有識者による事業評価

1) 運営委員会、外部評価委員会を実施し、その結果を組織、事務、事業等の改善に反映させる。

2) 職員の資質向上を図るため各種研修を実施する。

(3) 情報セキュリティ対策の向上と改善

1) 政府機関における情報セキュリティ対策を踏まえ、情報セキュリティポリシーの見直しを行うとともに、これに基づき情報セキュリティ対策を講ずる。

2) 情報セキュリティについて定期監査等を実施する。

III 予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

1 予算

別紙のとおり

2 収支計画

別紙のとおり

3 資金計画

別紙のとおり

IV その他主務省令で定める業務運営に関する事項

1 施設・設備に関する計画

別紙のとおり施設・設備に関する計画に沿った整備を推進する。

2 人事計画に関する計画

- (1) 職員の能力や業績を適切に反映できる人事・給与制度を検討する。
- (2) 近隣大学等との交流を進め、優秀な人材を確保する。
- (3) 各種研修を積極的に実施し、また、職員を外部の研修に派遣するなど、その資質の向上を図る。
- (4) 非公務員化のメリットを活かした制度の活用方法について引き続き検討する。
- (5) 専門スタッフの配置などの計画的な人材の確保・育成に向け、検討を進める。

予算（平成27年度予算）

（単位：百万円）

区 分	金 額
収 入	
運営費交付金	8,441
施設整備費補助金	2,920
展示事業等収入	1,323
受託収入	26
計	12,710
支 出	
管理経費	1,594
うち人件費	731
うち一般管理費	863
業務経費	8,170
うち人件費	2,519
うち調査研究事業費	1,670
うち情報公開事業費	175
うち研修事業費	13
うち国際研究協力事業費	156
うち展示出版事業費	199
うち展覧事業費	3,353
うち教育普及事業費	85
施設整備費	2,920
受託事業費	26
計	12,710

収支計画

(単位：百万円)

区 分	金 額
費用の部	8,559
経常経費	8,559
管理経費	1,539
うち人件費	731
うち一般管理費	808
業務経費	6,578
うち人件費	2,519
うち調査研究事業費	1,410
うち情報公開事業費	155
うち研修事業費	12
うち国際研究協力事業費	155
うち展示出版事業費	199
うち展覧事業費	2,043
うち教育普及事業費	85
受託事業費	26
減価償却費	416
収益の部	8,559
運営費交付金収益	6,794
展示事業等の収入	1,323
受託収入	26
資産見返運営費交付金戻入	401
資産見返物品受贈額戻入	15

資金計画

(単位：百万円)

区 分	金 額
資金支出	12,710
業務活動による支出	8,143
投資活動による支出	4,567
資金収入	12,710
業務活動による収入	9,790
運営費交付金による収入	8,441
展示事業等による収入	1,323
受託収入	26
投資活動による収入	2,920
施設整備費補助金による収入	2,920

施設・設備に関する計画

(単位：百万円)

施設・整備の内容	予定額	財 源
東京国立博物館 法隆寺宝物館展示機能充実整備等工事	109	施設整備費補助金
京都国立博物館 本館（明治古都館）免震改修等工事	170	施設整備費補助金
奈良国立博物館 なら仏像館免震展示ケース等整備工事	1,085	施設整備費補助金
奈良文化財研究所 本庁舎地区再開発計画の推進	1,556	施設整備費補助金
計	2,920	

2. プロジェクト報告

凡 例

- (1) プロジェクトは、年度計画との対応一覧の規定（11～17頁参照）にしたがって、以下の①～⑥の分類項目ごとに年度計画の記載順に配列し、担当部門と掲載頁を記した。
- (2) 各プロジェクト報告の掲載頁では、分類項目と担当部門の記号・背番号（2桁）のほかに、業務実績の該当年度及び該当年度が計画年数の何年目の報告にあたるか判別できるよう、記号を追記した。
- 例 文化財の研究情報の公開・活用のための総合的研究（①企01-15-5/5）
- ①→プロジェクトの分類項目
企01→担当部門の記号とプロジェクトの背番号
15→業務実績の該当年度の下二桁、2015年度の実績であることを示す。
5/5→5年計画の第5年目の報告であることを示す。
- (3) 年度計画との対応一覧への逆引き参照の便を図るため、プロジェクト報告の掲載頁の上部に対応一覧のArea番号を記した。

①プロジェクト研究に関する事業一覧

プロジェクト名	担当部門	頁
文化財の研究情報の公開・活用のための総合的研究（企01）	企画情報部	25
文化財の資料学的研究（企02）	企画情報部	26
近現代美術に関する交流史的研究（企03）	企画情報部	27
美術の表現・技法・材料に関する多角的研究（企04）	企画情報部	28
無形文化財の保存・活用に関する調査研究（無01）	無形文化遺産部	29
無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究（無02）	無形文化遺産部	30
無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集（無06）	無形文化遺産部	31
文化財デジタル画像形成に関する調査研究（企05）	企画情報部	32
文化財のカビ被害予防と対策のシステム化についての研究（保修02）	保存修復科学センター	33
文化財の保存環境の研究（保修03）	保存修復科学センター	34
文化財の材質及び劣化調査法に関する研究（保修01）	保存修復科学センター	35
周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究（保修04）	保存修復科学センター	36
文化財の防災計画に関する研究（保修05）	保存修復科学センター	37
文化財における伝統技術及び材料に関する調査研究（保修06）	保存修復科学センター	38
文化財修復材料の適用に関する調査研究（保修12）	保存修復科学センター	39
近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究（保修07）	保存修復科学センター	40

文化財の研究情報の公開・活用のための総合的研究 (①企01-15-5/5)

目 的

他機関との連携を図り、文化財の研究情報について、効果的に発信していくための手法を研究・開発し、文化財に関する研究情報の蓄積を行うとともに、公開・活用のための手法等について総合的に研究する。また、東京文化財研究所の全所的アーカイブズの構築を推進する。

成 果

1. 「東京文化財研究所刊行物一覧」のウェブサイトでの公開
 - ア) 全所的アーカイブの一環として、当研究所が開所以来の刊行物を網羅した一覧を作成し、遺漏刊行物がないか各部・センターにはかって情報を収集し、個々の刊行物について把握し、その一覧を「東京文化財研究所刊行物一覧」としてウェブサイトで公開した。
 - イ) 上記の刊行物一覧に記載された刊行物のうちPDFのない刊行物についてPDF化を進めた。
 - ウ) 上記の刊行物一覧記載の各刊行物の公開レベルを確認し、公開可能なものについては端末上での閲覧を可能にするための準備を進めた。
 - エ) 上記のことがらを進めるため、東京文化財研究所アーカイブWG協議会を以下の4回にわたって開催した。2015（平成27）年8月3日、10月13日、12月25日、2016（平成28）年2月19日
 - オ) 当研究所の研究誌『美術研究』1～200号（1932（昭和7）年から1959（昭和34）年）の誌面をPDFで公開した。あわせて著作権者・同継承者不明の論文・記事等公開の手続きを進めた。
2. Picture Webで管理していた画像情報をWordPressに移行した。
3. 刊行物アーカイブシステムに過去の展覧会情報データを移行させ、運用を開始した。あわせて、刊行物アーカイブシステムの評価を行い、『日本美術年鑑』刊行のための入力と図書業務が連動するように改良を行った。
4. 調査・研究の公表として2015年度アート・ドキュメンテーション学会年次大会で口頭発表（下記）を行った。
5. 『美術画報』第6編から第46編までの入力を完了させ、公開した。

発表

- ・田中淳、皿井舞「文化財情報における専門的アーカイブの構築—東京文化財研究所の取り組み」
2015年度アート・ドキュメンテーション学会年次大会 国立西洋美術館講堂 15.6.6

研究組織

- 津田徹英、山梨絵美子、二神葉子、小林公治、塩谷純、小林達朗、皿井舞、安永拓世、橘川英規、城野誠治、福永八朗、田所泰（以上、企画情報部）、久保田裕道（無形文化遺産部）、早川泰弘（保存修復科学センター）、山内和也（文化遺産国際協力センター）、平出秀文（研究支援推進部）、津村宏臣、吉崎真弓（以上、客員研究員）

文化財の資料学的研究 (①企02-15-5/5)

目 的

日本を含む東アジア地域における美術の価値形成の多様性を解明するために、近年の記録媒体や分析手法等の進展に対応しながら調査研究を行い、文化財を対象とする資料学的基盤を整備、確立する。併せて、その基盤を礎としながら国内外の研究交流を推進し、成果を広く一般に公開する。

成 果

1. 東京文化財研究所が所蔵する明治期の書簡・手記を中心とする近代文書の判読と翻刻作業を行った。
2. 美術史研究のためのコンテンツづくりとして、平安時代在銘彫刻作品の銘文データの入力と編年目録(年表)の作成を行った。
3. イケムラレイコ氏の公開対談会を行い、ウェブ上での公開準備を行った。
4. 明治期の美術書簡に関連する研究の成果を2015(平成27)年8月31日に開催された企画情報部研究会において口頭発表を行った。
5. 4の成果にかかる内容を『美術研究』416、417、418号に掲載した。
6. 奈良国立博物館との共同研究による成果公表のため、兵庫・一乗寺蔵「聖徳太子及天台高僧像」に関し、カラー画像の報告書を刊行した。

論文

- ・児島薫「藤島武二による黒田清輝、久米桂一郎宛書簡について(2)」『美術研究』416 pp.16-48 15.8
- ・児島薫「藤島武二による黒田清輝、久米桂一郎宛書簡について(3)」『美術研究』417 pp.78-123 16.1
- ・児島薫「黒田清輝、久米桂一郎宛藤島武二書簡(3)承前」『美術研究』418 pp.81-93 16.3

発表

- ・イケムラレイコ・山梨絵美子・皿井舞 公開鼎談「「かたち」の生成をめぐる ―イケムラレイコの場合― 東京文化財研究所セミナー室 15.6.9 (東京文化財研究所ウェブサイト上で公開 16.2)
- ・高山百合(福岡県立美術館学芸課学芸員)「黒田清輝宛岡田三郎助書簡 翻刻と解題」 15.8.31
- ・松本誠一(佐賀県立博物館・佐賀県立美術館副館長)「岡田八千代の小説から見た岡田三郎助像」 企画情報部研究会 15.8.31
- ・津田徹英「14世紀絵巻詞書総覧構想と有効利用について―京都・金蓮寺本「遊行上人縁起絵巻」での適用事例を中心に、その即効性と限界を考える―」 総合研究会 15.12.1

報告書

- ・『法華山一乗寺蔵国宝天台高僧像光学調査報告書―カラー画像篇』 16.3

研究組織

- 小林達朗、山梨絵美子、二神葉子、小林公治、塩谷純、津田徹英、皿井舞、安永拓世、橘川英規(以上、企画情報部)、江村知子(文化遺産国際協力センター)、中野照男、三上豊、近松鴻二、吉田千鶴子(以上、客員研究員)

近現代美術に関する交流史的研究 (①企03-15-5/5)

目 的

日本を含む東アジア諸地域における近現代美術の研究資料の収集、整理、調査研究を行うとともに、その交流を明らかにする有効な視点と調査研究方法の開発を目指す。また、多様化する我が国の現代美術の動向に関する調査研究を行い、基礎資料を作成する。

成 果

1. 5月2日に彫刻家畑正吉の遺族宅に伝わる写真原版の調査を行ない、11月には同原版の寄贈を受けた。
2. 5月21日に文京区大圓寺・台東区全生庵で、6月16日に葛飾区西圓寺・江戸川区燈明寺で彫刻家三木宗策の作品及び文献調査を行なった。この調査に基づき三木宗策の文献目録を編纂、郡山市立美術館で10月31日から開催された「没後70年 三木宗策の世界 木彫の正統」展の図録に掲載した。
3. 10月15日に現代美術家の松澤宥作品・資料の調査を行なった。
4. 3月23日より東京国立博物館との共催で「生誕150年 黒田清輝—日本近代絵画の巨匠」展を同館にて開催、同展の図録で黒田の画業に関するテキストおよび作品解説を掲載した。
5. 平成26年度に当研究所へ寄贈となった新海竹太郎資料の一覧を田中修二氏（大分大学）と作成、『美術研究』416号（2015（平成27）年8月）に掲載した。
6. 美術史家矢代幸雄とその師であるバーナード・ベレンソンの往復書簡をハーバード大学ルネサンス研究センター及び越川倫明氏（東京藝術大学）と共同で2015（平成27）年6月30日よりウェブ上で展示、2016（平成28）年1月13日に研究会「美術史家矢代幸雄における西洋と東洋」を開催した（一部科研）。

論文

- ・田中淳「展覧会評 歴史をつくる学芸員の眼」『美術研究』417 pp.73-77 16.1
- ・山梨絵美子「黒田清輝の画業と遺産」東京国立博物館『生誕150年 黒田清輝—日本近代絵画の巨匠』展図録 pp.29-36 16.3
- ・河合大介「研究ノート 赤瀬川原平と《山手線事件》—〈匿名性〉を手がかりとして—」『美術研究』418 pp.68-80 16.3

発表

- ・塩谷純「近代歴史画の魅力」井原市立田中美術館講演会 15.5.16
- ・山梨絵美子「美術商林忠正—欧米と日本の異なる「美術」概念のはざままで」ハイデルベルク大学東アジア美術研究所国際シンポジウム「日本美術史研究の現在—グローバルな視点から」 15.10.24
- ・田中淳「住友春翠と近代美術 黒田清輝の支援者」新居浜市美術館講演会 15.11.21
- ・山梨絵美子「ベレンソンと矢代幸雄をつなぐ両洋の美術への視点」研究会「美術史家矢代幸雄における西洋と東洋」 16.1.13
- ・田中淳「近代日本美術の基層をめぐって—岸田劉生を中心に」総合研究会 16.3.1
- ・塩谷純「近代日本画を支えた人たち」川越市立美術館講演会 16.3.21
- ・山梨絵美子「黒田清輝の画業—美術で社会を変える試み」東京国立博物館講演会 16.3.26

研究組織

○塩谷純、山梨絵美子、橘川英規、城野誠治、田所泰（以上、企画情報部）、田中淳（副所長）、三上豊、丸川雄三、河合大介（以上、客員研究員）

美術の表現・技法・材料に関する多角的研究 (①企04-15-5/5)

目 的

本研究は彫刻や絵画といった様々な美術作品を構成する材料やそこに用いられた技法、ひいては表現、その制作過程、作品の成り立ち、生成されてから今日に至ったか、それがどのように受容されてきたか等を、関連諸分野と連携しながら多角的に分析し、現在目の前にある「作品」ないしは文化財に対するより深い理解を形成することを目的としている。

成 果

1. 作品・関係資料の調査・研究

今年度は以下の各機関・所在地にて各種の文化財を調査または研究を実施した。

- ア) 真珠科学研究所との螺鈿器使用貝種特定を目指した共同研究
- イ) 当所が所蔵するガラス乾板及びX線フィルムのデジタル化
- ウ) 柳澤孝氏寄贈資料および、南・西アジア画像資料の整理とデータベース化
- エ) サントリー美術館所蔵漆器類の調査
- オ) 松岡山東慶寺所蔵漆器類の調査

2. 研究会等での発表・成果報告

- ア) 企画情報部研究会での志村明氏・秋本賀子氏による伝統的絹生産技術および画絹に関する研究発表
- イ) 先年来調査検討を行なっている東京国立博物館蔵「普賢菩薩像」について『美術研究』416号誌上での論文による成果発表
- ウ) サントリー美術館での調査内容について『美術研究』417号誌上での論文による成果発表
- エ) 昨年度愛知県陶磁美術館で調査を実施した個人蔵朝鮮製・中国製螺鈿漆器の編年的位置づけについて論文報告

3. デジタル化したガラス乾板及びX線フィルム、また美術作品年紀資料について文字データの確認・整理・補筆作業を行なった上で、順次ウェブサイトへアップして公開した。

論文

- ・小林達朗「東京国立博物館蔵国宝・普賢菩薩像の表現および平安仏画における「荘厳」」『美術研究』416 pp.1-15 15.8
- ・小林公治「南蛮漆器書見台編年試論」『美術研究』417 pp.43-64 16.1
- ・小林公治「15-17世紀朝鮮螺鈿漆器編年および日本製螺鈿器との並行関係検討」『鹿島美術研究年報』第32号別冊 鹿島美術財団 pp.481-492 15.11

発表

- ・志村明・秋本賀子「絹生産における在来技術について」企画情報部研究会 15.9

研究組織

- 小林公治、山梨絵美子、塩谷純、津田徹英、二神葉子、小林達朗、皿井舞、安永拓世、橘川英規、城野誠治（以上、企画情報部）、江村知子（文化遺産国際協力センター）、中野照男（客員研究員）



志村・秋本氏の研究発表風景

無形文化財の保存・活用に関する調査研究 (①無01-15-5/5)

目 的

我が国の無形文化財、並びに文化財保存技術の伝承実態を把握し、その保護に資するため、伝承の基礎となる技法・技術の実態や変遷の調査研究、及び資料の収集を行い、現状記録の必要な対象を精査して記録作成を行う。

成 果

1. 戦国時代の謡のリズムは江戸時代以降とは異なっていたこと、桃山時代の旋律が多く当時のアクセントに従っていたことを解明し、能楽学会、日本演劇学会、無形文化遺産部公開学術講座などで公表した。
2. 染織技術のうち、埼玉県熊谷の事例を中心に、原材料や道具の入手・メンテナンスの状況等の調査を行い、報告書にまとめた。また、伝統技術の伝承に関する研究会を東京文化財研究所で、染織技術と材料の関わりを検討するための研究会を文化学園服飾博物館との共催で開催した。
3. 義太夫節浄瑠璃の曲節の実演集（東京文化財研究所蔵レコード）について、収録内容を整理し公表した。
4. 連続口演の機会が激減している講談について、一龍斎貞水師と神田松鯉師による実演記録14席を作成した。また、上演が稀な落語の正本芝居噺について、林家正雀師による実演記録2席を作成した。

論文

- ・菊池理予「復刻銘仙の製作と技術の伝承—分業のこれから—」『きものモダニズム』須坂クラシック美術館 pp.138-141 15.9
- ・高桑いづみ「室町時代のアクセントと謡のフシ」『無形文化遺産部研究報告』10 pp.76-90 16.3
- ・飯島満『七代目豊沢広助 義太夫の種類と解説』東京文化財研究所 40p 16.3

報告

- ・菊池理予「道具と技術の関わり—熊谷地域の染色工房を調査して—」『無形文化遺産（伝統技術）の伝承に関する研究報告書』東京文化財研究所 pp.39-46 15.9

発表

- ・高桑いづみ「地拍子の古態—早歌からの継承—」能楽学会 早稲田大学 15.6.21
- ・高桑いづみ「シンポジウム 能の復元的上演の可能性—「能」を現代に蘇らせる手法—」日本演劇学会 法政大学 15.10.25
- ・菊池理予「染織技術の伝承 その現状と課題—熊谷と京都を事例として—」無形文化遺産（伝統技術）の伝承に関する研究会Ⅱ 東京文化財研究所 15.11.11
- ・高桑いづみ「明治以前の謡とアクセント」無形文化遺産部公開学術講座 東京国立博物館平成館 15.12.18

刊行物

- ・『無形文化遺産（伝統技術）の伝承に関する研究報告書』東京文化財研究所 15.9
- ・『無形文化遺産（伝統技術）の伝承に関する研究会Ⅱ「染織技術の伝承と地域の関わり」報告書』東京文化財研究所 16.3

研究組織

○飯島満、高桑いづみ、菊池理予、佐野真規（以上、無形文化遺産部）、早川典子（保存修復科学センター）、星野厚子（客員研究員）

無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究 (①無02-15-5/5)

目 的

我が国の風俗慣習、民俗芸能、民俗技術等無形民俗文化財のうち、近年の変容の著しいものを中心に、その実態を把握するために資料収集と現地調査を行う。また、無形民俗文化財研究協議会を実施し、その成果を報告書にまとめる。さらに、これまで東京文化財研究所で収集・保管している無形民俗文化財についての記録・資料の整理を行う。

成 果

1. 民俗芸能の調査として咲前神社太々神楽等について、民俗技術の調査として箕の製作技術や鵜飼漁の技術等について、伝承や保護の実態についての現地調査や資料収集を行い、現状を把握するとともに現地関係者とのネットワークを構築した。また継続テーマである「削りかけ」状祭具に関わる技術と風俗慣習の研究として、石川県や青森県において調査を行った。
2. 東日本大震災被災地における民俗芸能、風俗慣習の調査として、浪江町の菟宿鹿舞、宮城県女川町の祭礼及び獅子舞等に関して調査を行い、資料収集・記録保存を行った。また国立研究開発法人 防災科学技術研究所と無形文化遺産アーカイブスの開発を行い、全国版に先駆けて「311復興支援 無形文化遺産アーカイブス」を公開した。収容する映像・画像資料等についても随時収集や寄贈受け入れ等を行い、整備を進めた。
3. 第10回無形民俗文化財研究協議会を「ひらかれる無形文化遺産一魅力の発信と外からの力」をテーマに東京文化財研究所において開催し、154名の参加を得た。4件の事例報告をもとにコメンテーター2名を含めた総合討議を行った。成果は『第10回無形民俗文化財研究協議会報告書』にまとめた。また3月には第4回無形文化遺産情報ネットワーク協議会を東京文化財研究所において開催。東北被災地域における無形文化遺産の復興支援に関わる様々な分野の関係者が参加し、課題の整理と今後の展望について協議した。

論文

- ・久保田裕道「無形文化遺産としての儀礼文化」『儀礼文化学会紀要』2 pp.126-137 16.3

報告

- ・久保田裕道「神楽の歴史と鷺宮咲前神社太々神楽」他『鷺宮咲前神社と太々神楽二百年記念誌』鷺宮咲前神社太々神楽二百年記念事業実行委員会 pp.10-44 15.10
- ・久保田裕道「東日本大震災を乗り越えた民俗芸能の力」他『岩手県民俗芸能北京公演プログラム』国際交流基金 pp. i-iii、v、ix、xii 15.10

発表

- ・久保田裕道「神楽の歴史と鷺宮咲前神社太々神楽」鷺宮咲前神社太々神楽奉納二百年記念式典 15.10.24
- ・今石みぎわ「生きた文化財を継承する—無形文化遺産と被災・復興」東北大学東京分室会議室 15.10.25
- ・今石みぎわ「小正月を彩るツクリモノの世界」第6回 儀礼文化講座 15.12.13

刊行物

- ・『無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究プロジェクト報告書 震災復興と無形文化遺産をめぐる課題』東京文化財研究所 16.3

研究組織

○飯島満、久保田裕道、今石みぎわ（以上、無形文化遺産部）、齊藤裕嗣、菊池健策（以上、客員研究員）

無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集 (①無06-15-5/5)

目 的

無形文化遺産保護に関わる国際的動向の情報収集を図り、アジアを中心とする海外の研究機関等との研究交流を実施し、国内外の無形文化遺産保護に貢献する。

成 果

1. 韓国との交流事業では、平成23年度に韓国国立無形遺産院（当時の韓国側の組織名は韓国国立文化財研究所）と調印した「無形文化遺産の保護に関する日韓研究交流合意書」に基づき、韓国国立無形遺産院から、調査研究記録課の方劬蓮学芸研究士を2015（平成27）年6月1日～22日の間、無形文化遺産部に迎え、研究交流及び共同調査を実施した。また、今年度で第2期が終了するのを受け、来年度の成果報告会及び来年度以降の事業の継続について協議を行った。
2. 無形文化遺産分野の国際的情報収集では、以下の国際会議等に出席し、情報収集を実施した。
2015（平成27）年11月29日～12月5日「ユネスコ無形文化遺産保護条約第10回政府間委員会」ナミビア ウイントフック

論文

- ・二神葉子「無形文化遺産の保護に関する第10回政府間委員会における議論の概要と今後の課題」『無形文化遺産研究報告』10 pp. 1-17 16.3

研究組織

○飯島満、高桑いづみ、久保田裕道、石村智、菊池理予、今石みぎわ（以上、無形文化遺産部）、二神葉子（企画情報部）、松山直子（客員研究員）



広島県北広島町の壬生の花田植
(韓国国立無形文化遺産院との共同調査)



ユネスコ無形遺産保護条約第10回政府間委員会の様子 (ナミビア)

文化財デジタル画像形成に関する調査研究 (①企05-15-5/5)

目 的

脆弱な材料で構成されている我が国の貴重な文化財を間近で精査・鑑賞する機会は限定されている。そこで文化財の高精細な画像や特殊撮影画像を公開し、多目的な利用に供することは、文化財への理解を深め、実物の保存と共に活用の道を開く有効な方法である。本調査研究では、着色仏画・彩色壁画・油彩画・日本画などを対象とし、文化財研究に資するデジタル画像の形成方法、および、その応用のための手法（表示・出力）を開発し、広範な活用の方向性を研究することを目的とする。

成 果

1. 文化財の光学調査研究

所内外のプロジェクトに参画あるいは所外の依頼を受け、下記、絵画作品・工芸品を中心に高解像度撮影や近赤外線撮影といった手法を駆使した対象作品の表現技法等の特性把握・理解を行った。

- ア) 保修01プロジェクトによる三の丸尚蔵館「西瓜図」「廐図屏風」「萬国絵図」の調査。
- イ) 同プロジェクトによるサントリー美術館「四季花鳥図屏風」調査の光学調査。
- ウ) 同プロジェクトによる佐野市立吉澤記念美術館伊藤若冲著「菜蟲譜」彩色を中心とした調査。
- エ) 保修07プロジェクトによる日本銀行貴賓室天井綴調査の全図撮影。
- オ) 在外日本古美術品保存修復協力事業による、ポーランド・プロツワフ国立博物館所蔵「秋野蒔絵硯箱」、同クラクフ国立博物館所蔵「遊女と禿図」「瀑布溪流図」「月下秋景図」の調査。
- カ) 平等院修復事業包括的協力事業による鳳凰堂内 建造物彩色・須弥壇の現状記録撮影。
- キ) 長崎県からの依頼による聖母マリア像の光学調査。
- ク) 岡田美術館からの依頼による「鳳凰図・孔雀図」の記録撮影。

2. 所外機関との共同研究・調査

宮内庁三の丸尚蔵館・奈良国立博物館との共同研究として、下記絵画作品の技法や材料そして表現方法を探ることを目的とした光学調査を行った。

- ア) 宮内庁三の丸尚蔵館所蔵「春日権現験記絵」第17・18巻の光学調査実施。
- イ) 奈良国立博物館との共同研究による補足光学調査実施。

3. 各種文化財の撮影

- ア) サントリー美術館「小倉山蒔絵硯箱」、巖島神社「平家納経」（セ01選定保存技術調査）。
- イ) 日本国内各地での玉鋼製造・鋳金具製作・苧麻糸手績み・琉球藍製造・装こう技術・宇陀紙製作・邦楽器原糸製作・檜皮葺・昭和村からむし・粗苧製造・漆搔き・漆搔き道具製作・建具制作・竹籤製作の記録撮影（同上）。
- ウ) 三式戦「飛燕」の記録撮影（保修07）。

4. 成果の公表等

調査成果は、印刷物・デジタルメディアの特性に合わせて画像加工・形成の上報告した。さらに、『四季花鳥図屏風光学調査報告書』（16年3月）では、多くの調査画像を提示して彩色材料についての具体的検討を行った。

研究組織

- 小林公治、山梨絵美子、塩谷純、津田徹英、二神葉子、小林達朗、皿井舞、安永拓世、橘川英規、城野誠治（以上、企画情報部）、早川泰弘（保存修復科学センター）、江村知子（文化遺産国際協力センター）

文化財のカビ被害予防と対策のシステム化についての研究 (①必修02-15-5/5)

目 的

博物館、美術館、図書館などの屋内環境におけるカビの予防、対策のみならず、寺社等の歴史的建造物や古墳環境などの屋外に近い、環境管理が難しい場所での制御方法についても検討を行う。

成 果

1. ある装飾古墳の観察室において、浮遊菌数で基準となる数値を設定し、基準を超過した際に除菌清掃作業を行うといった、モニタリング結果とIPMに基づく対策とを連動させた管理体制を実践的に試行し、管理手法に関する新しい考え方の一例を示した。
2. 実際に虫菌害があった保存環境を調査対象とし、微生物および文化財害虫の分布調査およびその対策についての検討を行い、近年の虫菌害被害の傾向と対策についての研究を進めた。
3. 近年開発された即時性のある浮遊微生物分析機器を導入し、従来法との比較検討や適応可能性についての基礎研究を実施した。同様に、即時性のあるATP測定法を応用した付着微生物量の評価手法の開発に向けた基礎研究を実施し、研究成果を学会や学術誌等で報告した。
4. 虫害を受けた歴史的木造建造物において、環境低負荷型の温風殺虫処理法についての基礎研究を実施した。
5. 臭化メチルの使用全廃10年に際して、文化財等の総合的有害生物管理（IPM）に関するフォーラムの開催、研修での講演、専門向け報告書や一般向け雑誌への寄稿を通じて、教育普及を行った。

報告

- ・三浦定俊、木川りか、佐野千絵「臭化メチル全廃とその後の10年の歩み」『保存科学』55 pp.37-45 16.3
- ・間潤創、佐藤嘉則「博物館施設におけるバイオエアロゾル測定の活用について」『保存科学』55 pp.103-113 16.3
- ・木川りか「世界の状況と現在の処置法の選択肢について」『臭化メチル全廃から10年：文化財のIPMの現在』東京文化財研究所 pp.5-20 15.12
- ・佐藤嘉則、犬塚将英、森井順之、矢島國雄、木川りか「古墳公開保存施設におけるIPMの取り組み」『臭化メチル全廃から10年：文化財のIPMの現在』東京文化財研究所 pp.78-84 15.12

発表

- ・佐藤嘉則、犬塚将英、森井順之、矢島國雄、木川りか「虎塚古墳公開保存施設の管理方法変更による微生物汚染状況の推移」文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.28
- ・小野寺裕子、小峰幸夫、木川りか「低酸素濃度殺虫法—25℃、27.5℃、30℃における処理期間の検討—」文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.27

刊行物

- ・『臭化メチル全廃から10年：文化財のIPMの現在』東京文化財研究所 15.12
- ・『文化財のカビ被害予防と対策のシステム化についての研究』東京文化財研究所 16.3

研究組織

- 佐藤嘉則、木川りか*、犬塚将英、早川典子、森井順之、吉田直人、佐野千絵、岡田健、小野寺裕子（以上、保存修復科学センター）、藤井義久、間潤創（以上、客員研究員）

*平成27年10月1日より九州国立博物館

文化財の保存環境の研究 (①必修03-15-5/5)

目 的

異常な高温・低温など最近の異常気象は文化財を展示収蔵する施設内の環境にも影響を与え、様々な問題を生じている。環境データや材料の水分特性など基本的なデータを用いた環境シミュレーションを行い、文化財の保管環境を考慮した博物館の省エネ化に関する研究を行う。また、展示ケース等から放散する汚染ガス対策の研究を行い、文化財収蔵空間で使用可能な材料を選択する試験法の試案をまとめる。総合的に文化財の保存環境の向上に資する。

成 果

1. ファン付テスト用展示ケースによる試験

ア) 多チャンネル温湿度測定結果とシミュレーションの整合性

恒温恒湿室に設置し相対湿度にケース内外差を設けて、①換気率を変えた場合、②調湿剤を設置した場合のケース内温湿度分布を実測した。また展示ケース内の気流を可視化、解析し、シミュレーションとの整合性を検証した。気流設計してファンを設置することで温湿度分布が速やかに一樣になることがわかった。

イ) 清浄化試験とシミュレーションの整合性

展示床を放散源とするケース内の濃度推移を計測し、吸着剤とファンの組み合わせで効果的に空気清浄化可能なことがわかった。清浄な室内大気との交換という方法も濃度抑制に有効であった。

2. 研究会「実験用実大展示ケースを用いた濃度予測と清浄化技術の評価」(2016(平成28)年2月15日、発表者:4名、外部からの参加者数:135名)。

論文

- ・佐野千絵、古田嶋智子、呂俊民「展示ケース内有機酸濃度への展示台の寄与」『保存科学』55 pp.78-88 16.3
- ・呂俊民、古田嶋智子、林良典、須賀政晴、佐野千絵「試験用実大展示ケースを用いたケース内のガス清浄化と濃度予測」『保存科学』55 pp.125-138 16.3

発表

- ・Tomoko Kotajima, Toshitami Ro and Chie Sano「Changing Gas Concentration in a Display Case using Low Emission Materials」12th International Conference – Indoor Air Quality in Heritage and Historic Environments バーミンガム 16.3.3-4
- ・古田嶋智子、呂俊民、林良典、須賀政晴、佐野千絵「美術館博物館展示ケースの空気環境に関する研究 その2:実験用展示ケースの温湿度推移と分布」日本建築学会大会[関東] 東海大学 15.9.4
- ・佐野千絵、古田嶋智子、呂俊民「展示台からの有機酸放散と遮蔽シートによる対策事例の評価」文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.27

刊行物

- ・『文化財の保存環境の研究 平成23～27年度研究成果報告書』東京文化財研究所 16.3

研究組織

- 吉田直人、佐野千絵、石井恭子(以上、保存修復科学センター)、呂俊民、古田嶋智子、石崎武志、北原博幸、間潤創(以上、客員研究員)

文化財の材質及び劣化調査法に関する研究 (①保修01-15-5/5)

目 的

小型可搬型機器によるその場分析、及び非破壊非接触技術による診断・解析手法の確立と実資料への応用を行う。絵画や彩色文化財に使われている顔料・染料の同定や褪色の評価、あるいは金属製文化財の材質調査や腐食生成物の分析などに関する調査手法の確立を行い、調査結果の蓄積と成果公開を行う。

成 果

1. 小型可搬型機器によるその場分析

ア) 可搬型の蛍光X線分析装置、X線透過撮影装置、可視反射分光分析装置、デジタルマイクロスコープ等複数の機器を活用し、四季花鳥図屏風（サントリー美術館）、万国絵図屏風（宮内庁三の丸尚蔵館）、平等院鳳凰堂内彩色・金属部材等（平等院）の材料調査を実施した。

イ) 新たに導入した可搬型FT-IRと他の可搬型機器を併用して、染織品（五島美術館、金沢能楽美術館等）の金属糸の材料・構造調査を行った。

ウ) 新たに導入した可搬型イメージングプレート現像機を活用し、伊豆長八美術館、サントリー美術館等でX線透過撮影による構造調査を行った。

2. 分析の高度化

ア) 可搬型蛍光X線分析装置の安定性・安全性を向上させるために機器・架台の改良を行うとともに、染織品の金属糸分析のための標準試料の整備と高精度定量計算の検討を行った。

イ) 有機質材料のその場分析のために、可搬型FT-IR分析装置による標準試料データの蓄積を図った。

ウ) 可搬型イメージングプレート現像機を用いて、高解像度X線透過撮影の検討を行った。

3. 調査研究成果に関する公開

文化財デジタル画像形成に関する調査研究（企05）と共同で実施した四季花鳥図屏風（サントリー美術館）、及び平等院鳳凰堂内に関する光学調査報告書を刊行した。

論文

・武田裕子、早川泰弘「国宝「阿弥陀聖衆来迎図」の彩色材料に関する調査」『保存科学』55 pp.47-62 16.3

・犬塚将英、早川泰弘「X線透過撮影による伊豆長八の作品の調査」『保存科学』55 pp.115-124 16.3

発表

・早川泰弘、城野誠治、三宅秀和「永青文庫所蔵 洋人奏楽図屏風の彩色材料調査」日本文化財科学会第32回大会 東京学芸大学 15.7.11

・神居文彰、早川泰弘、荒木恵信「国宝平等院鳳凰堂内 西面扉の押縁に施された文様及び色彩の想定復元」文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.27

刊行物

・『四季花鳥図屏風 光学調査報告書』東京文化財研究所 16.3

・『平等院鳳凰堂内 光学調査報告書』東京文化財研究所 16.3

研究組織

○早川泰弘、岡田健、佐野千絵、木川りか*、吉田直人、犬塚将英、佐藤嘉則（以上、保存修復科学センター）、城野誠治（企画情報部）、三浦定俊（客員研究員）

*平成27年10月1日より九州国立博物館

周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究 (①必修04-15-5/5)

目 的

屋外に位置する木造建造物及び石造文化財を対象に、文化財劣化要因となる周辺環境の影響評価手法や劣化診断手法を確立する。また、木造建造物の修復材料について実験室及び現地曝露試験による評価を行う。

成 果

(1) 石造文化財の調査研究

- ・砂岩の劣化機構解明と周辺環境影響に関する調査（祇園橋）（調査日：2015（平成27）年6月24日）
祇園橋における天草砂岩の劣化には、長崎出島でも見られた板状剥離に加えて蜂の巣状風化が見られる。周辺にある石切場でも調査を進めたところ、雨水が直接かからず蒸発が盛んな場所における石膏の析出およびモース硬度やエコーチップ硬度計による硬度の低下など表面脆弱化が確認できた。
- ・既修理事物の保存状態に関する追跡調査（寒冷地の石造遺構）（調査日：2015（平成27年）5月26～28日）
今年度は寒冷地の石造遺構をとりあげ、過去の保存修理やメンテナンスに関する調査を行った。調査地：大湯環状列石（鹿角市）、伊勢堂岱遺跡（北秋田市）、御所野遺跡（一戸町）。

(2) 木造建造物の調査研究

- ・材質の違いによる神社覆屋内の保存環境調査（中嶋神社、稲荷神社）
（調査期間：2012（平成24）年10月～2015（平成27）年12月）
ガラス張りの透明な覆屋（稲荷神社）と従来からある木板の雪囲い（中嶋神社）で覆屋内の温湿度・照度・紫外線強度の調査を行い、約1年分の比較可能なデータを取った。

論文

- ・朽津信明、渡邊尚恵、佐多麻美、森井順之「屋外石造文化財における金箔の保存条件に関する研究」『保存科学』55 pp.1-10 16.3
- ・朽津信明、久住有生、前川佳文、早川典子「漆喰表面の劣化形態に関する実験的考察」『保存科学』55 pp.27-35 16.3
- ・Masayuki MORII「Monitoring system for preservation of the Usuki stone Buddha by volunteer and scientific supports」ISSM2015 pp.39-44 National Science Museum, Korea 15.10

発表

- ・朽津信明、森井順之、犬塚将英、佐藤嘉則、日高翠、木川りか、尾崎源太郎、岡田健「石人山古墳における石棺装飾の保存に関する調査」文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.27
- ・朽津信明、森井順之、西山賢一「砂岩製文化財の表面風化形態について」日本応用地質学会平成27年度研究発表会 京都大学宇治キャンパス 15.9.24-25
- ・森井順之「磨崖仏の覆屋内温度環境制御による保存について」2015東アジア文化遺産保存国際シンポジウム専門家会議 奈良春日野国際フォーラム 豊～I・RA・KA～ 15.8.26
- ・Masayuki Morii, Shinobu Yamaji, Hironobu Ito, Takeo Yamamura and Tetsushi Toyoda: Reconstruction of the shelter for Buddhist image carved on tuff cliff. 23rd ISCS Meeting, Edinburgh The British Geological Survey 15.5.20

刊行物

- ・『日韓共同研究成果報告書 2011～2015年度』東京文化財研究所 16.3

研究組織

○朽津信明、早川典子、森井順之、岡田健（以上、保存修復科学センター）

文化財の防災計画に関する研究 (①必修05-15-5/5)

目 的

自然災害による文化財被害は甚大であり、復旧には多大な労力と時間を要する。我が国では自然災害の発生予測が難しいうえ、発生後すぐの救援はほぼ不可能である。そのため、「減災」の方向性を探ることが求められている。本研究課題では「地震・津波」を対象に下記の調査研究を進め、文化財の減災に必要な研究成果を提供する。

成 果

1. 宝積寺九重石塔（大山崎町）の修理にあわせた調査（調査日：2015（平成27）年4月21日、6月5日）
京都府指定有形文化財・宝積寺九重石塔は阪神淡路大震災の後塔の傾きが大きくなったことから、周辺の立入規制をかけて安全対策を行っていた。保存修復科学センターでは以前に三次元形状計測を実施していたが、今年度石塔が解体修理されることとなり、三次元形状計測データの拡充及び解体後の部材の調査を行うことができた。その結果、積み直しが複数回あったことや積み直し時に石材を当初と違う向きで設置していたことなど、傾きが生じた原因について明らかとなった。
2. 震災痕跡の保存状態に関する調査（実施日：2015（平成27）年12月16日、2016（平成28）年1月15日）
東日本大震災の震災遺構について議論されているいま、保存方法に関して将来問い合わせがある可能性があるため、既に指定を受けている震災遺構の保存に関する調査を開始した。2015（平成27）年12月は特別天然記念物根尾谷断層（本巢市）の断層崖トレンチ展示施設、2016（平成28）年1月は天然記念物野島断層（淡路市）の断層保存館において調査を行った。根尾谷断層の断層崖トレンチ展示施設では施設完成後水害で水没しており、その後の水害対策などについて多くの知見を得た。また、野島断層保存館では断層崖を覆屋内で保存しているが、外光が入る場所でも現在では植物の発生が見られないなど、保存管理の効果を確認した。
3. 平成26年度研究成果の公表
前年度実施した石灯笼実物大模型の振動台実験結果をまとめ、「石灯笼の地震対策に関する評価」として日韓共同研究報告書に掲載した。

論文

- ・森井順之、近藤希美、新津靖、御子柴正、花里利一「石灯笼の地震対策に関する評価」『日韓共同研究報告書2015』pp.59-70 東京文化財研究所／大韓民国国立文化財研究所 15.6

発表

- ・安井佑佳、森井順之、中川貴文、花里利一「仏像の耐震対策に関する研究 EDEMを用いた実物大実験の解析」2015年度日本建築学会大会学術講演会 東海大学 15.9.4

刊行物

- ・『日韓共同研究成果報告書 2011-2015年度』東京文化財研究所 16.3

研究組織

- 朽津信明、森井順之、岡田健（以上、保存修復科学センター）



宝積寺九重石塔の解体作業

文化財における伝統技術及び材料に関する調査研究 (①保修06-15-5/5)

目 的

我が国では和紙、糊、膠、漆、顔料などの伝統的な文化財修復材料が劣化の程度や修復技術者の経験をもとに長年使われてきた。これら文化財に使用される伝統技術及び材料や修理で使用する合成樹脂の物性、製作技法、利用法に関する調査・分析・評価及び開発を行い、修理現場での応用を図る。以上の内容に即した研究会を開催した。

成 果

1. 2009年度から継続して進めた表装裂資料のデータベース化を終了させ、広く利用できる目録を完成させた。
2. 文化財建造物に使用する漆塗料の劣化状態の調査に関する悉皆調査を進めるとともに、Py-GC/MS分析による塗装材料の性質の調査を行った。このような調査実績を日光東照宮陽明門、輪王寺三仏堂、旧鶴岡警察署庁舎などの塗装彩色修理の施工作業に役立てた。
3. 研究所が所蔵する表具裂見本の絹布関係資料について、個々の資料の絹の折状態や繊維の拡大顕微鏡画像の取り込みを行い、基礎データを集積して作業を完了させた。
4. 「日韓における文化財建造物の塗装彩色研究の動向」として、2015（平成27）年10月20日（火）に当研究所・地下会議室において日韓文化財研究交流協議会を開催し、24名の参加を得た。また、「文化財建造物の塗装修理に対する日本産漆使用の現状と課題」として、2016（平成28）年1月26日（火）に当研究所の地下会議室で「第9回文化財における伝統技術及び材料に関する研究会」を開催し、36名の参加を得た。
5. 本プロジェクトが取り組んできた文化財建造物の旧塗装彩色の調査と修理協力に関する研究会内容を纏めた和文ブックレット刊行物『建築 文化財における塗装材料の調査と修理』『文化財建造物における塗装彩色材料の調査・修理・活用』の英語版の完全原稿を作成し、作業を完了させた。

論文

- ・北野信彦「陽明門西側漆箔板壁面に描かれた「大和松岩笹と巢籠鶴」の科学調査」『大日光』85 pp.20-27 日光東照宮 15.8
- ・北野信彦「当世具足の塗装技術に関する科学調査」『甲冑武具研究』191 pp.2-24 日本甲冑武具研究保存会 15.8

発表

- ・北野信彦、佐藤則武、松村謙一、市川篤、北川和夫「日光社寺文化財の江戸期修理で用いられた金箔復元に関する調査」第37回文化財保存修復学会大会 京都工芸繊維大学 15.6.27
- ・北野信彦、犬塚将英、本多貴之、中右恵理子、武田恵理、何思縁、佐藤則武、浅尾和年「日光東照宮陽明門西壁面の唐油蒔絵の調査と修理」第37回文化財保存修復学会大会 京都工芸繊維大学 15.6.28

刊行物

- ・『文化財における伝統技術及び材料に関する調査研究報告書2015年度』東京文化財研究所 16.3

研究組織

- 北野信彦、朽津信明、早川典子、吉田直人、犬塚将英、佐藤嘉則（以上、保存修復科学センター）、加藤雅人（文化遺産国際協力センター）、本多貴之、（客員研究員）

文化財修復材料の適用に関する調査研究 (①必修12-15-3/3)

目 的

文化財修復においては、使用する材料及び手法の適切な適用が修復後の作品の状態を大きく左右する。本プロジェクトでは、文化財の種類を問わず修復に用いられる材料について、修復現場での具体的な使用を念頭に材料の分析及び評価を行い、個々の材料について分野にとらわれず横断的な研究を行うことで、最適な使用方法や使用条件の確立を目指す。

成 果

1. 絵画修復材料に関する科学分析及びクリーニング方法の検討を行った。
 - ア) 過去に文化財に使用されたセロテープの除去を目的として、強制劣化試験及び各種溶媒による除去方法の検討を行った。また、酵素による合成樹脂の除去について、現場適用と同時に従来の材料との併用方法についても検討した。
 - イ) 日本画で見られる緑青焼けについて、裏打ち紙の分析を行うことで劣化の状態を確認した。
 - ウ) 文化財修復に用いられるフノリについて調製条件による物性の差異を科学的に評価し、特に水の硬度による影響について重点的に研究を行った。
2. 建造物等修理材料の現地曝露試験とその評価を行なった。
 - ア) 巖島神社において、大鳥居修理材料について現地曝露試験を行い、平成28年度における修復に使用するために適切な材料の選択をおこなった。さらにそれら材料の改良及び評価試験を継続中である。
 - イ) 白杵磨崖仏で現地に設置している石材の修理材料について、剥離強度試験を乾燥条件及び湿潤条件下で行い、適切な使用方法の検討を行った。
3. 工芸品の評価方法についての検討
 - ア) 染織文化財について、地入れに使用されたタンパク質の存在の有無を非破壊分析できることを確認した。また、各種染料の可視光スペクトルの基礎測定を行った。
 - イ) 漆文化財については、硬化性の改良を検討した。銅触媒を用いることで、硬化性を失った漆を同じ反応機構で硬化させることに成功した。また、温湿度条件に関しても、従来よりも低温や低湿度などの環境で硬化することを確認した。

論文

- ・小川歩、早川典子「テトラクロロ銅(Ⅱ)酸カリウム二水和物添加による漆硬化の温湿度条件緩和の検討」『保存科学』55 pp.11-26 16.3

発表

- ・Noriko Hayakawa「Scientific Approaches for Adhesives in the Conservation of Japanese Paintings」, The Institute of Conservation, University of London, 15.4.9 他10件

刊行物

- ・『文化財修復材料の適用に関する調査研究 平成23年度～27年度研究成果報告書』 東京文化財研究所 16.3

研究組織

- 朽津信明、早川典子、森井順之、北野信彦、中山俊介、木川りか*、佐藤嘉則、岡田健（以上、保存修復科学センター）、加藤雅人、楠京子、山田祐子、山下好彦（以上、文化遺産国際協力センター）、本多貴之、酒井清文、大河原典子（以上、客員研究員）

*平成27年10月1日より九州国立博物館

近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究 (①必修07-15-5/5)

目 的

近代の文化遺産は、絵画、彫刻、木造建造物等従来の文化財とは、規模、材質、製造方法等に大きな違いがあるため、その保存修復方法や材料にも大きな違いがある。本研究では、近代の文化遺産の保存修復を行う上で必要とされる材料と技術について調査研究を行う。具体的には、大型建造物の劣化機構の解明とその修復方法の究明、航空機、船舶、鉄道車両等の保存修復上の問題点とその解決方法の究明を目指している。

成 果

1. 産業遺産の保存と修復：産業遺産の保存理念と修復理念に関して海外事例も含めた現地調査を行い、研究会を実施した。
2. 屋外展示物：屋外展示されている大型建造物、鉄道車両や航空機等の文化財の防錆対策の研究を実施した。
3. 建造物・構造物：佐渡金銀山遺跡等史跡指定地内に建つ建造物や構造物の保存や修復に関する研究を行った。
4. 報告書：前年度の研究会をまとめた報告書及び前年度に観光した報告書の英語版を刊行した。

報告

- ・中山俊介「洋紙の保存と修復」『洋紙の保存と修復』東京文化財研究所 pp.5-10 16.3
- ・中山俊介「近代文化遺産としての道具の保存」『無形文化遺産（伝統技術）の伝承に関する研究報告書』東京文化財研究所 pp.47-52 15.9
- ・中山俊介「道具の保存と活用」『無形文化遺産（伝統技術）の伝承に関する研究会Ⅱ 報告書』東京文化財研究所 pp.7-13 16.3
- ・中山俊介「Conservation and restoration of modern textiles」『Conservation and restoration of modern textiles』東京文化財研究所 pp.5-11 16.3

発表

- ・中山俊介「近代文化遺産の保存理念と修復理念」近代文化遺産の保存理念と修復理念に関する研究会 東京文化財研究所 16.1.15
- ・中山俊介「近代文化遺産の保存と修復について」シンポジウム「国産旅客機の開発とその意義 東京大学安田講堂 15.7.28
- ・中山俊介（基調講演）「近代文化遺産の保存と修復—産業遺産を中心に—」全国近代化遺産活用連絡協議会鉄道遺産部会2015愛知研修大会 勝川パレット会議室 15.11.6
- ・中山俊介「道具の保存と活用」無形文化遺産（伝統技術）の伝承に関する研究会Ⅱ（染色技術と地域の関わり）東京文化財研究所 15.11.11
- ・中山俊介「葦山反射炉本体の修復に向けて」伊豆の国市世界遺産シンポジウム 葦山時代劇場大ホール 16.3.5

刊行物

- ・『洋紙の保存と修復』東京文化財研究所 16.3
- ・『Conservation and restoration of modern textile』東京文化財研究所 16.3

研究組織

○中山俊介、朽津信明、早川典子、森井順之、石田真也、小林芳妃、山府木碧（以上、保存修復科学センター）、小堀信幸、横山晋太郎、長島宏行、堤一郎（以上、客員研究員）

②国際協力・交流等に関する事業一覧

プロジェクト名	担当部門	頁
文化財保護に関する国際情報の収集・研究・発信（セ01）	文化遺産国際協力センター	43
東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力（セ02）	文化遺産国際協力センター	44
西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業（セ03）	文化遺産国際協力センター	45
在外日本古美術品保存修復協力事業（セ04）	文化遺産国際協力センター	47
ユーラシア壁画の調査研究と保存修復（セ06）	文化遺産国際協力センター	48

文化財保護に関する国際情報の収集・研究・発信 (②セ01-15-5/5)

目 的

文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力等の情報を収集、分析して活用するとともに、国際共同研究を通じて保存・修復事業を実施するために必要な研究基盤整備を行う。また研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化、継続的な国際協力のネットワークを構築し、その成果をもとにアジア諸国における文化財保存・修復事業を推進する。

成 果

1. 国際会議出席：文化財保護の国際動向を把握し、国内外の関連機関との連携を深めるために、以下の会合に参加した。世界遺産委員会（ボン、2015（平成27）年6月28日～7月8日）、ICOMOS年次総会（福岡、2015（平成27）年10月26日～29日）、第29回 ICCROM理事会および総会（ローマ、2015（平成27）年11月15日～21日）
2. 文化遺産（動産文化財）保護についての調査・研究：諸外国の中でも日本を含む世界中の文化財を保有し、独自の方法で保護しているアメリカの現状を把握するため、国内外の関係者から聞き取り調査を行うとともに、下記の日程で調査を実施した。2015（平成27）年12月14日～18日 ゲッティ保存修復研究所、ゲッティ美術館
3. 対訳法令集シリーズの刊行：本年度はメキシコについて、文化財保護関連の基本的法令の条文を和訳し、対訳法令集シリーズとして1冊刊行した。
4. 選定保存技術の調査：日本の選定保存技術の伝統やその技術を広く国内外に発信していくために、銚金具・建具・金襴・杼（京都）、宇陀紙・鬼瓦（奈良）、苧麻糸手績・琉球藍（沖縄）、粗苧（大分）、昭和村からむし（福島）、漆掻き（岩手）、漆掻き用具製作（青森）、邦楽器原糸（滋賀）、玉鋼（島根）、手漉和紙用具（静岡）など15種類の技術について調査を実施し、カレンダーおよび報告書を刊行した。東京文化財研究所ロビー展示（2016（平成28）年3月～9月）においても写真パネルによる成果公開を行った。

発表

- ・二神葉子「世界遺産委員会における諸課題とその解決、及び世界遺産条約の文化財保護への活用に向けての試論」企画情報部研究会 15.4.21

刊行物

- ・カレンダー2016「文化財を守る日本の伝統技術」（壁掛版・卓上版）東京文化財研究所 15.11
- ・『各国の文化財保護法令シリーズ[20]メキシコ』東京文化財研究所 16.3
- ・『世界遺産用語集』東京文化財研究所 16.3
- ・『選定保存技術に関する調査報告書1和鋼』16.3

研究組織

- 江村知子、川野邊渉、山内和也、友田正彦、加藤雅人、境野飛鳥、草薙綾、長谷川泉、橋本広美、半戸文（以上、文化遺産国際協力センター）、二神葉子（企画情報部）



ICCROM 総会の審議の様子（ローマ）



東京文化財研究所ロビー展示

東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力 (②セ02-15-5/5)

目 的

東南アジア諸国とその周辺地域における保存修復事業への協力及びこれに関する調査研究の実施を通じて、文化財の保存・修復に関する技術移転を図るとともに、この分野での国際協力を推進する。

成 果

1. 研究会「東南アジアの遺跡保存をめぐる技術的課題と展望」の開催 (2015 (平成27) 年11月13日)
2. カンボジア・タネイ遺跡保存整備計画策定支援等
 - ア) アプサラ機構職員と同遺跡の三次元写真測量を実施 (2015 (平成27) 年5月26日～6月2日)
 - イ) アンコール遺跡保存国際調整委員会諸会合に参加 (2015 (平成27) 年6月4日、12月3・4日)
 - ウ) 同遺跡内設置の気象観測装置のメンテナンス等を実施 (2015 (平成27) 年12月4日)
 - エ) 同遺跡のリスクマップ作成のため、同機構担当者と危険箇所評価手法等に関する調査及びワークショップを実施 (2016 (平成28) 年2月14日～15日)
3. ブータンの伝統的版築造建造物保存協力
内務文化省文化局遺産保存課職員との情報共有と意見交換 (2015 (平成27) 年12月21日～23日)
4. ミャンマーの伝統的漆工技術保存のための研修ワークショップの開催 (2016 (平成28) 年1月14日～15日)
5. インドネシア・パダン歴史地区復興に関する住民参加型セミナー開催
文化教育省、州、市政府等と共催したほか、市長らと協議 (2015 (平成27) 年8月24日～27日)

発表

- ・Katsura SATO “3D Documentation at Ta Nei temple” アンコール遺跡保存国際調整委員会(ICC)第24回技術会議 アプサラ機構本部 15.6.4
- ・佐藤桂ほか「ブータン王国における民家等の伝統的建造物保存に関する研究 その5 版築職人への聞き取り調査」日本建築学会大会学術講演会 東海大学 15.9.4
- ・マハラジャアキララルほか「インドネシア・パダン旧市街地における地震前後の環境移行に関する考察 2009年西スマトラ地震後のパダンにおける歴史的町並み復興 その8」日本建築学会大会学術講演会 東海大学 15.9.5
- ・竹内泰ほか「インドネシア・パダン旧市街地における歴史的町並み復興に関する課題 2009年西スマトラ地震後のパダンにおける歴史的町並み復興 その9」日本建築学会大会学術講演会 東海大学 15.9.5

刊行物

- ・『東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力 平成27年度成果報告書』東京文化財研究所 16.3
- ・『「東南アジアの遺跡保存をめぐる技術的課題と展望」研究会報告書』東京文化財研究所 16.3
- ・“Riset Integrasi Berlandaskan Rekonstruksi Warisan Budaya Kawasan Pdang Lama di Padang, Sumatera Barat” NRICPT, 15.8
- ・“Laporan “Workshop mengenai Rehabilitasi Kawasan Padang Lama di Provinsi Sumatera Barat”” NRICPT, 16.3

研究組織

○川野邊渉、友田正彦、山下好彦、佐藤桂、山田大樹、増渕麻里耶、北川瑞季、近藤洋 (以上、文化遺産国際協力センター)

西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業 (②セ03-15-5/5)

目 的

西アジア諸国、とくに内戦・紛争によって危機にさらされているアフガニスタン及びイラクの文化遺産の調査研究や文化遺産の保護・保存修復事業を通して、技術移転及び人材育成を図り、自国民の手による文化財保護事業の確立の支援を目指す。また、あわせて周辺地域（特に中央アジア、インド、コーカサス）の文化遺産の調査研究・保護への協力を実施する。

成 果

1. アフガニスタン

ア) 『バーミヤーン遺跡保存事業第11次ミッション概報』(英)

刊行：2015（平成27）年12月

イ) シンポジウム「紛争と文化遺産—紛争下・紛争後の文化遺産保護と復興—」を開催：2016（平成28）年1月24日

ウ) 「バーミヤーン遺跡の大仏再建に関する研究会」開催（日本イコモス国内委員会と共催）：2015（平成27）年7月22日

2. 西アジア周辺諸国における文化遺産の調査研究・保護への協力等

ア) キルギス：ユネスコ文化遺産保存信託基金事業による、キルギス共和国科学アカデミーとの文化遺産保護の分野における協力および人材育成ワークショップの開催（研修生8名の参加）：2015（平成27）年10月

『キルギス共和国チュウ川流域の文化遺産の保護と研究 アク・ベシム遺跡、ケン・ブルン遺跡—2011～2014年度—』刊行：2016（平成28）年3月

イ) イラン：『イランにおける文化遺産視察および先方関係機関との意見交換に関する報告書』刊行（日/英）：2016（平成27）年7月/9月

中央アジア歴史都市会議における論文発表：2015（平成27）年9月

イラン文化遺産・工芸・観光庁の次官との意見交換：2015（平成27）年10月

ウ) カザフスタン：シルクロード世界遺産登録調整会議への出席：2015（平成27）年11月

エ) エジプト：JICA事業「エジプト国大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト」への協力



「紛争と文化遺産」シンポジウムの様子

論文

- ・イランおよび中央アジアにおける歴史都市景観保護のための基礎的研究（1）—歴史都市ヤズドの景観保護政策と課題—（山田大樹）2015 年度日本建築学会 大会学術講演梗概集F-1 日本建築学会 pp.405-406 15.9

報告

- ・バーミヤーン遺跡の破壊、そして現在（山内和也）『黄金のアフガニスタン』産経新聞社 pp.187-191 16.1
- ・『紛争と文化遺産』シンポジウム（山内和也）『INFORMATION』10期1号 JAPAN ICOMOS pp.39-40 16.3
- ・シルクロード キルギスのアク・ベシム遺跡 唐代城壁の一部出土（山内和也）『読売新聞』 15.12.30

②国際協力・交流等 Area11

- ・シンポジウム「紛争と文化遺産」「人類の宝」保護への国際協力を（山内和也）『産経新聞』 16.2.4
- ・九州国立博物館特別展「黄金のアフガニスタン」悠久の輝き再び 寛容の地に開いた花（山内和也）『西日本新聞』 16.1.10
- ・戦乱の地 守られた遺産『朝日新聞』 16.1.19
- ・戦乱アフガンで受難……収集、返還へ 流出文化財日本が救う『読売新聞』 15.8.15
- ・イスラム教の国 保存に課題 The Asahi Shimbun Globe 15.9

発表

- ・イランの建築と文化（山内和也、山田大樹）2015年度トルコ文化研究センター研究会 武庫川女子大学 15.6.4
- ・キルギス共和国における博物館をめぐる課題（山内和也）第21回東アジア・中央アジア分科会 15.7.13
- ・イランおよび中央アジアにおける歴史都市景観保護のための基礎的研究(1) —歴史都市ヤズドの景観保護政策と課題—（山田大樹）建築学会 東海大学 15.9.4
- ・「Preservation as the Sustainable Historic District」（Hiroki Yamada）The 8th International Policy Forum on Urban Growth and Conservation in Euro-Asian Corridor Tehran-Hamadan Conference 2015 15.9.30

刊行物

- ・『Preliminary Report on the Safeguarding of the Bamiyan Site 2013: 11th mission』東京文化財研究所 15.12
- ・『キルギス共和国チュー川流域の文化遺産の保護と研究 アク・ベシム遺跡、ケン・ブルン遺跡—2011～2014年度—』東京文化財研究所 16.3
- ・『紛争と文化遺産：紛争下・紛争後の文化遺産保護と復興』東京文化財研究所 16.3
- ・『バーミヤーン東大仏「足」状工作物構築と再建に関する資料集』東京文化財研究所 15.7
- ・『イラン文化遺産の現地調査及び関係機関との文化遺産保護に関する意見交換の報告書』東京文化財研究所 15.8
- ・『Research Report on the Safeguarding of Iranian Cultural Heritage』東京文化財研究所 15.9

研究組織

- 川野邊渉、山内和也、久米正吾、山田大樹、山藤正敏、近藤洋（以上、文化遺産国際協力センター）、間倉裕生、古川尚彬、谷口陽子、藤澤明（以上、客員研究員）、森本晋（奈良文化財研究所）

在外日本古美術品保存修復協力事業 (②セ04-15-5/5)

目 的

日本の文化財は欧米を中心に海外でも多く所蔵されている。しかし、これらの保存修復の専門家は海外にほとんどおらず、多くの博物館などで適切な処置に窮している。そこで、海外で所蔵されている掛軸などの紙本絹本文化財および漆工芸品のうち、本格的な修復が必要な作品を一旦日本に運び修復して返還することを目的としている。また、研修、共同研究等を通して日本の文化財修復に対する理解の深化、修復技術の移転を行う。

成 果

1. 作品修復 修復中作品5点

ア) クラクフ国立博物館(ポーランド)所蔵作品3点(宮川長春作「遊女と禿図」1幅、中林竹洞作「瀑布溪流図」1幅、狩野中信作「月下秋景図」1幅)

イ) ナショナルギャラリーオブビクトリア(オーストラリア)所蔵作品2点(「親鸞聖人絵伝」4幅、佐々木泉玄作「般若図」1幅)

2. 海外調査 3件

ア) インディアナポリス美術館(アメリカ)、絵画調査、2016(平成28)年2月8日～12日。

イ) 英国ロイヤルコレクション(イギリス)、漆工芸品調査、2016(平成28)年2月15日～19日。

ウ) 文化省等(アルゼンチン)、協議および概要調査、2016(平成28)年2月27日～3月4日。

3. 研修 5件

ア) Workshops on Conservation of Japanese Art Objects on Paper and Silk、場所 ベルリン国立博物館アジア美術館(ベルリン・ドイツ):(Workshop I) "Basic-Japanese paper and silk cultural properties"、2015(平成27)年7月8～10日、参加者25名。他1件。

イ) Workshops on the Conservation and Restoration of Urushi (Japanese Lacquer) ware、場所 ケルン市博物館東洋美術館(ケルン・ドイツ):(Workshop I) 2015(平成27)年11月13～14日、参加者6名。他2件。

4. その他、協力・共同研究等

共同研究: ドレスデン国立美術館陶磁器資料館(ドイツ)所蔵「染付蒔絵鳥籠装飾広口大瓶」。他1件。

発表

・ Masato KATO, Takayuki KIMISHIMA, "Karibari: The Japanese Drying Technique" Adapt & Evolve 2015: East Asian Materials and Techniques in Western Conservation, Brunei Gallery, SOAS, University of London 15.4.8-10

・ 楠京子、山田祐子、加藤雅人、君嶋隆幸、井上さやか「キンベル美術館所蔵『二十五菩薩来迎図』修復事例報告」文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.28

・ 山田祐子、加藤雅人、楠京子「紙本、絹本の修復に使用される補彩絵具の変色」文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.28 他2件

刊行物

・ 『在外日本古美術品保存修復協力事業 二十五菩薩来迎図』東京文化財研究所 15.3 他3件

研究組織

○川野邊渉、加藤雅人、江村知子、山下好彦、楠京子、山田祐子、小田桃子、山之上理加、嶋原由美、後藤里架(以上、文化遺産国際協力センター)、早川典子(保存修復科学センター)、小林達朗(企画情報部)、鈴木絢香(研究支援推進部)、杉山恵助、大河原典子(以上、客員研究員)

ユーラシア壁画の調査研究と保存修復 (②セ06-15-3/3)

目 的

ユーラシア世界の壁画の技法材料に関する調査研究を行い、適切な保護、保存修復の手法を検討するとともに、壁画の造形表現と歴史的・文化的背景についても調査研究を行う。さらに、他の分野の専門家と学際的に協力、連携し、壁画という文化遺産を総合的に調査研究する。地域的には、ユーラシア地域（含む北アフリカ）を対象とし、その中でもアジア地域の壁画を主な対象とする。また、時代幅については、6～8世紀を基軸におき、紀元前後から13世紀の壁画を主な対象とする。

成 果

1. 敦煌莫高窟壁画調査研究

- ア) 莫高窟第285窟において調査を行い、昨年度に引き続き、洞窟内で発生する風（空気流）によって飛ぶ微小な砂の挙動と壁画の劣化との関係についてデータを取得し、考察を行った（2015（平成27）年8月）。
- イ) 環境研究に関する成果を日本建築学会（2件）、国際学会（1件）、材質分析研究に関する成果を日本文化財科学会、保存修復学会（各1件）、保存に関する成果を国際学会（1件）、データベースに関する成果を国際学会（1件）で発表した。
- ウ) 敦煌研究院保護研究所の研究員1名を招聘し、文化財の生物劣化とその対策に関する講義と関西地区の文化遺産等についての視察を通して研修を行った（2015（平成27）年11月10日～28日）。
- エ) 5カ年計画の最終年にあたり、平成17年度に始まり10年に及んだ莫高窟第285窟の調査研究を総括するため、これまでの成果を日中2カ国語の報告書としてまとめ、併せて敦煌研究院において総括の成果会を報告開催した（2016（平成28）年3月12日）。

2. 陝西墳墓壁画調査

陝西省考古研究院と連携し、現存例は少ないものの、技法・絵画表現において大きな変革期となる隋・初唐の墳墓壁画について調査を行い、第285窟の次の研究課題について考察した（2015（平成27）年10月21日）。

3. フルブック遺跡出土壁画断片保存修復事業のまとめ

タジキスタン共和国フルブック遺跡から出土した壁画断片の保存修復・展示・一般公開という一連の保存修復事業を日本語報告書としてまとめ、その成果を公表した。

論文

- ・岡田健、渡辺真樹子、高林弘実、蘇伯民、崔強「敦煌莫高窟第285窟東壁に描かれた如来像に用いられた彩色材料と技法」『保存科学』55 pp.139-149 163

発表

- ・三箇山茜、鉾井修一、小椋大輔、岡田健、蘇伯民「敦煌莫高窟第285窟の壁画劣化に及ぼす砂塵の影響」平成27年度日本建築学会近畿支部研究発表会 大阪工業技術専門学校 15.6.27
- ・岡田健、渡辺真樹子、高林弘実、蘇伯民、崔強「敦煌莫高窟第285窟東壁に描かれた如来像に用いられた彩色材料と技法」文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.28
- ・中田愛乃、高林弘実、岡田健、蘇伯民、崔強「敦煌莫高窟第285窟の壁画制作における構図を決める当たり線の役割に関する研究」日本文化財科学会第32回大会 東京学芸大学 15.7.12
- ・三箇山茜、鉾井修一、小椋大輔、岡田健、蘇伯民「敦煌莫高窟第285窟の壁画の劣化と外気流入との関係」日本建築学会大会（関東）学術講演会 東海大学 15.9.6

- Mikayama Akane, Hokoi Shuichi, Ogura Daisuke, Okada Ken, Su Bomin, Effects of drifting sand particles on deterioration of mural paintings on the east wall of cave 285 in Mogao caves, Dunhuang. 6th International Building Physics Conference, IBPC 2015, Turin, Italy, 15.6.15
- 岡田健、津村宏臣「知識科学としての敦煌データベース」2015 Dunhuang Forum: International Conference on Digital Library and Cultural Relics Preservation and Use in the Big Data Environment 敦煌 15.8.25
- 岡田健「石窟壁画研究ノート—失われた壁画の記憶」第2回曲江壁画論壇—壁画芸術史研究及び保護修復技術研究を中心として— 西安 15.10.23
- 小川絢子、藤澤明、成田朱美、増田久美、島津美子、山内和也「タジキスタン国立古代博物館におけるフルブック遺跡出土壁画断片の保存修復—壁画断片群のマウント処置と展示—」文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.28

刊行物

- 『敦煌莫高窟第285窟研究—壁画材料劣化メカニズムの解明』東京文化財研究所/敦煌研究院 16.3
- 『敦煌莫高窟第285窟壁画材料劣化機理、壁画藝術と保護問題的研究』（中国語版）東京文化財研究所/敦煌研究院 16.3
- 『フルブック遺跡出土壁画断片の保存修復』東京文化財研究所文化遺産国際協力センター 16.2

研究組織

- 岡田健（保存修復科学センター）、○山内和也（文化遺産国際協力センター）、早川泰弘、犬塚将英、吉田直人、森井順之（以上、保存修復科学センター）、皿井舞（企画情報部）、山藤正敏（文化遺産国際協力センター）、高林弘実、渡辺真樹子、津村宏臣、藤澤明（以上、客員研究員）

③資料作成・公開に関する事業一覧

プロジェクト名	担当部門	頁
文化財情報基盤の整備・ウェブサイトの運用（企06）	企画情報部	53
専門的アーカイブの拡充（資料閲覧室運営）（企07）	企画情報部	55
無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化（無03）	無形文化遺産部	56
広報企画事業（ニュースレター・概要・年報）（企08）	企画情報部	57

文化財情報基盤の整備・ウェブサイトの運用 (③企06-15-5/5)

目 的

文化財関係の情報を収集して積極的に発信するため、ネットワークのセキュリティ強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備充実を図る。また、システム面から文化財に関する専門的アーカイブの拡充、データベースの充実を支援する。

成 果

1. 情報システムの整備

情報システムの整備は、広報委員会の情報システム部会長・部会員で検討のうえ実施している。平成27年度には日常的なネットワーク管理業務のほか、下記を実施した。

- ア) センタースイッチ及びフロアスイッチを更新した。更新にあたり、機器の選択肢を増し、更新費用を削減するため、フロアスイッチーセンタースイッチ間のケーブルを光からメタルに変更した。
- イ) 無線LANアクセスポイントを増設するとともに、制御用サーバを導入し、運用の安定化を図った。
- ウ) 大容量ストレージ構築のための基本システムを導入した。このシステムは、ストレージを増設することによりペタバイト級の大容量ストレージを構成でき、WWWサーバ等の仮想化のための基礎となる。

2. ウェブサイトの運用

研究所全体の広報、研究情報の発信の一環としてウェブサイトの運用を行っている。各部・センターのサイトは各担当者が更新する一方、催事や刊行物等の更新情報は研究所ホームページからリンクし告知することで、情報発信の効率化と有効化を図っている。ウェブサイトの軽微な変更、データベースへの情報の追加、情報発信は随時実施している。

- ア) 広報・普及に関して、「活動報告」(日英2カ国語)のWordPressへの移行を実施し、年月や部門などの項目による分類及び全文の検索が可能となった。また、メールマガジン(日本語)、Facebook及びTwitter(いずれも日英2カ国語)により、国内外の文化財関係者に対して活動報告や催事などウェブサイトの更新情報を中心に提供している。
- イ) 昨年度の黒田記念館ウェブサイトのリニューアル及び「黒田清輝日記」のWordPress化に続き、「黒田清輝作品集」をWordPressに移行、データベース化した。
- ウ) WordPressによるデータベースを引き続き随時整備・公開した。新たに公開したデータベースは上記のほか「白馬会関係新聞記事」「『美術画報』掲載図版データベース」である。
- エ) ウェブサイトへのアクセス(訪問者数)は1,941,504件であった。

3. 研究成果の発表

- ア) 2015東アジア文化遺産保存国際シンポジウム in 奈良で、文化財アーカイブズ研究室と共同で東京文化財研究所の文化財アーカイブ構築に関して発表した。
- イ) 2016(平成28)年3月23日に開催された研究会で、文化財データベース・アーカイブに関する東京文化財研究所の取り組みについて報告した。

ウェブサイトアクセスランキング(平成27年度 上位10位まで)

1	全体 index	6	黒田記念館全体
2	『日本美術年鑑』掲載物故者記事	7	ガラス乾板データベース
3	『保存科学』PDF	8	『無形文化遺産研究報告』PDF
4	黒田記念館資料編(日記、書簡、作品一覧等)	9	研究資料データベース
5	『日本美術年鑑』掲載美術界年史(彙報)記事	10	企画情報部全体

ウェブサイトの主な更新履歴（定期刊行物の公開、活動報告、公募情報を除く）

年月日	更新内容	関係部局
15.4.10	「これからの文化財防災―災害への備え」公開	文化財レスキュー受託事業研究会事務局
15.5.13	「「かたち」の生成をめぐって―イケムラレイコの場合」開催案内	企画情報部
15.6.17	デジタルブック版『未来につなぐ人類の技 14 近代テキスタイルの保存と修復』公開	保存修復科学センター
15.8.7	黒田記念館所蔵黒田清輝作品集 公開	企画情報部
15.9.1	『文化財展示収蔵施設におけるカビのコントロールについて』公開	保存修復科学センター
15.9.28	第49回オープンレクチャー モノ/イメージとの対話 開催案内	企画情報部
15.10.13	無形文化遺産（伝統技術）の伝承に関する研究会Ⅱ「染織技術の伝承と地域の関わり」開催案内	無形文化遺産部
15.10.16	「東南アジアの遺跡保存をめぐる技術的課題と展望」開催案内	文化遺産国際協力センター
15.10.20	白馬会関係新聞記事 リニューアル公開	企画情報部
15.10.20	第10回無形文化遺産部公開学術講座「邦楽の旋律とアクセント―中世から近世へ―」開催案内	無形文化遺産部
15.10.22	海外における日本美術関係資料担当者との交流会 開催案内	企画情報部
15.12.11	第29回近代の文化遺産の保存修復に関する研究会「近代文化遺産の保存理念と修復理念」開催案内	保存修復科学センター
15.12.18	シンポジウム「紛争と文化遺産―紛争下・紛争後の文化遺産保護と復興―」開催案内	文化遺産国際協力センター
16.1.6	『臭化メチル全廃から10年：文化財のIPMの現在』公開	保存修復科学センター
16.1.19	「文化財の保存環境」に関する研究会「実験用実大展示ケース用いた濃度予測と清浄化技術の評価」開催案内	保存修復科学センター
16.1.21	2015年ネパール・ゴルカ地震による被災文化遺産に関するセミナー 開催案内	文化遺産国際協力センター
16.1.21	「ファラオの至宝をまもる」―大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト終了記念報告会 開催案内	文化遺産国際協力センター
16.2.10	「「かたち」の生成をめぐって―イケムラレイコの場合」公開	企画情報部

発表

- ・山梨絵美子ほか「文化財研究情報アーカイブの構築―東京文化財研究所の取り組み」2015東アジア文化遺産保存国際シンポジウムin奈良 奈良春日野国際フォーラム薨〜I・RA・KA〜 15.8.27-28
- ・福永八朗「東文研の文化財データベース」文化財データベース・アーカイブの構築と活用に関する研究会 東京文化財研究所 16.3.23

研究組織

○二神葉子、山梨絵美子、津田徹英、塩谷純、小林公治、小林達朗、皿井舞、安永拓世、橘川英規、城野誠治、福永八朗、小山田智寛、高橋佑太（以上、企画情報部） 広報委員（情報システム部会）：川野邊渉（文化遺産国際協力センター長） 各部門情報システム部会員：平出秀文、中濱拓郎（以上、研究支援推進部）、皿井舞（企画情報部）、飯島満（無形文化遺産部）、吉田直人（保存修復科学センター）、加藤雅人（文化遺産国際協力センター）

専門的アーカイブの拡充（資料閲覧室運営）（③企07-15-5/5）

目 的

文化財関連資料の公開機関としての周知の広がりをつまみ、①受け入れた文化財関連の図書などの文字資料や、作成したアナログ・デジタル画像資料の登録管理、②閲覧室で月・水・金の週3回の一般利用者へ所蔵資料の提供、③データベースの作成、検索システムの構築・ウェブサイト上での諸情報の提供を通常業務とするとともに、提供する資料や情報の質に主眼を置き、より専門性の高い文化財関連資料や情報の収集・構築・公開の場として専門的アーカイブの充実を図る。

成 果

1. 文字情報・画像資料のデジタル化と目録化を継続して行った。
 - ア) 当研究所が架蔵する展覧会図録の韓国語データ入力を行った。
 - イ) 当研究所が架蔵する美術館・博物館等の館報の入力を行った。
 - ウ) 東京美術倶楽部と共同研究を行い、戦前刊行分の売立目録のデータ入力を行った。
2. 明治・大正期刊の雑誌類のデジタル化を継続して行った。
 - ・貴重書（山中商会の売立目録）のデジタル化を行い、公開準備をすすめた。
3. より広く当研究所の情報を発信するために国内外の機関との連携を模索した。
 - ア) 2015（平成27）年6月にアメリカ・ゲッティ研究所において、連携内容を協議した。
 - イ) 英国セインズベリー日本藝術研究所採録の日本美術および同研究に関する英語文献・記事情報を「東京文化財研究所総合検索」で利用できるようにした。2016（平成28）年2月に現地で進捗状況・今後の方針を協議・確認を行った。
 - ウ) 2015（平成27）年5月、7月、2016（平成28）年3月に国立西洋美術館と連携内容を協議し、美術展覧会図録所載文献情報のOCLC搭載のための協議を行った。
4. 資料閲覧室の公開・運営を行うとともに、文化遺産国際協力センターが架蔵していた図書を搬入し、資料閲覧室で一元管理・公開を行うようにした

資料閲覧室の運営

・公開日数134日、利用者数のべ954人。

新たな資料の受け入れ数

・和漢書1,306件、洋書33件、展覧会図録・報告書等4,264件、雑誌1,580件（合計7,183件）

データベース公開件数

・「東京文化財研究所 総合検索」（34件のデータベースの統合版の拡充）

研究組織

○津田徹英、山梨絵美子、二神葉子、小林公治、塩谷純、小林達朗、皿井舞、安永拓世、橘川英規、城野誠治、福永八朗、田所泰（以上、企画情報部）、久保田裕道（無形文化遺産部）、早川泰弘（保存修復科学センター）、吉田千鶴子、片山まび（以上、客員研究員）

無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化 (③無03-15-5/5)

目 的

無形文化遺産部が所蔵する音声・画像・映像資料のデジタル化。第1期中期計画（平成17年度終了）の事業案策定後の購入・寄贈にかかるアナログ資料を中心に、これまでに収集蓄積してきた分野を補完する資料の媒体転換を重点的に実施する。併せて、デジタル化を済ませた音声資料は、インデックス付与を含む整理を推進する。この事業は、将来的には資料のデータベース公開と音声・画像等の配信を目指すものである。

成 果

1. 映像資料については、再生不可となることが危惧されるHi 8（ハイエイト）を中心に媒体変換を行い、DVD22枚を作成した。
2. 音声記録のデジタル化は、前年度に引き続き、1960年代に放送された純邦楽関連のテープ録音を中心に収録内容を確認した。また民謡テープ109本（約74時間）についてもデジタル化を実施し、収録内容の確認を行った。
3. カセットテープに関しては、旧芸能部所蔵テープの内、寺事の現地録音を中心に内容確認を行った。
4. 無形文化遺産関連の映像資料362枚（作成DVD140枚・作成BD222枚）を所蔵資料として新たに登録した。

研究組織

○飯島満、高桑いづみ、久保田裕道、石村智、菊池理予、今石みぎわ、佐野真規、橋本かおる（以上、無形文化遺産部）

広報企画事業（ニュースレター・概要・年報）（③企08-15-5/5）

目 的

研究所の業務に関する情報発信のうち特に紙媒体である『年報』『概要』『ニュース』、及び不定期に作成するパンフレットなどの編集・刊行を実施する。また、エントランスロビーにおけるパネル展示などを通じて、来訪者に対しても研究所の活動をわかりやすく伝えることを目指す。

成 果

1. 『年報』2014の刊行

2015（平成27）年6月30日付で年報を刊行した。構成は従来通り、機構、年度計画及びプロジェクト報告、その他の研究活動、個人の研究業績、研究交流、主な所蔵資料、研究所関係資料、東京文化財研究所プロジェクト索引とした。発行にあたっては、各部・センターの年報部会員が原稿のとりまとめを行った。

2. 『概要』2015の刊行（研究支援推進部企画渉外係が編集を担当）

『概要』2015を刊行した。概要は研究所の組織や活動内容を、写真を多用して日英2カ国語により簡潔に紹介している。各ページの構成の決定や原稿のとりまとめは、各部・センターの概要部会員が行った。

3. 『東文研ニュース』の刊行（研究支援推進部企画渉外係が編集を担当）

『東文研ニュース』を日英2カ国語により3回発行した。基本的にはウェブサイトに掲載した毎月の「活動報告」のうち、各部・センターで特に紙媒体でも広報したいとして選んだ記事を掲載する。この他、東文研ニュースには、文化財やその保護に関する特定の話題について見開き2ページにより紹介するコラムや、東京文化財研究所の刊行物の案内、人事異動などを掲載している。

4. パネル展示の調整

1階エントランスロビーに研究成果を伝えるためのパネルを作成し、展示するとともに、その内容に関する小冊子を日英2カ国語で作成した。

- ・2015（平成27）年3月29日～2016（平成28）年3月23日 「近代文化遺産の保存と修復－東京文化財研究所の関わり－」（保存修復科学センター）
- ・2016（平成28）年3月24日～ 「選定保存技術－漆の文化財を守り伝えるために」（文化遺産国際協力センター）

研究組織

○二神葉子、山梨絵美子、津田徹英、塩谷純、小林公治、小林達朗、皿井舞、安永拓世、橘川英規、城野誠治、福永八朗、小山田智寛、高橋佑太（以上、企画情報部）

広報委員（概要部会）：岡田健（保存修復科学センター長） 各部門概要部会員：今城裕香*1、林昌宏*2（以上、研究支援推進部）、塩谷純（企画情報部）、今石みぎわ（無形文化遺産部）、吉田直人（保存修復科学センター）、友田正彦（文化遺産国際協力センター）

広報委員（年報部会）：田中淳（副所長） 各部門年報部会員：長澤由美子*1、安川政和*2、今城裕香*1、林昌宏*2（以上、研究支援推進部）、小林公治（企画情報部）、高桑いづみ（無形文化遺産部）、森井順之（保存修復科学センター）、山内和也（文化遺産国際協力センター）

広報委員（東文研ニュース部会）：山梨絵美子（企画情報部長） 各部門東文研ニュース部会員：今城裕香*1、林昌宏*2（以上、研究支援推進部）、皿井舞（企画情報部）、菊池理予（無形文化遺産部）、早川典子（保存修復科学センター）、江村知子（文化遺産国際協力センター）

*1平成27年12月まで *2平成28年1月から

④研究集会・講座等に関する事業一覧

プロジェクト名	担当部門	頁
平成27年度オープンレクチャー（調査・研究成果の公開）（企10）	企画情報部	61
第10回無形文化遺産部公開学術講座（*無01）	無形文化遺産部	62
無形民俗文化財研究協議会（*無02）	無形文化遺産部	62
文化財の保存環境に関する研究会（*保修03）	保存修復科学センター	63
文化財における伝統技術及び材料に関する研究会（*保修06）	保存修復科学センター	63
近代の文化遺産の保存修復に関する研究会（*保修07）	保存修復科学センター	64
IPMフォーラム「臭化メチル全廃から10年：文化財のIPMの現在」（*保修02）	保存修復科学センター	64
総合研究会（企）	企画情報部	65
企画情報部研究会（企）	企画情報部	65

- *注
- ・第10回無形文化遺産部公開学術講座は、無形文化財の保存・活用に関する調査研究（①無01）の一環として実施した。
 - ・無形民俗文化財研究協議会は、無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究（①無02）の一環として実施した。
 - ・文化財の保存環境に関する研究会は、文化財の保存環境の研究（①保修03）の一環として実施した。
 - ・文化財における伝統技術及び材料に関する研究会は、伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究（①保修06）の一環として実施した。
 - ・近代の文化遺産の保存修復に関する研究会は、近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究（①保修07）の一環として実施した。

平成27年度オープンレクチャー（調査・研究成果の公開）（④企10-15-5/5）

目 的

企画情報部の美術史研究の成果を一般に公表することを目的として開催。今回で49回目を迎えた。

成 果

- 第49回企画情報部オープンレクチャー「モノ/イメージとの対話」と題して4講演を2日間にわたり開催した。
 - 第1日目：2015（平成27）年10月30日（金） 13:30～16:30 東京文化財研究所 セミナー室
 「仁和寺阿弥陀三尊像と宇多天皇の信仰」 皿井舞（企画情報部主任研究員）
 「十世紀の画師たち」 増記隆介（神戸大学大学院准教授）
 - 第2日目：10月31日（土） 13:30～16:30 東京文化財研究所 セミナー室
 「与謝蕪村の絵画に見る和漢」 安永拓世（企画情報部研究員）
 「池大雅の山水図を考える」 吉田恵理（静岡市美術館学芸課係長）
- 2日間でのべ247人が聴講した。聴講者にアンケートを実施したところ、177人から回答を得た。満足度に関する回答結果は、「たいへん満足した」73人、「おおむね満足した」76人、「普通だった」11人、「不満が残った」4人、無回答13人。アンケート回答者の83.5%から満足感を得た。



オープンレクチャー会場



オープンレクチャー・チラシ

第10回無形文化遺産部公開学術講座 (①無01-15-5/5の一部として実施)

2015(平成27)年12月18日、東京国立博物館平成館大講堂において、「邦楽の旋律とアクセント—中世から近世へ—」と題して公開学術講座を行った。入場者数309名。

プログラム

講演1 高桑いづみ(無形文化財研究室長)「明治以前の謡とアクセント」

実演1 と話 謡の復元「松風」ほか

実演 味方玄(観世流能楽師)

講演2 坂本清恵(日本女子大学文学部教授)「近世邦楽とアクセント」

実演2 と話 長唄「鶴亀」ほか

実演 稀音家義丸(長唄演奏家)・日吉栄寿(長唄三味線演奏家)・杵屋三澄那(長唄三味線演奏家)

無形民俗文化財研究協議会 (②無02-15-5/5の一部として実施)

無形文化遺産部では、無形民俗文化財の保存・継承に寄与することを目的として、毎年無形民俗文化財研究協議会を開催している。第10回にあたる本年度は「ひらかれる無形文化遺産—魅力の発信と外からの力」をテーマとし、無形民俗文化財がどのように文化の魅力を発信し外部の力を呼び込むべきか、あるいは外部の者が地域伝承にどのように関わるべきかについて報告・討議を行った。その成果は報告書として刊行した。

日 時：2015(平成27)年12月4日(金) 10:30~17:30

会 場：東京文化財研究所 セミナー室

参加者：154名

テーマ：「ひらかれる無形文化遺産—魅力の発信と外からの力」

内 容：

【発表】

松井今日子(芸北民俗芸能保存伝承館)「壬生の花田植がユネスコ無形文化遺産になるまで—地域住民による保護と継承活動に着目して」

五十嵐千江(関川しな織協同組合)「関川のしな織—伝統技術による地域活性化と文化継承活動について」

柳沢拓哉(八戸ポータルミュージアム)「八戸ポータルミュージアムはっちの取り組み」

狩俣恵一(沖縄国際大学)「沖縄からの発信—竹富島の種子取祭芸能の継承—」

【総合討議】

上記報告者と下記コメンテーター、コーディネーターによる総合討議を行った。

コメンテーター：菊池健策(東京文化財研究所客員研究員)、小岩秀太郎(全日本郷土芸能協会)

コーディネーター：久保田裕道・今石みぎわ(無形文化遺産部)

総 合 司 会：飯島満(無形文化遺産部)

文化財の保存環境に関する研究会 (①必修03-15-5/5の一部として実施)

「文化財の保存環境の研究」プロジェクトでは、汚染ガスが高濃度となり、文化財への影響が大きい展示ケース内の空気清浄化に関する研究を進めてきた。本研究会では、これまでに行ってきた適切な内装材料選択のための放散ガス試験法の試案作成、内装材料の放散ガスデータの収集、解析などの結果を踏まえた、実験用に制作した実大展示ケースを用いた展示ケース内濃度の測定、気流の可視化、そして清浄化機能に関する試験について、さらに保存環境現場での汚染ガスの対策事例について報告した。

「文化財の保存環境」に関する研究会—実験用実大展示ケースを用いた濃度予測と清浄化技術の評価—

日 時：2016（平成28）年2月15日（月） 13:30～17:30

会 場：東京文化財研究所 セミナー室

参加者：135名

講演者：佐野千絵（東京文化財研究所）「趣旨説明」

古田嶋智子（東京文化財研究所）「実験用実大展示ケースにおける放散ガス」

須賀政晴（岡村製作所）「実験用実大展示ケースの気流性状について」

呂俊民（東京文化財研究所）「実験用実大展示ケースを用いた清浄化と濃度予測について」

佐野千絵「空気清浄化事例と清浄化手法の提案」

文化財における伝統技術及び材料に関する研究会 (①必修06-15-5/5の一部として実施)

平成27年度は、これまで伝統技術研究室が中心となって取り組んできた文化財建造物の塗装彩色に関する調査と修理に関する総括と、今後の課題である日本産漆塗料の文化財建造物修理への使用に関する研究会を開催した。この研究会は、平成21年度に開催した第3回研究会の「建築文化財における漆塗料の調査と修理—その現状と課題—」、平成23年度に開催した第5回研究会の「建築文化財における伝統的な塗料の調査と修理」、平成24年度に開催した第6回研究会の「建築文化財における塗装彩色部材の劣化と修理」、平成26年度に開催した第7回研究会の「文化財建造物における木彫彩色の調査・修理・資料活用」、第8回研究会の「日光東照宮陽明門西壁面唐油蒔絵の調査と修理」の続編ともいえる内容である。研究会では、日本産漆を文化財建造物に使用するために取り組んでおられる行政、生産者、修理者のそれぞれの立場の講師から、最新の情報を提供いただいた。

第9回文化財における伝統技術及び材料に関する研究会「文化財建造物の塗装修理に対する日本産漆使用の現状と課題」

日 時：2016（平成28）年1月26日（木） 13:00～17:30

会 場：東京文化財研究所 セミナー室

講演者：北野信彦（東京文化財研究所）「文化財建造物の塗装彩色修理と漆塗装」

清永洋平（文化庁）「文化財建造物への日本産漆100%使用に向けて—行政の取り組みから—」

中村裕（日本うるし掻き技術保存会）「岩手県二戸市浄法寺における漆生産の現状と課題—日本産漆生産地の取り組みから—」

佐藤則武（日光社寺文化財保存会）「日光東照宮修復の歴史と日本産漆の使用—塗装修理現場の取り組みから—」

近代の文化遺産の保存修復に関する研究会 (①必修07-15-5/5の一部として実施)

平成26年度は、「富岡製糸場と絹産業遺産群」そして平成27年度には「明治日本の産業革命遺産」とユネスコ世界遺産への登録が続き、近代文化遺産が注目されており今後も近代文化遺産が世界遺産登録されることが期待されている。

これまで近代文化遺産の修復に関して、採用されてきた手法は、江戸時代以前までの建造物などに適用されてきた手法が準用される形であった。しかし今後、さらに修復の件数も増えることが予想される、近代文化遺産の特徴の一つでもある多種多様な材料が使われた文化遺産の修復作業に関して、いつまでも江戸時代以前までの修復手法の準用では対応しきれなくなるのは自明であり、早急な対応が望まれる。その際に重要となるのは近代文化遺産の修復理念であり、その土台となる保存理念である。

今回はこれまで、行われてきた保存・修復工事や計画されている修復工事などに関して、どのような保存理念や修復理念が適用されたのか検証しながら、今後必要となる保存理念や修復理念についてどのように考えていけばよいのか様々な分野の方々を招き研究会を実施した。

第29回近代の文化遺産の保存修復に関する研究会「近代文化遺産の保存理念と修復理念についての研究会」

日時：2016（平成28）年1月15日（金）10:00～17:15

会場：東京文化財研究所 セミナー室

講演：中山俊介（東京文化財研究所）「近代文化遺産の保存理念と修復理念」

ロルフ・フーマン（ドイツ・産業考古学事務所長）「Large Scale Industries Preservation and Conservation」

伊東孝（産業考古学会会長）「近代文化遺産の保存理念と修復理念について考える—産業遺産の活用を通して—」

木村勉（長岡造形大学教授）「近代文化遺産の保存理念と修復理念 近代洋風建築・近代化遺産の現状・課題」

鈴木淳（東京大学大学院教授）「近代文化遺産の保存理念と修復理念 産業技術史の観点から」

IPMフォーラム「臭化メチル全廃から10年：文化財のIPMの現在」

(①必修02-15-5/5の一部として実施)

IPMフォーラム「臭化メチル全廃から10年：文化財のIPMの現在」を2015（平成27）年7月16日に開催した。モントリオール議定書締約国会議による2005年からの臭化メチル使用全廃、その10年という節目に、これまでの活動をふりかえりつつ、現状での文化財分野のIPMの活動状況、進展や問題点も含めて情報を共有し、現在の課題と、今後必要な方向性を考えるための場とすることを目的とした。講演者からは、日本や世界の国々での燻蒸やその後のIPMへの取り組みの紹介や、各館の様々な取り組みについていろいろな角度からの報告があり、有意義なフォーラムとなった。

日時：2015（平成27）年7月16日（火）10:00～17:15

会場：東京文化財研究所 セミナー室他

参加者：200名

講演者：亀井伸雄（東京文化財研究所）「開会挨拶」

- 齊藤孝正（文化庁）「モントリオール議定書締約国会議・臭化メチル使用全廃から10年によせて」
木川りか（東京文化財研究所）「世界の状況と現在の処置法の選択肢について」
三浦定俊（文化財虫菌害研究所）「文化財IPMコーディネータについて」
本田光子（九州国立博物館）「建築段階からのIPM、九州国立博物館の歩み」
長屋菜津子（愛知県美術館）「IPM業務仕様書の一事例について」
園田直子（国立民族学博物館）「博物館環境データ（生物生息調査、温湿度モニタリング）分析システム・スモールパッケージの開発」
日高真吾（国立民族学博物館）「IPM実現のための予算獲得について—国立民族学博物館の事例から」
斉藤明子（千葉県立中央博物館）「タバコシバンムシとの戦い—千葉県立中央博物館の例—」
青木睦（国文学研究資料館）「アーカイブズの保存計画におけるIPM」
朝川美幸（仁和寺）「寺社収蔵庫におけるIPM」
間淵創（三重県総合博物館）「博物館施設におけるカビ等のモニタリングとデータの活用」
佐藤嘉則（東京文化財研究所）「古墳公開保存施設におけるIPMの取り組み」

総合研究会（④企）

総合研究会は、各研究部・センターの研究者がプロジェクトの成果や経過を発表し、その内容に関して所内の研究者間で自由に討論する場である。平成27年度は下記のスケジュールで実施した。

- ・第1回 2015（平成27）年10月6日（火）
発表者：吉田直人（保存修復科学センター）「展示照明としての白色LED」
- ・第2回 2015（平成27）年11月10日（火）
発表者：岡田健・吉原大志（保存修復科学センター）「文化財防災ネットワーク推進事業と文化財防災・危機管理に関する調査研究」
- ・第3回 2015（平成27）年12月1日（火）
発表者：津田徹英（企画情報部）「14世紀絵巻詞書総覧構想と有効利用について—京都・金蓮寺本「遊行上人縁起絵巻」での適用事例を中心に、その即効性と限界を考える—」
- ・第4回 2016（平成28）年1月12日（火）
発表者：高桑いづみ（無形文化遺産部）「楽器行脚20年—無形文化財としての楽器研究、その問題点—」
- ・第5回 2016（平成28）年2月2日（火）
発表者：川野邊渉（文化遺産国際協力センター）「有機化学者から見た文化財保護—実体験を中心に—」
- ・第6回 2016（平成28）年3月1日（火）
発表者：田中淳（副所長）「近代日本美術の基層をめぐって—岸田劉生を中心に—」

企画情報部研究会（④企）

企画情報部ではほぼ月に1回のペースで美術史研究者を中心とする研究会を開催して、それぞれの研究やプロジェクトの成果を発表し、さらに討議によって充実を図っている。平成27年度の開催内容は下記の通り。

④研究集会・講座等 Area19

- 4月21日(火) 二神葉子(企画情報部)「世界遺産委員会における諸課題とその解決、及び世界遺産条約の文化財保護への活用に向けての試論」
- 6月4日(木) 安永拓世(企画情報部)「伝祇園南海筆「山水図巻」(東京国立博物館蔵)について」
富澤ケイ愛理子(セインズベリー日本藝術研究所)「在外コレクションにみる近代日本画家とその作画活動—メトロポリタン美術館所蔵「ブリンクリー・アルバム(近代日本画帖)」の成立と受容を中心に」
- 6月30日(火) Matthew McKelway(コロンビア大学)「南紀下向前の長沢芦雪: 禅林との関わりをめぐって」
- 8月31日(月) 高山百合(福岡県立美術館)「黒田清輝宛岡田三郎助書簡 翻刻と解題」
松本誠一(佐賀県立博物館・佐賀県立美術館)「岡田八千代の小説から見た岡田三郎助像」
- 9月29日(火) 志村明(絹織製作研究所)、コメンテーター: 秋本賀子(絹織製作研究所)「絹生産における在来技術について」
- 11月24日(火) 加藤弘子(日本学術振興会特別研究員)「徳川吉宗が先導した視覚と図像の更新について—岡本善悦豊久の役割を中心に—」
- 12月22日(火) 石井恭子(保存修復科学センター)「「紅白芙蓉図」改装の可能性と受容について」
- 1月13日(水) 研究会「美術史家矢代幸雄における西洋と東洋」
山梨絵美子(企画情報部)「ベレンソンと矢代幸雄をつなぐ両洋の美術への視点」
ジョナサン・ネルソン(ハーバード大学ルネサンス研究センター)「東洋人の眼から見たサンドロ・ボッティチェリ—矢代の1925年のモノグラフ」
越川倫明(東京藝術大学)「矢代幸雄著『受胎告知』を再読する」
高岸輝(東京大学)「矢代幸雄の絵巻研究」
塚本鷹充(東京大学東洋文化研究所)「矢代幸雄と1930-45年代の中国美術研究」
- 2月23日(火) 江村知子(文化遺産国際協力センター)「光琳の「道崇」印作品について—尾形光琳の江戸滞在と画風転換」
- 3月29日(火) 山下善也(東京国立博物館)「狩野山雪筆「武家相撲絵巻」一巻について」

⑤研究指導・研修等に関する事業一覧

プロジェクト名	担当部門	頁
国際研修「紙の保存と修復」(セ05)	文化遺産国際協力センター	69
文化財の評価・活用に関する助言(企)	企画情報部	70
無形文化遺産に関する助言(無)	無形文化遺産部	70
文化財の材質に関する調査と援助・助言(保修)	保存修復科学センター	70
文化財の修復及び整備に関する調査・助言(保修)	保存修復科学センター	71
美術館・博物館等の環境調査と援助・助言(保修)	保存修復科学センター	72
文化財の虫菌害についての調査・助言(保修)	保存修復科学センター	73
保存担当学芸員研修(保修10)	保存修復科学センター	73
東京藝術大学との間での連携大学院教育の推進(共)	保存修復科学センター	75
文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力(保修)	保存修復科学センター	76

国際研修「紙の保存と修復」(⑤セ05-15-5/5)

目 的

近年日本の材料や道具が諸外国の文化財修復に応用されるようになってきた。このような状況において、海外の保存修復関係者に日本の技術や知識を伝える場が求められている。本事業では、文化財保存修復研究国際センター（ICCROM）、メキシコ国立人類学歴史機構（INAH）と研修を共催することで海外の修復関係者への技術移転を行う。

成 果

和紙を使用した紙文化財の保存修復に関する以下の研修を行った。

1. 国際研修「紙の保存と修復」(International Course on Conservation of Japanese Paper)
 - ・場 所：東京文化財研究所
 - ・期 間：2015（平成27）年8月31日～9月18日
 - ・参加者：10名（オーストラリア、ベルギー、ルーマニア、ブラジル、スリランカ、オーストリア、アイルランド、ロシア、オランダ、アメリカ合衆国）
 - ・内 容：〈講義〉「紙の基礎」、「日本画修復に使われる接着剤について」、「浮世絵版画の歴史と作品の保存状態について」等。〈実習〉巻子修復、和綴じ本製作、掛軸・屏風の取扱い等。〈視察など〉所内見学、岡墨光堂（選定保存技術保持団体認定団体国宝修理装こう師連盟加盟工房）等。
2. International Course on Conservation of Paper in Latin America
 - ・場 所：INAH・国立文化遺産保存修復機関（メキシコDF・メキシコ）
 - ・期 間：2015（平成27）年11月4日～20日
 - ・参加者：9名（ベリーズ、チリ、コロンビア、キューバ、メキシコ、ポルトガル、ウルグアイ、ベネズエラ）
 - ・内 容：(当研究所担当分)：〈講義〉「日本における文化財保存修復」、「和紙」、「日本で使用する接着剤」等。〈実習〉「装こうに使用する道具」、「糊炊き」、「裏打ち」、「補てん」、「仮張り」等。
3. 招聘
 - ・目 的：International Course on Conservation of Paper in Latin America に係る技術移転
 - ・期 間：2015（平成27）年3月7日～6月29日
 - ・招聘人数：1名

研究組織

○加藤雅人、山田祐子、楠京子、小田桃子、木原山奈々、後藤里架、山之上理加、嶋原由美（以上、文化遺産国際協力センター）、早川典子（保存修復科学センター）、鈴木絢香、小田切真梨（以上、研究支援推進部）



国際研修「紙の保存と修復」



International Course on Conservation of Paper in Latin America

文化財の評価・活用に関する助言 (⑤企)

平成27年度は以下の組織等において指導助言を行った(10件)。

- ・岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課
- ・静岡県立美術館研究活動評価委員会
- ・静岡県立美術館美術館専門委員会
- ・静岡県文化・観光部文化局富士山世界遺産課
- ・関市教育委員会
- ・東京国立近代美術館 海外日本美術資料専門家(司書)の招聘・研修・交流事業 実行委員会
- ・豊島区美術品等収集・活用委員会
- ・八尾市教育委員会
- ・横須賀市美術館収集委員会
- ・和歌山県教育委員会

無形文化遺産に関する助言 (⑤無)

無形文化遺産の保存・伝承・活用等に関する各種委員会等へ出席し、以下の指導・助言を実施した。

- ・文化庁への助言(国際芸術交流支援事業協力者会議審査委員会 2/9 文化庁)
- ・日本芸術文化振興会への助言(民俗芸能公演専門委員会 4/11・6/9・6/20・1/23 国立劇場)
- ・東京都武蔵野市への助言(武蔵野市文化財保護委員会 2/16 武蔵野公会堂)
- ・静岡県川根本町への助言(「徳山の盆踊」調査報告書作成委員会 4/20-21・7/13-14・8/13-15・11/7 川根本町役場総合支所・川根本町徳山地区 9/13 新潟県柏崎市)
- ・岐阜県岐阜市への助言(岐阜市鶺鴒観覧船事業のあり方検討委員会 5/29・8/25・11/9 岐阜市役所)
- ・岐阜県岐阜市への助言(鶺鴒習俗総合調査専門委員会 2/4 岐阜市役所)
- ・一般財団法人日本青年館への助言(第64回全国民俗芸能大会企画委員会 4/6・9/8・11/20・21・1/29 日本青年館等)
- ・公益社団法人全日本郷土芸能協会への助言(理事会 3/12 全日本郷土芸能協会)
- ・公益財団法人ポーラ伝統文化振興財団への助言(6/3・1/9 ポーラ伝統文化振興財団)
- ・早稲田大学演劇博物館への助言(11/5 旧田辺孝治邸)
- ・東京都歴史文化財団への助言(第47回東京都民俗芸能大会 3/19・20 東京芸術劇場)
- ・鷺宮咲前神社への助言(4/1 鷺宮咲前神社)
- ・国際交流基金への助言(平成27年度日本祭り開催支援事業中国北京公演「岩手県民俗芸能公演とレクチャー」 10/17-18 北京市中華世紀壇当代美術館劇場)

文化財の材質に関する調査と援助・助言 (⑤保修)

(1) 文化財の材質調査

様々な文化財資料について、その材料や彩色を科学的に調査し、化学組成や化学的構造を明らかにした。

可搬型の機器を用いて、文化財資料が置かれている場所での現地調査も実施した。調査終了後には報告書を作成し、分析依頼元へ提出した（早川泰弘）。

(資料名)	(所蔵者／依頼者、調査年月)
・漆工品	(東慶寺、2015(平成27)年4月)
・青銅鏡	(祐天寺、2015(平成27)年4月)
・彫刻像	(長瀧寺、2015(平成27)年4月)
・銅造仏	(文化庁、2015(平成27)年4月)
・金工品	(名古屋城、2015(平成27)年7月)
・金工品	(平等院、2015(平成27)年8月)
・洋風画	(長崎大司教区、2015(平成27)年10月)
・漆工品	(首里城、2015(平成27)年11月)
・文書類	(東京都公文書館、2015(平成27)年11月)
・天井画	(祐天寺、2015(平成27)年11月)
・日本画	(沖縄県、2015(平成27)年12月)
・日本画	(岡田美術館、2016(平成28)年1月)
・陶磁器・工芸品	(沖縄県、2016(平成28)年1月)
・彫刻像	(文化庁、2016(平成28)年2月)
・日本画	(文化庁、2016(平成28)年2月)

(2) X線透過撮影による構造調査

X線透過撮影を用いて文化財資料の構造を調査し、資料の制作技法や劣化の状態を明らかにした。調査終了後には報告書を作成し、分析依頼元へ提出した（犬塚将英）。

(資料名)	(所蔵者／依頼者、調査年月)
・鍔絵・塑像	(松崎町振興公社、2015(平成27)年5月)
・仏像	(大津市歴史博物館、2015(平成27)年11月)
・出土遺物	(明治大学博物館、2015(平成27)年12月)
・絵画	(愛知芸術文化センター、2015(平成27)年12月)
・刀剣	(刀剣博物館、2016(平成28)年1月)

文化財の修復及び整備に関する調査・助言 (⑤ 保修)

国及び地方自治体指定の文化財やその他の文化財の保存と修復に関する指導助言を行った（岡田健、佐野千絵、北野信彦、朽津信明、中山俊介、早川典子、森井順之、加藤雅人）。

1. 各地の国宝、史跡や重要文化財の保存と修復に関する指導助言

国宝高松塚古墳壁画、特別史跡キトラ古墳壁画、国宝白杵磨崖仏、国宝比叡山延暦寺根本中堂、国宝宝巖寺唐門、国宝日光東照宮陽明門、国宝銅造阿弥陀如来座像（鎌倉大仏）、国宝醍醐寺文書聖教、国宝平等院鳳凰堂、国宝島津家文書、国宝二条城障壁画、国宝円覚寺洪鐘、重要文化財菅尾磨崖仏、史跡屋形古墳群、史跡日岡古墳、史跡楠明重定古墳、史跡塚花塚古墳、史跡竹原古墳、重要文化財通潤橋、史跡小田良古墳、東大寺所蔵重要文化財紙本著色東大寺大仏縁起、史跡石人山古墳、史跡薬師堂石仏、史跡観音堂

⑤研究指導・研修等 Area21

石仏、史跡日野江城、史跡清戸迫横穴、重要文化財羅漢寺石仏、史跡下馬場古墳、史跡佐渡金銀山遺跡、史跡足尾銅山、史跡葦山反射炉、史跡萩反射炉、史跡高島炭坑跡、特別史跡原爆ドーム、国宝富岡製糸場西置繭所、史跡桜京古墳、史跡北代遺跡、重要文化財スタンホープ印刷機、重要文化財横利根閘門給排水機、重要文化財巖島神社大鳥居、重要文化財巖島神社反橋、重要文化財巖島神社荒胡子神社、重要文化財旧鶴岡警察署、重要文化財旧弘前偕行社、重要文化財泉穴師神社、重要文化財琉球芸術調査写真附調査記録、重要文化財近代教科書関係資料、神奈川県立博物館所蔵重要文化財十王図、油污損関連案件（東大寺、教王護国寺、当麻寺、立石寺、羽黒山五重塔、善寶寺、若松寺、慈恩寺等）

2. 地方自治体指定その他の文化財の保存と修復に関する指導助言

古賀市船原古墳、山元町合戦原遺跡、泉涌寺所蔵絹本着色蝦蟇鉄拐図、水俣市北園上野古墳群、醍醐寺文書聖教、泉穴師神社、絵金屏風、大山崎町宝積寺石造塔、小豆島町石造文化財、白杵市内キリシタン遺跡、町田市西谷戸横穴墓群、鎌倉市扇ヶ谷周辺遺跡出土資料、東京都指定文化財候補地の史跡整備、鹿嶋市龍蔵院仏画、日本航空協会所蔵「飛燕」修復、日本郵船所有「氷川丸」、横浜市「日本丸」、安楽寺多宝小塔、鎌倉市大倉幕府周辺遺跡出土漆器、京都市平安京跡出土資料、根津美術館蔵石造浮屠、慶應義塾大学蔵計算機。

等、77件

美術館・博物館等の環境調査と援助・助言（⑤保修）

国指定品の収蔵、展示を予定する43館を対象とした環境調査を行い、計47通の報告書を作成した（吉田直人、佐野千絵、石井恭子）。

兵庫陶芸美術館、新潟県立万代島美術館、弘前市立博物館、島根県立美術館、佐野市郷土博物館、豊田市美術館、鈴鹿市考古博物館、香雪美術館、宇和島市立伊達博物館、桑名市博物館、京都市元離宮二条城、渋谷区立松濤美術館、八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館、頼山陽史跡資料館、静岡市立登呂博物館、千葉県立美術館、安芸高田市歴史民俗博物館、致道博物館、荒川豊蔵資料館、久能山東照宮博物館、大分市歴史資料館、飯能市郷土館、秋田県立博物館、若松城天守閣郷土博物館、遊行寺宝物館、八幡市立松花堂庭園・美術館、台東区立書道博物館、千葉県立中央博物館大多喜城分館、兵庫県立美術館、稲沢市荻須記念美術館、島田市博物館、富山県水墨美術館、東京藝術大学大学美術館、石橋財団アトリサーチセンター、北海道博物館、彦根城博物館、さくら市ミュージアム、壬生町歴史民俗資料館、沖縄県立博物館・美術館、石川県立歴史博物館、米沢市上杉博物館、ふくやま美術館、岡崎市美術博物館

また、全国の博物館、美術館、社寺、その他文化財 収蔵施設の保存環境、及び新築・施設改修・増築などの相談に対して助言を行い、必要に応じた現地調査なども適宜行った。

保存環境に関する相談 施設数126 館（上記記載館を含む） 相談件数のべ660件

文化財の虫菌害についての調査・助言 (⑤保修)

文化財の虫菌害対策に関する要請に対して指導・助言を行った。主な相談先は、国や地方公共団体の博物館、美術館、図書館、教育委員会や社寺等の文化財保存担当あるいは文化財修復関係機関等であった。対応件数は、32の相談先から合計で36件であり、7件については虫菌害の現地調査等のより細かな解析を実施したものが含まれる。

虫菌害の内容は、文化財展示収蔵施設全体に関する事柄から、個別の作品に対する事柄まで多岐にわたり、環境は屋内のみならず屋外環境におかれた文化財についての事柄もあった。対象も多岐にわたり、鳥類、両生類、爬虫類、小型の哺乳類などの小動物、昆虫類、カビや細菌などの微生物から、地衣類、藻類、草本類といった光合成生物にも及び、広範囲の対象に対応した。また、津波被災文化財など災害に伴う水損資料の処置に関する事柄もあった。

博物館、美術館、図書館などでは、IPMに基づく管理体制への変更が進められている状況にあって、単に予算の削減のため定期的な殺虫殺菌燻蒸処置の中止となった館が、その後数年を経て虫菌害の被害が出てくるという事例が数件あった。これについては、近年の傾向として問題視していかなければならないのと同時に、正しい文化財IPMの教育普及が今後の喫緊の課題として浮き彫りとなった。



文化財展示収蔵施設（公立の公文書館）
でのカビ被害調査

保存担当学芸員研修 (⑤保修10-15-5/5)

1. 博物館・美術館等保存担当学芸員研修

日程：2015（平成27）年7月13日（月）～24日（金）

参加者数：32名

資料の「保存」は博物館や美術館といった文化財施設に課せられた大きな使命であるが、これは単に「保管」することではなく、資料の「文化財」としての価値が環境要因に起因する物理的、化学的変化によって損なわれることを防ぎ、後世に伝えることである。従って、「保存」は極めて自然科学的な行為であるが、それにも関わらず保存を担当する学芸員がそのための専門知識や技術を学ぶ機会は極めて乏しい。そのため、東京文化財研究所では、1984（昭和59）年以来毎年、資料保存を担当する学芸員などを対象とした「博物館・美術館等保存担当学芸員研修」を実施し、現場で自らの手で保存環境を把握し、必要な改善を行うことの出来る人材を育成してきた。これまでの修了生は800名近くとなり、各地で資料保存の重責を担っている。平成27年度は、32回目となる本研修を2週間実施した。

⑤研究指導・研修等 Area22

7月13日（月）

岡田健「文化財保存 概論」

佐野千絵「保存環境 各論－文化財の材質・構造－」

宇田川滋正（文化庁）「保存環境 各論－文化財公開施設の設計－」

7月14日（火）

佐藤嘉則「生物被害 概論」

佐藤嘉則「生物被害 各論－カビ－」

吉田直人「保存環境 各論－温湿度－」

早川泰弘「保存環境 各論－大気汚染の影響－」

7月15日（水）

佐野千絵「保存環境 各論－空気汚染－」

吉田直人「保存環境 実習－室内汚染の測定法－」

吉田直人「保存環境 各論－光と照明－」

佐藤嘉則「生物被害 各論－虫－」

小峰幸夫（元・文化財虫菌害研究所）・佐藤嘉則「生物被害 実習－文化財害虫同定－」

7月16日（木）

IPMフォーラム『臭化メチル全廃から10年：文化財のIPMの現在』受講

7月17日（金）

早川典子「劣化と保存 各論－修復材料－」

三浦定俊「保存環境 各論－防災・防犯－」

ケーススタディ テーマ打ち合わせ

7月21日（火）

「環境調査実習－ケーススタディ－」（於：埼玉県立さきたま史跡の博物館）

7月22日（水）

朽津信明「劣化と保存 各論－屋外資料－」

山本記子（国宝修理装演師連盟）「劣化と保存 各論－日本画－」

7月23日（木）

山口孝子（東京都写真美術館）「劣化と保存 各論－写真－」

中山俊介「劣化と保存 各論－近代文化財－」

坂本雅美（紙本保存修復家）「劣化と保存 各論－紙－」

ケーススタディ発表

7月24日（金）

木島隆康（東京藝術大学）「劣化と保存 各論－油彩画－」

北野信彦「劣化と保存 各論－考古・民俗資料－」

2. 保存担当学芸員フォローアップ研修－水俣条約による水銀規制と展示照明等への影響－

1984年に始められた「博物館・美術館等保存担当学芸員研修」受講者はそれぞれの施設で、また、地域の中核的存在として資料保存の重責を担っている。しかし、保存に関する知識や技術は日々新しくなる。本研修は、資料保存に必要な最新の知識を持てるように行うものである。

2020年以降の水銀および水銀を使用する製品の規制を定める、いわゆる「水俣条約」によって、資料保存や修復の分野でも様々な影響が生じることが考えられるため、本研修では、同条約の内容と予想される影響を概説した。特に蛍光灯の生産縮小に伴い、代替光源として導入が必須となるLEDの現状と展示上の問題について、さらに、水銀を用いる写真資料の作成、修理への影響などについて取り上げた。

日程：2015（平成27）年7月6日（月）13:30～17:30

参加者：107名

プログラム・講師

佐野千絵「水保条約の概要」

吉田直人「LED照明の歴史と現状」

久保恭子（公益財団法人 日本美術刀剣保存協会）「LED照明による日本刀剣展示への影響」

川瀬佑介（国立西洋美術館）「国立西洋美術館におけるLED照明による展示の実際」

山口孝子（東京都写真美術館）「写真資料への影響（LEDによる展示、ダゲレオタイプ写真製作等に関して）」

東京藝術大学との間での連携大学院教育の推進 (⑤共)

目 的

1995（平成7）年4月より東京藝術大学と連携してシステム保存学コースを開設し、21世紀の文化財保存を担う人材を育成している。システム保存学は、文化財の保存環境を研究する保存環境学講座と保存修復に用いる材料について研究する修復材料学講座の2講座から成る。6名の所員が連携教員として授業を開講している。

成 果

1. 開講した授業および担当教員

保存環境計画論（前期、火曜1限） 2単位 佐野千絵

修復計画論（前期、木曜1限） 2単位 北野信彦・中山俊介・早川典子・朽津信明

修復材料学特論（前期、木曜2限） 2単位 北野信彦・中山俊介・早川典子・朽津信明

保存環境学特論（後期、火曜1限） 2単位 佐野千絵・佐藤嘉則・朽津信明

文化財保存学演習（6月2日）「劣化した洋紙の保存と修復」 中山俊介

輪講（英語論文）（前期、水曜3限）

2. 論文指導 主査：早川典子、副査：佐野千絵、北野信彦

小川歩 「文化財修復に用いられる漆材料の劣化解析と硬化性・接着性の向上に関する試み」

3. 平成28年度東京藝術大学大学院美術研究科博士課程（前期）入学試験の実施 2015（平成27）年9月19・20日 合格者 1名

4. 「東京藝術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻の教育研究に対する連携・協力に関する協定書」の更新

論 文

・黄川田翔、吉田直人、佐野千絵「美術館・博物館の資料保護に向けた光曝露量の評価方法－染色布を事例に」『照明学会誌』100（2） pp.74-81 16.2

・小川歩、早川典子「テトラクロロ銅（Ⅱ）酸カリウム二水和物添加による漆効果の温湿度条件緩和の検討」『保存科学』55 pp.11-26 16.3

発 表

・小川歩、早川典子、「銅錯体触媒による高乾性漆材料の開発とその耐久性評価」マテリアルライフ学会大会 群馬大学 15.7.4

・小川歩、早川典子「麦漆の接着強度評価と銅触媒添加によるミャンマー産漆への応用」日本文化財科学学会大会 東京学芸大学 15.7.11-12

研究組織

○佐野千絵、朽津信明、木川りか^{*1}、中山俊介、北野信彦、早川典子、佐藤嘉則^{*2}、内田優花（以上、保存修復科学センター）

^{*1} 平成27年9月30日まで、^{*2} 平成27年10月1日より



材料学特論の実習風景



文化財保存学演習の講義

文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力 (⑤ 保修)

目 的

我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、国・地方公共団体の要請に応じて、保存措置等のために必要な実践的な調査・研究を迅速かつ適切に実施し、文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関して技術的な協力を行う。

成 果

高松塚古墳・キトラ古墳壁画共にクリーニング効果の期待できる酵素群の利用に関する研究を継続実施し、キトラ古墳壁画では漆喰の再構成のための修復材料の検討を行った。修理施設の生物・温湿度環境モニタリングを行ない、安全な保存環境の維持を図った。劣化原因調査で採取された両壁画由来の微生物株について整理と公的機関への寄託についての準備を行った。高松塚古墳壁画の色料について、奈良文化財研究所と共同で調査を行った。

1. 高松塚古墳壁画

- 1) 生物・環境調査：修理施設内での害虫等生息調査、浮遊菌・付着菌量、また温湿度推移のモニタリングを継続し、安定した保存環境の維持に努めた。また、適切な空調制御方法を検討するための、現状のプロセス解析を行うシステムを構築した。
- 2) 高松塚古墳の微生物分離株を保存していくため、菌株のデータ集、基本台帳やシークエンスデータファイルの作成を進め、公的機関への寄託を開始した。
- 3) 修復研究：壁画のクリーニング方法として、酵素の使用方法に関して、現場での作業性の向上を検討し、適用した。また、表面の再結晶部分についての継続的な確認も行っている。
- 4) 材料技法調査：色料の分析調査を継続的に実施している。奈良文化財研究所との共同によって可視反射スペクトル測定等を行った。

2. キトラ古墳壁画

- 1) 生物・環境調査：キトラ古墳に由来する微生物株についても、高松塚古墳由来の微生物株と並行して、基本台帳とDNAシーケンスデータファイルの作成を進め、公的機関への寄託を開始した。
 - 2) 修復研究：漆喰の再構成を行うために、修復材料の検討を行った。平成28年度の展示公開に向けて、最終的な色や再構成手法の確認を行った。また、表面のクリーニングのために酵素の使用を検討し、汚れの状態によって異なるクリーニング手法を適用することを確認し、現場適用をした。
 - 3) 材料技法調査：これまでに取得した可視反射スペクトルデータ等の整理、解析を行った。
3. その他
- 1) 2015（平成27）年10月31日～11月8日に実施された文化庁による国宝高松塚古墳壁画仮設修理施設（国営飛鳥歴史公園内）の一般公開に際して研究員（4人）を派遣し協力した。
 - 2) 福岡県うきは市所在の装飾古墳群での環境観測を継続した。
 - 3) 古墳壁画保存関連の事業全般について情報共有を行い、効率的で正確な作業を行うために、2015（平成27）年5月14日、9月17日、11月30日、2016（平成28）年2月23日の4回にわたり、奈良文化財研究所と古墳壁画保存対策プロジェクトチーム会議を開催した。

研究報告

- ・木川りか、喜友名朝彦、立里臨、佐藤嘉則、佐野千絵、杉山純多、宇田川滋正、建石徹：キトラ古墳の微生物調査結果：発掘直後から埋戻しに至る期間（16年～25年）の微生物相と考察、日本文化財科学会第32回大会（15.7.12 東京学芸大学）

研究組織

- 岡田健、佐野千絵、木川りか*、早川泰弘、朽津信明、北野信彦、吉田直人、犬塚将英、佐藤嘉則、早川典子、森井順之、(以上、保存修復科学センター)、川野邊渉、加藤雅人、山田祐子、楠京子、(以上、文化遺産国際協力センター)、酒井清文、大河原典子、前川佳文（以上、客員研究員）、宇高健太郎（日本学術振興会特別研究員）
- *平成27年10月1日より九州国立博物館

⑥刊行物に関する事業一覧

プロジェクト及び刊行物の名称	担当部門	頁
広報企画事業 『東京文化財研究所年報』、『東京文化財研究所概要』、『東文研ニュース』（*企08）	企画情報部	81
平成26年版『日本美術年鑑』 刊行事業・出版事業『美術研究』（調査・研究成果の公開）（企09）	企画情報部	81
無形文化遺産部出版関係事業（無04）	無形文化遺産部	81
『無形民俗文化財研究協議会報告書』	無形文化遺産部	82
『保存科学』55号の出版（保修09）	保存修復科学センター	82
プロジェクトの一環として刊行された刊行物	担当部門	頁
『四季花鳥図屏風 光学調査報告書』（*保修01）	保存修復科学センター	82
『平等院鳳凰堂内 光学調査報告書』（*保修01）	保存修復科学センター	82
『IPMフォーラム 臭化メチル全廃から10年：文化財のIPMの現在』（*保修02）	保存修復科学センター	83
『文化財のカビ被害予防と対策のシステム化についての研究成果報告書』（*保修02）	保存修復科学センター	83
『文化財における伝統技術及び材料に関する研究報告書2015年度』（*保修06）	保存修復科学センター	83
『未来につなぐ人類の技15—洋紙の保存と修復』（*保修07）	保存修復科学センター	84
Conservation and restoration of modern textiles（*保修07）	保存修復科学センター	84
『世界遺産用語集』（*セ01）	文化遺産国際協力センター	84
『各国の文化財保護法令シリーズ [20] メキシコ』（*セ01）	文化遺産国際協力センター	84
『選定保存技術に関する調査報告書 1 和鋼』（*セ01）	文化遺産国際協力センター	84
カレンダー2016「文化財を守る日本の伝統技術」（*セ01）	文化遺産国際協力センター	85
『東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力 平成27年度成果報告書』（*セ02）	文化遺産国際協力センター	85
『東南アジアの遺跡保存をめぐる技術的課題と展望』（*セ02）	文化遺産国際協力センター	85
Riset Integrasi Berlandaskan Rekonstruksi Warisan Budaya Kawasan Padang Lama di Padang, Sumatera Barat（*セ02）	文化遺産国際協力センター	85
Laporan 'Workshop mengenai Rehabilitasi Kawasan Padang Lama di Provinsi Sumatera Barat'（*セ02）	文化遺産国際協力センター	85
Preliminary Report on the Safeguarding of the Bamiyan Site 2013: 11th Mission（*セ03）	文化遺産国際協力センター	86
『キルギス共和国チュウ川流域の文化遺産の保護と研究 アク・ベシム遺跡、ケン・ブルン遺跡—2011～2014年度—』（*セ03）	文化遺産国際協力センター	86

『紛争と文化遺産—紛争下・紛争後の文化遺産保護と復興—』（*セ03）	文化遺産国際協力センター	86
『フルブック遺跡出土壁画断片の保存修復』（*セ06）	文化遺産国際協力センター	86
『在外日本古美術品保存修復協力事業報告書』（*セ04）	文化遺産国際協力センター	87
『国際研修「日本の材料と技術による保存修復」』（*セ04、セ05）	文化遺産国際協力センター	87

- *注
- ・『東京文化財研究所年報』『東京文化財研究所概要』『東文研ニュース』は、広報企画事業（ニュースレター・概要・年報）（③企08）の一環として実施した。
 - ・『四季花鳥図屏風 光学調査報告書』は、文化財の材質及び劣化調査法に関する研究（①保修01）の一環として実施した。
 - ・『平等院鳳凰堂内 光学調査報告書』は、文化財の材質及び劣化調査法に関する研究（①保修01）の一環として実施した。
 - ・『文化財における伝統技術及び材料に関する研究報告書 2015年度』は、文化財における伝統技術及び材料に関する調査研究（①保修06）の一環として実施した。
 - ・Conservation and restoration of modern textiles は、近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究（①保修07）の一環として実施した。
 - ・『世界遺産用語集』、『各国の文化財保護法令シリーズ [20] メキシコ』、『選定保存技術に関する調査報告書 1 和銅』、『カレンダー2016』は、文化財保護に関する国際情報の収集・研究・発信（②セ01）の一環として実施した。
 - ・『東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力 平成27年度成果報告書』、『東南アジアの遺跡保存をめぐる技術的課題と展望』、『Riset Integrasi Berlandaskan Rekonstruksi Warisan Budaya Kawasan Padang Lama di Padang, Sumatera Barat, Laporan'Workshop mengenai Rehabilitasi Kawasan Padang Lama di Provinsi Sumatera Barat』は、東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力（②セ02）の一環として実施した。
 - ・Preliminary Report on the Safeguarding of the Bamiyan Site 2013: 11th Mission、『キルギス共和国 チュー川流域の文化遺産の保護と研究 アク・ベシム遺跡、ケン・ブルン遺跡—2011～2014年度—』は、西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業（②セ03）の一環として実施した。
 - ・『在外日本古美術品保存修復協力事業 The Cooperative Program for the Conservation of Japanese Art Objects Overseas』は、在外日本古美術品保存修復協力事業（②セ04）の一環として実施した。
 - ・『国際研修「日本の材料と技術による保存修復」』は、在外日本古美術品保存修復協力事業（②セ04）および国際研修「紙の保存と修復」（⑤セ05）の一環として実施した。

広報企画事業（ニュースレター・概要・年報）（*③企08）

『東京文化財研究所年報』『東京文化財研究所概要』『東文研ニュース』の刊行は、広報企画事業（ニュースレター・概要・年報）（③企08）の一環として実施した（概要・ニュースは研究支援推進部企画渉外係が編集を担当）。詳細は、57頁を参照。

平成26年版『日本美術年鑑』 刊行事業・出版事業『美術研究』（調査・研究成果の公開）（⑥企09-15-5/5）

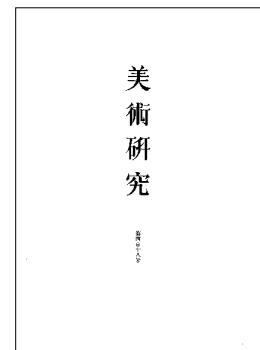
『日本美術年鑑』

日本美術年鑑は、我が国の各年の美術活動と美術研究・批評の状況を記録した刊行物である。企画情報部では当研究所の前身である帝国美術院附属美術研究所が1936（昭和11）年から始めた『日本美術年鑑』の編集を引き継ぎ、刊行を継続してきた。平成26年版は、B5版、474ページとなった。出版に際し、東京美術商協同組合、株式会社東京美術倶楽部より助成を受けた。



『美術研究』

1932（昭和7）年1月、当研究所の前身である帝国美術院附属美術研究所の初代所長・矢代幸雄の提唱により第1号を刊行。以来、80年以上にわたり、日本・東洋の古美術ならびに日本の近代・現代美術とこれらに関する西洋美術についての論文、研究ノート、書評、展覧会評、図版解説・研究資料等を掲載している。本年度は416号、417号、418号を刊行した。出版に際して、東京美術商共同組合、株式会社東京美術倶楽部より助成を受けた。



無形文化遺産部出版関係事業（⑥無04-14-4/5）

『無形文化遺産研究報告』

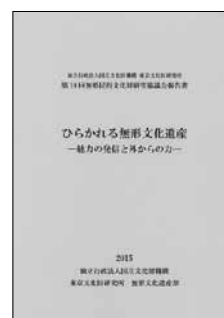
無形文化財や無形民俗文化財、文化財保存技術に関する研究論文、調査報告、資料紹介等を掲載している。



⑥刊行物 Area17

『無形民俗文化財研究協議会報告書』

無形文化遺産部では毎年テーマを定め、保存会関係者・行政担当者・研究者などが一堂に会して無形の民俗文化財の保護と継承について研究協議する会を開催している。第10回にあたる本年度は、「ひらかれる無形文化遺産－魅力の発信と外からの力」をテーマとして開催し、その報告・総合討議の内容などをまとめて報告書として刊行した。



『保存科学』 55号の出版 (⑥必修09-15-5/5)

『保存科学』 55号

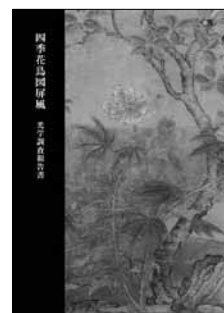
文化財の保存・修復に関する調査・研究成果の公開を目的に、研究論文集『保存科学』を刊行した。様々な文化財の科学的調査結果や基礎研究に関する論文、受託研究に関する研究報告・修復処置報告等を掲載している。また、より一層の研究成果の公開に努めるため、『保存科学』掲載論文PDFファイル化を行い、インターネット上での公開を行った。今年度は報文2件、報告11件、計13件の論文を掲載した。



プロジェクトの一環として刊行された刊行物

『四季花鳥図屏風 光学調査報告書』 (①必修01の一環として実施)

サントリー美術館が所蔵する四季花鳥図屏風(重要文化財)は室町時代に描かれた花鳥画の代表作として知られ、中国の花鳥画を粉本にしていると考えられているが、やまと絵風の画面構成がなされている興味深い作品である。東京文化財研究所では平成27年度に非破壊・非接触の光学調査を実施した。本書では、高精細カラー・近赤外線画像を多数掲載するとともに、蛍光X線分析、X線透過撮影、可視反射分光分析の調査結果を併せて収録した。2016年3月刊行、168ページ。



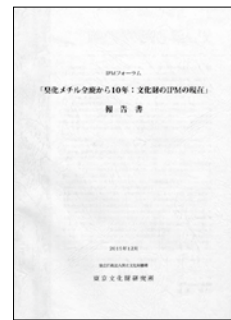
『平等院鳳凰堂内 光学調査報告書』 (①必修01の一環として実施)

本書は、平等院鳳凰堂須弥壇に関する光学調査報告書である。鳳凰堂須弥壇に関しては、これまで、詳細な画像記録が行われたことはほとんどなく、金属部材等に関しても一部の材料調査が行われていたにすぎない。東京文化財研究所では、平成27年度に複数回の光学調査を実施し、須弥壇の現状を正確に記録するとともに、数多くの金属部材の材料調査を行った。本書では、多数の高精細画像を掲載するとともに、蛍光X線分析による金属部材の調査結果をすべて収録した。2016年3月刊行、256ページ。



『IPMフォーラム 臭化メチル全廃から10年：文化財のIPMの現在』（①必修02の一環として実施）

本報告書は、2015年7月16日に開催したフォーラム「臭化メチル全廃から10年：文化財のIPMの現在」の各講師の講演内容を基に論文集として取りまとめたものである。モンテリオール議定書締約国会議による2005年からの臭化メチル使用全廃、その10年という節目に、これまでの活動をふりかえりつつ、現状での文化財分野のIPMの活動状況、進展や問題点も含めて情報を共有し、現在の課題と、今後必要な方向性を考えた概論や事例研究の論文を掲載している。報告書の幅広い活用をめざし、掲載論文のPDFファイルをインターネット上で公開した。2015年12月刊行、84ページ。



『文化財における伝統技術及び材料に関する研究報告書 2015年度』（①必修06の一環として実施）

劣化が著しい文化財建造物の塗装彩色材料や漆塗装を有する考古資料などの各種文化財における伝統技術及び材料の調査を行い、実際の修理施工に役立てることを目的としたプロジェクト「文化財における伝統技術及び材料に関する調査研究」の本年度の活動と五カ年計画の総括を行った報告書である。報告書では、①調査研究報告として、表装裂試料データベース目録一覧、②本年度開催した研究会の報告として各発表の要旨、③本プロジェクト研究五カ年の総括、を掲載した。2016年3月刊行、87ページ。



『未来につなぐ人類の技15—洋紙の保存と修復』（①必修07の一環として実施）

本書は、2014（平成26）年11月に東京文化財研究所で開催した研究会「洋紙の保存と修復」に関して、元国立国会図書館副館長、脱酸処理技術などによる資料保存を行う企業担当者、装こうの修復技師、メキシコとカナダの国立公文書館にて修復作業を担当している方々による講演と、質疑応答の抜粋をまとめたもの。2016年3月刊行、79ページ。



Conservation and Restoration of Modern Textiles (①必修07の一環として実施)

本書は、2016（平成26）年3月に発行した、「近代テキスタイルの保存と修復」の英訳版。博物館、美術館の保存修復部門の方々、研究機関の修復室の方、更には染織品修復師の方等による、近代テキスタイルの保存と修復に関する講演録。2016年3月刊行、77ページ。



『世界遺産用語集』（②セ01の一環として実施）

本書は世界遺産の推薦や保全状況報告の際に重要となる77件の用語について、英語とその和訳、定義をまとめたもの。2012～15年の世界遺産委員会などでの議論や関連事項についての解説も付している。2016年3月刊行、144ページ。



『各国の文化財保護法令シリーズ [20] メキシコ』（②セ01の一環として実施）

本冊子は、メキシコの文化遺産保護に関する法令「考古学・芸術・歴史的記念物及び地区に関する連邦法」を、原文のスペイン語から和訳したものである。巻末には原文も併せて掲載している。日本語・スペイン語、2016年3月刊行、79ページ。



『選定保存技術に関する調査報告書 1 和鋼』（②セ01の一環として実施）

日本の選定保存技術を海外に紹介するために調査を行った、玉鋼製造（たたら吹き）に関する調査報告書。たたら吹きは日本古来の製鉄技術で、日本刀製作に欠かせない不純物の非常に少ない玉鋼が製造される。日本語・英語、2016年3月刊行、160ページ。



カレンダー2016「文化財を守る日本の伝統技術」（壁掛版・卓上版）（②セ01の一環として実施）

日本の文化財に関する技術と材料を海外に紹介するため、12種類の選定保存技術について調査と写真撮影を行い、壁掛版と卓上版のカレンダー2種類を作成した。各技術についての解説を付した。日本語・英語、2015年11月刊行。



『東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力 平成27年度成果報告書』（②セ02の一環として実施）

平成27年度に東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力として、カンボジア及びミャンマーを中心に実施した諸事業の内容と事業成果、関連資料・報告等を収録。日本語、2016年3月刊行、124ページ。



『東南アジアの遺跡保存をめぐる技術的課題と展望』(②セ02の一環として実施)

2015(平成27)年11月13日に東京文化財研究所において開催した同題研究会の内容を収録した報告書。インドネシア、タイ、カンボジア、ベトナム、ミャンマーの5か国より招聘した考古・建築遺跡保存専門家からの書き下ろし論考と、会場からの質疑応答を含む総合討論の内容を採録。日本語・英語、2016年3月刊行、104ページ。



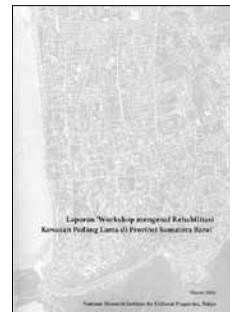
Riset Integrasi Berlandaskan Rekonstruksi Warisan Budaya Kawasan Padang Lama di Padang, Sumatera Barat (②セ02の一環として実施)

2015(平成27)年3月に刊行した『西スマトラ州パダン歴史地区における文化遺産復興に関する総合的研究』(平成24～26年度日本学術振興会科学研究費助成事業・基盤研究(B)海外学術調査、研究課題番号:24404022、研究代表者:亀井伸雄 東京文化財研究所所長)のインドネシア語版。データ収録CD付録。インドネシア語、2015年8月刊行、74ページ。



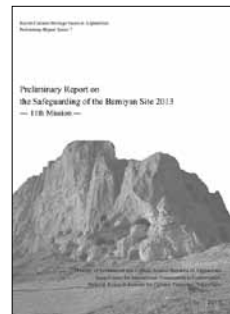
Laporan 'Workshop mengenai Rehabilitasi Kawasan Padang Lama di Provinsi Sumatera Barat' (②セ02の一環として実施)

2015(平成27)年8月26日にインドネシア西スマトラ州パダン市内において開催した「西スマトラ・パダン歴史地区の再生に関するワークショップ」(西スマトラ州観光・創造経済局主催)の内容を収録した報告書。同ワークショップでの発表資料と総合討論の概要に加え、パダン歴史地区の価値評価と復興の方向性等に関する日本人専門家からの諸提言を採録。インドネシア語、2016年3月刊行、150ページ。



Preliminary Report on the Safeguarding of the Bamiyan Site 2013: 11th Mission (②セ03の一環として実施)

本書は2013(平成25)年9月から10月にかけて派遣したバーミヤーン遺跡保存事業第11次ミッションの英文概報である(和文は2015年3月に刊行)。同ミッションで実施した壁画の状態調査、環境計測データの回収、考古遺跡の現状調査等について報告した。また、武庫川女子大学が作成したバーミヤーン新博物館の基本設計案も補遺として収録した。英語、2015年12月刊行、95ページ。



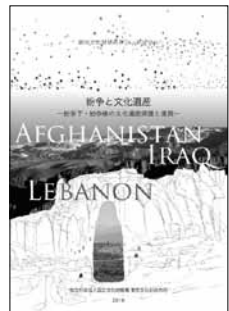
『キルギス共和国チュール川流域の文化遺産の保護と研究 アク・ベシム遺跡、ケン・ブルン遺跡—2011～2014年度—』（②セ03の一環として実施）

本書は平成23年度から26年度にかけて、キルギス、アク・ベシム遺跡及びケン・ブルン遺跡において文化遺産国際協力活動の一環として実施した調査研究事業の報告書である。アク・ベシム遺跡の発掘調査で出土したイスラーム時代の遺構や遺物、動植物遺存体、放射性炭素年代結果等についての報告及びケン・ブルン遺跡の測量と表面採集遺物の分析結果を掲載した。補遺には漢文史料に基づくアク・ベシム遺跡の歴史学的考察も収録した。日本語、2016年3月刊行、108ページ。



『紛争と文化遺産—紛争下・紛争後の文化遺産保護と復興—』（②セ03の一環として実施）

2016（平成28）年1月24日に東京文化財研究所において開催されたシンポジウム「紛争と文化遺産—紛争下・紛争後の文化遺産保護と復興—」に関する報告書である。4名の講演者による4本の講演と、パネルディスカッション「紛争下・紛争後の地域における今後の国際的な文化遺産保護協力の在り方」を録音音声から起こし、整理・日本語訳したものを収録している。日本語、2016年3月刊行、91ページ。



『フルブック遺跡出土壁画断片の保存修復』（②セ06の一環として実施）

本書は、2008（平成20）年より2014（平成26）年までタジキスタン国立古代博物館において実施した、フルブック遺跡出土壁画断片の保存修復事業の最終報告書である。フルブック遺跡は同国南部に位置する9～11世紀半ばに利用された都城址であり、1983年には、本来壁画幅1m×高さ2mに描かれた壁画の一部であった10～11世紀の製作と思しき壁画断片が発見された。この壁画断片を対象として実施された調査及び保存修復処置、そして博物館での展示に至るまでの一連の保存修復事業の成果を報告した。日本語、2016年2月刊行、159ページ。



在外日本古美術品保存修復協力事業 The Cooperative Program for the Conservation of Japanese Art



Objects Overseas (②セ04の一環として実施)

在外日本古美術品保存修復協力事業では海外で所蔵されている紙本絹本文化財および漆工芸品のうち、修復が必要な作品の修復協力を行っている。また、日本の文化財に対する理解の深化、修復技術の移転の目的でワークショップを開催している。本事業の報告として、以下の報告書を刊行した。日本語・英語、2016年3月刊行。

- 「在外日本古美術品保存修復協力事業」(20ページ)
- 「在外日本古美術品保存修復協力事業 二十五菩薩来迎図」(84ページ)
- 「在外日本古美術品保存修復協力事業 源氏物語図屏風」(56ページ)
- 「在外日本古美術品保存修復協力事業 秋野蒔絵硯箱」(32ページ)
- 「在外日本古美術品保存修復協力事業 ワークショップ2014」(12ページ)

国際研修「日本の材料と技術による保存修復」(②セ04、⑤セ05の一環として実施)

本書は、平成27年度に東京文化財研究所文化遺産国際協力センターが実施した以下の国際研修、「紙本絹本文化財の保存と修復」(7月8日～17日、ドイツ連邦共和国・ベルリン)、「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」(11月4日～12日、メキシコ合衆国・メキシコシティ)、「漆工品の保存と修復」(11月13日～26日、ドイツ連邦共和国・ケルン)について、及び新規国際研修「染織品の保存と修復(仮称)」の為の協議を、記録したものである。日本語・英語、2016年3月刊行、329ページ。



3. その他の研究活動

1 科学研究費助成事業交付一覧

研究種目	研究課題	研究代表者	頁
基盤研究（B） 海外	考古遺物等を通じたベトナム木造建築様式の形成過程に関する研究	友田正彦	91
〃	中央アジア、シルクロード拠点都市と地域社会の発展過程に関する考古学的研究	山内和也	92
基盤研究（A）	彩色塗装のある歴史的木造文化財建造物の加湿温風処理による虫害処理方法の検討	木川りか	93
基盤研究（B）	酵素を利用した文化財の新規クリーニング方法の開発—旧修理材料や微生物痕の除去—	早川典子	94
〃	文化財建造物の伝統的な塗装彩色材料の再評価と保存・修理・資料活用に関する研究	北野信彦	95
〃	対外交流史の視点によるアジア螺鈿の総合的研究—大航海時代を中心に—	小林公治	96
基盤研究（C）	空間情報データベースによる文化財の災害被害予測の高度化及び防災計画策定への応用	二神葉子	97
〃	平安仏画の技法に関する画像情報による調査研究	小林達朗	98
〃	平安時代前期における神仏習合の展開とその彫刻に関する研究	皿井舞	99
〃	環境制御による古墳に繁茂する緑色生物の軽減法に関する研究	朽津信明	100
〃	津波被災文書資料から発生するにおい物質の同定とその対策	佐野千絵	101
〃	日本絵画における鉛白・胡粉の利用とその変遷に関する調査研究	早川泰弘	102
〃	政治的危機に瀕する『越境文化遺産』の保護と平和活用—国際政治・公共政策研究の貢献	原本知実	103
挑戦的萌芽研究	文化財の材質調査のための2次元イメージング検出器の開発	犬塚将英	104
〃	実演用能装束の保存継承に関する研究—能楽の包括的継承の— 指針として—	菊池理予	105
若手研究（A）	染織技術の伝承に関する研究—材料・道具に焦点をあてて—	菊池理予	106
〃	墨、煤、膠の製法と性状の体系化—伝統的製法の再現—	宇高健太郎	107
若手研究（B）	GISを用いた古代クメール都市発展史の復元的研究	佐藤桂	108
〃	古代メソポタミアの葬送儀礼に関する多角的研究	久米正吾	109
〃	絵画修復と絵画制作に用いる膠の物性に関する基礎的研究	楠京子	110

〃	塑像・乾漆像の部材構造を考慮したより高精度な地震時応答解析手法の開発	森井順之	111
若手研究（B）	パネル保存型壁画における劣化の検証と保存管理環境の確立	前川佳文	112
〃	リアルタイム浮遊菌測定を用いた自然共生型博物館におけるゾーニングについての研究	間渕創	113
〃	放射光を用いた中央アナトリア出土鉄器に対する生産地同定法の開発	増渕麻里耶	114
特別研究員奨励費	彩色材と和紙からなる紙質文化財における和紙の劣化機構	貴田啓子	115
〃	墨、煤、膠の製法と性状の体系化	宇高健太郎	116
〃	毘沙門天像の成立と展開—唐・宋・元から平安・鎌倉へ—	佐藤有希子	117
学術図書	平安密教彫刻論	津田徹英	118
データベース	SAT 大正新脩大藏經 圖像編 データベース	津田徹英	119
活動スタート支援	江戸時代における初期文人画の基礎的研究—中国絵画学習とその地域性について—	安永拓世	120

考古遺物等を通じたベトナム木造建築様式の形成過程に関する研究

(3年計画の第3年次)

目 的

本研究は、実物遺構が現存しない14世紀以前のベトナム木造建築の上部構造の解明に寄与することを主な目的とする。特にベトナム北部の各地から出土する李・陳朝期(11-14世紀)に製作された建築を象った焼成品(以下、建築型土製品と仮称する)遺物に着目し、その悉皆的な情報を得るとともに、中国との比較も含めて現存建築遺構等を現地調査することを通じて、ベトナム木造建築様式の形成過程を東アジア建築史の中に位置づけ直すことを意図している。

成 果

1. 第6次調査(2015(平成27)年9月3日~9月10日)では、ベトナム北部各省における建築型土製品の事例収集を継続した。ベトナム社会科学院都城研究センターとの協力協定に基づき、考古学を専門とするスタッフの同行を得て、ハノイ、クアンニン、ナムディン、バクザンの各省市において李陳朝期を中心とする遺物を調査したほか、同時代の建築遺跡等を現地調査した。
2. 研究成果の発表及び専門家との意見交換の場として、研究会「歴史考古資料を通じて李陳朝期以降のベトナム建築を特定する」をベトナム社会科学院都城研究センターと共催した(2016(平成28)年2月22日~24日、ベトナム社会科学院本部にて)。科研メンバーの日本人研究者3名とベトナム人研究者11名が口頭発表を行ったほか、他の出席者も交えて討議を行った。また、23日にはタイビン省所在のローザン行宮遺跡発掘現場を見学し、現場での意見交換を行った。
3. 研究成果を取りまとめた『「考古遺物等を通じたベトナム木造建築様式の形成過程に関する研究」論集』を日越両語併記で刊行した。巻末には、ベトナム北部出土の建築型土製品等に関する調査台帳データを収録したDVDを付録している。

論文

- ・友田正彦「李陳朝期の模型に見られる建築表現」『「考古遺物等を通じたベトナム木造建築様式の形成過程に関する研究」論集』 16.3
- ・大田省一「ベトナム現存の木造建築と模型の比較と分析」同上
- ・清水真一「ベトナム古建築の特徴と外来様式受容のあり方」同上
- ・ファム・レ・フイ「同時代史料からみる李陳朝期の建築部材及び建築技法」同上
- ・小野田恵「漢代建築模型の建築表現からみたベトナム古建築への初源的影響」同上
- ・上野祥史「ベトナム出土建築関連資料の比較検討」同上

発表

- ・友田正彦「李陳朝期の模型に見られる建築表現」研究会「歴史考古資料を通じて李陳朝期以降のベトナム建築を特定する」ベトナム社会科学院本部 16.2.22
- ・大田省一「ベトナム現存の木造建築と模型の比較と分析」同上
- ・清水真一「ベトナム古建築の特徴と外来様式受容のあり方」同上

刊行物

- ・『「考古遺物等を通じたベトナム木造建築様式の形成過程に関する研究」論集』 16.3

研究組織

○友田正彦(文化遺産国際協力センター)、清水真一(徳島文理大学)、大田省一(京都工芸繊維大学)、上野祥史(国立歴史民俗博物館)、小野田恵(昭和女子大学)、Bui Minh Tri(ベトナム社会科学院都城研究センター)、Nguyen Van Anh、Pham Le Huy(以上、ハノイ国家大学)

中央アジア、シルクロード拠点都市と地域社会の発展過程に関する考古学的研究 （3年計画の第1年次）

目 的

本研究では、キルギス共和国のチュウ川中流域に位置するアク・ベシム都城址を主たる調査対象とし、遺跡レベル、地域レベルでのシルクロード都市の形成過程を明らかにすることを目的とする。具体的には、その形成過程の長期変動（青銅器時代～イスラーム時代）の解明に資する考古学研究を中心に据え、個別の歴史研究を展開する2つの分担・連携研究（ソグド時代・唐代の歴史研究、イスラーム時代の歴史研究）の成果を統括することによって、古代シルクロード都市の形成過程を包括的に明らかとする。

成 果

1. 考古学研究

- ア) アク・ベシム遺跡の都城内（シャフリスタン）の発掘調査を実施し、イスラーム（カラハン朝）時代の家屋や工房、水利遺構、道路などの遺構を検出・精査した。また、出土遺物の記録、分析作業を行った。
- イ) アク・ベシム遺跡の都城外（ラバト）の発掘調査を実施し、唐代と思われる磚列や瓦敷遺構及びカラハン朝時代と思われる住居址を検出・精査した。また、出土遺物の記録、分析作業を行った。

2. 歴史研究

- ア) アク・ベシム都城址及び周辺のクラスナヤ・レーチカ遺跡、ノヴォポクロフカ2遺跡から出土した土器口縁部に刻印されたソグド文字の解読作業を実施した。

報告

- ・『キルギス共和国チュウ川流域の文化遺産の保護と研究 アク・ベシム遺跡、ケン・ブルン遺跡—2011～2014年度—』キルギス共和国国立科学アカデミー歴史文化遺産研究所・独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所 108p. 16.3
- ・久米正吾「キルギスにおける宗教・民族・文化復興と文化財」野口淳・安倍雅史編『イスラームと文化財』新泉社 pp.41-48 15.10

研究組織

- 山内和也、久米正吾、山藤正敏、増渕麻里耶（以上、文化遺産国際協力センター）、城倉正祥、ナワビ矢麻（以上、早稲田大学）、吉田豊（京都大学）、中村俊夫（名古屋大学）、深見奈緒子（国土舘大学）、赤司千恵（日本学術振興会）、新井才二（東京大学）、バキット・アマンバエヴァ、バレリー・コルチェンコ（以上、キルギス国立科学アカデミー）

彩色塗装のある歴史的木造文化財建造物の加湿温風処理による虫害処理方法の検討

(3年計画の第1年次)

目 的

歴史的木造文化財建造物の劣化要因として虫害などの生物劣化は大きなウェイトを占め、従来、文化財建造物が木材害虫であるシバンムシなどによって顕著な被害を受けた場合には、修理にあわせて建物全体のガス燻蒸処理が実施されてきた。ガス燻蒸は、比較的短時間で部材内部に生息する虫まで駆除できるという点で、現時点で唯一の有効な方法である反面、燻蒸剤は毒ガスであるため、作業や観光客の安全確保のために厳重な対策が必要となる。さらに施工後放出される有毒ガスの周辺環境に対する影響も懸念される。本研究では、人体や環境に対して安全で、かつ有効な殺虫処理として、既に欧州などで小型の文化財について実績のある調湿温風による殺虫をとりあげ、これを漆などの彩色を施した日本の大型建造物に適用する手法を確立する。

成 果

1. プロトタイプチャンバー(約30m³)の試作と試験

研究分担者の京都大学農学研究所・藤井義久教授の研究室にて、研究協力者の北原博幸氏の協力のもと、気密・断熱性を確保し、調湿温風を発生・循環できるチャンバー、およびその制御プログラムを試作し、ある程度の大き間で正確に殺虫条件として望まれる温度湿度制御が可能かどうか試験を実施した。その結果、昇温、昇湿についてはほぼプログラム通りの制御が実現された。降温については、外気をうまく取り入れる方法によって、温度を下げる工夫が必要となり、空気取り入れ口を設置した結果、状況が改善された。殺虫に必要な温度(60℃)、かつ木材が乾燥しないような湿度(約60%RH)については問題なく制御できるプロトタイプのチャンバーとなった。

2. 彩色層を毀損しないための安全処理条件の明確化

調湿温風処理による彩色層・木部における含水率とひずみ分布を測定し、彩色層を毀損しないための安全処理条件を明確化する。温風処理中の含水率変化を抑制することで(原理的には平衡含水率(EMC)に保持することで)、彩色層の毀損は原理的に免れる。試作したプロトタイプチャンバーの中で、調湿条件とひずみとの関係を明らかにするために測定を実施し、継続している(京都大学にて測定)。

3. 上記原理とプログラムを使用した小規模処理装置の試作と山笠基台部の処理

上記で試作した制御プログラムと方法を用いて、彩色がない山笠基台部の竹、縄部の調湿温風処理を目的に小規模装置を試作し、処理対象となる無地の木材、縄などを用いて影響試験を実施した。また、実際に装置が機能することが確かめられたので、山笠基台部の調湿温風による殺虫処理を実施した(九州国立博物館にて実施)。

4. シミュレーションによる処理空間の温度分布解析

処理空間の条件を入力し、シミュレーション解析を行って、実際にはどのような温度ムラができる可能性があるかどうか予測し、断熱を強化すべき箇所を検討した(東京文化財研究所にて実施)。



試作されたチャンバー内の測定用検体の様子



調湿温風による山笠基部の処理

研究組織

○木川りか*、佐藤嘉則、犬塚将英(以上、保存修復科学センター)、藤井義久、北原博幸、古田嶋智子(以上、客員研究員)、藤原裕子(京都大学)、日高真吾(国立民族学博物館)、斉藤明子(千葉県立中央博物館)、原田正彦((公財)日光社寺文化財保存会)、福岡憲((公財)文化財建造物保存技術協会)

*平成27年10月1日より九州国立博物館

酵素を利用した文化財の新規クリーニング方法の開発—旧修理材料や微生物痕の除去— （5年計画の第2年次）

目 的

本研究では、酵素を利用した文化財上の汚れ除去に関する基礎的な研究を行い、実際の修復現場における適用を目指す。文化財上の汚れの除去は保存修復において重要な作業の一つである。しかし作品本体を汚損するリスクを避けるため、安全に行える限定的な処置しかなされない側面もあり、十分な効果のあるクリーニングができずに終わる事例も多い。本研究では、酵素というきわめて選択的な化学反応をする生体触媒を用いることにより、喫緊の課題である安全で効果的な除去方法の開発を行う。酵素は反応選択性が高いため、汚れの種類を分析し、それぞれに効果のある酵素を探索した上、それらの文化財材料への影響まで含めて評価する必要がある。本研究ではこれらを包括的に研究し、文化財の保存修復への貢献を目的とする。

成 果

本研究は三つの調査研究から成り立つ。一つは材料化学的調査であり、除去対象とする汚れの化学構造の把握を目的とする。二つ目は微生物酵素学的調査であり、材料の分析をもとに酵素の選定やその機能の評価を行う。三点目は現場での適用である。

1. 材料化学的調査。本年度はアクリル樹脂の物性について化学分析を行った。文化財修復に多く使用されるアクリル樹脂、ParaloidB-72について、溶媒吸着に着目し、使用する有機溶媒が異なる場合に、膜の物性も異なることをNMRとDSC、クラークこわざ試験等で評価した。
2. 微生物酵素学的調査。本年度は、フノリや膠などの修復材料とポリビニルアルコール分解酵素の併用した場合の酵素の活性の阻害について評価した。その結果、酵素の活性阻害はほとんどなく、むしろ膠を使用した場合は活性が上昇することが確認された。
3. 現場での適用。建造物彩色に使用されたポリビニルアルコールの除去に酵素を用いた。この際、酢酸ビニルと併用されていたポリビニルアルコールでも、酵素が有効であることが明らかになった。

発表

- ・酒井清文、楠京子、早川典子、山中勇人、川野邊渉「ポリビニルアルコール分解酵素におよぼす接着剤および顔料の影響」文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.28
- ・山中勇人、駒大輔、森芳邦彦、酒井清文、早川典子、川野邊渉、大本貴士「文化財修復に有用な *Pseudomonas vesicularis*由来ポリビニルアルコール分解酵素の生産性の向上に向けた検討」日本農芸化学会2016年度大会 札幌コンベンションセンター 16.3.28

特許登録

- ・酒井清文、山中勇人、川野邊渉、早川典子「文化財からポリビニルアルコールを除去する方法」特願2011-264442 登録16.3.4

研究組織

- 早川典子、佐藤嘉則、木川りか*（以上、保存修復科学センター）、川野邊渉、楠京子（以上、文化遺産国際協力センター）、酒井清文、本多貴之（以上、客員研究員）

*平成27年10月1日より九州国立博物館

文化財建造物の伝統的な塗装彩色材料の再評価と保存・修理・資料活用に関する研究

（5年計画の第2年次）

目 的

本研究では、文化財建造物に使われた伝統的な塗装彩色材料の正当な再評価を行う。そのうえで、伝統的な塗装彩色材料を修理作業に使用した場合でも劣化の防止が可能な実質的な作業方法の検討や、これらの長所を生かした新塗料開発に向けての基礎データの蓄積、さらには塗装彩色の情報を資料活用するための方法の策定、などを主目的とした。

成 果

1. 漆塗料の仕様別劣化状態の差異に関する手板作成と曝露実験の開始

漆塗料の仕様別劣化状態の差異をデータ化するための曝露試験を行う目的で、日本産漆と中国産漆を用いた漆手板を合計50枚作成し、日光・巖島・京都の三箇所で開催試験を開始した。また、15年前に建造物外観塗装の改良を目的として強制劣化実験を済ませた、未分析の手板資料を日光社寺文化財保存会から50枚提供を受け、この分析調査を実施した。その結果、ウルシオール残量は中国産漆のほうが日本産漆に比較して若干多い結果を得た。

2. 文化財建造物の塗装彩色材料の現地調査

本年度は、瑞巖寺欄間彩色、宝巖寺木彫彩色などの調査を実施した。瑞巖寺欄間彩色と宝巖寺木彫彩色は、いずれも慶長年間に制作された数少ない資料である。基本的な胡粉下塗りや緑青と群青の塗り重ね仕様などには類似点が多かった。ところが、筆のタッチや土波や松の幹などの苔の配色は両者に違いが確認され、それぞれの建造物の性格の違いや地域性、さらには長谷川派による前者、狩野派による後者といった工房別の画風の違いも反映されている可能性が指摘された。

3. 塗装彩色材料調査の資料活用

資料活用のケーススタディとして、新たに瑞巖寺本堂欄間鳳凰の三次元光造形樹脂レプリカを作成し、現地調査とその結果を反映した復元着彩を行った。前回のレプリカは樹脂の上に和紙を澱粉糊で貼りつけ、その上に着彩する方法を取った。今回は宮城県産業技術総合センターの協力を受け、それに改良を加え、直接着彩ができるような樹脂レプリカの表面処理方法を開発し、着彩作業に適することを確認した。

研究組織

○北野信彦、吉田直人、犬塚将英（以上、保存修復科学センター）、山田祐子（文化遺産国際協力センター）、本多貴之（客員研究員）



彩色欄間の資料活用を目指した改良型の三次元光造形樹脂レプリカと復元着彩後のレプリカ



木彫彩色材料の現地調査

対外交流史の視点によるアジア螺鈿の総合的研究—大航海時代を中心に—

（5年計画の第1年次）

目 的

「アジアの特産物」である「螺鈿」は、多源独立的に発生発展したのでは無く、中心的・先進的地域の影響や技術・工人の移動を伴いながら消長を繰り返してきたと見られる。本研究ではこの問題を具体的に跡付ける事を目的とし、人類が地球的規模で移動を開始した15～17世紀（大航海時代）を中心として、日本本土や朝鮮半島、また沖縄や中国の螺鈿を取り上げ、人文学および自然科学的方法により、螺鈿器に内包される交流の実態を明らかにしようとするものである。

成 果

1. 2015（平成27）年7月にタイ、バンコクで開催された第2回オリエントの漆国際会議にて発表、およびタイ国内で調査を実施。
2. 2015（平成27）年11月に滋賀県西教寺にて同寺伝朝鮮螺鈿漆器鞍の調査を実施。
3. 2015（平成27）年9月に韓国国内にて螺鈿漆器類調査および国立中央博物館にて研究協議を実施。
4. 2015（平成27）年11月に関西（京都市内角屋・高台寺・豊国神社）および姫路市内個人宅において調査を実施。
5. 2015（平成27）年9月の研究協議を経て、2016（平成28）年1月に韓国国立中央博物館にて調査を実施。
6. 2015（平成27）年11月の研究協議を経て、2016（平成28）年2月に大阪市内南蛮文化館にて南蛮漆器類の調査を実施。

論文

- ・小林公治「15-17世紀朝鮮螺鈿漆器編年および日本製螺鈿器との並行関係検討」『鹿島美術研究』年報別冊 32 公益財団法人鹿島美術財団 pp.481-492 15.11
- ・小林公治「南蛮漆器書見台編年試論」『美術研究』417 pp.43-64 16.1

報告

- ・Koji Kobayashi, Technical Similarity of the Making of Mother-of-Pearl Inlay between Thailand and Mughal India, The Second International Conference "Study of Oriental Lacquer Initiated by H.R.H. Princess Maha Chakri Sirindhorn for the Revitalization of Thai Wisdom "Preliminary Report. The Ministry of Culture, the Fine Arts Department, /the Royal Forest Department/the Industrial Promotion Department/Chulalongkorn University pp.14 15.7
- ・小林公治「きらめく螺鈿」『小原流 挿花』777 一般財団法人小原流 p.22-24 15.8

発表

- ・Koji Kobayashi, Technical Similarity of the Making of Mother-of-Pearl Inlay between Thailand and Mughal India, The Second International Conference "Study of Oriental Lacquer Initiated by H.R.H. Princess Maha Chakri Sirindhorn for the Revitalization of Thai Wisdom, Dusit Thani Hotel, Bangkok, Thailand 15.7

研究組織

- 小林公治、城野誠治（以上、企画情報部）、早川典子（保存修復科学センター）、吉田邦夫（東京大学総合研究博物館）、能代修一（森林総合研究所）、末兼俊彦（京都国立博物館）



第2回オリエントの漆国際会議
（バンコク）での発表

空間情報データベースによる文化財の災害被害予測の高度化及び防災計画策定への応用

（3年計画の第2年次）

目 的

本研究では、文化財の所在地及び属性に関する空間情報データベースと、自然災害、特に地震や地滑り、洪水、台風による文化財の被災履歴、これらに加えて、各機関から提供されている自然災害の将来の発生予測の情報との連携を通じた、文化財の災害被害の軽減に対する文化財データベースの効率的な活用方法の提案を目的とする。具体的には、これまでに構築してきた文化財GISデータベース及び確率論的地震動予測地図を基礎として、地震以外の自然災害の情報とも連携させ、総合的な文化財防災のためのリスクコミュニケーションに貢献するような地理情報データベースの構築と提供を試みる。

さらに、このような空間情報データベースとの連携により、世界遺産一覧表記載への推薦書や保全管理状況報告書のような、簡潔でわかりやすい説明が求められる場面においても活用可能な防災計画の策定を目指す。

成 果

1. 国際会議での報告

2015（平成27）年10月22日、23日に神戸大学文学部で開催された国際会議「文化財防災体制についての国際比較研究」において、「文化財の地震危険度評価とその活用—文化財GISデータベースによる—」と題して報告を行った。報告では、これまでに行った文化財GISデータベースの構築とハザードマップとの連携、現在ウェブ等で公開されているハザードマップの活用及び地域の文化遺産を把握する取り組みについて紹介した。また、イタリアで構築されているCarta del Rischio del Patrimonio Culturale（文化財危険地図）に関するCarlo Cacace氏（保存修復高等研究所）の発表について、文化財保護制度のわが国の状況との差異に関連してコメントした。

2. 聞き取り調査の実施

タイ・バンコクの政府機関及び政府間機関での予備的な聞き取り調査を実施した。文化省芸術局では、情報技術室で文化遺産GISの構築及び活用について、建造物部門で収蔵施設等の災害対策について話を聞いた。東南アジア文部大臣機構考古芸術事業（SPAFA）では、2011（平成23）年に発生したアユタヤの洪水後に立案中の洪水対策を、歴史公園全体の保全管理計画に組み込む手法について、さらに、無形文化遺産を管轄する文化省文化振興局では、同じアユタヤの洪水後に無形文化遺産に関して支援の要否と必要な場合の内容について問い合わせを行ったことを確認した。

報告

- ・二神葉子「文化財の地震危険度評価とその活用—文化財GIS データベースによる—」『国際会議「文化財防災体制についての国際比較研究」報告書』神戸大学 pp.18-23 16.3

発表

- ・二神葉子「文化財の地震危険度評価とその活用—文化財GIS データベースによる—」国際会議「文化財防災体制についての国際比較研究」神戸大学文学部 15.10.22

研究組織

- 二神葉子（企画情報部）

平安仏画の技法に関する画像情報による調査研究

（3年計画の第2年次）

目 的

平安仏画を研究対象に、従来の写真やすでに公開されている一部のデジタル画像では見ることの不可能な、素材と技法の詳細について、肉眼での直接観察をも超える、精度の高い、かつ光源に配慮した独自の画像を取得し、これを美術史的観点から研究する。

特に、絵具と金銀の材質、およびその技法の詳細を究明し、繊細華麗であることによって日本美術史上特に高く評価されている平安仏画の美しさが立脚しているものを認識し、その表現性と技法の具体を連関させて考察することにより、平安仏画が指向していたものを従来よりも踏み込んで明らかにすることを目指す。

成 果

1. 東京国立博物館蔵普賢菩薩像（東京文化財研究所と東京国立博物館の共同調査の一環として行われた調査による高精細画像データを基盤とする）について、検討を加え、下記論文で発表を行った。
2. 東京国立博物館蔵孔雀明王像について高精細画像撮影を行い、東京国立博物館研究員を交えて検討を行った。孔雀羽部の金泥に大きさのむらがあるものが使用されていること、光背に目視では認識しがたい精細な色彩が使われていることなど、美術史的視点に立って平安仏画の性質を考える材料を得ることができた。

論文

- ・小林達朗「東京国立博物館像国宝・普賢菩薩像の表現及び平安仏画における「荘厳」」『美術研究』416 pp.1-15 15.8

研究組織

○小林達朗、城野誠治（以上、企画情報部）、江村知子（文化遺産国際協力センター）



孔雀明王像孔雀の羽（粒子の粗い金泥が交えられている）

平安時代前期における神仏習合の展開とその彫刻に関する研究

（3年計画の第2年次）

目 的

神仏習合思想の理解が大きく刷新された昨今、神像や神のためにつくられた仏像が、本来もっていた文脈を掘り起こし、信仰の実態と造形との関係を考察する必要がある研究段階に来ている。こうした状況を踏まえ、初期の神仏習合の動向を総体として捉えるためには、神像の発生という問題だけではなく、神宮寺などのためにつくられた仏像の双方を視野に入れた視覚をあらためて設定する必要があるのではないかと考えた。

そこで、神仏習合の動向を総体として捉え、関連彫像の造形的特徴と造像背景を明らかにするという目的を達成するために、本研究では神宮寺に着目する。神宮寺は、神像を安置する場合、仏像を安置する場合、神像・仏像の双方を安置する場合など、いくつかのパターンがある。こうしたパターンは、神仏習合思想のいくつかの類型と符合するか、もしくは神仏習合思想の歴史的な展開過程と軌を一にする可能性があるからである。

成 果

1. 来年度以降の現地調査のために、京都府総合資料館が所蔵する明治期の「社寺明細帳」を通覧し、仏像彫刻の移動等の詳細について、調査をおこない、明治期のものの移動についての基本的な知識を得た。
2. 中国四川省石門山・南山・石篆山石窟・茗山寺ほか、儒教や道教、また在地仏教と習合した尊像のある石窟や寺院において、在地信仰と仏教との習合した様相を調査した。従来にない図像の出現状況や石窟のなかでも尊像の配置などを中心に確認をし、現地の信仰状況を知るための基礎的な調査となった。
3. 本年度は、日本の在地信仰と新来の仏教とのかかわりとを比較するために、中国における現地調査を行った。そこで日本においても地方神が国家神へと変容し、その後また性格を変化させながら在地にひろがっていくという特異な動きを見せる八幡神を中心に調査をおこなった。具体的には八幡神について、宇佐等を中心に八幡神の造形について調査をおこなった。

研究組織

○皿井舞（企画情報部）

環境制御による古墳に繁茂する緑色生物の軽減法に関する研究

（3年計画の第1年次）

目 的

古墳内部に生息する緑色生物が、繁茂しにくい環境を明らかにして与えることで軽減し、それにより古墳の公開活用の促進に寄与することを目的とする。

成 果

1. 国指定史跡・石人山古墳において、石棺表面に緑色生物が繁茂している箇所としていない箇所とで照度計測を行い、繁茂している箇所で積算照度が大きいことを確認した。
2. 同石棺で水分計測を行い、水分条件にはあまり差はなく、むしろ繁茂していない箇所の方が水分が多い傾向を確認した。
3. 石棺近傍で、繁茂が予想される箇所とされない箇所とにテストピースを設置し、その後の経過観察を開始した。
4. 石棺表面に繁茂する緑色生物が藻類を主体とすることを確認し、その性質を解析している。
5. 関連遺跡として、水分が多い部分に緑色生物の繁茂が目立つ事例として、国指定史跡・フゴッペ洞窟においても、同様の計測を開始した。

発表

- ・石人山古墳における石棺装飾の保存に関する調査（朽津信明・森井順之・犬塚将英・佐藤嘉則・日高翠・木川りか・尾崎源太郎・岡田健）文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.27

研究組織

- 朽津信明、木川りか*、犬塚将英、森井順之、佐藤嘉則（以上、保存修復科学センター）、西澤智康（茨城大学）、脇谷草一郎（奈良文化財研究所）

*平成27年10月1日より九州国立博物館



緑色生物が繁茂した石人山古墳の石棺



現地に設置されたセンサーと
テストピース

津波被災文書資料から発生するにおい物質の同定とその対策

（3年計画の第1年次）

目 的

東北地方太平洋沖地震では、津波によって文書を含む多種多様な文化財が被災した。水損被災した資料には臭気があり、この被災資料の臭気について、悪臭物質の同定、悪臭の元となる原料物質の想定と確認、悪臭物質の発生速度の把握、および悪臭物質の除去方法について総合的に研究し、水損被災資料の一次保管場所、安定化処理後の一時保管場所の必要条件の解明に資する。

成 果

1. 津波被災文書資料の臭気を吸着した薄葉紙等資材の収集とアウトガス・付着物質の分析・同定

岩手県立博物館の協力を受け、陸前高田で被災し、におい物質が付着している被災資料を包んだ薄葉紙6点を収集した。異臭を放つ被災資料を包んでいたナイロン不織布には黄、オレンジ、茶色等の着色が多く確認できた。そのうち3点はドライクリーニングのみの資料、残りの3点は安定化済み後の資料であった。

ア) 熱脱離-ガスクロマトグラフ質量分析によるアウトガスの同定

酢酸のほか、プロピオン酸、酪酸などの悪臭物質が検出された。そのほか、皮膚や目に刺激のある物質も検出された。

イ) 薄葉紙資料に吸着した粘着性のある物質の熱分解ガスクロマトグラフ質量分析による分析

魚など動物由来の化学物質がいくつか検出された。

ウ) におい物質対策の除去方法の検討

揮発性のある物質が多数検出されたので、脱気を繰り返したところ臭気強度は低減した。また着色物質は次亜塩素酸漂白のほか、キッチン用洗剤で分解除去できた。

2. 津波被災文書資料の表面清浄度の評価方法の試案

岩手県立博物館において、処置を担当した修復作業員から聞き取りながら、資料を収納している保管箱から1箱あたり約3点を選択し、合計102点の資料で103カ所のATP+AMPふき取り調査を行い、表面清浄度の評価方法として利用可能かどうか検討した。ふき取り作業は修復作業員がおこなった。[未処理]のものに比べて処置が進むと表面の清浄度が良好になる傾向が確認できた。

研究組織

○佐野千絵、内田優花（以上、保存修復科学センター）、赤沼英男（岩手県立博物館）



資料の保管状況

日本絵画における鉛白・胡粉の利用とその変遷に関する調査研究

（3年計画の第1年次）

目 的

日本絵画の彩色材料の中で、白色材料としては鉛白・胡粉・白土の3種の顔料が古くから用いられてきた。この中で、鉛白と胡粉はその用途や主たる利用時期が大きく異なっていることが明らかになりつつある。そこで本研究では、各時代を代表する日本絵画を非破壊・非接触の科学的手法によって調査し、用いられている白色顔料の種類と用途を明確にするとともに、時代ごとの鉛白・胡粉の利用目的や適用範囲を整理し、これまで漠然と認識されていた日本絵画における鉛白・胡粉の利用状況の実態を明確にすることが目的である。

成 果

本研究課題の初年度として、できる限り多くの日本絵画を調査して、各時代における鉛白・胡粉の利用を明らかにすることに努めた。以下に示した調査を実施することで、これまでに蓄積したデータを補強し、各時代の特徴をこれまで以上に明らかにすることができた。

1. 鎌倉期絵画の調査

鎌倉期絵画を代表する春日権現験記絵巻(宮内庁三の丸尚蔵館所蔵)について彩色材料調査を実施した。全二十巻で構成されている中の第十七巻、第十八巻の表面と、第七巻、第十四巻の裏面に関する彩色材料調査を実施した。これまでに調査した他巻と同様、表面に図像を描くための白色材料としては鉛白が、裏彩色としては白土が使われていることが確認された。裏彩色の一部から胡粉が検出された箇所があるが、後補の可能性もあり、慎重な判断が必要である。

また、鎌倉期の作と考えられている弘法大師像（三重県大宝院所蔵、重要文化財）についても調査し、白色材料は鉛白であることが確認された。

2. 室町期絵画の調査

室町時代に描かれた花鳥画の代表作として知られる四季花鳥図屏風（サントリー美術館所蔵、重要文化財）について彩色材料調査を実施した。中国の花鳥画を粉本にしていると考えられているが、やまと絵風の画面構成がなされている興味深い作品である。使われている白色材料は鉛白だけであることが明らかになり、室町期の彩色材料について重要なデータを収集することができた。

3. 桃山～江戸期絵画の調査

桃山期から江戸初期に描かれたと考えられるキリスト教関連絵画（長崎県所在）について彩色材料調査を実施した。使われている白色材料は鉛白だけであり、これまでに調査した桃山期の初期洋風画との関連等を考察することが必要である。

また、琉球間切絵図（沖縄県立博物館、重要文化財）あるいは琉球王朝時代の絵画調査も実施し、いずれも白色材料に鉛白が使われていることが確認された。これまでの調査においてもキリスト教関連絵画や琉球絵図には鉛白が用いられており、それらのデータを補強する結果を得ることができた。

研究組織

○早川泰弘（保存修復科学センター）、城野誠治（企画情報部）

政治的危機に瀕する『越境文化遺産』の保護と平和活用—国際政治・公共政策研究の貢献

（4年計画の第4年次）

目 的

本研究では、特に複数の政治主体間での所在や所有権を巡る対立の対象とされ、保護のためには政治主体間の物理的・心理的な境界の克服を必要とする「越境文化遺産」に対して、専ら技術的な視点からの保護・保存の議論からは回避ないし無視されがちであった国際政治の視点を導入し、越境文化遺産が抱える真相の問題にまで斬り込み、保護と平和構築への政策的含意を導き出す。

成 果

本研究では越境性を有する文化遺産をめぐる複数の政治主体（国家主体、非国家・準国家主体）の、越境文化遺産に関する所有と保護に関する政治主体間の行動を、概念的に類型化を行い、さらにそれぞれに適合する具体的な事例を取り上げて、現地調査研究を基に進めていく。

本研究ではこれまでに、コソボ及びポーランドでの現地調査を実施した。コソボでは、国内に存在する文化遺産の保護者がその国家主体ではない例であり、まさに越境文化遺産としての保護を巡る対立の現状を分析した。また、ポーランドのアウシュビッツ＝ビルケナウの強制収容所を訪問し、負の越境遺産を複数の国家主体が保護する例を分析した。負の越境性を持つ文化遺産の保護は容易ではないことはコソボなどでも確認できていたが、アウシュビッツに関しては、国家主体のみならず非国家主体も保護に尽力し、政治的な背景を持ちながらも中立性を与えるために、あらゆるバランスに配慮されている事例として興味深い分析を行うことができた。

研究組織

○原本知実（文化遺産国際協力センター）、星野俊也（大阪大学）

備 考

産前休暇の取得により平成27年度は研究を休止したため、これまでの研究成果についてまとめた。また、研究期間を平成28年度まで延長する。

文化財の材質調査のための2次元イメージング検出器の開発

(2年計画の第2年次)

目 的

文化財を構成している材料の同定は文化財保存科学において重要な課題の一つである。しかし、文化財の調査では資料採取が許されず、非破壊・非接触を大前提とした手法を要求されることが多い。このため、X線を用いた調査手法は重要である。ところで、文化財の調査現場では、蛍光X線分析と比較すると、X線回折を用いた分析は活用される頻度が低い。その主な理由は、可搬型の分析装置が十分に実用化されていないことが挙げられる。しかし、X線を2次元的に捕えるようなX線検出器を開発しX線回折に適用すれば、装置内の駆動部分を減らすことが可能となり、可搬型分析装置の開発を促進すると期待できる。以上が本研究の着想に至った経緯であり、ガス電子増幅フォイルを用いて2次元イメージングが可能な検出器の開発を行うことが本研究の目的である。

成 果

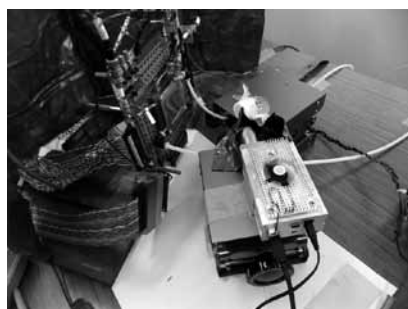
本研究ではX線の検出を行うために、ガス電子増幅フォイルを用いた検出器の開発を行った。CMOS技術等を用いた従来の検出器では、信号を読み出すための素子を2次元状に配置して行う方法が多かった。一方、本研究では従来よりも単純化した信号検出の方法として、1次元のストリップ状のパッドを読み出し基板に配置して信号読出を行う方法を開発し、その方法を評価するための実験を行った。

その評価実験を行った時の様子を左下図に示す。X線源としては本研究費で購入した空冷式の小型X線管を使用した。また試料としては、NaClの粉末試料を用いた。ブラッグの条件式から反射X線の強度が高いと予想される位置にX線検出器を設置して、反射X線の強度に応じた2次元イメージを作成した。このような実験を行った結果得られたX線2次元イメージの一例を右下図に示す。ここで示した有感領域は8mm×8mmであり、x方向とy方向ともにストリップ状のパッドのピッチは0.5mmという条件において信号の読出しを行った。この図にも示されている通り、本研究で開発を行った検出器を用いることにより、デバイセラー環の一部を2次元的に捕えることに成功した。

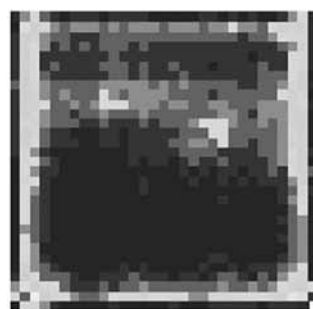
従来と比較すると簡便な方法でX線2次元イメージを得ることに成功したが、検出精度のさらなる向上や文化財調査に向けた安全性の向上が今後の課題である。

研究組織

○犬塚将英、早川泰弘（以上、保存修復科学センター）、房安貴弘（佐賀大学）



GEM検出器とX線管球を用いた実験
セットアップ



検出したデバイセラー環
の一部

実演用能装束の保存継承に関する研究—能楽の包括的継承の—指針として—

(3年計画の第2年次)

目 的

本研究は、能楽の芸態を形成する上で不可欠な能装束の伝承における危機的状況に鑑み、その実態調査により、能楽を取り巻く文化財の保護に関する包括的な研究を行い、分野横断的な検証を加えることを目的とする。本研究はこれまで有形と無形に分断された保護体制の中で保護対象と看做されず、対応が遅れている実演用の能装束の保存継承に焦点を当て、染織研究、修復研究、能楽研究そして実演家により、その制作・保存管理・修復に関する情報の整理分析を行い、問題点を検証することにより、新たな修復方法を見出す。

成 果

研究2年次である平成27年度は、主に1. 宝生家に伝来する能装束の修復状況等の聞き取り調査、及び2. 染織文化財の修復材料の調査を行った。これらの成果を生かしながら、最終年度である来年度は実験作業と成果の整理を進めていく。

1. 宝生家に伝来する能装束の修復状況等の聞き取り調査

前年度行ったア) 従来の修復の確認、イ) 破損の原因の確認、ウ) 実演家からの聞き取りによる確認を踏まえ、本年度も引き続き宝生和英氏(研究協力者)、公益社団法人宝生会の協力を得て、イ) 破損の原因の確認を中心に調査を行った。

ア) 従来の修復の確認:平成26年度の調査により実演用能装束は、演能前や虫干し等の際に応急処置的に補修を行うことが多く、オリジナルへの可逆性を重視する染織文化財の修復とはかけ離れた修復が行われていること。また、修復材料についても細かな検討を加えられてはいないことが明らかとなった。本年度の調査対象においても同様のことが確認できた。

イ) 破損の原因の確認:前年度から引き続き、能には決まった着装方法(出立)があり、それぞれの出立や所作(能の型)により負荷のかかる位置が固定するため、各出立に使用する装束の種別を整理し、それらの破損箇所について調査を継続した。平成26年度は縫箔と長絹の装束付けを調査し、逐次装束にかかる負荷をまとめた。本年度は唐織を中心とした女出立や、狩衣・法被を中心とした修羅物の出立について調査を行った。特に、それぞれの出立に特徴的な所作を確認しつつ、負荷に関する情報を得るよう考慮した。来年度も調査範囲を増やししながら出立と装束にかかる負荷の関係について整理を行う。

ウ) 実演家からの聞き取りによる確認:前年度の聞き取り調査では、a. 実演に耐えうる強度を確保しつつ動きに沿う裂の柔らかさを損なわないこと、b. 薄物の場合は透け感も重視すること、さらにc. 通気性も確保すること等の意見を受けた。それにより展示を目的とした染織文化財の修復と実演用能装束の修復には異なる視点からの検討が必要であることが解ったが、それらを議論するためにはまだまだ基礎情報が未整理であった。本年度は上記の調査結果をうけ、まずはこれまで染織文化財に使用されてきた修復材料の整理(2. 染織文化財の修復材料の調査参照)を行うこととした。

2. 染織文化財の修復材料の調査

東京文化財研究所の資料閲覧室に所蔵されている修理報告書(昭和40年～平成25年)において、染織文化財に関する修理の情報を整理した。約240点にわたる修理情報からは、昭和40年代前半を中心に使用される修復材料がある等、時代によって修復材料が変わってきていることが明らかとなった。来年度はこれらの中からいくつかの修復材料を抽出し、平成26年度に集めた実演用能装束の修復に利用できると考えられるサンプルとともに、適正の検証を行う。

研究組織

○菊池理予、橋本かおる(以上、無形文化遺産部)、岡田宣世(女子美術大学)、田中淑江、後藤純子(以上、共立女子大学)、門脇幸恵(日本芸術文化振興会)、宝生和英(宝生会)

染織技術の伝承に関する研究—材料・道具に焦点をあてて—

（4年計画の第1年次）

目 的

本研究は染織品の様式変遷や模様の流行に関する従来の染織史研究を踏まえ、中世以降、日本各地に見られる染織技術がどのような伝播経路を辿りそれぞれの産地にもたらされたのか、そして産地に根付いた技法にはいかなる材料や道具が用いられてきたのか、工程はどのように分業され継承されていったのかに着目し研究を行うものである。本研究では特に染織技術をとりまく材料や道具に着目し、産地間の比較検討や交流の情報を整理することで、染織技術の伝承について検証する。さらに研究対象を現在にも受け継がれる技術を主な対象に据えることで、染織技術を後世に受け継ぐ最善の方策を提示することを目指す。

成 果

本研究は、染織技術調査、江戸時代の藩政資料及び地方史、鎌倉時代以降の染織技法書と染織技法が描かれた絵画資料の調査研究、それらの技術に対応する染織品や実物調査を基盤として推進する。研究初年度である本年度は、1. 日本における染織技法の分布（平成27年度版）の整理と実地調査、及び2. 中世以降の日本における染織技法の分布の整理（染織技法書及び藩政史料等）を行った。

1. 現在の日本における染織技法の分布（平成27年度版）の整理と実地調査

研究初年度である本年度は、国や都道府県・市区町村に保護されている無形文化財の技術を中心に分析を行った。その上で、未だ行政による保護措置の取られていない滋賀県草津市の「青花紙製作技術」、及び国の選定保存技術でもある福島県昭和村の「からむし（苧麻）生産・苧引き技術」について実地調査を行った。

「青花紙」は、近世、近江の特産品として他地域へ流通していた青色染料で、友禅や浮世絵等での利用が確認される。現在、「青花紙」は、滋賀県草津市のみで製作されている。生産者も少なくなり伝承が危ぶまれている技術の一つである。これは、需要の減少が背景にあると考えられ、合成染料の導入等による友禅染の工程の変化との関わりも含め検討する必要がある。

一方、からむしの栽培地域は全国的に分布している。その中で、小千谷縮・越後上布に利用された福島県昭和村のからむしは、全国でも名高い。1948（昭和23）年の「大麻取締法」制定後、大麻生産が減少したことが「からむし」にどのような影響を与えたか等、様々な面から検討が必要である。次年度以降は国の有形民俗文化財でもある「からむし生産・苧引き技術」の道具を中心に、その他の地域にも残されたからむしや大麻の生産用具の情報についても調査を進めていく。

2. 中世・近世・近代の日本における染織技法の分布の整理（染織技法書及び藩政史料等）

本研究に先立ち、申請者は科学研究費補助金若手研究（B）「染織技法の分業化の展開に関する基礎的研究—技法書・絵画資料・実作品の分析を通して」（平成21～25年度）を通じて、室町時代以降の文献資料（227件）に見られる染織技法や、技術の担い手、用いられた道具等に関する情報を整理してきた。その中で、技術者を指導を目的として招く事例等、技術の伝播を考える上でも重要な背景が確認された。そこで、新たに情報を補完すべく都道府県史、市区町村史を中心に染織技術の関連項目についての情報の整理に着手した。本年度は来年度の調査候補となる北関東を中心に情報の整理を行った。

研究組織

○菊池理予（無形文化遺産部）

墨、煤、膠の製法と性状の体系化—伝統的製法の再現—

(4年計画の第2年次)

目 的

墨、煤、膠について、製造時の条件が製品正常に及ぼす影響を体系化する。

成 果

古典的中国式松煙煤製造における一次粒子径の決定因子について、原料投入量の多寡等による火力の強弱のみならず、炉の形状及びその断熱性が極めて重要であったことを実験により明らかにした。過年度製造の各種松煙煤試料について、SEMによる一次粒子径観察と試用等を行った。その結果、一次粒子径が0.1 μmを大きく上回る煤となる製造条件は非常に限定的であることが分かった。細長くかつ高い断熱性を備えた炉で、さらに原料が肥松でその単位時間あたりの投入量が大きい場合にのみ、全採取部位において煤一次粒子径が0.2 μm内外となった。該条件では燃焼距離(火炎長)が長じたために煤粒子の形成時間が長くなり、その結果として大きな粒子となったものと考えられる。そのような炉であっても原料が肥松でない通常の松材であった場合には、可燃性成分が比較的少ないためか炉の途中で燃焼しきってしまい、一次粒子径は0.1 μm程度にとどまった。

膠の安定性について、製造条件によって得られる製品の加熱劣化処理に対する耐性に違いが現れることを実験により明らかにした。修復後あるいは新規制作後の文化財の長期保存において未知の劣化変質要因となりうる薬剤を使用しない古典的方法によって、近代以降の従来品と比べて加熱劣化処理耐性の高い膠を得る方法を復元した。鹿角膠及び象皮膠試料は一般的な獣皮膠と比して、延べ抽出時間に対する粘度やゼリー強度の値が高いものとなる傾向があることが分かった。またいずれも多く市の販製品と比して高い接着力(木材接着における圧縮剪断耐性)を示し、特に鹿角膠は極めて淡色清澄かつ柔軟であった。さらにこれらと過年度製造試料、市販製品の各種について加熱劣化試験を行った結果、加熱による物性低下が他の多くの試料と比して緩慢なものが特に鹿角膠及び象皮膠に認められた。

報告

- ・解説講演 膠文化研究会第8回公開研究会 15.12
- ・広範配布用リーフレット「膠の基礎知識 膠とはなにか/膠の原料と製造方法/膠の現在とこれから」 膠文化研究会(宇高健太郎、早川典子、北田克己) 15.11

発表

- ・宇高健太郎 「煤及び膠に関する研究」文化財保存修復学会第37回大会 15.6.28

研究組織

○宇高健太郎(日本学術振興会特別研究員)

備考

当該研究の成果を元に以下の技術提供を行った。

- ・東京文化財研究所文化遺産国際センターにおけるミャンマー漆文化財の修復案件に要する膠の製造協力 15.7
- ・東京藝術大学アートイノベーションセンター及び文化財保存学専攻における仏画及び仏像等の修復及び新規製作案件に要する膠の製造協力 15.5

GISを用いた古代クメール都市発展史の復元的研究

（4年計画の第4年次）

目 的

本研究は、紀元1世紀頃から15世紀にかけて、インドおよび中国文明の影響を受けながらも、独自の発展を遂げた古代クメールの都市・都城史を通史的・広域的視座より再考察するために、リモートセンシングおよびGISを用いて、歴代王朝が築いた都市・都城の立地条件や自然環境に関するデータを総合的に考察し、その発展史を復元的に研究することを目的としている。

とりわけ、踏査がいまだ困難である遠隔地域や、周辺諸国との紛争地帯にもなり得る国境線近傍に関しては、衛星画像や数値標高モデル（DEM）といったリモートセンシングのデータ利用が、一つの有効な研究手段となり得る。本研究では、往時のクメール帝国の最大版図を対象とし、現在のカンボジアのみならず、タイ、ベトナム、ラオス、マレーシアを含むマクロな視点から、古代都市の環境の変遷と帝国興亡に関する復原考察を試みる。

成 果

本年度は研究期間の最終年度であったため、研究のまとめを行った。

まず、研究全体の方針を改めて整理し、当初予定していた全領土を俯瞰するマクロな視点に加えて、一つの遺跡に注目するミクロな視点を導入し、二つのアプローチから総合的に分析する手法に切り替えた。ミクロな分析を行う遺跡としては、東京文化財研究所が2001年より調査研究のフィールドとしているアンコール遺跡群内のタ・ネイ寺院遺跡を対象とした。同遺跡では、アプサラ機構と東京文化財研究所との共同研究の枠組みで保存管理計画策定準備を行っているが、その一環として昨年度より三次元写真測量をもとに遺構現状図を作成する手法を試行している。本研究では、この手法によって得られた遺構現状図をベースに同寺院の伽藍配置に関する分析を行ったが、アプサラ機構から提供されたLiDARのデータも併せて検討した結果、寺域や軸線の傾きに関する新知見が得られた。他方、マクロな視点からの分析として、現在は諸事情により閉鎖してしまったクメール遺跡インベントリーのWebsite（Cisark）のデータをもとに、クメール遺跡の分布状況の時代的变化の傾向を特に川及び山との関係に注目して分析することで、都市像の変遷史について考察を行った。以上により、古代クメール都市がプレ・アンコール期からアンコール期にかけて自然との関係性を劇的に変化させながら発展を遂げたこと、またアンコール期の成熟期にあたるバイヨン様式に位置付けられるタ・ネイ寺院の造営時に重視されたと推察される軸線の傾きと周辺遺構との関係から、アンコール期を通して採用されたであろう寺院造営のパターンの一部を明らかにした。この成果は下記論考として発表した他、今秋の日本建築学会大会にて発表予定である。なお、以上の研究は桃山学院大学深見純生教授を研究代表者とする2013～2015年度科学研究費補助金（基盤研究B）とも関連させながら実施した。

刊行物

- ・佐藤桂「山を降りた聖域 7世紀から10世紀のクメール都市の展開」『東南アジア古代史の複合的研究』pp.51-56 16.3

研究組織

- 佐藤桂（文化遺産国際協力センター）

古代メソポタミアの葬送儀礼に関する多角的研究

（3年計画の第3年次）

目 的

平成19～22年度にかけて発掘調査を実施した紀元前3千年紀、シリア、ユーフラテス河中流域のテル・ガーネム・アル・アリ遺跡近郊墓域（代表：大沼克彦教授、国士舘大学）の調査結果を主たる分析対象とし、考古学、文献史学、理化学の相互連携に基づいて古代メソポタミア社会の葬送儀礼を再構築することが本研究の目的である。具体的には、王墓等の厚葬墓が示す考古学的証拠や楔形文字資料が記録するエリート層の葬送儀礼行為が普遍的宗教実践として当時あらゆる階層に浸透していたのではないか、という視点にたって調査研究し、①非エリート層の葬送儀礼行為の実態解明、②エリート層、非エリート層の葬送儀礼行為の異同の解明、③古代メソポタミアの死生観や冥界観の実証的解明、そして④葬送儀礼から観察される祖先崇拜など古代宗教確立過程の解明の4点を追求する。

成 果

1. 関連遺跡及び楔形文字資料に基づく葬送儀礼関連情報を補足的に収集した。
2. 昨年度実施したシリア、テル・ガーネム・アル・アリ遺跡近郊墓域出土の副葬土器内から採取した土壌標本の脂肪酸分析結果をとりまとめ、国内学会で公表した（下記参照）。
3. より信頼性の高い脂肪酸分析を実施するため、（公財）古代オリエント博物館が所蔵するシリア、ルメイラ遺跡から出土した同時代墓の副葬土器胎土に吸着した脂肪酸の分析を追加で実施した。
4. 本研究課題は今年度で終了となるが、上記2遺跡出土標本から得られた成果を統合した論考を今後取りまとめ、公表する予定である。

発表

- ・久米正吾、宮田佳樹、堀内晶子「古代メソポタミアの死者供養—副葬土器内包土壌の脂質分析からの新視点—」日本西アジア考古学会第20回総会・大会（ポスター発表） 名古屋大学野依記念学術交流館 15.6.13-14

研究組織

- 久米正吾（文化遺産国際協力センター）

絵画修復と絵画制作に使用される膠の物性に関する基礎的研究

（4年計画の第4年次）

目 的

本研究は、絵画修復における剥落止め材料として、また絵画制作の絵の具固着材として用いられる膠の物性について調査研究を行うものである。

修復の対象となる絵画は、掛軸、屏風、板絵等様々な形態をしており、損傷状況も様々である。そのような形態や損傷状況によって剥落止め材料に求められる性質は異なってくる。また、絵画制作においても、目指す絵画表現によって、必要とされる膠の性質は異なってくる。近年では絵画修復や制作を目的としたいくつかの膠が研究開発されており、これらの物性を把握するとともに、絵画形態や損傷状態、使用状況に応じた使用方法について言及することを目的としている。

成 果

1. 日本国内で製造されている膠を収集するとともに、絵画書籍の修復を行っている修復工房の協力を得て、修復現場で使用されている膠についての情報収集を行った。工房では、これまで使用してきた三千本膠、粒膠（共に牛皮由来）の製造元の廃業や縮小に伴い、新規の製造元の膠の使用テストを行っており、各種膠の使用感や使用方法の詳細についての情報提供を受けた。
2. 収集した膠の水分、灰分、油脂分、不溶解分の測定および膠水溶液の粘度、融点、凝固点、pHの測定をJIS規格6503に定められている手法に基づき行った。
3. 収集した膠の使用感等の官能試験を行うために、紙本絵画を想定して作成したサンプルを用いて、各膠の接着力や水への再溶解性、柔軟性などについて試験を行った。

本年度は、昨年度までに実施できなかった、剥落止め時の膠水溶液塗布順による絵具層の色相や明度の変化、接着性について検討を行った。試験の結果、顔料の種類によっては、膠水溶液を塗り重ねる場合に、低濃度のものから高濃度のものへ塗り重ねた方が接着性が良くなるもの、特に塗布順に影響を受けないものがあることが示唆された。

研究組織

○楠京子（文化遺産国際協力センター）

塑像・乾漆像の部材構造を考慮したより高精度な地震時応答解析手法の開発

（2年計画の第2年次）

目 的

本研究は、仏教美術の現存作品としては残存事例も少なく貴重な文化財である塑造や乾漆造の立体像のうち、特に立像として表されたものの地震対策を進めるにあたり、必要となるそれらの地震時挙動について、塑像模型の加振実験による耐震性の検証および構造解析によるメカニズムの解明を目的とする。まず、過去の修復事業で作成されたX線透過撮影画像や構造図をもとに塑像の構造を再現した模型を製作し、模型の一軸振動台加振実験から塑像の地震時挙動について把握を行う。その後、個別要素法による構造解析を行い、今回および以前乾漆像模型で行った実験結果と比較し、塑像や乾漆像の地震時挙動メカニズムについて明らかにする。

成 果

1. 塑像模型の振動台実験

研究代表者らは今まで、残存している乾漆造の立体像について実物大模型を製作し振動台実験を行うことでその構造安定性と地震時挙動について明らかにしてきた。今回、内部に空洞があり重心が比較的低い乾漆像と比べると、重心が高くなり構造安定性が低いと予想される塑造立像の模型を製作し、振動台実験による評価を実施した。今回は予算の都合もあり、三重大学にある小型一軸振動台を使うこととなったため、実物から40%縮小した模型を製作した。振動実験の結果、現存する塑造立像でも見られた足首部分の亀裂などを再現した。しかし、実物よりも重量が重くなったため、予定よりも早く破壊し、実際の地震動における挙動については今後の課題となった。

2. 個別要素法による解析

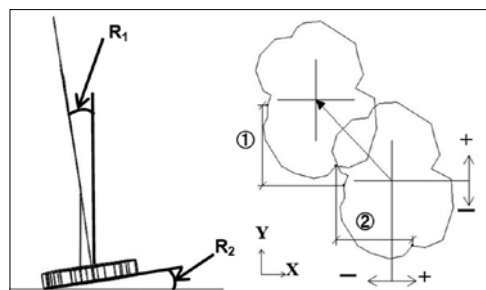
加振実験結果との比較をスムーズに行うため、個別要素法による数値計算を実施した。個別要素法プログラムは木造住宅倒壊解析ソフトウェアとして開発され、オープンソースでもあるwallstat（国土交通総合研究所）を用い、まずは過去に剛体模型を対象にした加振実験結果の再現に取り組んだ。検討の結果、以前に実施した乾漆像模型実験および今年度実施した塑像模型実験の再現に成功した。

発表

- ・安井佑佳、森井順之、中川貴文、花里利一「仏像の耐震対策に関する研究 EDEMを用いた実物大実験の解析」日本建築学会2015年度大会（関東）学術講演会 東海大学 15.9.4

研究組織

○森井順之（保存修復科学センター）



wallstatによる解析結果（左：JR鷹取加震時の静止画像、右：加震後の移動量）



塑像模型の振動台実験

パネル保存型壁画における劣化の検証と保存管理環境の確立

（2年計画の第2年次）

目 的

本研究は、壁画保存修復の分野において、近年問題視される壁画分離法「スタッコ法」および「ストラッポ法」が原因で発生したと考えられる傷みの発生原因追究と、その改善策樹立を目的に研究を進めるものである。

研究対象とする作品は、イタリアのフィレンツェに建つ旧サンタポッローニア修道院に所蔵される《荘厳のキリストを支える二人の天使》（Cristo in pieta sorretto da due angeli）であり、画家アンドレア・デル・カスターニョによって1448年頃に制作されたものである。この作品は、20世紀半ばに実施された修復においてストラッポ法を用いて壁から分離された後、金網支持体の上に石膏を用いて置き換えられている。

成 果

1. 保存修復プログラムの立案

昨年に実施した目視調査や光学的調査から得られた情報をもとに、保存修復の具体的な介入方法について検討した。紫外線および赤外線写真撮影の結果、対象作品には後世の加筆箇所が多く存在していることが明らかとなり、現地専門家と壁画保存修復理論に基づいた検討会を開き、それらのうちの箇所を残しながら処置を進めるかについて議論した。

2. 保存修復の実施

検討会の結果、作品への負担を最小限に抑えた保存修復プログラムを組み立てることができた。これを受け今年度末の3月に実際の保存修復作業を開始する予定である。作業中には本研究の目的であるパネル保存型壁画における劣化の傾向を特定することが期待されており、それに基づく保存管理環境を検討してゆく予定である。

研究組織

○前川佳文（客員研究員）



通常光による写真



赤外線疑似カラーによる写真

リアルタイム浮遊菌測定を用いた自然共生型博物館におけるゾーニングについての研究 （3年計画の第1年次）

目 的

本研究は、従来の微生物モニタリング手法へリアルタイム浮遊菌測定を取り入れ、自然共生型博物館内部における、正確性の高いゾーニング方法の確立を目指すものである。

自然共生型博物館では、微生物（主にカビ）の発生源である林（里山・鎮守の森等）に囲まれており、またこれをフィールドとした博物館活動のため、野外由来微生物による汚染許容区画と清浄維持区画の明確な区分による微生物管理が必要になる。しかし従来の方法だけでは、瞬間的・短時的な種々の要因による影響から、展示室などにおいて定量的な野外由来微生物の流入と拡散を測定することができず、測定値をもとにした正確性の高いゾーニングの実施は困難である。

そこで従来法に加え、連続的な浮遊菌濃度の測定が可能であるリアルタイム浮遊菌測定を取り入れることで来館者等の瞬間的・短時的な影響を定量化し、これによる正確性の高いゾーニング手法の検討を行う。

成 果

本研究は3年間での遂行を計画している。（1）リアルタイム浮遊菌測定と従来法による浮遊菌濃度の相関、（2）モデル施設における瞬間的・短時的な影響を与える要因の抽出と定量化、（3）ゾーニングのパイロットテストと自然共生型博物館への適用するための汎用性の検証の3項目をサブテーマとする。

第1年次である平成27年度は、（1）リアルタイム浮遊菌測定と従来法による浮遊菌濃度の相関について取り組んだ。具体的には、従来の培地法による浮遊菌測定と、非培養法であるリアルタイム浮遊菌測定法（バイオエアロゾル測定）による測定を同時に行いその相関について検証を行った。

本試験により、同一区画内の測定において、従来法による浮遊菌と非培養法によるバイオエアロゾルに相関がみられ（相関係数 $r=0.58\sim 0.92$ ）、平行に推移することが分かった。また短時間的な微生物環境の変化の検出感度にはバイオエアロゾル測定が有利であった。

また、複数台のバイオエアロゾル測定器を用い、隣接する区画それぞれにおいて同時に測定を行った結果、双方において、同一イベントによる短時間的な微生物環境の変化が検出され、気流による浮遊菌の拡散を検出することができた。ただし区画によってバイオエアロゾルに含まれる浮遊菌の存在比が大きく異なる場合あり、バイオエアロゾルの蛍光強度のみから浮遊菌の拡散方向を把握することについては課題が残った。今後、拡散方向（気流方向）が既知である区画において測定を行うことや、特定の菌種についての相関を検証するなど、この点について検証を継続していく。

第2年次である来年度は当初計画の通り、（2）モデル施設における瞬間的・短時的な影響を与える要因の抽出と定量化について検討を行っていく予定である。

論文

- ・博物館施設におけるバイオエアロゾル測定の活用について（間渕創、佐藤嘉則）『保存科学』55 pp.103-113 16.3

研究組織

○間渕創（客員研究員）

放射光を用いた中央アナトリア出土鉄器に対する生産地同定法の開発

（3年計画の第1年次）

目 的

本研究は、放射光の高輝度X線を利用した古代鉄製品に対する非破壊での分析・観察方法の開発を通じ、人類による製鉄の起源として注目を浴びる古代ヒッタイト文明（1650-1200 BC）の製鉄技術を解明することをその第一の目的としている。ヒッタイト帝国の本拠地のあった中央アナトリア（現トルコ共和国アナトリア高原中央部）の遺跡から出土する鉄製品・製鉄関連遺物の自然科学的分析を通じ、従来の考古学的様式分類では不可能だった「在来品と外来品の判別」の指標となる化学種や組成比の特定を目指す。

成 果

3年計画の第1年次にあたる本年度は、現地での資料調査、放射光施設（SPring-8）での予備実験、そして研究発表を通じた関連専門家との意見交換を行い、基礎データの蓄積と次年度以降の研究方針の明確化に努めた。

1. トルコでの資料調査

2015（平成27）年10月15日～22日、トルコ共和国クルシェヒル県にある公益財団法人中近東文化センター附属アナトリア考古学研究所、および、アンカラ県にあるBritish Institute of Archaeology at Ankaraにて、アナトリア出土鉄製品および製鉄関連遺物に関する資料調査を実施した。

2. SPring-8での予備実験

2015（平成27）年12月6日～11日、国立研究開発法人理化学研究所高輝度放射光施設SPring-8にて、岡山市立オリエント美術館学芸員四角隆二氏を実験責任者とするX線イメージングによる西アジア出土古代金属製品を対象とした実験に参加した。持参した標準試料を用いて本研究の予備実験を実施するとともに、ビームライン担当者と来年度実験に向けた打ち合わせを行った。

3. 研究発表

本年度は、以下のような論文発表および学会・研究会での研究発表を行った。日本西アジア考古学会大会での発表では、資料の年代決定の根拠に関する指摘を、また、トルコ調査報告会では、組成分析に使用する標準物質についての指摘を受け、来年度以降の改善点を明確にすることができた。

論文

- ・Mariya MASUBUCHI: A Study on the Beginning of the Iron Age at Kaman-Kalehöyük. *Anatolian Archaeological Studies* 19 pp.111-122 Japanese Institute of Anatolian Archaeology 16.2

発表

- ・増渕麻里耶、大村幸弘「中央アナトリア、カマン・カレホユック出土鉄製品に見るヒッタイト崩壊前後の鉄器文化の変容」日本西アジア考古学会第20回大会 名古屋大学 15.6.13
- ・増渕麻里耶「中央アナトリアにおける製鉄文化解明の試み（7）—鉄製品の化学組成からの考察—」第26回トルコ調査研究会 学習院大学 16.2.29

研究組織

- 増渕麻里耶（文化遺産国際協力センター）

彩色材と和紙からなる紙質文化財における和紙の劣化機構

(3年計画の第3年次)

目 的

紙質文化財の劣化を促進する要因としては、外的要因の光、温湿度などがあり、また内的要因のひとつには、顔料等に由来する金属イオンの影響がある。本研究では、各種の条件で加速劣化させた和紙のモデル試料を作製し、光、温湿度の影響による劣化の特徴を確認し、紙中のセルロース及びヘミセルロースの金属イオンの影響による劣化反応の一端を明らかにすると共に、よりよい保存処置や修復方法を検討する。

成 果

1. 前年度には、実資料の緑青顔料により劣化した絹本の状態の調査を始めており、本年度は、資料の裏打紙の劣化状態の詳細な分析を行った。絹本作品の本紙では、緑色部分の裏面が褐色に変色する「緑青焼け」の現象が顕著にみられた。これらの箇所では、元素分析によりCuが検出され、本紙には緑青あるいは銅含有彩色材の使用を確認した。「緑青焼け」の現象は、該当箇所において肌裏紙および総裏紙にも及んでいる。総裏紙では、「緑青焼け」の箇所で、より暗い褐色への変色を確認した。さらに、紙中のセルロース分子量については、肌裏紙、総裏紙ともに、「緑青焼け」の箇所では無着色部分に比較し1/2程度に分子量が低下していることがわかった。(備考 図1、図2 参照)
2. 「緑青焼け」の影響がみられる部分の裏打紙中において、Cu検出量は、肌裏紙>総裏紙>吸取紙 であることから、Cuは本紙表面より肌裏紙、総裏紙と裏面の方向に拡散し、洗浄の際には吸取紙へも移動したことが示唆された。後者は、Cu成分の一部が水溶性であることを示している。顔料に由来するCuは、肌裏紙、総裏紙にも移動し、これらが、裏打紙の分子量低下をも促進していることが示唆され、絹本絵画の修復における、裏打紙の交換工程の有効性を裏付ける根拠の一部が示された。

論文

- Keiko Kida, Antje Potthast, Masamitsu Inaba, Noriko Hayakawa, The Effect of Iron Ions from Prussian Blue Pigment on the Deterioration of Japanese Paper, *Restaurator*, 36(4) pp.251-268, 15.12
- 貴田啓子、岡泰央、稲葉政満、早川典子「緑青焼け絹本絵画における裏打紙の劣化」『マテリアルライフ学会誌』掲載待ち

発表

- 貴田啓子、岡泰央、稲葉政満、早川典子「緑青を使用した絹本絵画における裏打紙の劣化」文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.28
- Keiko Kida, Yasuhiro Oka, Masamitsu Inaba, Noriko Hayakawa: Effect of malachite corrosion on the molecular weight distribution of cellulose in lining paper used for color painting on silk, 10th International Symposium on Weatherability, Ota Campus of Gunma University Graduate School of Science and Technology, 15.7.2

研究組織

○貴田啓子（日本学術振興会特別研究員）

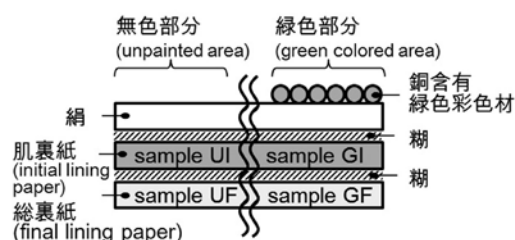


図1 絹本資料の構造模式図および試料採取箇所

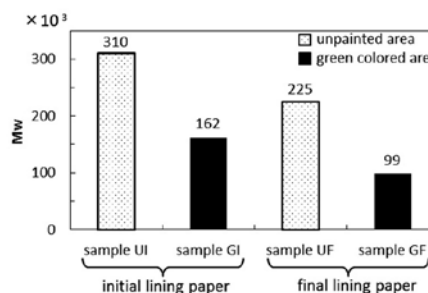


図2 各裏打紙の重量平均分子量 (試料名：図1)

特別研究員奨励費 課題番号15J10544

墨、煤、膠の製法と性状の体系化

(3年計画の第1年次)

目 的

近代以前の書画制作材料及び修復材料の製造技術を多種復元し、さらに体系化・公知化することによって保存する。

成 果

墨液系中の煤分散状態を評価するため高濃度での粒度分布測定が可能な機材を導入し、次年度の実験に向けて予備試験を進めた。

これまでに再現製造を行った菜種油煙、胡麻油煙、障子焼き日本式松煙、煙道状設備を用いた中国式松煙を含む各煤試料と、剃毛獣皮、川晒し脱毛獣皮、獣角等に由来する各種膠試料を用いて、墨試料の混練製造実験を進めた。さらに試料原料毎の混練状況及び紙上における滲み特性を予備評価し、次年度以降に引き続く混練試験体調製及び試料性状分析の条件詳細について検討を行った。近代以前の文献資料をもとに当初検討していた原料配合条件について、その一部については操作上実現が事実上不可能であり、特に嵩密度が非常に小さい一部の煤試料と少量の膠を合わせる条件では成形及び混練自体が極めて困難であることを実験的に確認した。

研究組織

○宇高健太郎（日本学術振興会特別研究員）

毘沙門天像の成立と展開—唐・宋・元から平安・鎌倉へ—

(3年計画の第1年次)

目 的

本研究「毘沙門天像の成立と展開—唐・宋・元から平安・鎌倉へ—」は、東アジアの仏教において大変重要視された毘沙門天が、7から14世紀においてどのように信仰され、また関連する美術作品を生み出してきたかという問題について考察するものである。

第1年次は、毘沙門天信仰とその造像の全容を把握することを目的とした。先行研究でも手薄であり、また申請者自身も今後の課題としてきた13・14世紀及び中央アジア諸国に考察の対象を広げた。具体的には鎌倉時代の神奈川・清雲寺像などの慶派による造像、中国河北省・居庸関像などのインド・チベット系の四天王像を中心に、資料や経典の収集・分析、作品調査を踏まえた上で、造形的特質と思想背景・人的環境という三点から個々の作品の史的意義を実証的に位置づけようとするものである。

成 果

1. 在日本・アジア・欧米の毘沙門天像（14世紀までに制作された彫像・画像）に関するデータベース作成。データベースフォーマットの作成、作品情報（所蔵者、所在地、指定分類、像種〈独尊／二天／四天王／その他〉、彫像／画像の別）の抽出、画像スキャンなどの作業を含む。FileMakerで作成中。
2. 元代の毘沙門天像に関する資料収集・整理。
元代の毘沙門天像を含む仏教美術作品に関して、河北省・居庸関および浙江省・飞来峰造像を中心に画像や書籍等の資料を収集し、整理を行った。産休・育休からの復帰後、現地調査を経て考察結果を論文にまとめ、発表する予定である。
3. 鎌倉時代の毘沙門天像に関する資料収集・整理。
鎌倉時代の毘沙門天像に関する資料収集・整理を行う。なかでも神奈川・清雲寺像については28年春夏に調査予定。調査後に考察結果を論文にまとめ発表予定。
4. 博士論文の出版に関する準備。
博士論文の出版・書籍化に向け、博士論文で触れた作品について、重要なものを抽出し、考察を行った。なかでも博士論文に収録したうち、単独の刊行論文として未発表である京都・鞍馬寺像、奈良・信貴山寺像、滋賀・善水寺像について再検討している。信貴山寺像については2015（平成27）年10月に東京大学大学院美術史研究室で研究発表をし、論文の刊行化にむけて具体的な意見交換を行った。

研究組織

○佐藤有希子（日本学術振興会特別研究員）

備考

2016（平成28）年1月から産前産後休暇を取得しているため、本研究成果は2015（平成27）年12月までに得られたものである。

平安密教彫刻論

（1年計画の第1年次）

目 的

400年に及ぶ平安密教彫刻のありようを探る研究はこれまで皆無に等しい。本研究ではこれまで敬遠されがちであった密教経典・儀軌の精読に立脚しつつ「密教図像学」の研究手法を前面に打ち出し、各尊像の図像表現の解明を行う。あわせて広く「密教図像学」の研究手法を用いて彫刻史研究を行ううえで指針となり得ることを目指す。その際、400年にわたる平安密教彫刻の動向を、次の三つの枠組み設定で俯瞰し、特色を明らかにする。すなわち、(1) 舶来の密教図像をできる限り忠実に彫像で再現する動向、(2) 密教図像を経典・儀軌の所説と照合させ、両者に相違がある場合は、経典・儀軌の所説を優先させ、これに則って図像表現を改変しながら彫像で再現する動向、(3) 既知・既存の図像はもとにしなが、これに適宜改変を加え、日本独自の密教像に昇華させてゆく動向、である。これらのうち(1)は、400年に及ぶ平安時代の密教造像の基調をなし、10世紀初頭頃から(2)の動向が顕著となる。この経典・儀軌による照合を通じ、既知の図像を造像に際してどこまで改変するかの判断は、密教僧の見識に委ねられており、そこに恣意的な判断が強くはたらくとき、日本独自の新たな密教尊像の創造に結びつく。その傾向は10世紀末頃から顕著化し、これを(3)として捉える。(3)の動向については、これまでの研究で言及されることがなく、本刊行物の特色を示すものもある。もとより平安後期にあっては上述の(1)、(2)と、(3)の動向が共存することになり、むしろ、そのことで平安密教彫刻が多種・多様な造形を呈することとなった。このことを論中で明らかにし、結語であわせて、その後の密教造像の展望に及ぶ。

成 果

『平安密教彫刻論』（津田徹英著 A5判、縦1段、9ポ、808頁、発行部数450部、口絵16頁、挿図616枚、中央公論美術出版 ISBN 978-4-8055-0751-3）を2016年2月25日に刊行した。目次は以下の通り。

総 論 平安密教彫刻への視座	第 9 章 滋賀・錦織寺天安堂毘沙門天像と天台系所伝『北方毘沙門天王随軍護法真言』
第 1 部 図像受容のあり方と木彫像による再現	第10章 飛天光背の展開
第 1 章 高野山金剛峯寺旧金堂所在 焼失七尊像	第11章 神奈川・宝樹院 阿弥陀三尊像へのまなさし
第 2 章 承和期真言密教彫刻の展開	第12章 茨城・五大力堂五大力菩薩像（治承二年銘）
第 3 章 室生寺金堂本尊私見	第 3 部 新たな密教尊像の顕現
第 4 章 醍醐寺如意輪観音像考	第13章 北斗曼荼羅の展開と「星宿之明鑑」
付論 I 寛治三年の上醍醐清瀧宮の造営—延命院をめぐる範俊・義範の攻防と座主勝覚—	第14章 寺門の尊星王
第 5 章 滋賀・神照寺千手観音菩薩立像	付論 III 禹歩・反閤と尊星王・六字明王の図像
第 6 章 醍醐寺五大明王像（霊宝館所在）の伝来とその造像	第15章 千葉・東光院本尊 伝「七星七仏薬師」坐像の図像表現
付論 II 醍醐寺伽藍整備期の造仏工房	第16章 十一面観音像が戴く異形の頂上仏面
第 2 部 造像と規範	第17章 白河・鳥羽両院の白衣観音信仰とその造像
第 7 章 書写山円教寺根本堂伝来滋賀・舎那院蔵薬師如来坐像をめぐる	第18章 六字明王の出現
第 8 章 滋賀・錦織寺不動明王立像の周辺—不動明王彫像の額上髪にあらわれた花飾り—	結 語 平安密教彫刻の地平

研究組織

○津田徹英（企画情報部）

SAT 大正新脩大藏經 圖像編 データベース

（1年計画の第1年次）

目 的

『大正新脩大藏經』圖像編（全12巻）は、仏尊の画像情報をはじめ、関係情報を収載した平安・鎌倉時代のさまざまな密教関係を中心とする画像集を収載する。しかし、公刊以来、紙媒体で大部に及ぶため、デジタル時代に対応した画像検索、情報検索が要請されてきた。既に、『大正新脩大藏經』全85巻についてのデータベースを立ち上げ、研究と利用の便を図ってきた実績にもとづき、その圖像編の全文データ入力ならびに、そこに収められた諸尊画像を断片的情報（面数、臂数、持物、印相、装身具）などから検索し、尊像名の特定や類似尊像の類集（いわゆる「絵引き」）の便をはかり、あわせて、そこに記された依拠する經典類の記述等にまで辿りつけるような検索システムを公開することを本データベース作成の目的とする。今回は、そのための入力ソフトを組み上げ、第1、2巻の画像類約4,300件の検索のためのタグ付けを行うとともに、断片的情報（尊種、面相表現、臂数、持物・三昧耶形、印相、装身具、台座、光背）などからの項目検索によって尊像名の特定や類似尊像の類集を行うことができるようにすべく、データ入力・集積を行う。

成 果

『大正新脩大藏經』圖像編のための入力ソフトを組み上げ、第1・2巻所載の以下の密教諸尊の画像4230尊について絵引き検索のための各尊についてのタグ付けと、項目（面数、臂数、持物、印相、装身具、台座、光背）についての詳細入力を行った。

第1巻

『四種護摩本尊眷属様』画像188尊、『金剛界三昧耶曼荼羅』三昧耶形92尊、『諸説不同記』三昧耶形309尊、『現因所伝法明抄』三昧耶形71尊・画像26尊、『仁和寺版 大悲胎藏大曼荼羅』画像437尊、『仁和寺版 金剛界九会曼荼羅』画像399尊、『金剛界曼荼羅（成身会並羯摩会）』画像73尊、『金剛界三昧耶曼荼羅』三昧耶形92尊、『三十七尊賢劫十六外金剛二十天画像』画像92尊、『三昧耶形 法輪院』三昧耶形98尊、『御筆 四種護摩壇三十七尊賢劫三昧耶形』三昧耶形90尊、『三昧耶形 御筆第三伝本』三昧耶形91尊

第2巻

『胎藏画像』上・下巻画像174尊、『胎藏旧画像』画像493尊、『五部心観』画像149尊、『園城寺本 五部心観』画像21尊、『武藤本 五部心観』画像97尊、『胎藏画像（久原本）』画像118尊、『叡山本 大悲胎藏曼荼羅』上・下巻画像399尊、『叡山本 金剛界曼荼羅』画像77尊、『石山寺本 大悲胎藏三昧耶曼荼羅』三昧耶形307尊、『胎藏曼荼羅略記』上・下巻三昧耶形264尊、『護摩壇様並三十七尊三昧耶形』三昧耶形73尊

データベースの公開 <http://dzkimgs.l.u-tokyo.ac.jp/SATi/images.php>

研究組織

- 津田徹英（企画情報部）、下田正弘（東京大学）、永崎研宣（一般財団法人人文情報学研究所）、朴亨國（武蔵野美術大学）



タグ付入力画面

江戸時代における初期文人画の基礎的研究—中国絵画学習とその地域性について—

(2年計画の第1年次)

目 的

江戸時代の絵画研究において、中国絵画からの影響と、そのアレンジに関する時代的・地域的な考察は、きわめて重要な問題である。

本研究では、江戸時代の文人画家のネットワークにおける中国絵画学習の様相を解明することで、その表現の時代差と地域差を再検討する。

日本の初期文人画家を代表する祇園南海・彭城百川・柳沢淇園の三者は、従来、現存作例が少なかったが、近年、祇園南海の新出作例が相次いで発見されるなど、三者それぞれの地域や人的交流に即した、より具体的に個別な研究が求められている。

また、三者が、ほぼ同時代に紀州、名古屋、奈良という異なる地域で活躍したことを考えると、三者の相違が地域差を反映している可能性も高い。

そこで、三者の現存作品の悉皆的な調査をおこない、その表現における中国絵画からの影響を具体的に抽出することで、三者が活躍した地域との関連性や、文人ネットワークとの交流を明らかにしたい。

成 果

1. 祇園南海の研究を進展

申請者がこれまでおこなってきた祇園南海の研究を続け、まず、祇園南海筆と伝えられていた「山水図巻」(東京国立博物館蔵)の表現の再検討をおこなった。そのうえで、「山水図巻」が、祇園南海の真筆である可能性が高いことを指摘し、同図の表現の中に、熊野の実景に基づいた真景表現と、中国絵画学習に基づく表現が併用されていることを解明した。こうした表現が、池大雅をはじめとする後世の文人画における真景表現にどのような影響を与え得たのか、また、南海の表現の独自性とは何なのかを検討した。

2. 彭城百川の作品調査・撮影・データ整理

主に個人蔵の彭城百川の作品について、合計63件(掛軸53件、画卷1件、画帖1件、屏風1件、額5面、絵図2件)の調査をおこない、それぞれについて、全図・部分の詳細な写真を撮影し、その写真資料をもとに、データ整理をおこなった。

発表

- ・安永拓世「江戸時代の山水画に見る材質効果と筆墨表現—文人画を中心に—」大和文華館特別講演 大和文華館 16.3.2

研究組織

- 安永拓世(企画情報部)

2 受託調査研究・外部機関との共同研究及び外部資金による研究一覧

(1) 受託調査研究一覧

研究課題	研究代表者	依頼元	頁
第39回世界遺産委員会審議調査研究事業	川野邊渉	文化庁	123
国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務	岡田健	文化庁	124
高松塚古墳壁画の保存・展示の在り方に関する調査業務	岡田健	文化庁	125
特別史跡キトラ古墳保存対策等調査業務	岡田健	文化庁	126
文化遺産国際協力拠点交流事業（ミャンマーの文化遺産保護に関する拠点交流事業）	友田正彦	文化庁	127
文化遺産国際協力拠点交流事業（大洋州島しょ国の文化遺産保護に関する拠点交流事業）	飯島満	文化庁	128
文化遺産国際協力コンソーシアム事業	川野邊渉	文化庁	129
文化遺産保護国際貢献事業（専門家交流）ネパールにおける文化遺産被災状況調査事業	友田正彦	文化庁	130
美術工芸品修理技術人材等に関する調査研究事業	川野邊渉	文化庁	131
国宝 平等院鳳凰堂須弥壇漆塗調査業務	早川泰弘	京都府	132
高精細デジタル画像を活用した「菜蟲譜」複製製作に関する調査研究	早川泰弘	佐野市	133
ユネスコ文化遺産保存日本信託基金「シルクロード世界遺産登録に向けた支援事業（第2期）」	山内和也	ユネスコ世界遺産センター	134
ユネスコ文化遺産保存日本信託基金「バガン建築遺産保存のための技術支援」	友田正彦	ユネスコ・バンコク事務所	135
シュエナンドー僧院における漆工部材の保存修復に関する調査研究事業委託	友田正彦	ワールドモニュメント財団	136
ラチャプラディット寺院の螺鈿扉の修復計画策定のための調査研究	川野邊渉	ラチャプラディット寺院	137
国宝銅造阿弥陀如来坐像保存修理及び調査研究	森井順之	宗教法人高德院	138
日光の歴史的木造建造物の温風処理等による新たな殺虫処理方法の検討	木川りか	公益財団法人日光社寺文化財保存会	139
文化財展示収蔵施設等のATP調査における留意点の検討	木川りか	公益財団法人文化財虫菌害研究所	140
絵金屏風の保存修理に関する調査研究	岡田健	公益財団法人熊本市美術文化振興財団	141
X線透過撮影によるピカソ作《青い肩かけの女》の光学調査	犬塚将英	愛知芸術文化センター	142

エジプト国大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト（フェーズⅡ）	山内和也	独立行政法人国際協力機構	143
大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト「保存修復材料としての和紙研修」にかかる国内支援業務	山内和也	独立行政法人国際協力機構関西国際センター	144

第39回世界遺産委員会審議調査研究事業

目 的

世界遺産委員会の審議にあたって、専門的観点による諮問機関（イコモス）の勧告、及び世界遺産委員会審議結果の分析等を行うことにより、今後の我が国の世界遺産政策を円滑に推進することを目的とする。

成 果

本事業では、2015（平成27）年6月28日～7月8日にドイツ・ボンで開催された第39回世界遺産委員会に関連して下記の項目を実施した。

1. イコモスによる推薦物件に関する勧告内容の分析（2015（平成27）年5月中旬～6月中旬）
世界遺産一覧表記載物件の保全状況（議題7）及び世界遺産一覧表推薦物件の審査（議題8）に関して、イコモスによる評価と決議案の日本語での要約を作成した。
2. 世界遺産委員会対処方針作成支援（2015（平成27）年4月上旬～6月中旬）
審議文書公開に先立ち、新規推薦予定物件関連の情報を収集・要約した。
ア）議題8について、イコモスの評価の要点やその妥当性、物件自体の特徴に関してコメントを作成した。
その際、当該物件や推薦国に関する知識を持つ専門家にも情報提供を依頼した。
イ）議題7の委員会での審議予定物件に関しても、議題8と同様にコメントを作成した。
3. 世界遺産委員会での情報収集と議事概要の作成（2015（平成27）年6月下旬～7月中旬）
ア）第39回世界遺産委員会に参加し、本会議の全議題及び作業指針に関する作業部会に参加、議事を記録した。
イ）我が国が推薦した「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の審議では、審議終了直後に議事録を文化庁関係者と共有、報道発表資料作成を支援した。
4. 審議における議論の内容及び決議の分析と提言、報告書作成（2015（平成27）年7月下旬～10月末）
ア）議題7、8に関して（3）で作成した議事録を要約、（1）で作成した審議文書要約、決議要約とともにまとめた。また、本会議での審議全体についてまとめた。
イ）我が国が委員国を務めた2012（平成24）年以降の世界遺産委員会を概観、今後の世界遺産関連の活動について提言した。

刊行物

- ・『平成27年度文化庁委託 第39回世界遺産委員会審議調査研究事業』東京文化財研究所 15.10

研究組織

○川野邊渉、境野飛鳥、増渕麻里耶、橋本広美（以上、文化遺産国際協力センター）、二神葉子（企画情報部）、原本知実（客員研究員）

備 考

本研究は、文化庁より依頼された。

国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務

目 的

国宝高松塚古墳壁画の恒久的な保存方針に基づき、壁画の修理及び修理環境の保全並びに壁画の劣化原因及び劣化防止対策措置などの調査・研究業務を行う。

成 果

1. 生物及び環境関連研究

- ・修理施設内での害虫等生息調査、浮遊菌・付着菌量、また温湿度推移のモニタリングを継続し、安定した保存環境の維持に努めた。また、適切な空調制御方法を検討するための、現状のプロセス解析を行うシステムを構築した。
- ・高松塚古墳の微生物分離株は、劣化要因の調査や漆喰壁からのカビの除去試験などで利用されたのち、アンプルとして保存されており、貴重な資源となっている。これらの微生物株を今後も確実に保存していくため、菌株のデータ集、基本台帳やシークエンスデータファイルの作成を進め、かつ公的機関への寄託を開始した。
- ・福岡県うきは市珍敷塚古墳及び日岡古墳で装飾古墳の保存環境調査を継続実施した。珍敷塚古墳では保護施設の改修を視野に入れた温湿度調査を継続した。日岡古墳では、冬季に発生する保存施設内壁の結露対策として断熱工事が行われることに備えて、同施設の壁面温度の計測を行った。

2. 修復関連研究

- ・高松塚古墳壁画のクリーニング方法として、酵素の使用方法に関して、現場での作業性の向上を検討し、適用した。また、表面再結晶部分の確認も継続して行っている。

3. 材料技法研究

- ・奈良文化財研究所との共同により、高松塚古墳壁画に関する色料の分析調査を継続的に実施している。新たに蛍光分光法を適用するための基礎的検討を行った。また、これまでに取得した膨大な分析データの整理を行った。

4. 研究所古墳壁画保存対策プロジェクトチーム会議の開催

- ・古墳壁画保存関連の事業全般について情報共有を行い、効率的で正確な作業を行うために、2015（平成27）年5月14日、9月17日、11月30日、2016（平成28）年2月23日の4回にわたり、奈良文化財研究所と古墳壁画保存対策プロジェクトチーム会議を開催した。

研究組織

○岡田健、佐野千絵、木川りか*、早川泰弘、朽津信明、北野信彦、吉田直人、犬塚将英、佐藤嘉則、早川典子、森井順之（以上、保存修復科学センター）、川野邊渉、加藤雅人、山田祐子、楠京子（以上、文化遺産国際協力センター）、酒井清文、大河原典子、前川佳文（以上、客員研究員） *平成27年10月1日より九州国立博物館

備 考

本研究は、文化庁より依頼された。

高松塚古墳壁画の保存・展示の在り方に関する調査業務

目 的

高松塚古墳壁画の修理後の在り方については、古墳壁画の保存活用に関する検討会において議論が重ねられ、26年3月には「高松塚古墳壁画修理後の当分の間の保存の在り方について」（以下「修理後の保存方針」という。）が決定された。恒久保存方針及び修理後の保存方針は、「将来的には、カビ等の影響を受けない環境を確保した上で現地に戻す」ということについて共通しており、特に修理後の保存方針においては、「壁画・石室の保存管理・公開を行うための施設」の在り方についても検討することとされている。

本調査においては、高松塚古墳壁画修理後の当分の間の保存・展示の在り方について調査を行い、古墳壁画の保存活用に関する検討会での議論に資することを目的とする。当研究所に与えられた任務は、主に保存科学、文化財科学の見地から日本国内の展示事例を調査し、壁画の保存・展示の望ましい形を提案するための検討作業に資することである。

成 果

本年度は、昨年度の日本国内の装飾古墳の展示事例に関する調査に続き、中国及びイタリアにおける展示事例を調査し、保存・展示に関する考え方を整理し、文化財の展示設計に経験のある専門会社に委託し、具体的な展示方法を示す資料を作成し、古墳壁画の保存活用に関する検討会（第18回：12月22日、第19回：3月22日）に報告した。

1. 事例調査

国外において、原所在地から移動して保存・公開されている古墳壁画の対象として調査を実施した。その内容は、a) 発見・発掘された後に原所在地（古墳、発掘遺跡等）から移動して現在の施設に保管・展示されるに至る考え方、b) 現在の保管・展示環境における保存と公開の履歴、c) 展示効果・保存環境等の課題、である。

中国：陝西省考古研究院、西安市長安区郭新莊村韓休墓発掘現場、同研究院涇渭基地（収蔵施設）、陝西省文物保護研究院、咸陽市文物保護センター、陝西歴史博物館、西安曲江藝術博物館、漢陽陵博物館、西安交通大学（6月15日～18日）、河北省博物館（6月20日）。陝西省考古研究院において、壁画保存に関して報告会を開催し、相互の情報交換を行った。

イタリア：ポンペイ遺跡、エルコラーノ遺跡、ナポリ国立考古学博物館他（9月7日～11日）

2. 展示設計会社によるプランの作成

奈良文化財研究所との共同により、キトラ古墳壁画に関する色料の分析調査を継続的に実施している。新たに蛍光分光法を適用するための基礎的検討を行った。また、これまでに取得した膨大な分析データの整理を行った。

3. 報告書作成

東京国立博物館で開催された特別展「キトラ古墳壁画」では、輸送・梱包・環境調整・画像展示などについて協力した。

研究組織

○岡田健、佐野千絵（以上、保存修復科学センター）

備 考

本調査研究は、文化庁からの受託事業である。事業は2ヵ年で、第1年目に続き第2年目を担当した。

特別史跡キトラ古墳保存対策等調査業務

目 的

特別史跡キトラ古墳は、高松塚古墳と同様に彩色壁画のある終末期古墳として重要な古墳である。取り外した壁画の保存修復措置および古墳・石室内の保存環境の調査研究、ならびにこれまで採取されたカビ等の微生物の総合調査等、古墳・壁画の保存・活用にかかわる調査・研究の業務を実施する。

成 果

1. 生物環境関連研究

ア) 2012（平成24）年9月に石室内から採取した試料、及び2013（平成25）年2月に実施されたキトラ古墳盗掘口のステンレス台取り外しに伴う盗掘口、閉塞石からの微生物採取試料について、菌叢を調査した結果をとりまとめた。また、キトラ古墳石室が発掘された2004（平成16）年から石室の埋戻しが行われた2013（平成25）年までの期間にわたる微生物の調査結果を踏まえ、微生物相の推移についてとりまとめを行った。

イ) キトラ古墳に由来する微生物株についても、高松塚古墳由来の微生物株と並行して、公的菌株保存機関への寄託を念頭に、基本台帳とDNAシーケンスデータファイルの作成を実施した。

2. 修復関連研究

漆喰の再構成を行うために、修復材料の検討を行った。また、表面のクリーニングのために酵素の使用を検討し、汚れの状態によって異なるクリーニング手法を適用することを確認した。来年度以降に本格的に修理作業内に実施していく予定である。

3. 材料技法研究

奈良文化財研究所との共同により、キトラ古墳壁画に関する色料の分析調査を継続的に実施している。新たに蛍光分光法を適用するための基礎的検討を行った。また、これまでに取得した膨大な分析データの整理を行った。

4. 特別展「キトラ古墳壁画」への協力

東京国立博物館で開催された特別展「キトラ古墳壁画」では、輸送・梱包・環境調整・画像展示などについて協力した。

研究組織

○岡田健、佐野千絵、木川りか*、早川泰弘、朽津信明、北野信彦、吉田直人、犬塚将英、佐藤嘉則、早川典子、森井順之（以上、保存修復科学センター）、川野邊渉、加藤雅人、山田祐子、楠京子（以上、文化遺産国際協力センター）、酒井清文、大河原典子、前川佳文（以上、客員研究員） *平成27年10月1日より九州国立博物館

備 考

本研究は、文化庁より委託された。

文化遺産国際協力拠点交流事業（ミャンマーの文化遺産保護に関する拠点交流事業）

目 的

ミャンマー連邦共和国文化省考古・国立博物館局を相手国拠点とし、歴史的建造物、壁画・漆芸等の工芸、考古学遺跡・遺物の三分野において、専門家交流及び技術移転・人材育成への協力を行う。

成 果

1. 専門家派遣

ア) 2015（平成27）年6月14日から23日まで、壁画保存専門家2名をバガンに派遣し、No.1205寺院の堂内外環境調査、屋根損傷状態調査、壁画の崩落箇所応急処置を行った。また、考古局職員3名を対象に壁画修復時の調査記録方法や修復材料の調整方法等に関する実習を行った。

イ) 2015（平成27）年6月29日から7月11日まで、建築保存専門家4名をマンダレー及びインワに派遣し、考古局職員ほか11名を対象に第4回木造建造物保存研修を実施した。

ウ) 2015（平成27）年11月19日から26日まで、考古学、遺跡整備等の専門家3名を派遣し、ピョ考古学フィールドスクール及びシュリクシェトラ遺跡にて遺跡の整備と活用に関するワークショップを開催した。

エ) 2015（平成27）年11月22日から12月6日まで、建築保存専門家4名をマンダレーに派遣し、考古局職員ほか12名を対象に、第5回木造建造物保存研修を実施した。マンダレー王宮内墓所の木造層塔2基に関する修理計画策定調査を中心に現場実習と研修総括を行った。

オ) 2016（平成28）年1月7日から18日まで、壁画保存専門家6名と金属分析及び計測の専門家各1名をバガンに派遣し、No.1205寺院壁画の調査や応急的保存処置、考古局職員への研修を行った。

2. ミャンマー人専門家招聘研修

ア) 2015（平成27）年7月28日から8月6日まで、上記木造建造物保存研修に参加している考古局職員3名および考古局マンダレー支局長の計4名を日本に招聘し、文化財建造物保存修理に関する研修を行った。座学のほか、各地にて修理工事現場を含む実地研修を行った。

イ) 2016（平成28）年2月14日から22日まで、文化省の考古学専門家2名を日本に招聘し、遺跡の整備と活用に関する研修を奈良文化財研究所ほかにて行った。

刊行物

- ・『平成25-27年度文化庁委託文化遺産国際協力拠点交流事業 ミャンマーにおける文化遺産保護に関する拠点交流事業報告書』東京文化財研究所 16.3

研究組織

○友田正彦、川野邊渉、山下好彦、佐藤桂、楠京子、増渕麻里耶、山田大樹、北川瑞季、橋本広美（以上、文化遺産国際協力センター）、前川佳文（客員研究員）、近藤光雄、佐藤武王、片桐京司（以上、文化財建造物保存技術協会）、小野健吉、杉山洋、森本晋、影山悦子、佐藤由似（以上、奈良文化財研究所）

備 考

本事業は、文化庁より委託された。なお、招聘を含む考古学分野の事業については、奈良文化財研究所に再委託して実施した。また、建造物分野の事業については、公益財団法人文化財建造物保存技術協会の技術協力を得て実施した。

文化遺産国際協力拠点交流事業(大洋州島しょ国の文化遺産保護に関する拠点交流事業)

目 的

本受託事業は、太平洋島しょ国において気候変動により影響をこうむる可能性の高い文化遺産を対象に、その保護および記録のための技術移転・人材育成をおこなうことを目的とする。殊に文化的景観や無形文化遺産は衰退・消滅の危機に瀕しており、その保護・記録は緊急の課題である。そのための情報共有・意見交換を行い、ドキュメンテーション作成についての技術的研修、それら文化遺産の保存・活用の在り方を検討するものである。

成 果

南太平洋大学と共同で、フィジーの離島ガウ島において現地ワークショップをおこなった。ここでは、実際に気候変動の影響を被っている文化遺産の現状を確認するとともに、そうした具体的な事例に即しながら、南太平洋大学等の専門家に対し、有形・無形の文化遺産に係るドキュメンテーション作成のための技術移転をおこなうとともに、意見交換・情報共有をおこなった。また現地住民を対象に、彼らが気候変動および文化遺産をどのように認識しているかについての聞き取りをおこなった。さらに上記の現地ワークショップを通じて、実際に気候変動の影響を被っている文化遺産の現状について、さらに現地住民に対する聞き取り調査の様子について、映像による記録作成をおこなうことができた。今後、今回記録した映像を用いて、文化遺産保護の普及・啓発のためのビデオプログラムを作成する予定である。

論文

- ・石村智「気候変動と文化遺産」『日本オセアニア学会Newsletter』113号 日本オセアニア学会 pp.1-9
16.3

発表

- ・石村智「気候変動と文化遺産」第33回日本オセアニア学会研究大会・総会 マホロバ・マインズ三浦
16.3
- ・石村智「気候変動が文化遺産に及ぼす影響」(ポスター発表)第62回考古学研究会総会・研究大会 岡山大学 16.4 (予定)

研究組織

○飯島満、久保田裕道、石村智、佐野真規(以上、無形文化遺産部)、川野邊渉、山藤正敏(以上、文化遺産国際協力センター)

備 考

本研究は、文化庁より委託された。



浸食をこうむった海岸部(フィジー)



地域住民への聞き取り調査(フィジー)

文化遺産国際協力コンソーシアム事業

目 的

文化遺産国際協力コンソーシアム（以下、コンソーシアム）が掲げる、「海外の文化遺産保護に関する国内の連携・協力を推進する」という目標のもと、事務局として各種分科会活動や情報データベースの構築、シンポジウム・研究会の開催等を行うことによって日本の文化遺産国際協力を支援・促進する役割を担う。

成 果

1. コンソーシアムの会議の開催
 - ア) 運営委員会を2回開催し、活動方針を協議したほか、活動報告として総会1回を開催した。
 - イ) 企画分科会ほか、地域ごとの分科会を計13回開催した。
2. 情報共有と情報発信
 - ア) 研究会「危機の中の文化遺産」、「文化遺産保護の国際動向」を開催した。
 - イ) コンソーシアム紹介パンフレット、日本の文化遺産国際協力概要小冊子（ともに日英併記）を刊行した。
 - ウ) 公式ウェブサイト、会員向けSNS（データベース含む）の改善点を検討し、リニューアルに向けた企画・デザイン等を行った。また分科会の議事録等をSNSにアップし、会員との情報共有を図った。
 - エ) 国内外での文化遺産国際協力に関する学術会議・研修等イベントの情報を収集し、メールニュースとして計22回会員に配信した。
 - オ) 学生会員入会に関する内規を改正し、若手専門家が協議に参加しやすい環境を作った。
 - カ) 2015（平成27）年10月16日付、コンソーシアム会長名で「西アジア文化遺産の違法流通防止に向けての声明」を公開した。
3. 文化遺産国際フォーラムの開催
 - ア) 文化庁、国際交流基金アジアセンターと共催で、アセアン+3文化遺産フォーラム2015「東南アジア諸国と共に歩む—多様な文化遺産の継承と活用—」を開催した。
4. 文化遺産国際協力の推進に資する調査
 - ア) 文化遺産保護分野における国際協力の実施国として、昨今台頭してきている中国と韓国について、両国の事業従事者に対してヒアリングを行った。その後韓国には実地調査団を派遣した。
 - イ) 過去に実施した計25か国を対象とする国際協力調査を総括し、調査の活用実態等を検証した。
 - ウ) 文化遺産の不法輸出入等防止のための情報収集を行った。

報告

- ・『第17回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会「危機の中の文化遺産」報告書』
- ・『文化遺産国際協力コンソーシアム平成27年度諸外国国際協力体制調査 韓国国際協力体制に関する調査報告書』
- ・『アセアン+3文化遺産フォーラム2015「東南アジア諸国と共に歩む—多様な文化遺産の継承と活用—」実施報告』（リーフレット）

刊行物

- ・『文化遺産国際協力コンソーシアム』（パンフレット）
- ・『文化遺産の国際協力』（小冊子）

研究組織

○川野邊渉、加藤雅人、江村知子、井内千紗、狩野麻里子、川嶋陶子、河野輝美（以上、文化遺産国際協力センター）、中野照男（客員研究員）

文化遺産保護国際貢献事業（専門家交流）ネパールにおける文化遺産被災状況調査

目 的

2015（平成27）年4月の大地震で被災した同国の文化遺産に関し、技術的支援を行うとともに、今後の復興過程において必要な情報の蓄積を図り、同国の文化遺産担当職員の専門的対応能力強化に資する。

成 果

1. ネパールへの専門家派遣

ア) 2015（平成27）年9月14日から28日まで、建築・都市・構造・無形分野の専門家計7名を派遣し、文化・観光・民間航空省やUNESCOカトマンズ事務所など歴史遺産保護に係る主要機関との協議のほか、世界遺産を構成する旧王宮や寺院、同暫定リスト記載の歴史的集落等を調査し、本格調査の対象物件や調査手法等を検討した。また、祭礼などの無形文化遺産についても調査した。

イ) 2015（平成27）年10月31日から11月5日まで、建築構造専門家2名を派遣し、現地での材料実験に関する打合せや被災建造物の基礎構造に関する調査等を行った。

ウ) 2015（平成27）年11月21日から12月8日まで、建築・構造・都市・無形分野の専門家計20名を派遣し、主にカトマンズ王宮・同広場及びコカナ集落での調査を行った。カトマンズ王宮及び王宮前広場では、建築被災状況調査、構造解析用の3D計測や常時微動計測等のほか、倒壊したシヴァ寺院からの回収部材の整理・格納・記録を試行し、現地職員へのワークショップも実施した。一方、コカナ集落では、地元住民組織と連携し、町並みの被災状況、形態変容、構造、無形文化遺産、水質等も含む多角的調査を行った。

エ) 2015（平成27）年12月23日から28日まで、構造専門家3名を派遣し、現地研究機関における材料実験に関する打合せ等を行った。

オ) 2016（平成28）年3月7日から27日まで、建築専門家4名を派遣し、カトマンズ王宮にて、アガンチェン寺の詳細実測のほか、倒壊建物からの回収部材整理・格納作業等を継続した。

2. ネパール人専門家招聘・研究会

ア) 2016（平成28）年2月3日から9日まで、文化・観光・民間航空省考古局長、ハヌマンドカ王宮博物館発展委員会事務局長、UNESCOカトマンズ事務所文化担当官の3名を招聘し、「2015年ネパール・ゴルカ地震による被災文化遺産に関するセミナー」及び打合せ等を行った。セミナーでは、地震後の状況や復興対応等に関する情報共有と本事業の進捗報告を含む意見交換等を行った。

刊行物

- ・『平成27年度文化庁委託文化遺産保護国際貢献事業「ネパールにおける文化遺産被災状況調査事業」成果概要報告書』 16.3

研究組織

○友田正彦、川野邊渉、山田大樹、佐藤桂、北川瑞季、近藤洋（以上、文化遺産国際協力センター）、飯島満、久保田裕道、石村智（以上、無形文化遺産部）、古川尚彬（客員研究員）

備 考

本事業は、文化庁より委託された。構造学的調査分析は東京大学生産技術研究所腰原幹雄研究室、歴史的集落の空間利用等調査は東京大学先端科学技術研究センター西村幸夫研究室に再委託したほか、日本工業大学、首都大学東京、香川大学、東京大学、東北工業大学、和歌山県文化財センター等の専門家の参加協力を得て実施した。

美術工芸品修理技術人材等に関する調査研究事業

目 的

本事業では、文化庁の委託により、2ヵ年の予定で修理技術者等の現況調査を行い、今後の修理技術人材等の育成を、適切かつ効率的に行うための方針や方法等を検討するための基礎資料となる調査を行った。

前年度行われた国・都道府県・市区町村を対象とした調査結果の一部である修理業者等一覧を元に、事業者と修理技術者それぞれに関して、修理技術者の雇用状況などと、修理技術者の履歴を中心にアンケート調査を実施し、その傾向を分析した。

成 果

1. 調査（アンケート）内容の決定

文化庁の委託内容に基づいて、調査項目の検討をし、アンケートを作成した。

2. インターネットを使用したアンケート

匿名性を確保することでアンケートの収集率を向上させることを目的に、インターネットホームページでのアンケートを作成し、実施した。

3. アンケート結果のとりまとめ

アンケート結果は統計的に分析するとともに、回答の詳細を集約した。

研究組織

○川野邊渉、加藤雅人、江村知子、境野飛鳥（以上、文化遺産国際協力センター）

備 考

本研究は、文化庁より委託された。

国宝 平等院鳳凰堂須弥壇漆塗調査業務

目 的

国宝平等院鳳凰堂須弥壇について、漆塗膜の剥落や木地の劣化を防止するとともに適切な保存処置方法及び使用材料を選定することを目的とし、破損状況等を詳細に調査したうえで、一部破損の著しい部位において保存処置を実施し、調査結果に基づいて須弥壇の修理計画案を策定する

成 果

平等院鳳凰堂は落慶から960年以上が経過し、昭和大修理（1950（昭和25）年着手、1957（昭和32）年竣工）からも58年間の経過して損傷が各所で進行している。現在、鳳凰堂内彩色の保存修理事業が進められているが、須弥壇に関する保存修理も急務と考えられる。須弥壇は螺鈿や玉のほとんどがすでに欠失し、須弥壇高欄の朱漆塗膜と須弥壇基部の金平塵が蒔かれた塗膜に関しても劣化と剥離が著しく進行している状況にある。

須弥壇の構造や損傷の特殊性から、修理施工方法や修理材料に関しては十分な検討が必要と考えられ、まず須弥壇の高欄と基壇について詳細に現状を調査し、漆塗技法と材料および損傷状況を明確にした。その調査結果を踏まえ、京都府、平等院、東京文化財研究所の担当者と協議し、破損の著しい部位について試行的に修理施工を行うことを決定するとともに、施工方法及び材料に関する検討をさらに行い、修理施工計画を策定した。

修理施工計画に基づき、須弥壇の南階段西側の須弥壇および高欄の一部について修理施工を実施した。施工については、現状維持を基本とし、脆弱化した各素材の強化や剥落止めの処置だけを行うこととした。

研究組織

○早川泰弘、早川典子（以上、保存修復科学センター）、山下好彦（文化遺産国際協力センター）、城野誠治（企画情報部）

備 考

本研究は、京都府より委託された。

受託研究

高精細デジタル画像を活用した「菜蟲譜」複製製作に関する調査研究

目 的

平成22～25年度に実施した伊藤若冲「菜蟲譜」の光学調査によって取得した高精細デジタル画像の有効活用を図り、取得成果の公開を進めることを目的とし、佐野市立吉澤記念美術館と協力して、「菜蟲譜」巻子の複製を製作することで最適な高精細デジタル画像の提示方法、印刷方法等に関する調査研究を行う。

成 果

高精細デジタル画像による複製製作にあたり、その質感をできる限りオリジナルに近づける目的で、光学調査によって得られた高精細画像から「菜蟲譜」に使われている絹糸の太さ、本数などを調べ、それにできるだけ近い複製製作用の絵絹を新たに製作した。

この絵絹にインクジェットプリンタでの印刷を行うためには、絵絹表面に無色透明のコーティングを施す必要があり、その濃度・厚さ等を検討した。コーティングによって絵絹の硬さも影響を受けてしまうため、絵絹に適度の水を通すことで、最適な硬さ・表面状態の絵絹に仕上げた。

表面コーティングが施された絵絹に当研究所所有のインクジェットプリンタでテスト印刷を実施した。インクは所定の濃度で定着し、擦れや水濡れが生じてもインクの滲みや剥落がほとんど生じないことを確認した。

全12mにわたる「菜蟲譜」の高精細画像について、当研究所所有のインクジェットプリンタによって上記の絵絹に印刷を施した。

「菜蟲譜」では絵絹裏面に置かれている肌裏紙が着色されており、それが絵画の発色に大きな効果を与えている。数種類の着色を施した肌裏紙を製作し、テスト印刷した絵絹裏面に置いて、表面からの見えに与える影響を調べ、適切な肌裏紙の選定を行った。

インクジェットプリンタによって印刷された絵絹、選定した肌裏紙を使い、卷子への仕立てを行い、「菜蟲譜」複製の完成をみた。

研究組織

○早川泰弘（保存修復科学センター）、城野誠治（企画情報部）

備 考

本研究は、栃木県佐野市より委託された。

ユネスコ文化遺産保存日本信託基金「シルクロード世界遺産登録に向けた支援事業(第2期)」

目 的

本事業は、中央アジア5か国（ウズベキスタン共和国、カザフスタン共和国、キルギス共和国、タジキスタン共和国、トルクメニスタン）によるシルクロード関連遺産の世界遺産一括登録への支援を目的とする。2014（平成26）年、カザフスタン及びキルギスが中国と共同申請した「シルクロード：長安・天山回廊の交易路網」の世界遺産登録が決定したが、今後も引き続き5ヶ国によるシルクロード関連遺産の世界遺産への登録申請が予定されている。また、5か国間の緊密な協力による持続的な文化遺産マネジメント体制の構築が今後の課題として残されている。これを踏まえ、世界遺産登録に必須な文化遺産のドキュメンテーション技術や利活用について、それを現地で担う人材の育成や最新技術の移転が本事業のより具体的な達成目標となる。

成 果

1. ワークショップの実施：2015（平成27）年10月2日から10日にかけて、キルギス南部のウズゲン市において、考古・建築遺産を対象とした文化遺産ドキュメンテーション技術の向上と遺産のマネジメントプラン作成に向けたワークショップを開催した。ワークショップでの実施項目は以下の通りである。
 - ア) GNSS（衛星測位システム）受信機とGIS（地理情報システム）ソフトウェアを用いた遺跡分布図の作成手法
 - イ) 小型UAV（無人航空機）による航空写真と3次元モデル生成ソフトウェアを用いた考古遺跡の地形測量や建築遺産の高精細3次元モデル作成
 - ウ) 文化遺産マネジメントプラン作成の模擬演習
2. 国際会議への参加：2015（平成27）年11月23日から27日にかけて、カザフスタンのアルマトイで開催されたユネスコ主催による「第4回シルクロード世界遺産登録調整会議」に参加し、本事業の概要及びこれまでの成果について公表した。また、キルギス、ウズベキスタン、カザフスタンを主たる経路とする新たなシルクロード世界遺産登録構想（「フェルガナーシルダリヤ回廊」）についての提案を行った。

発表

- ・ Kazuya Yamauchi: Review of the results of the UNESCO/Japanese FIT project "Support of documentation standards and procedures of the Silk Roads World Heritage serial and transnational nomination in Central Asia," 2011-2014. Fourth Meeting of the Coordinating Committee on the Serial World Heritage Nomination of the Silk Roads Hotel Holiday Inn, Almaty 15.11

研究組織

○山内和也、久米正吾、山田大樹、山藤正敏（以上、文化遺産国際協力センター）、間舎裕生（客員研究員）

備 考

本研究は、ユネスコ世界遺産センターより委託された。

ユネスコ文化遺産保存日本信託基金「バガン建築遺産保存のための技術支援」

目 的

本事業は、東南アジアを代表する仏教遺跡群の一つである、ミャンマー・バガン遺跡における保存管理水準の向上と体制強化に資するため、これを担当する文化省考古・国立博物館局（DoA）への技術支援を行うことを目的とし、2014年より2年間にわたりユネスコ・バンコク事務所が実施した。具体的には、①遺跡インベントリーの更新、②遺跡保存状態評価手法の確立、③これらを通じた人材育成・技術移転を内容とする。本研究の受託内容はこのうち主に②に関連し、特に建造物の構造的側面に係る部分である。

成 果

3,000を超える遺跡の全体について簡便に保存状態を把握するための標準的フォーマットとして「簡易状態評価シート」を作成するとともに、保存状態に問題があると判定された建造物を対象に行われる次のステップとして、「詳細状態評価ガイドライン」を作成した。後者については、ケーススタディとして、同遺跡群における祠堂建築として標準的な規模・形式を有し、劣化状態においても典型的状況を示す建造物として、ピャーサーシュウェグー（No.1249 Phya-sa-shwe-gu）寺院を対象とする詳細状態評価作業を試行し、その結果をガイドラインに反映させた。なお、上記の作業はユネスコ・コンサルタントのフランス・イタリア・イラン・ミャンマーの各国専門家およびDoAバガン支局と共同で実施し、本研究は、計画策定、専門家チームの統括、調査結果のとりまとめ等を担当した。現地作業等の主な実施内容は下記の通りである。

- ア) 2015（平成27）年6月10日から20日まで、上記寺院の詳細状態評価のための技術的調査を行った。具体的には、組積壁のリバウンドハンマー試験、超音波試験、壁面亀裂の観察・記録、内視鏡による壁体内部構造調査、基礎構造確認のための発掘調査、強度試験用の煉瓦試料採取等を実施した。また、ヤンゴンのミャンマー技術者協会実験室にて、煉瓦試料の強度試験実施に関する協議等を行った。
- イ) 2015（平成27）年9月26日から10月3日まで、同寺院における補足調査として、壁体の変形計測作業をDoAスタッフへの研修を兼ねて実施した。また、簡易状態評価シート及び同マニュアル、詳細状態評価ガイドラインの各内容について、国際専門家チームメンバーと協議した。
- ウ) 2015（平成27）年12月6日から8日まで、ヤンゴン市庁舎講堂にてミャンマー建築家協会主催セミナーで事業内容等に関する講演を行った後、バガン考古博物館にて事業最終ワークショップに参加した。エイ・ミン・チュー文化大臣、DoA局長ほかへ、事業成果のプレゼンテーションを行った。

発表

- ・ Masahiko TOMODA “International Cooperation for Asian Built Heritage” Public lecture: Conservation of Built Heritage in Bagan & Inventory of Bagan Monuments, organized by Association of Myanmar Architects and UNESCO ヤンゴン市庁舎 15.12.6
- ・ Masahiko TOMODA “Structural Condition Assessment for Built Heritage in Bagan” Final meeting for the UNESCO/JFIT Project “Technical Assistance for the Conservation of Built Heritage in Bagan” バガン考古博物館 15.12.7

研究組織

○友田正彦（文化遺産国際協力センター）

備 考

本事業は、ユネスコ・バンコク事務所より委託された。

シュエナンドー僧院における漆工部材の保存修復に関する調査研究

目 的

本研究は、2014（平成26）年よりワールドモニュメント財団が保存事業を開始したミャンマー・マンダレー市所在のシュエナンドー僧院に関し、その漆工部分の保存修復手法の検討に資することを目的とする。

19世紀に建造されたこの建物は、ミャンマーの木造建築を代表するとともに、内外装に漆箔やガラスモザイク等の伝統的漆工技法が用いられている点でも貴重な文化遺産である。本研究では、この建物に用いられた漆工技法と損傷状態について調査し、修復に向けた基礎資料とすることを目指した。ミャンマー産の伝統的な漆芸材料の使用を前提に、僧院の環境や構造を考慮して現状維持修復とする基本条件のもと、修復処置を検討した。

成 果

1. 事前調査

修復材料に関する事前調査を日本とマンダレーで行った。日本では修復用材料の選定や製造を行った。漆材料は、産地と採取時季が異なる6種を比較し、モンユア産の雨季に採取された生漆を選定した。漆の希釈に用いる溶剤は、7種類を比較し、希釈性能と現地での入手可能性からペトロレウムエター60-80℃を選択した。膠材料は、ミャンマー産の水牛皮から作った膠は接着力が弱いため、現地でも入手可能な鹿角から膠を製造した。ミャンマーと日本の伝統的漆接着剤4種の比較調査結果から膠漆を、膠も比較調査から20%水溶液に明礬0.3%を加えて使用することとした。

2. 現地での試験的修復作業（2015（平成27）年8月16日から9月10日まで）

建物の内外部から1カ所ずつ、技法的特徴が顕著で、損傷が著しい部位を試験的修復の対象箇所として選定した。

ア) 修復前記録：対象箇所の修理前写真を撮影後、対象箇所の技法・材料及び損傷状況を調査した。次に、対象箇所と周囲の技法と損傷の特徴的な部分につき、拡大写真を撮影した。

イ) 修復工程：堂内丸柱については、①毛棒によるドライクリーニング、②膠漆含侵による剥落止め、③際錆、④ウェットクリーニング、⑤漆箔の剥落止めと補強、の順に行った。外面小壁については、①クリーニング、②3%膠水溶液による漆箔の強化、③20%膠水溶液による漆箔の剥落止め、④膠漆含侵による漆箔の強化、⑤際錆、の順に行った。

ウ) 追加実験：漆箔が剥落して木地が露出した木材に対し、溶剤で希釈したミャンマー産漆を3回塗布して木地固めを行った。処理した材は、堂内外の2カ所にて1年間の経過観察を行うこととした。

研究組織

○友田正彦、山下好彦、佐藤桂、北川瑞季

（以上、文化遺産国際協力センター）、本多貴之（客員研究員）

備 考

本研究は、ワールドモニュメント財団より委託された。



膠漆による剥落止め

受託研究

ラチャプラディット寺院の螺鈿扉の修復計画策定のための調査研究

目 的

タイ・バンコク所在の一級王室寺院であるラチャプラディット寺院（1864年建立）拝殿の窓と出入口の扉の漆による装飾部材は、日本製の可能性が示唆されていた。タイ文化省芸術局からの協力依頼に基づく調査を経て、所有者であるラチャプラディット寺院からの受託研究として、螺鈿及び漆絵の施された部材各1点の調査と試験的な修理を実施している。

成 果

今年度は、下記の項目を実施した。

1. 試験的修理

平成25年度～26年度に実施した、劣化状態の観察や当初及び後世の修理材料等の調査結果を踏まえて、扉部材の試験的な修理を実施した。文化財としての価値を保つため介入は最小限度とし、部材の縁取りを除き文様の欠損は補わなかった。一方、寺院が現在も信仰の場である点に配慮して、漆塗膜の剥落や下地の欠損は充填し、塗膜と色を合わせた漆を補ったうえ、全体に擦漆を施し、塗膜を補強した。最後に、写真を撮影し修理後の状態を記録した

2. シンポジウムでの発表

2015（平成27）年12月4日、ウィーン（オーストリア）で開催されたシンポジウム「皇帝の邸宅に配置された東アジアのキャビネットの保存（1700年-1900年）：2013年のワークショップのフォローアップ」において研究発表を行った。

発表

- ・Yoshihiko Yamashita, Yoko Futagami, Yasuhiro Hayakawa, Masahide Inuzuka, Takayuki Honda, Phrakhrupalatsutavat Arayapong: Investigation and Conservation of Lacquer Panels with mother-of-pearl inlay with under paint used for interior decoration of Wat Rajpradit, Bangkok. The Conservation of East Asian Cabinets in Imperial Residences (1700-1900) – Follow-up of the 2013 Workshop, Schonbrunn Palace Conference Centre, 15.12

刊行物

- ・『受託研究「ラチャプラディット寺院の螺鈿扉修復計画策定のための調査研究」調査研究報告書』東京文化財研究所 15.7

研究組織

○川野邊渉、山下好彦、増渕麻里耶（以上、文化遺産国際協力センター）、二神葉子、城野誠治（以上、企画情報部）、早川泰弘、犬塚将英（以上、保存修復科学センター）、本多貴之（客員研究員）

備 考

本研究は、ラチャプラディット寺院より依頼された。

国宝銅造阿弥陀如来坐像保存修理及び調査研究

目 的

国宝銅造阿弥陀如来坐像は昭和の大修理から50年余り経過しており、露坐であるゆえに表面の汚れや錆の進行などが予想される。また、近年の地震災害の頻発化に備えて、同じく昭和の大修理で補強された合成樹脂や設置された免震装置の現在の状態についても確認の必要がある。本業務では、国宝銅造阿弥陀如来坐像美術工芸品保存修理（平成27年度文化財保存国庫補助事業）において、坐像表面の汚れや錆の調査、表面クリーニング、坐像の構造力学的調査等を実施した。

成 果

1. クリーニング及び損傷状態調査

ア) 損傷状態調査

尊像に付着する排泄物や土埃などの汚れ、銅腐食生成物、嵌め金の位置などを図面へ正確に記載した。調査を進めるなかで、胎内にマジックやチョークなどによる落書、チューインガムの付着などが確認された。

イ) クリーニング

胎内は刷毛や掃除機を使った土埃等の除去、外周は界面活性剤による洗浄後高圧洗浄機を用いて洗い流した。付着したガムはメスで削った後酢酸エチルを浸した綿棒による除去、マジックによる落書はアセトン等による除去を行った。

2. 金属分析調査

表面に生成される銅腐食物について、目視・デジタル顕微鏡・蛍光X線分析装置・X線回折分析装置を用いて非破壊分析を実施した。

3. 常時微動調査および免震装置調査

昭和の大修理による構造補強の現状評価のため、尊像の各所で速度計を設置し常時微動測定を行い、台座と本体は同じ挙動を示すこと、胴体と頭部は少し違った挙動を示すことを確認した。また、免震装置として用いられているステンレス板を調査し、腐食や変形等が見られないことを確認した。

研究組織

○森井順之、早川典子、犬塚将英（以上、保存修復科学センター）、増渕麻里耶（文化遺産国際協力センター）、藤澤明（客員研究員）、邊牟木尚美（国立西洋美術館）

備 考

本研究は、宗教法人高德院より委託された。



クリーニング



尊像表面のX線回折分析

日光の歴史的木造建造物の温風処理等による新たな殺虫処理方法の検討

目 的

歴史的木造建築物の被覆燻蒸処理は、一度にほぼ確実に害虫を駆除できるものの、安全対策上の制約が多い。また、近い将来大規模な処理に対しては、対応できる技術者がいなくなるおそれがあること、別途予防工事が必要になること、冷涼な気候では実施期間が夏の短い期間に限定されるなどの課題も多くある。こうしたことから、長期間にわたって繰り返し、実施できる有効で安全な手法で、かつ経済的にも妥当な生物劣化対策手法の確立が求められてきた。本共同研究では、被覆燻蒸の代替策のひとつとして、「湿度制御した温風処理」（以下、温風処理）についてその効果と日光山の木造建築物への適用性について、調査や検証実験を実施することを目的とした。

成 果

今年度は、主に加湿温風処理のためのプロトタイプとなる装置の試作と実験を実施した。プロトタイプの装置は客員研究員の藤井氏の研究室（京都大学）において製作を進め、気密・断熱性を確保し、調湿温風を発生・循環できるチャンバー、およびその制御プログラムの試作を行い、ある程度の大空間で正確に殺虫条件として望まれる温度湿度制御が可能かどうか試験を実施した。その結果、昇温、昇湿についてはほぼプログラム通りの制御が実現された。降温については、外気をうまく取り入れる方法によって、温度を下げる工夫が必要となり、空気取り入れ口を設置した結果、状況が改善された。殺虫に必要な温度（60℃）、かつ木材が乾燥しないような湿度（約60%RH）については問題なく制御できるプロトタイプのチャンバーとなった。

また、2015（平成27）年6月、8月、11月、2016（平成28）年1月に研究スタッフで集まり、それぞれ研究打ち合わせを実施した。

2015（平成27）年8月には日光の対象となる建物の詳細な調査を行うとともに、同年11月の打ち合わせを経て、大型装置における温度湿度分布に関するシミュレーションも実施した。

研究組織

○岡田健、木川りか*、佐藤嘉則、犬塚将英、小野寺裕子（以上、保存修復科学センター）、古田嶋智子、藤井義久、北原博幸（以上、客員研究員）、原田正彦（（公財）日光社寺文化財保存会）、福岡憲（（公財）文化財建造物保存技術協会）

*平成27年10月1日より九州国立博物館

備 考

本研究は、（公財）日光社寺文化財保存会より依頼された。



プロトタイプの装置による実験

文化財展示収蔵施設等のATP調査における留意点の検討

目 的

微生物の清浄度の迅速検査方法として近年、食品工場などで広く用いられるようになったATP測定法*を、文化財分野でも展示収蔵環境等での清浄度判定などに利用する研究が進められている。本受託研究では、公益財団法人文化財虫菌害研究所からの依頼を受け、展示収蔵環境等でのATP測定法による測定時の留意点などについて基礎的な検討を行うことを目的とした。

成 果

1. 文化財展示収蔵施設等での清浄度判定やカビの検出を簡易迅速に行うために問題となる事項を整理し、実際の使用に際しての留意点を列挙した。以下に具体的な成果を記載する。
 - ア) あるブロンズ製の作品の表面は、培養法による付着菌測定では菌集落が確認されないが、ATP量が高く出る現象が認められていた。この点について、ブロンズを含む各種の金属テストプレートを用いた試験によってその原因の追究を行い、ATP測定時の留意点としてまとめた。
 - イ) 試料採取の際の水分量によって、継時的にATP量が増大することが懸念されたが、その点についても検証実験で確認し、実際の調査の際には、試料採取時の水分量に留意する点についても考慮する必要があることを記載した。
 - ウ) ATP測定に用いる綿棒の初期ATP量の相違を主要な試料採取用綿棒の製品ごとに評価した。中には、滅菌済みでも初期ATP量が高いものもあり、本調査に不向きな製品も見出すことができた。
 - エ) ATP量とATPとAMP量の両者を測定できる2種類の製品について、清浄度調査に向いているもの、あるいはカビ等の微生物の生死判定に向いているもの、など実用に向けた情報の整理を行った。

刊行物

- ・受託研究報告書『文化財展示収蔵施設等のATP調査における留意点の検討』 16.3

研究組織

○岡田健、木川りか*、佐藤嘉則、小野寺裕子、矢花聡子（以上、保存修復科学センター）

*平成27年10月1日より九州国立博物館

備 考

*ATP測定法：ATPは、Adenosine triphosphate（アデノシン三リン酸）の略語である。ATPは生物のエネルギー代謝で働く化学物質で、生命活動が行われている所に存在する。生きている微生物にもATPが存在していることを利用して、活性のある微生物の有無や対象物質が微生物かどうかを簡易迅速に判定することができる測定法をいう。

本研究は、(公財)文化財虫菌害研究所より委託された。



文化財展示収蔵施設でのATP測定

絵金屏風の保存修理に関する調査研究

目 的

本研究は、燻蒸時の事故により顔料の変色など作品の劣化が生じた赤岡絵金保存会所蔵の屏風について、文化財の修復に資する情報を得ることを目的とする。

成 果

対象作品は、赤岡絵金屏風保存会所蔵の下記作品である。

高知県指定文化財（美術工芸品・絵画）紙本著色 絵金図屏風 二曲一隻 5点

「勢州阿漕浦 平次住家」「蘆屋道満大内鑑 葛の葉子別れ」「鎌倉三代記 三浦別れ」「八百屋お七歌祭文 吉祥寺」「蝶花形名歌島台 小坂部館」

これらの作品は、通常の汚損事故とは異なり、文化財に使用すべきでない燻蒸材料を使用した結果、化学反応によって作品に使われていた色料が変色・変化をした状況で、作品のみならず作業者の安全を図るため、当研究所が事故当事者である熊本市現代美術館との契約において実施するもので、この結果をもとに修理技術者が慎重な作業を行っている。

本年度作業の概要は以下のとおり：

1. クリーニング終了後の作業方針についての検討への協力

株式会社修護によってクリーニング、裏打ち取り替え、下地作製までの工程が完了している対象作品全5幅について、熊本市現代美術館、高知県教育委員会、香南市、絵金蔵、所蔵者が今後の方針を検討するための助言と予備的試験を行った。前年度までの検討により、黒変した緑青については、徐々に緑に戻る傾向があるため、これを長期的に待つこととし、絵画表面をサポートするため変色部分に緑色に染めた和紙を貼る、という方針について検討した。これについて、香南市で2回の説明会（6月、12月）、修護アトリエで1回の検討会（10月、1月）を開催した。

2. 今後の保存環境に関する考察と協力

所蔵者を含め、関係者の理解のもと、修理が完成する平成28年度中に保存環境に関する助言を行うことになったため、収蔵施設である絵金蔵の保存環境に関する検討を始めた。

研究組織

○岡田健、朽津信明、早川典子（以上、保存修復科学センター）、川野邊渉、楠京子（以上、文化遺産国際協力センター）

備 考

本研究は、(公財)熊本市美術文化振興財団より委託された。

X線透過撮影によるピカソ作《青い肩かけの女》の光学調査

目 的

本研究で調査を実施した作品《青い肩かけの女》は、ピカソのいわゆる「青の時代」（1901-1904）の期間に描かれた作品である。決して裕福とは言えなかった当時のピカソの作品の特徴として、一度別の絵が描かれたキャンバスの上に描かれた作品が多いことが知られている。このことはX線透過撮影により、様々な「青の時代」の作品について、絵画表面で鑑賞することができる絵画とは異なるモチーフが発見されていることから明らかにされてきた。一方で、これまでに絵画表面で鑑賞することができる絵画とは異なる絵画の有無が確認されていない愛知芸術文化センター所蔵の《青い肩かけの女》について、X線透過撮影により、別の絵画の有無と絵画の構造に関する調査を行うことが本研究の目的である。

成 果

作品《青い肩かけの女》の別の絵画の有無と絵画の構造について調べるために、2015（平成27）年12月27日に愛知芸術文化センターにてX線透過撮影を実施した。本調査研究のX線透過撮影では、イメージングプレートを用いた。そして2015（平成27）年11月に東京文化財研究所に導入した可搬型現像装置を持ち込み、それぞれの撮影の度にイメージングプレートの現像を行い、X線透過画像を確認しながら調査を進めた。

X線透過撮影とは別に、《青い肩かけの女》に関しては、テラヘルツ分光分析や近赤外線撮影等の手法による光学調査も実施されている。これらの調査結果と、本調査研究で得られたX線透過画像とを比較することにより、別の絵画の有無、絵画の構造、制作技法に関する考察を行った。

報 告

- ・『受託研究「X線透過撮影によるピカソ《青い肩かけの女》の光学調査」報告書』 16.3

研究組織

○犬塚将英（保存修復科学センター）、高妻洋成、杉岡奈穂子（以上、奈良文化財研究所）

備 考

本研究は、愛知芸術文化センターより委託された。



光学調査の様子

受託研究

エジプト国大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト（フェーズⅡ）にかかる国内支援業務

目 的

JICAより受託した「エジプト国大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト（フェーズⅡ）にかかる国内支援業務」を実施する。国内外の文化財保護に携わる専門家と連携しながら、プロジェクトに対する助言、保存修復に関する技術的情報の提供や提案、技術移転実施計画の作成、専門家派遣や研修受入支援など国内支援業務を行う。

成 果

1. 以下16件の研修について、支援及び調整業務を行った。（ ）内は実施場所、実施期間、参加者数。
 - 「第2回パピルス研修」（エジプト、2015年（平成27）年4月14日～23日、16名）
 - 「第1回石材研修」（日本、2015年（平成27）年5月15日～28日、6名）
 - 「染織品（有機物）研修」（エジプト、2015年（平成27）年5月24日～28日、11名）
 - 「第4回保存修復材料としての和紙研修」（日本、2015年（平成27）年5月18日～6月5日、2名）
 - 「第3回保存修復材料学研修」（エジプト、2015年（平成27）年5月31日～6月8日、11名）
 - 「第3回木材研修」（エジプト、2015年（平成27）年5月31日～6月11日、14名）
 - 「第5回保存修復材料としての和紙研修」（日本、2015年（平成27）年6月8日～17日、2名）
 - 「第4回彩色文化財研修」（エジプト、2015年（平成27）年8月4日～13日、13名）
 - 「第2回文化財の診断技術・分析法研修」（エジプト、2015年（平成27）年8月17日～23日、10名）
 - 「無機物Ⅰ（金属）研修」（エジプト、2015年（平成27）年8月25日～31日、10名）
 - 「無機物Ⅲ（金属）研修」（エジプト、2015年（平成27）年9月2日～9日、10名）
 - 「第4回木材研修」（エジプト、2015年（平成27）年10月18日～27日、14名）
 - 「第5回マネジメント計画策定研修」（エジプト、2015年（平成27）年10月28日～29日、4名）
 - 「無機物Ⅰ、Ⅱ（非金属）研修」（エジプト、2015年（平成27）年11月1日～9日、8名）
 - 「第5回保存科学概論」（エジプト、2015年（平成27）年11月10日～19日、12名）
 - 「第2回石材研修」（エジプト、2016年（平成28）年1月11日～18日、10名）
 - 「第4回学術研究シンポジウム」（エジプト、2016年（平成28）年2月16日～17日、約300名）
2. 上記研修の講師としてのJICA派遣専門家の推薦と研修支援、研修協力機関との調整を行った。また、現地に派遣されているJICA長期及び短期専門家の活動に対し継続的な支援を行った。
3. 教材・資料作成支援、翻訳、語彙集の作成などの支援を行った。
4. 技術的情報の整理及びGEM-CCの運営体制や研修資機材の調達と管理についての助言を行った。
5. 専門家全体会議を1回開催した。
6. 『大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト（フェーズⅡ）業務実施報告書（上半期分）』を作成した。
7. 『大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト（フェーズⅡ）業務完了報告書』を作成した。

研究組織

○山内和也、川口雄嗣、田島さか恵、栗原浩邦（以上、文化遺産国際協力センター）、松田泰典（大エジプト博物館保存修復センタープロジェクトJICA専門家テクニカルチーフアドバイザー）

備 考

本研究は、独立行政法人国際協力機構（JICA）より依頼された。

受託研究

大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト「保存修復材料としての和紙研修」にかかる国内支援業務

目 的

本事業は、独立行政法人国際協力機構（JICA）の委託を受け、「エジプト国大エジプト博物館保存修復センター（GEM-CC）プロジェクト」における本邦研修「保存修復材料としての和紙研修（第4期）」を実施したものである。本研修は、全4回の本邦研修のうちの最終回となる研修であり、2名の研修員を対象に実施した。

成 果

当事業は第1期～第4期までの一連の研修シリーズとして、GEM-CCの有機物ラボの中核となる保存修復家を育成する枠組みとして開始した。第1期では、掛軸の修理事例紹介や修理装飾技術に用いられる修復材料についての知見を得、第2期、第3期では第1期より選抜された2名の研修員が実際に修復工房にて裏打ち等の装飾技術の技術移転及び上達を図った。その後、一連の研修の総括として、今回の第4期研修ではこれまで学んできた日本の装飾技術を、パピルスをはじめとしたエジプトの遺物の保存修復に応用するため、その事前準備となる様々な物性試験方法やデータの分析・解析方法について指導した。

研修に先立ち、研修員はGEM-CCの有機物ラボにてパピルスの裏打ちサンプルを作製した。今回はそれを用いて剥離試験、張力試験、こわさ試験といった各種物性試験を行った。最終日にはデータ整理・分析・解析を行うとともに、研修総括を実施した。また、JICA担当者や関係者も交えて研修評価会を行い、修了証授与式を執り行った。これらの試験を行うことにより、日本とは環境の異なるエジプトにおいて、実際にパピルス遺物の保存修復に日本の装飾技術の応用を図る上で必要となるであろう条件を検討することができ、GEM-CCにおける水平展開や、将来的に彼ら自身が実施することとなるアクションプランのデザインを考える上でも有益となった。

研究組織

○山内和也、川口雄嗣、田島さか恵、栗原浩邦、加藤雅人、楠京子、山田祐子（以上、文化遺産国際協力センター）

備 考

本研究は、独立行政法人国際協力機構（JICA）より依頼された。



物性試験（こわさ試験）

(2) 共同研究一覧

研究課題	共同研究者	研究代表者	頁
京都市内出土文化財の保存修復科学的な調査研究	公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所	北野信彦	147
航空資料保存の研究	一般財団法人日本航空協会	中山俊介	148
文化財建造物に使用された金箔に関する保存修復学的な調査研究	金沢箔技術振興研究所	北野信彦	149
鎌倉市内遺跡（若宮大路周辺遺跡群等）出土資料の保存修復科学的な調査研究	鎌倉市	北野信彦	150
徳川宗家伝来文化財に関する保存修復科学的な調査研究	公益財団法人徳川記念財団	北野信彦	151

京都市内出土文化財の保存修復科学的な調査研究

目 的

京都市内の発掘調査では、オリジナルの状態では貴重な歴史資料が多数出土している。これらに対する保存対策や、個々の資料がもつ歴史的情報を引き出すための保存修復科学的な調査研究を行うことは、歴史のもしくは伝統的な材料や製法を理解する上での重要なことである。本調査では、京都市埋蔵文化財研究所と協力して京都市内出土文化財に関する保存修復科学的な調査研究を行うとともに、発掘担当者にそのつど適切な指導助言を行い、現状に即した歴史的な出土文化財の取り扱い方法の確立を目指すことを主目的とする。

成 果

1. 出土漆器の保存修復作業に関する施工指導

平安京跡から出土した胎部の劣化が著しい漆皿類の保存修復に関する修理指導を行い、バックリング固定をFRP樹脂型取りにより行った上で、PEG40%含浸後の凍結真空乾燥法が有効であることを確認し、実際の施工に役立てた。

2. 出土文化財の材質調査

特別史跡名勝鹿苑寺庭園塔跡から出土した九輪（宝輪）、水煙の材質分析を行った。その結果、銅・錫・鉛の合金である青銅製であり、分析箇所によっては金も同時に検出されるため金鍍金が表面に施されていることがわかった。同時に出土した賢瓶も青銅製ではあるが、金鍍金の痕跡は見られず、五宝として金（砂金）、瑠璃（緑色鉛ガラス）、水晶などの内容物の存在も分析により特定された。また、平安京外の芝古墳横穴式墓室内の床板には朱顔料による施朱、出土馬具破片の表面には金箔貼りの装飾が為されていることが確認された。

研究組織

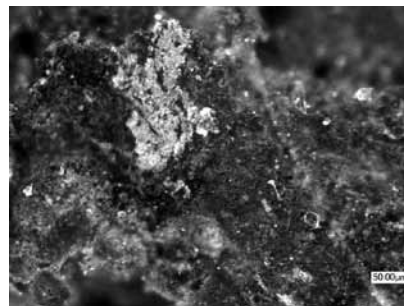
○北野信彦（保存修復科学センター）、竜子正彦（京都市埋蔵文化財研究所）

備 考

本調査研究は、公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所と共同で実施した。



鹿苑寺庭園塔跡出土九輪（宝輪）の
分析箇所



平安京外の芝古墳出土馬具表面の金
箔貼りの拡大

航空資料保存の研究

目 的

紙や写真を主体とする航空に関する資料は、活用に重点がおかれてきたこともあり保存状態が悪いものが多く、このままでは貴重な資料の散逸を免れない状況にある。したがって、原資料を損なわずに今後も有効に活用するために、昨年度に引き続き資料の種類や劣化の状態を調査し保存方法・修復方法の開発を行った。

成 果

1. 膨大な個人資料の記録・保存

平成24年度に寄贈頂いた以下の資料に関して引き続き整理、記録、デジタル化、保存処置を実施した。

ア) 旧文部省奉職時にグライダーの開発に携わった山崎好雄氏が遺した、日本で開発・設計された各種グライダーの図面や文献等各種一式。山崎氏は、日本で開発・設計されたグライダーの第一人者であり、開発段階からの各種資料まできちんと残されており、日本におけるグライダーの歴史を知る上で非常に貴重な紙資料群である。今年度は継続して整理、選別、保存処置を行い、整理の終わった資料の中から「DFS マイゼ オリンピア」グライダーの青焼図面116枚のデジタル化を行った。

イ) 戦中に操縦訓練を受け、戦後は事業用操縦士でもあった作家・平木國夫氏が遺した日本の民間航空に関する資料一式。平木氏は日本の民間航空に関する著作を多数執筆しており、残された資料は主として執筆の際に調査、収集した資料からなり、写真や聞き取りの記録など多岐にわたる貴重な資料群である。今年度は継続して整理、選別を行った。

ウ) これらの資料のうち、ア) については、選別終了後は保存環境の改善を図り、さらに長く保存する処置をとるとともにデジタル化を行い、貴重な資料として公開するべく、日本航空協会とも相談の上、今後も作業を行う。また、イ) については、整理、選別を継続して行う。

エ) 整理の終わったア) およびイ) の資料から、戦前の民間航空機に関する資料を下記の刊行物に用いた。

2. 青焼図面のデジタル化

本年度寄贈いただいた人力飛行機「リネット」の青焼図面一式(21枚)のデジタル化を行った。「リネット」は1966(昭和41)年2月に日本で最初の飛行に成功した人力飛行機である。

刊行物

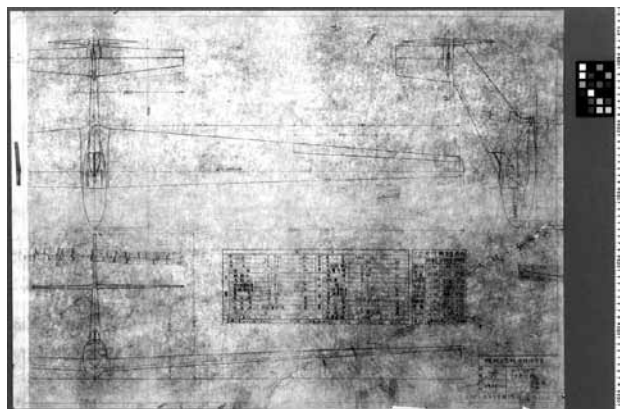
・『J-BIRD 写真と登録記号で見る戦前の日本民間航空機 満洲航空・中華航空などを含む』一般財団法人日本航空協会 16.3

研究組織

○中山俊介(保存修復科学センター)、長島宏行、苅田重賀(以上、日本航空協会)

備 考

本調査研究は、一般財団法人日本航空協会と共同で実施した。



デジタル化を行った人力飛行機「リネット」の青焼図面

文化財建造物に使用された金箔に関する保存修復科学的な調査研究

目 的

現在日本国内における金箔の99%が金沢で生産されており、日光社寺文化財をはじめとする文化財建造物の修理にも多く使われている。しかし金沢における箔生産は明治期以降であり、江戸時代以前の箔生産の実態や使用には不明な点が多い。本研究では、文化財建造物における金箔の歴史的な使用状況のデータベースを作成するとともに、文献史料や旧塗装彩色材料が確認される実際の文化財建造物をモデルケースとして取り上げ、歴史的な金箔作成技術の変遷に関する基礎調査を実施した。この結果を、現状に即した塗装修理に使用する金箔作成に役立てる方法の確立を目指すことを主目的とする。

成 果

1. 文化財建造物における金箔を使用した修理状況の悉皆調査

国宝建造物に引き続き、重要文化財である寺院・神社・御殿建造物の修理報告書に記載されている金箔使用の状況を網羅的にピックアップして一覧表形式に纏めた。その結果、東照宮などの霊廟建造物や浄土真宗系の大寺院の欄間などの荘厳、さらにはオリジナルではなく後世修理の関係で使用された厨子外装、寺院本堂や門に掲げられた扁額文字などで金箔の使用が高い実体が明らかになった。

2. 文献史料や旧塗装彩色材料が確認される文化財建造物の金箔変遷と箔技術復元に関する基礎調査

日光東照宮の寛政期修理の古文書に記録されている焦箔の復元実験で作成した金箔に続き、同じ古文書に併記されていた甲州金や元禄金を用いた金箔の復元実験を実施した。その結果、寛政期の修理で使用された彩色箇所金箔と古文書記録からの復元焦箔、甲州金の復元金箔とは類似した色調であった。また、大猷院霊廟や増上寺有章院二天門で使用されていた江戸後期頃の金箔の一部と元禄金の復元金箔はともに銀箔に近い色調であった。

発表

- ・北野信彦「文化財建造物の修理で用いられた近世の金箔復元に関する調査」平成27年度金沢金箔伝統技術保存会研修会 金沢市伝統技術大学校 15.7.31

研究組織

○北野信彦（保存修復科学センター）、北川和夫（金沢箔技術振興研究所）

備 考

本調査研究は、金沢箔技術振興研究所と共同で実施した。



文化財建造物における年代の異なる金箔資料



日光古文書に記載された甲州金・元禄金の金箔復元実験

鎌倉市内(若宮大路周辺遺跡群等)出土資料の保存修復科学的な調査

目 的

鎌倉市は鎌倉幕府開幕後800年以上の歴史があるものの、歴史資料の多くは度重なる被災により失われている。その一方で鎌倉市内の発掘調査では、オリジナルの状態でご貴重な歴史資料が多数出土している。近年になって鎌倉市内では若宮大路周辺遺跡群などの中世関連遺跡の発掘調査を鎌倉市教育委員会が主体となって進めており、多数の重要な資料(金属製品・木製品)が出土している。このことを考慮に入れて、本年度は鎌倉市と協力してこの遺跡出土資料に関する保存修復科学的な調査研究を実施するとともに、調査担当者にその都度適切な指導助言を行った。これは、鎌倉市の現状に即した歴史的な出土資料の取り扱い方法の確立を目指すことを主目的とした共同研究である。

成 果

1. 成果項目: 鎌倉市内の遺跡出土中世漆器の保存修復方法策定に関する実験と修理指導

鎌倉市内で出土した中世漆器資料には、出土してから30年近く時間が経過したものもあり、水漬け状態で一時保管されている間に木胎の劣化が進行した資料も多い。今回、これらの出土漆器資料の文化財科学的実験を真空凍結乾燥法により行った。その結果、①資料をPEG20%水溶液に28日間、引き続きPEG40%水溶液に47日間浸漬→②真空凍結乾燥中の漆膜の剥落と表面の過乾燥を防ぐために保護紙(キムワイプ; 日本製紙クレシア株式会社)をPEG40%水溶液で貼り付けて資料表面を保護→③冷凍庫内(-45℃)で27日間、真空凍結乾燥前に資料の予備凍結→④真空凍結乾燥機の乾燥庫内に資料を移して、乾燥庫の庫壁温度-20℃、乾燥棚の棚温度-15℃、コールドトラップ温度-40℃の運転条件下で真空乾燥、以上の方法で、劣化状態の異なる資料でも良好な作業が出来ることを確認し、修理指導に役立てた

2. 成果項目: 出土漆器資料の保存修復方法策定に関する実験と指導

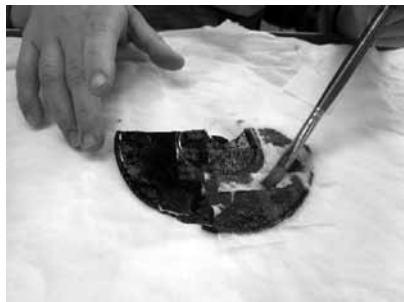
2013(平成25)年の鎌倉市内の発掘調査で出土した中世期の一括埋納銭は、当時、周囲をコンクリートで囲い遺構面から回収する作業が実施された。しかし、極めて総重量が重たくなり大掛かりな重機を使用せねば移動や収蔵管理を行う上で困難であるため、周囲のコンクリートを一旦取外し、軽量であるが強度保持に優れる発泡ウレタンを使用した再梱包を行うこととなった。作業は土付き遺物の取り上げ方法の現地指導を行う目的で実施し、無事終了させることができた。

研究組織

○北野信彦(保存修復科学センター)、永田史子、鈴木庸一郎、米澤雅美(以上、鎌倉市)

備 考

本調査研究は、鎌倉市と共同で実施した。



出土漆器の保存修復実験(保護紙による養生実験)



発泡ウレタンによる再梱包指導を終了した一括埋納銭資料

徳川宗家伝来文化財に関する保存修復科学的な調査研究

目 的

本研究は、昨年度に引き続き、2014（平成26）年5月に徳川記念財団が所蔵する資料を保管している収蔵施設において漏水事故が発生したことに伴う水損被害の影響の実態把握と応急措置に関する指導助言を行った。本年度は、所蔵文化財のうち、直接水が漬いたため影響が大きいと考えられた漆工品長持（「梨子地竹格子文様蒔絵長持」）の経過観察と、障院篤姫様肖像油彩画および徳川家茂公所用の懐中時計箱組物と鼈甲遠眼鏡に関する保存修復科学的な調査研究を実施するとともに、担当者にそのつど適切な指導助言を行った。この過程で伝来の経緯及び制作年代の解明、現状に即した保存修復科学的な手法を応用した文化財の取り扱い方法等の構築を確立することもそれぞれの目的のひとつとした。

成 果

1. 漆工品である長持

漆工品の多くは水損被害の影響はなかったが、大型漆工品である本資料である長持は床に直置きであったため、底面に水が漬いており、木部の伸縮膨張のストレスによる亀裂の進行などが懸念された。この点を視野に入れた経過観察を実施した結果、大きな経年変化が無いことを確認した。

2. 天璋院篤姫様肖像油彩画

調査の過程で、油彩画の状況調査も実施したが、明治期油彩画である川村清雄作の一連の肖像画のうち天璋院篤姫様肖像画の一部にカビ発生が著しくみられたため、油彩画修理技術者がその対処を実施し問題を解決した。

3. 徳川家茂公所用懐中時計箱組物・鼈甲遠眼鏡

箱組物等の容器類の状況調査を実施した結果、わずかではあるが徳川家茂公所用懐中時計箱組物と鼈甲遠眼鏡容器にカビ発生がみられたため、修理技術者がクリーニング作業の対処を行い、問題を解決した。併せて鼈甲遠眼鏡の材質・技法・構造に関する調査を実施し、鼈甲製と思われた遠眼鏡の持ち手は真鍮製の筒の上にセルロイドを貼ってあること、収納筒容器は真鍮箔の上に西洋ワニス塗料を塗装して白檀塗りに近い状態に仕上げ、その上に油彩画の花草を描く舶来品であることがわかった。

刊行物

- ・北野信彦「(共同研究) 徳川宗家伝来文化財に関する保存修復科学的な調査研究」『徳川記念財団 会報』25 徳川記念財団 p.14 15.6

研究組織

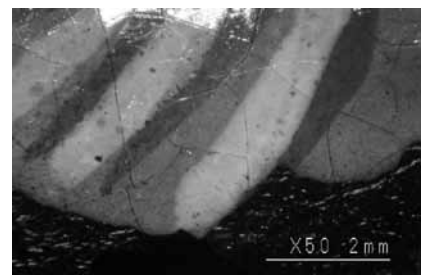
- 北野信彦（保存修復科学センター）、菊池理予（無形文化遺産部）、柳田直美、野本禎司、徳川典子（以上、徳川記念財団）

備 考

本調査研究は、公益財団法人徳川記念財団と共同で実施した。



天璋院篤姫肖像画の表面汚れ
除去実験



鼈甲遠眼鏡筒容器側面に描かれた油
彩画の拡大

(3) 助成金一覧

研究課題	助成元	研究代表者	頁
タイ所在の幕末期日本製螺鈿製品に関する調査	公益財団法人 文化財保護・芸術研究助成財団	二神葉子	155
高宗前半期(7世紀第3四半期)の龍門石窟造営における 敬善寺洞窟の意味と初唐龍門仏像様式展開に関する研究	一般財団法人 仏教美術協会	岡田健	156

タイ所在の幕末期日本製螺鈿製品に関する調査

目 的

タイ・バンコクに所在するラチャプラディット寺院は、1864年にラーマ4世により建立された一級王室仏教寺院である。寺院拝殿の窓及び出入口の扉には、薄貝による人物・風景及び花鳥をモチーフとした、伏彩色のある螺鈿による装飾が施され、その特徴から幕末期に日本から輸出されたと考えられる。そこで、当研究所はこの螺鈿扉の修理計画策定のための調査研究を実施し、製作技術や材料、修理方法について検討を行っている。しかし、螺鈿扉の生産地や生産業者に関する情報は得られておらず、日本においても伏彩色螺鈿の系譜は明らかにされているとはいえない。そこで本調査研究では、平成26年度に引き続き、ラチャプラディット寺院の扉の修理事業への技術支援に関連して、ラチャプラディット寺院と同様の螺鈿製品に関する日本での基礎的な調査を行う。

成 果

2016（平成28）年2月8日～10日に長崎歴史文化博物館で熟覧調査を行った。前回の平成26年度の調査では、盆や重箱、プラークなど比較的小型の作品が多かったが、今回は、ラチャプラディット寺院の伏彩色螺鈿が大きな扉部材であることを考慮し、円卓やキャビネット、ライティングデスクなどの大型の作品を中心に調査を行った。そうしたところ、2羽の相対する鶏や雉、牡丹や桜、柴垣や土坡といった花鳥文の構成がラチャプラディット寺院の漆扉と類似した作品が複数見られた。ただし、長崎歴史文化博物館所蔵の作品では文様に直線が多用されており、よりパターン化されていることから、ラチャプラディット寺院の扉部材よりも新しい時期のものであると考えられた。比較的小さな作品が対象となっていた昨年度の調査よりも文様構成における類似度は高いものの、直接的な関係が示唆されるほどに文様の表現が類似した作品はまだ見いだせていない。そのため、今後は、文様構成や技法のみならず、色彩の計測など別の手法による調査が必要であると考えられる。

報 告

・二神葉子「ラチャプラディット寺院扉及び日本産伏彩色螺鈿に関する調査」『東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力』東京文化財研究所 pp.89-92 16.3

研究組織

○二神葉子、城野誠治（以上、企画情報部）、山下好彦（文化遺産国際協力センター）、勝盛典子（神戸市立博物館）、Ampol Summavuti、Surayoot Wiriadamrong、Weeraya Juntradee（以上、タイ文化省芸術局）、Narongchai Hutachai（王立工芸学校）

備 考

本研究は、文化財保護・芸術研究助成財団の助成を得た。



ラチャプラディット寺院の扉の伏彩色螺鈿（部分）

高宗前半期(7世紀第3四半期)の龍門石窟造営における敬善寺洞開窟の意味と初唐龍門仏像様式展開に関する研究

目 的

中国・河南省洛陽市に所在する龍門石窟は、北魏の洛陽遷都と時期を前後する5世紀末の創建であり、6世紀初期には皇帝勅願窟が開かれ隆盛を極めたが、西暦530年代半ばの北魏の東西分裂と共に荒廃し、約80年の時を隔てた7世紀初頭、隋時代後期以降にようやく復興し、やがて675年完成の奉先寺大仏に象徴される初唐仏教造像の一大中心地となった。本研究は、その初唐期における発展過程を、1) 650年頃までの太宗期(賓陽洞周辺)、2) 660年代までの高宗前期(敬善寺洞周辺)、3) 670年代以降の高宗後期(奉先寺洞周辺)という3期に分け、1) 龍門石窟における仏教信仰の変遷、2) 長安仏教造像との関係、3) 造営に關与する供養者、という観点において分析することが有効であるとの認識のもとに行うもので、特に全体が数段のテラスを持つ神殿式の統一プランによって巨大空間を形成した敬善寺洞周辺区域の造営に關して、その意味を考察することを目的としている。

成 果

1. 現地調査 9月2日から15日の日程で、中国での現地調査を実施した。研究協力者：萩原哉氏(武蔵野美術大学)

(1) 河北省邯鄲地区仏教造像調査(9月3日～5日) 龍門石窟が7世紀初唐以降に復興し始める前段階として、6世紀半ばから後半の北齊仏教造像の中心となった河北省邯鄲市周辺では近年大量の石仏群が出土している。その具体的な様相を確認するため、邯鄲市博物館、鄴城博物館、社会科学院考古隊で調査を行った。調査には、中国社会科学院考古研究院文物修復保護研究部部長王浩天氏、北京大学文博学院教授胡東波氏の協力を得た。

(2) 龍門石窟調査(9月7日～12日) 敬善寺洞周辺区域及び、その前期となる太宗期(7世紀第2四半期)の造像が集中的に見られる、老龍洞、藥方洞、普泰洞、唐字洞、破窟、賓陽南洞を精査した。調査は龍門石窟研究院の許可を得て、龍門石窟研究院焦建輝研究員の参加により実施した。

2. 資料の検討

敬善寺洞の周辺は、660年代までに多くの龕が開かれたものの、内部の仏像の多くがすでに失われており、直接的に仏像様式を把握するための手がかりは多くないが、痕跡から当初の神殿式プランの全体像を把握することができた。また賓陽南洞他の調査によって、太宗の貞觀10年代、20年代、高宗初期10年に關しての様式変遷の詳細を把握することができた。この成果をもって、新たな龍門石窟初唐様式論を構築することが可能になった。

研究組織

○岡田健(保存修復科学センター)

備 考

本研究は一般財団法人仏教美術協会の助成を得て実施した。



敬善寺洞周辺区域の外観



洞窟内での調査

3. その他の研究活動

文化財防災ネットワーク推進事業

目 的

本事業は、文化庁と連携しつつ非常災害時における文化財等の防災に関するネットワークを構築するとともに、そのために必要な人材の育成、情報の収集・分析・発信を行い、それらを踏まえ有事における迅速な文化財等の救出活動を行うための体制を構築するため、国立文化財機構に「文化財防災ネットワーク推進本部」を設置し、実施するものである。

当研究所は、東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会事務局を担当した経験と、文化財に関する歴史研究・無形文化遺産や美術工芸品を内容とする地域文化研究・記録収集とアーカイブ・防災研究・保存修復のための技術材料研究という専門性により、機構の一員として本事業に参加し、ネットワーク構築に貢献している。

成 果

- ① 被災文化財の応急処置及び修理等に関する研究並びに指導、助言、研修
 - 1) 保存修復に関連する現場のニーズを把握することを目的に、9月の豪雨により市役所の行政文書が被災した茨城県常総市等4カ所で会議参加、研究会参加、文化財救出活動参加、聞き取り調査を実施し、情報を収集した。
 - 2) 指導・助言：福島県内の仮保管施設（旧相馬女子高校校舎、福島県埋蔵文化財収蔵センター）での環境調査と助言を行った。津波被災後4年を経て救出された浪江町集会所の金庫内資料の保全処置に関しアドバイスを行った。
 - 3) 研修会の実施：福島県が主催する被災文化財等の取り扱いに関する講習会（11月4日南相馬市、1月28日白河市）に講師として参加し、文化財の放射能対策と除塵等に関する講義・実習を行った。
- ② 危機管理・文化財防災体制構築のための調査研究
 - 1) 文化財防災体制に関する調査：東京都教育委員会、サントリー美術館、江戸東京博物館、東京都公文書館、板橋区公文書館、台東区教育委員会、足立区立郷土博物館、香川県教育委員会・香川県立ミュージアムに出向き、担当者・責任者から個々の危機管理・文化財防災体制についての聞き取りを行った。
 - 2) 各地研究会・連絡会議等への参加：計18カ所で開催された研究会・連絡会議等に参加し、情報を収集した。
 - 3) 研究会開催による情報収集：計3回の研究会を開催し、情報を収集した。
 - 4) 情報発信：計9回の各地講演会において研究成果をもとに講演を行った。地域体制整備の状況に関する報告を当研究所発行の『保存科学』55号に発表した。研究会報告書1冊と研究成果の年度報告書1冊を発行した。
- ③ 文化財保護のため動態記録作成に関する調査研究

本調査研究は、民俗技術や民俗芸能の動態記録作成に関する方法研究と実際の記録作成を進め、併せて被災文化財救出活動の動画記録を作成し救出活動の方法を検証するという、二つの内容によって実施している。

 - 1) 東日本大震災被災地域で動態記録作成に関する研究：被災無形民俗文化財、被災工芸技術、救出活動等に関して計4カ所で調査・撮影・研究等を行った。また、2011（平成23）年の石巻市における救援活動で収集した動画記録の整理を行った。
 - 2) 動態記録作成に関する研究：将来の記録保存のための動態記録作成を目的として、民俗芸能、民俗技術に関して2カ所で作業を行った他、記録作成方法に関する情報収集調査6回と研究会2回を実施

した。

④ 地方指定等文化財情報に関する収集・整理・共有化事業

本調査研究は、地方指定等文化財に関する基礎情報および関連する条例等の集約・整理を行うことにより、文化財防災に向けた基礎を確立すると共に、情報の共有により関係者間のネットワーク形成を目指すものである。

今年度は、文化庁との協議により文化庁が保有する各自治体の指定文化財の情報を共有することが決まり、和歌山県・埼玉県等との協議を経て、具体的な情報共有化作業に着手した。

研究組織

○岡田健、佐野千絵、北野信彦、吉原大志（以上、保存修復科学センター）、二神葉子、福永八朗、皿井舞、安永拓世（以上、企画情報部）、飯島満、久保田裕道、今石みぎわ、菊池理予、佐野真規（以上、無形文化遺産部）

備 考

本事業は国立文化財機構が文化庁の補助金により実施したものである。

4. 個人の研究業績

凡 例

氏 名

- (1 公刊図書等)
- (2 報告)
- (3 論文)
- (4 解説、翻訳等)
- (5 学会発表)
- (6 講演会、研究会発表等)
- (7 所属学会、委員等)
- (8 教育等)

※（7 所属学会）について、以下は略称のみを表記した。

ICOM : International Council of Museums

ICOMOS : International Council on Monuments and Sites

IIC : International Institute for Conservation of Historic & Artistic Works

飯島満 IJIMA Mitsuru（無形文化遺産部）

- (4 監修) [特集] 文楽人形遣い 二代目吉田玉男 新たな舞台へ 『伝統と文化』 39 pp.2-21 ポーラ伝統文化振興財団 16.1
- (4 解説) 文楽人形遣い 吉田玉男への道程 『伝統と文化』 39 pp.4-5 ポーラ伝統文化振興財団 16.1
- (4 資料紹介) 七代目豊沢広助 『義太夫の種類と解説』—無形文化遺産部プロジェクト報告— 40p 東京文化財研究所 16.3
- (7 所属学会) 楽劇学会、歌舞伎学会、日本演劇学会、日本近世文学会
- (7 委員会等) 国際芸術交流支援事業協力者会議審査委員会

石井美恵 ISHII Mie（客員研究員）

- (3 論文) エジプト文明の染織品を保存する 『文化財保存修復学会誌』 59 pp.76-85 16.3
- (6 講演) 事例報告 染織品研修 国際協力機構（JICA）冬の世界遺産セミナー「ファラオの至宝を守る—大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト終了記念報告会」 国際協力機構（飯田橋） 16.2.5
- (6 講演) Textile Conservation in the Modern Era 1st International Conference on Conservation at the National Taiwan Normal University 国立台湾師範大学（台北） 15.6.22
- (6 講習会) Dye Analysis (TLC) Workshop National Taiwan Normal University Conservation Centre 国立台湾師範大学文物維護センター（台北） 15.6.24-29
- (6 講習会) エチミアジン大聖堂附属博物館の染織品の調査と保存 金沢大学《超然プロジェクト》「文化資源マネジメントの世界的研究・教育拠点形成」ユニット国際文化資源学センター文化資源マネジャー養成プログラム アルメニア共和国エチミアジン大聖堂附属博物館 16.2.24-3.2
- (7 所属学会) ICOM、ICOM-CC、照明学会、服飾文化学会、文化財保存修復学会

石田真弥 ISHIDA Shinya（アソシエイトフェロー）

- (1 公刊図書) 「前橋の煉瓦建造物」(星和彦、石田敏明、石田真弥) 『ぐんま建築ガイド』 p.18 他23件分の建造物解説 上毛新聞社出版部 15.10

- (5 学会発表) 群馬県内における煉瓦寸法と建設年代の関連性—煉瓦建造物の保存・活用に関する研究—
10 2015年度日本建築学会大会 東海大学湘南キャンパス 15.9.5
- (6 司会) 建築歴史・意匠 「日本近代・記念建造物・庁舎」 2015年度日本建築学会大会 東海大学湘南
キャンパス 15.9.5
- (6 司会) 近代文化遺産の保存理念と修復理念 第29回近代の文化遺産の保存に関する研究会 東京文化
財研究所 16.1.15
- (7 所属学会) 日本建築学会

石村智 ISHIMURA Tomo (無形文化遺産部)

- (1 共著) 「第九章 リビングヘリテージとしての景観：カンボジアにおけるアンコール期／ポスト・ア
ンコール期遺跡の文化遺産保護をめぐる」 河合洋尚編『景観人類学：身体・政治・マテリアリティ』
pp.249-270 時潮社 16.3
- (2 報告) 『平成26年度文化遺産国際協力拠点交流事業 ミャンマーにおける文化遺産保護に関する拠点交
流事業 再委託 考古分野における現地研修事業および招へい研修事業 報告』(森本晋、石村智、田代亜紀子)
奈良文化財研究所 15.4
- (2 報告) 『平成26年度文化庁文化遺産国際協力拠点交流事業 大洋州島しょ国の文化遺産保護に関する拠
点交流事業 報告書』(石村智、久保田裕道) 東京文化財研究所 15.4
- (3 論文) サモアにおける無形文化遺産の現状と展望 『奈良文化財研究所紀要』2015 pp.18-19 15.6
- (3 論文) 修復とオーセンティシティ：カンボジア・アンコール遺跡群 『月刊みんぱく』2015.12
pp.16-17 国立民族学博物館 15.12
- (3 論文) 気候変動と文化遺産：フィジー・ガウ島の調査から 『日本オセアニア学会Newsletter』113
pp.1-9 日本オセアニア学会 16.3
- (3 論文) Memories of a sacred landscape: Lost female rituals and the surviving cultural landscape in the Amami
Islands of Japan. *Lectures from the International Research Exchange between Nara National Research
Institute for Cultural Properties and Columbia University, 2011-2015* pp.31-42 奈良文化財研究所 16.3
- (5 学会発表) 気候変動と文化遺産 日本オセアニア学会第33回研究大会・総会 マホロバ・マイنز三
浦 16.3.18
- (6 発表) パラオ共和国における戦争遺跡および日本統治時代遺構の調査研究 文化遺産国際協力コン
ソーシアム第27回東南アジア・南アジア分科会 東京国立博物館 15.6.8
- (6 発表) 南のカヌー：技術複合体としてのアウトリガー・カヌー 第6回海洋考古学会 名古屋大学博
物館 15.10.3
- (7 所属学会) 東南アジア考古学会、ICOMOS、日本考古学協会、考古学研究会、日本人類学会、日本オ
セアニア学会、日本動物考古学会、史学研究会、World Archaeology Congress

犬塚将英 INUZUKA Masahide (保存修復科学センター)

- (1 公刊図書) 「コンピューターシミュレーションによる展示ケース内の温湿度分布と気流の解析」『建築
設備と配管工事 第54号第5巻』 pp.47-51 日本工業出版 15.4
- (1 共著) 「エックス線透過撮影による長八作品の調査」(犬塚将英、早川泰弘)『伊豆の長八 幕末・明治
の空前絶後の鍍絵師』 pp.160-163 平凡社 15.8
- (2 報告) 古墳公開保存施設におけるIPMの取り組み(佐藤嘉則、犬塚将英、森井順之、矢島國雄、木川り
か)『IPMフォーラム「臭化メチル全廃から10年：文化財のIPMの現在」報告書』東京文化財研究所
pp.78-84 15.12
- (2 報告) X線透過撮影による伊豆長八の作品の調査(犬塚将英、早川泰弘)『保存科学』55 pp.115-124
16.3

- (2 報告) エックス線透過撮影による四季花鳥図屏風の調査『四季花鳥図屏風 光学調査報告書』 pp.164-167 東京文化財研究所 16.3
- (2 報告) 『受託研究「X線透過撮影によるピカソ《青い肩かけの女》の光学調査」報告書』 東京文化財研究所 16.3
- (2 報告) 蒔絵硯箱の木地構造及び損傷状態の調査『在外日本美術品保存修復協力事業 秋野蒔絵硯箱』 pp.28-32 東京文化財研究所 16.3
- (2 報告) 受託研究「ラチャプラディット寺院の螺鈿扉修復計画策定のための調査研究」(山下好彦、二神葉子、早川泰弘、犬塚将英、城野誠治、本多貴之、増淵麻里耶) 『東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力 平成27年度成果報告書』 pp.84-88、93-113 東京文化財研究所 16.3
- (3 論文) Modelling Temperature and Humidity in Storage Spaces Used for Cultural Property in Japan *Studies in Conservation* 16.3
- (5 学会発表) テラヘルツ波イメージング技術による高松塚古墳壁画の層構造調査(犬塚将英、高妻洋成、杉岡奈穂子、福永香、碓智文) 文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.27
- (5 学会発表) 石人山古墳における石棺装飾の保存に関する調査(朽津信明、森井順之、犬塚将英、佐藤嘉則、日高翠、木川りか、尾崎源太郎、岡田健) 文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.27
- (5 学会発表) 日光東照宮陽明門西壁面の唐油蒔絵の調査と修理(北野信彦、犬塚将英、本多貴之、中右恵理子、武田恵理、何思緑、佐藤則武、浅尾和利) 文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.28
- (5 学会発表) 虎塚古墳公開保存施設の管理方法変更による微生物汚染状況の推移(佐藤嘉則、犬塚将英、森井順之、矢島國雄、木川りか) 文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.27
- (5 学会発表) 湿度制御した温風による熱処理による漆仕上げ材の表面ひずみの測定(竹口彩、藤原裕子、藤井義久、高妻洋成、木川りか、佐藤嘉則、古田嶋智子、犬塚将英) 第66回日本木材学会大会 名古屋大学 16.3.27
- (6 講演) Investigation and Conservation of Lacquer panels with mother-of-pearl inlay under paint used for interior decoration of Wat Rajpradit, Bangkok (Yoshihiko Yamashita, Yoko Futagami, Yasuhiro Hayakawa, Masahide Inuzuka, Takayuki Honda, Phrakhrupalatsutavat Arayapong) The conservation of East Asian Cabinets in Imperial Residences (1700-1900) the Schloss Schönbrunn, AUSTRIA 15.12.4
- (6 講演) 文化財・美術品へのTHz波イメージング技術の応用(高妻洋成、杉岡奈穂子、犬塚将英、福永香、建石徹) レーザー学会学術講演会第36回年次大会 名城大学 16.1.9-11
- (7 所属学会) IIC、日本建築学会、日本物理学会、日本文化財科学会、文化財保存修復学会
- (7 委員会等) ひたちなか市史跡保存対策委員、文化財の保存と公開における熱湿気環境WG委員
- (8 教育) 和光大学非常勤講師

今石みぎわ IMAISHI Migiwa (無形文化遺産部)

- (2 報告) ひらかれる無形文化遺産—魅力の発信と外からの力 『第10回無形民俗文化財研究協議会報告書 ひらかれる無形文化遺産—魅力の発信と外からの力』 pp.1-4 東京文化財研究所 16.3
- (2 報告) 花とイナウ—東北からアイヌ文化を考える—(赤坂憲雄、北原次郎太、今石みぎわ、三浦佑之) 『平成27年度遠野文化フォーラム 鎮魂と芸能』 pp.51-110 遠野文化研究センター 16.3
- (6 発表) 生きた文化財を継承する—無形文化遺産と被災・復興 東北大学東北アジア研究センター国際ワークショップ 東北大学東京分室会議室 15.10.25
- (6 講演) アイヌの祭具「イナウ」に似た本州の「削りかけ」について アイヌ文化普及啓発セミナー(札幌会場) かでる2・7ビル 15.7.31
- (6 講演) アイヌの祭具「イナウ」に似た本州の「削りかけ」について アイヌ文化普及啓発セミナー(東京会場) アイヌ文化交流センター 15.8.7

- (6 講義) 小正月を彩るツクリモノの世界 第6回 儀礼文化講座 儀礼文化学会研修室 15.12.13
 (6 パネリスト) 花とイナウー東北からアイヌ文化を考える(赤坂憲雄、三浦祐之、北原次郎太、今石みぎわ) 遠野文化フォーラム—鎮魂と芸能(遠野文化研究センター) 遠野みらい創りカレッジ 15.8.23
 (7 所属学会) 東北民俗の会、日本植生史学会、日本民具学会、日本民俗学会
 (7 委員会等) 岐阜市鵜飼観覧船事業のあり方検討委員会、岐阜市・関市長良川鵜飼総合調査専門委員会、「大島半島のニソの杜の習俗」調査員

宇高健太郎 UDAKA Kentaro (日本学術振興会特別研究員)

- (4 解説) 膠の基礎知識 膠とはなにか／膠の原料と製造方法／膠の現在とこれから(宇高健太郎、早川典子、北田克己) 膠文化研究会 15.11
 (5 学会発表) 煤及び膠に関する研究 文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.28
 (6 講演) (膠に関する発行物の解説) 膠文化研究会第8回公開研究会 東京藝術大学 15.12.5
 (7 所属学会) 文化財保存修復学会
 (7 委員会等) 膠文化研究会運営委員会

江村知子 EMURA Tomoko (文化遺産国際協力センター)

- (2 報告) 『選定保存技術に関する調査報告書1 和鋼』(川野邊渉、江村知子、境野飛鳥、増渕麻里耶、城野誠治) 160p 東京文化財研究所 16.3
 (4 解説) カレンダー「文化財を守る日本の伝統技術」(川野邊渉、江村知子、境野飛鳥、増渕麻里耶、城野誠治) 東京文化財研究所 15.11
 (4 解説) ロビー展示「選定保存技術—漆の文化財を守り伝えるために」(川野邊渉、江村知子、境野飛鳥、増渕麻里耶、城野誠治) 東京文化財研究所 16.3
 (4 解説) パンフレット「選定保存技術に関する調査研究」(川野邊渉、江村知子、境野飛鳥、増渕麻里耶、城野誠治) 東京文化財研究所 16.3
 (4 解説) 作品解説 『在外日本古美術品保存修復協力事業 源氏物語図屏風』 pp.17-21 東京文化財研究所 16.3
 (4 編集) 『世界遺産用語集』(川野邊渉、二神葉子、境野飛鳥、増渕麻里耶、江村知子) 144p 東京文化財研究所 16.3
 (4 編集) 『在外日本古美術品保存修復協力事業』 24p 東京文化財研究所 16.3
 (4 編集) 『在外日本古美術品保存修復協力事業 二十五菩薩来迎図』 88p 東京文化財研究所 16.3
 (4 編集) 『在外日本古美術品保存修復協力事業 源氏物語図屏風』 60p 東京文化財研究所 16.3
 (4 編集) 『在外日本古美術品保存修復協力事業 秋野時絵硯箱』 32p 東京文化財研究所 16.3
 (4 編集) 『在外日本古美術品保存修復協力事業 ワークショップ2014』 16p 東京文化財研究所 16.3
 (4 校閲) 各国の文化財保護法令シリーズ [20] 『メキシコ【考古学・芸術・歴史的記念物及び地区に関する連邦法】』(江村知子、境野飛鳥) 79p 東京文化財研究所 16.3
 (6 講演) デザインと絵画のあいだ—尾形光琳の表現手法について—「燕子花と紅白梅」展 シンポジウム「光琳デザインの秘密」 根津美術館 15.5.3
 (6 発表) 近世絵画の光学調査「日本近世における彩色の技法と材料の受容と変遷に関する研究」第4回研究会 国立歴史民俗博物館 15.6.22
 (6 発表) 光琳の「道崇」印作品について—尾形光琳の江戸滞在と画風転換 企画情報部研究会 東京文化財研究所 16.2.23
 (6 発表) 国立歴史民俗博物館所蔵 太平記絵巻 調査報告「日本近世における彩色の技法と材料の受

容と変遷に関する研究」第5回研究会 国立歴史民俗博物館 16.3.17
(7 所属学会) 美術史学会

岡田健 OKADA Ken (保存修復科学センター)

- (2 報告) 敦煌莫高窟第285窟東壁に描かれた如来像に用いられた彩色材料と技法(岡田健、渡辺真樹子、高林弘実、蘇伯民、崔強) 『保存科学』55 pp.139-149 16.3
- (5 学会発表) 敦煌莫高窟第285窟の壁画劣化に及ぼす砂塵の影響(三箇山茜、銚井修一、小椋大輔、岡田健、蘇伯民) 日本建築学会平成27年度近畿支部研究発表会 大阪保健医療大学 15.6.27
- (5 学会発表) 敦煌莫高窟第285窟東壁に描かれた如来像に用いられた彩色材料と技法(岡田健、渡辺真樹子、高林弘実、蘇伯民、崔強) 文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.28
- (5 学会発表) 敦煌莫高窟第285窟の壁画制作における構図を決める当たり線の役割に関する研究(中田愛乃、高林弘実、岡田健、蘇伯民、崔強) 日本文化財科学会第32回大会 東京学芸大学 15.7.12
- (5 学会発表) 東日本大震災で被災した文化財の救出活動の経験から(岡田健、伊藤嘉章、佐野千絵、山梨絵美子、山内和也、森井順之) 2015東アジア文化遺産保存国際シンポジウム in 奈良 奈良春日野国際フォーラム 豊～I・RA・KA～ 15.8.28
- (5 学会発表) 敦煌莫高窟第285窟の壁画の劣化と外気流入との関係(三箇山茜、銚井修一、小椋大輔、岡田健、蘇伯民) 日本建築学会大会学術講演会 東海大学 15.9.6
- (6 発表) 知識科学としての敦煌データベース(中国語)(岡田健、津村宏臣) 2015 Dunhuang Forum: International Conference on Digital Library and Cultural Relics Preservation and Use in the Big Data Environment 敦煌研究院(敦煌) 15.8.25
- (6 講演) 東文研與文化遺産院—跨国合作保護文化遺産的過去、現在和未来(中国語) 中国文化遺産研究院建院80周年記念国際シンポジウム 中国文化遺産研究院(北京) 15.7.9
- (6 講演) 壁画科学研究與藝術欣賞(中国語) “伝統中国絵画”学術研討会 北京画院(北京) 15.9.21
- (6 講演) 「記憶」與「真實」的邊界—文化資産研究的意義與課題(中国語) 「遺存・記憶・啓示: 文化交流與信仰傳播」國際學術研討会 国立台南大学(台南) 15.11.8
- (6 講演) 地域の連携と文化財防災—被災文化財等救援委員会の経験から— 京都国立博物館講演会「文化財を災害から守る」 けいはんなオープンイノベーションセンター 15.12.6
- (6 講演) 文化財防災のありかた—地域の歴史と文化を伝えるために— 香川県立ミュージアム講演会 香川県立ミュージアム 16.3.6
- (6 講演) 文化財の防災とは何か—各地域史料ネットワークの活動への期待— 第2回全国史料ネットワーク研究交流集会 郡山市民プラザ 16.3.19
- (7 所属学会) 日本建築学会、東アジア文化遺産保存学会、美術史学会、文化財保存修復学会
- (7 委員会等) 文化庁文化財等災害対策委員会、京都国立博物館文化財保存修理所運営委員会委員、奈良国立博物館文化財保存修理所運営委員会委員

小田桃子 ODA Momoko (アソシエイトフェロー)

- (4 編集) 『国際研修「日本の材料と技術による保存修復」』 329p 東京文化財研究所 16.3
(7 所属学会) 文化財保存修復学会

片山まび KATAYAMA Mabi (客員研究員)

- (7 所属学会) 漆工史学会、美術史学会、東洋陶磁学会、韓国美術史学会
- (8 教育) 東京藝術大学美術学部准教授、東京外国語大学非常勤講師、信州大学非常勤講師

加藤雅人 KATO Masato (文化遺産国際協力センター)

- (2 報告) 1.修復報告(楠京子、井上さやか、山田祐子、君嶋隆幸、加藤雅人)『在外日本古美術品保存修復協力事業 二十五菩薩来迎図』 pp.1-20 東京文化財研究所 16.3
- (2 報告) 付録(楠京子、山田祐子、藤澤明、加藤雅人)『在外日本古美術品保存修復協力事業 二十五菩薩来迎図』 pp.25-84 東京文化財研究所 16.3
- (2 報告) 1.修復報告(山田祐子、井上さやか、楠京子、君嶋隆幸、加藤雅人)『在外日本古美術品保存修復協力事業 源氏物語図屏風』 pp.1-16 東京文化財研究所 16.3
- (2 報告) 付録(山田祐子、楠京子、藤澤明、加藤雅人)『在外日本古美術品保存修復協力事業 源氏物語図屏風』 pp.22-56 東京文化財研究所 16.3
- (4 編集)『在外日本古美術品保存修復協力事業』 24p 東京文化財研究所 16.3
- (4 編集)『在外日本古美術品保存修復協力事業 二十五菩薩来迎図』 88p 東京文化財研究所 16.3
- (4 編集)『在外日本古美術品保存修復協力事業 源氏物語図屏風』 60p 東京文化財研究所 16.3
- (4 編集)『在外日本古美術品保存修復協力事業 秋野時絵硯箱』 32p 東京文化財研究所 16.3
- (4 編集)『在外日本古美術品保存修復協力事業 ワークショップ2014』 16p 東京文化財研究所 16.3
- (4 編集)『国際研修「日本の材料と技術による保存修復」』 329p 東京文化財研究所 16.3
- (5 学会発表) *Karibari: The Japanese Drying Technique* (Masato KATO, Takayuki KIMISHIMA) *Adapt & Evolve 2015: East Asian Materials and Techniques in Western Conservation* Brunei Gallery, SOAS, University of London 15.4.8-10
- (5 学会発表) 紙本、絹本の修復に使用される補彩絵具の変色(山田祐子、加藤雅人、楠京子) 文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.28
- (5 学会発表) キンベル美術館所蔵『二十五菩薩来迎図』修復事例報告(楠京子、山田祐子、加藤雅人、君嶋隆幸、井上さやか) 文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.28
- (5 学会発表) シンシナティ美術館所蔵『源氏物語図屏風』修復事例報告(楠京子、山田祐子、加藤雅人、君嶋隆幸、井上さやか) 文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.28
- (6 講義) パピルス裏打ちサンプルを用いた物性試験および評価(加藤雅人、楠京子、山田祐子) 大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト「保存修復材料としての和紙研修」 東京文化財研究所 15.6.8-17
- (6 講義) “Material and Technique -Paper-”, “Conservation of Cultural Properties on Paper and Silk in Japan”, “Basic - Japanese Paper and Silk Cultural Properties -”, Workshops on the Conservation and Restoration of Japanese Art Objects on Paper and Silk ベルリン国立博物館アジア美術館 15.7.8-10
- (6 講義) “Advanced - Restoration of Japanese hanging scroll -” (Takayuki KIMISHIMA, Keisuke SUGIYAMA, Kyoko KUSUNOKI, Yuko YAMADA, Masato KATO) Workshops on the Conservation and Restoration of Japanese Art Objects on Paper and Silk ベルリン国立博物館アジア美術館 15.7.13-17
- (6 講義) “Paper Conservation in Japan”, “Paper Basics” 国際研修「紙の保存と修復」 東京文化財研究所 15.8.31-9.18
- (6 講義) “Paper Conservation in Japan”, “Paper Basics”, “Analysis of Paper -Identification-” International Course on Conservation of Paper in Latin America メキシコ国立人類学歴史機構・国立文化遺産保存修復機関 15.11.4-20
- (6 講演) 和紙で文化財の命をつなぐー文化遺産としての和紙と文化遺産を守る素材としての和紙ー平成27年度 東京家政大学服飾美術学科主催 緑苑祭学科シンポジウム「ユネスコ無形遺産ー世界に広がる和紙のはなしー」 東京家政大学 15.10.24
- (6 講演) 紙資料の展示環境 第26回保存フォーラム「保存と展示の両立を考える」 国立国会図書館 15.12.18
- (7 所属学会) 日本文化財科学会、日本木材学会、文化財保存修復学会

(7 委員会等) 知覧特攻平和会館保存検討委員会、保存修復学会理事、保存修復学会学会誌編集委員会 幹事

亀井伸雄 KAMEI Nobuo (所長)

(2 報告) パダン調査の主要成果と歴史地区再生への期待 『西スマトラ州パダン歴史地区の再生に関するワークショップ報告書』 pp.147-150 東京文化財研究所 16.3

(3 論文) 「文化国家」としての日本の足跡と役割 『国連ジャーナル2015秋季号』 pp.9-14 日本国際連合協会 15.9

(4 解説) 臭化メチル全廃10年と今後—ミュージアムIPMの展開とPCOの将来(黒澤眞次、三浦定俊、亀井伸雄、本田光子、木川りか) 『CLEAN LIFE 2015ミュージアムIPM編 II』 pp.2-12 環境文化創造研究所 15.11

(6 講演) 松江城国宝指定の意義と課題 松江城天守国宝指定記念式典 島根県民会館 15.8.9

(6 講演) 伝建制度創設40周年に寄せて 伝統的建造物群保存地区制度創設40周年記念シンポジウム 文部科学省講堂 15.10.15

(6 講演) 松江城天守の調査研究とその成果 松江城天守国宝指定記念シンポジウム 大阪国際交流センター 15.12.12

(6 講義) 文化財建造物の保護の現状と課題 日本瓦技能継承薈会 磐田グランドホテル研修会場 15.7.24

(6 講義) 文化財と倫理 国宝修理装演師連盟初級講習会 京都国立博物館 15.11.27

(7 所属学会) 土木学会、日本建築学会、建築史学会、文化財建造物保存修理研究会

河合大介 KAWAI Daisuke (客員研究員)

(2 報告) 《特別インタビュー／日本美術オーラル・ヒストリー・アーカイヴ提携企画》〈HRC〉第四の男 和泉達(前)(河合大介、宮田有香、渡辺くらら) 『あいだ』 220 pp.9-12 『あいだ』の会 15.4

(2 報告) 《特別インタビュー／日本美術オーラル・ヒストリー・アーカイヴ提携企画》〈HRC〉第四の男 和泉達(後)(河合大介、宮田有香、渡辺くらら) 『あいだ』 221 pp.10-20 『あいだ』の会 15.6

(3 論文) 赤瀬川原平と《山手線事件》—〈匿名性〉を手がかりとして— 『美術研究』 418 pp.68-80 16.3

(3 論文) 美術におけるモダニズム—グリーンバーグからイブ=アラン・ボワヘー 『フィルカル』 vol.1, no.1 株式会社ミュー pp.68-83 16.3

(4 翻訳) ジェロルド・レヴィンソン「文学における意図と解釈」 西村清和編訳 『分析美学基本論文集』 pp.244-298 勁草書房 15.8

(4 記事) 「物故者」嶋本昭三 『日本美術年鑑』 平成26年版 p. 449 16.3

(6 講演) 趣旨説明 芸術における意図・行為・意味—現代哲学と美学との交叉— 成城大学 16.1.30

(6 司会) ディスカッション(河合大介、森功次、池田喬、八重樫徹、佐藤暁) 芸術における意図・行為・意味—現代哲学と美学との交叉— 成城大学 16.1.30

(7 所属学会) 美学会、美術史学会、メルロ=ポンティ・サークル

(8 教育) 成城大学文芸学部非常勤講師、日本大学理工学部非常勤講師

川嶋陶子 KAWASHIMA Toko (アソシエイトフェロー)

(2 報告) 『文化遺産国際協力コンソーシアム平成27年度諸外国国際協力体制調査 韓国国際協力体制に関する調査報告書』(青木繁夫、藤岡麻理子、川嶋陶子) 28p 16.3

(4 編集)『文化遺産国際協力コンソーシアム平成27年度諸外国国際協力体制調査 韓国国際協力体制に関する調査報告書』 28p 16.3

(4 編集)『第17回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会 危機の中の文化遺産 報告書』 54p 16.3

川野邊渉 KAWANOBE Wataru (文化遺産国際協力センター)

(2 報告)『平成27年度文化庁委託 第39回世界遺産委員会審議調査研究事業』(川野邊渉、二神葉子、境野飛鳥、増渕麻里耶、原本知実) pp.15-21 東京文化財研究所 15.10

(4 解説)カレンダー「文化財を守る日本の伝統技術」(川野邊渉、江村知子、境野飛鳥、増渕麻里耶、城野誠治) 東京文化財研究所 15.11

(4 解説)『世界遺産用語集』(川野邊渉、二神葉子、境野飛鳥、増渕麻里耶) 144p 東京文化財研究所 16.3

(4 解説)『選定保存技術に関する調査報告書1 和鋼』(川野邊渉、江村知子、境野飛鳥、増渕麻里耶、城野誠治) 160p 東京文化財研究所 16.3

(4 解説)ロビー展示「選定保存技術一漆の文化財を守り伝えるために」(川野邊渉、江村知子、境野飛鳥、増渕麻里耶、城野誠治) 東京文化財研究所 16.3

(4 解説)パンフレット「選定保存技術に関する調査研究」(川野邊渉、江村知子、境野飛鳥、増渕麻里耶、城野誠治) 東京文化財研究所 16.3

(4 編集)『在外日本古美術品保存修復協力事業』 24p 東京文化財研究所 16.3

(4 編集)『在外日本古美術品保存修復協力事業 二十五菩薩来迎図』 88p 東京文化財研究所 16.3

(4 編集)『在外日本古美術品保存修復協力事業 源氏物語図屏風』 60p 東京文化財研究所 16.3

(4 編集)『在外日本古美術品保存修復協力事業 秋野時絵硯箱』 32p 東京文化財研究所 16.3

(4 編集)『在外日本古美術品保存修復協力事業 ワークショップ2014』 16p 東京文化財研究所 16.3

(4 編集)『国際研修「日本の材料と技術による保存修復」』 329p 東京文化財研究所 16.3

(5 学会発表)ポリビニルアルコール分解酵素におよぼす接着剤および顔料の影響(酒井清文、楠京子、早川典子、山中勇人、川野邊渉) 文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.28

(7 所属学会) IIC、IIC-Japan、日本文化財科学会、文化財保存修復学会

(7 委員会等) アジア太平洋地域世界遺産等文化財保護協力推進事業に係る選定委員会委員、国宝白杵磨崖仏保存修理委員会委員長、田川市世界記憶遺産保存等指導委員会委員、ICCROM理事、日本航空協会評議員

間舎裕生 KANSHA Hiroo (客員研究員)

(1 公刊図書)「シリアー内戦と文化財の危機」(安倍雅史、間舎裕生)『イスラームと文化財』(野口淳、安倍雅史編) pp.66-77 新泉社 15.10

(1 公刊図書)「パレスチナー土地の歴史と文化財」『イスラームと文化財』(野口淳、安倍雅史編) pp.104-109 新泉社 15.10

(2 報告)キルギス共和国チュール川流域の文化遺産の保護と研究 アク・ベシム遺跡、ケン・ブルン遺跡—2011～2014年度—(山内和也、バキット・アマンバエヴァ、安倍雅史、久米正吾、間舎裕生、山藤正敏)『中央アジア文化遺産保護報告集』 13 108p キルギス共和国国立科学アカデミー歴史文化遺産研究所、東京文化財研究所 16.3

(2 報告)『紛争と文化遺産—紛争下・紛争後の文化遺産保護と復興—』(山内和也、久米正吾、山藤正敏、近藤洋、間舎裕生) 91p 東京文化財研究所 16.3

(6 パネリスト) 紛争・騒乱下における文化遺産 シンポジウム『イスラームと文化遺産—文化的多様性の維持と多文化共生社会をめざして—』 早稲田大学 15.10.4

- (6 講演) パレスチナにおける文化遺産と地域社会 国際交流ワークショップ『文化遺産をめぐる対話』
国立オリンピック記念青少年総合センター 15.11.27
- (7 所属学会) 日本オリエント学会、日本西アジア考古学会、三田史学会
- (7 委員会等) 第8回世界考古学会議京都大会 (WAC-8 Kyoto) 実行委員会委員
- (8 教育) 慶應義塾大学文学部非常勤講師

木川りか KIGAWA Rika (保存修復科学センター)

- (2 報告) 世界の状況と現在の処置法の選択肢について 『臭化メチル全廃から10年：文化財のIPMの現在』 pp.5-20 東京文化財研究所 15.12
- (2 報告) 古墳公開保存施設におけるIPMの取り組み (佐藤嘉則、犬塚将英、森井順之、矢島國雄、木川りか) 『臭化メチル全廃から10年：文化財のIPMの現在』 pp.78-84 東京文化財研究所 15.12
- (2 報告) 臭化メチル全廃とその後の10年の歩み (三浦定俊、木川りか、佐野千絵) 『保存科学』 55 pp.37-45 16.3
- (4 解説) 臭化メチル全廃10年と今後—ミュージアムIPMの展開とPCOの将来— (黒澤真次、亀井伸雄、三浦定俊、本田光子、木川りか) 『CLEAN LIFE 2015ミュージアムIPM編 II』 pp.2-12 環境文化創造研究所 15.11
- (4 解説) 古墳などの公開保存施設における微生物制御のとりくみ—IPMの考え方に基づいて— (佐藤嘉則、木川りか) 『CLEAN LIFE 2015ミュージアムIPM編 II』 pp.14-17 環境文化創造研究所 15.11
- (5 学会発表) 高松塚・キトラ両古墳の石材から分離された「Cladophialophora」属分離株の同定 (喜友名朝彦、安光得、木川りか、佐野千絵、杉山純多) 日本菌学会第59回大会 那覇市ぶんかテンプス館 15.5.16-17
- (5 学会発表) 石人山古墳における石棺装飾の保存に関する調査 (朽津信明、森井順之、犬塚将英、佐藤嘉則、日高翠、木川りか、尾崎源太郎、岡田健) 文化財保存修復学会37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.27
- (5 学会発表) 低酸素濃度殺虫法 —25℃、27.5℃、30℃における処理期間の検討— (小野寺裕子、小峰幸夫、木川りか) 文化財保存修復学会37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.27
- (5 学会発表) 虎塚古墳公開保存施設の管理方法変更による微生物汚染状況の推移 (佐藤嘉則、犬塚将英、森井順之、矢島國雄、木川りか) 文化財保存修復学会37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.28
- (5 学会発表) キトラ古墳の微生物調査結果：発掘直後から埋戻しに至る期間 (2004年～2013年) の微生物相と考察 (木川りか、喜友名朝彦、立里臨、佐藤嘉則、佐野千絵、杉山純多、宇田川滋正、建石徹) 日本文化財科学会第32回大会 東京学芸大学 15.7.12
- (5 学会発表) 湿度制御した温風による熱処理による漆仕上げ材の表面ひずみの測定 (竹口彩、藤原裕子、藤井義久、高妻洋成、木川りか、佐藤嘉則、古田嶋智子、犬塚将英) 第66回日本木材学会大会 名古屋大学 16.3.27
- (6 発表) 世界の状況と現在の処置法の選択肢について フォーラム「臭化メチル全廃から10年：文化財のIPMの現在」 東京文化財研究所 15.7.16
- (6 発表) 古墳公開保存施設におけるIPMの取り組み (佐藤嘉則、犬塚将英、森井順之、矢島國雄、木川りか) フォーラム「臭化メチル全廃から10年：文化財のIPMの現在」 東京文化財研究所 15.7.16
- (6 発表) 高松塚古墳壁画の生物劣化対策 小研究会「壁画の生物劣化—生物劣化メカニズム解明に向けた科学的探究—」 東京文化財研究所 15.11.11
- (6 講義) Biodeterioration of wooden historic buildings in Japan ミャンマー専門家研修 東京文化財研究所 15.7.31
- (6 講義) 『保存科学』—環境制御 (生物被害の対策) 平成27年度アーカイブズ・カレッジ史料管理学

研修会 国文学研究資料館 15.9.8

(6 講義) 有害生物対策 平成27年度アーカイブズ研修 国立公文書館 15.11.9

(6 講習会) 文化財公開施設におけるIPMの取組について(木川りか、佐藤嘉則) H27年度公開承認施設担当者会議 文化庁 15.11.5

(6 講習会) 水損資料の微生物被害 文化財の防災に関する研修会 九州国立博物館 15.11.29

(6 講習会) 文化財の生物被害と加害生物およびレベルコントロールについて (公財)文化財虫菌害研究所IPMコーディネータ研修 国立民族学博物館 15.12.16

(7 所属学会) IIC、International Biodeterioration & Biodegradation Society、The Society for the Preservation of Natural History Collections、日本文化財科学会、日本防菌防黴学会、文化財保存修復学会

(7 委員会等) 国立歴史民俗博物館資料保存環境検討委員会委員、人間文化研究機構 連携研究員、重要文化財建造物 輪王寺本堂保存修理専門委員会委員、(公財)文化財虫菌害研究所 総合的防除対策検討委員会委員、(公財)文化財虫菌害研究所 文化財IPMコーディネータ委員会委員、熊本博物館協議会委員

菊池理予 KIKUCHI Riyo (無形文化遺産部)

(2 報告) 道具と技術の関わり—熊谷地域の染色工房を調査して— 『無形文化遺産(伝統技術)の伝承に関する研究報告書』 pp.39-46 東京文化財研究所 15.9

(2 報告) 資料1 熊谷地域における調査(牛村仁美、菊池理予) 『無形文化遺産(伝統技術)の伝承に関する研究報告書』 pp.67-102 東京文化財研究所 15.9

(3 論文) 復刻銘仙の製作と技術の伝承—分業のこれから— 『きものモダニズム—須坂クラシック美術館 銘仙コレクション—』 pp.138-141 公益財団法人泉屋博古館分館 15.9

(6 司会) 染織文化財の技法・材料に関する研究会「ワークショップ 友禅染 —材料・道具・技術—」 文化学園大学 15.10.16-17

(6 司会) 無形文化遺産(伝統技術)の伝承に関する研究会Ⅱ「染織技術の伝承と地域の関わり」 東京文化財研究所 15.11.11-12

(6 講習会) (新井教央(新啓織物)、菊池理予) 対談「現在に伝わる銘仙の技—復刻銘仙を語る—」 公益財団法人泉屋博古館分館 15.11.21

(7 所属学会) 国際服飾学会、美術史学会、服飾文化学会

(8 教育) 女子美術大学工芸専攻非常勤講師

貴田啓子 KIDA Keiko (日本学術振興会特別研究員)

(3 論文) The Effect of Iron Ions from Prussian Blue Pigment on the Deterioration of Japanese Paper (Keiko Kida, Antje Potthast, Masamitsu Inaba, Noriko Hayakawa) *Restaurator*, 36 (4) pp.251-268 15.12

(5 学会発表) 緑青を使用した絹本絵画における裏打紙の劣化(貴田啓子、岡泰央、稲葉政満、早川典子) 文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.27

(5 学会発表) Effect of malachite corrosion on the molecular weight distribution of cellulose in lining paper used for color painting on silk (Keiko Kida, Yasuhiro Oka, Masamitsu Inaba, Noriko Hayakawa) 10th International Symposium on Weatherability Ota Campus of Gunma University Graduate School of Science and Technology 15.7.2-3

(7 所属学会) セルロース学会、文化財保存修復学会、マテリアルライフ学会

(8 教育) 帝京大学宇都宮キャンパス非常勤講師、東京藝術大学大学院美術研究科非常勤講師

北野信彦 KITANO Nobuhiko (保存修復科学センター)

(1 公刊図書) 「建築 ベンガラ塗装史」、「ベンガラとは何か—ベンガラの歴史とつくり方—」 北野信彦、小林達雄、今泉今右衛門、志賀智史 『大地の赤—ベンガラ異空間—』 pp.18-26、55-67 INAXラ

イブミュージアム企画委員会 15.4

(1 公刊図書)「アイヌ文化の漆器」『季刊考古学 アイヌの考古学』133号 pp.45-51 雄山閣 15.10

(2 報告) 出土部材における漆塗装に関する調査 『南元町遺跡第3次発掘調査報告』 p.20-27 新宿区教育委員会 15.7

(2 報告) 出土漆器資料の材質・技法に関する分析調査 『徳島一丁目遺跡』 pp.150-159 徳島県埋蔵文化財センター 16.3

(3 論文) 陽明門西側漆箔板壁面に描かれた「大和松岩笹と巢籠鶴」の科学調査 『大日光』85 pp.20-27 日光東照宮 15.8

(3 論文) 当世具足の塗装技術に関する科学調査 『甲冑武具研究』191 pp.2-24 日本甲冑武具研究保存会 15.8

(4 解説) (共同研究) 徳川宗家伝来文化財に関する保存修復科学的な調査研究 『徳川記念財団 会報』25 p.14 徳川記念財団 15.6

(4 編集) 『文化財における伝統技術及び材料に関する調査研究報告書2015年度』 90p 東京文化財研究所 保存修復科学センター 16.3

(5 学会発表) 日光社寺文化財の江戸期修理で用いられた金箔復元に関する調査 (北野信彦、佐藤則武、松村謙一、市川篤、北川和夫) 文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.27

(5 学会発表) 日光東照宮陽明門西壁面の唐油蒔絵の調査と修理 (北野信彦、犬塚将英、本多貴之、中右恵理子、武田恵理、何思縁、佐藤則武、浅尾和年) 文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.28

(5 学会発表) 桃山文化期における輸入漆の調達と使用に関する調査 第31回漆を科学する会研究発表討論会 京都府立大学 15.9.4

(6 発表) 文化財建造物の修理で用いられた近世の金箔復元に関する調査 平成27年度金沢金箔伝統技術保存会研修会 金沢伝統技術大学校 15.7.31

(6 発表) 日本における塗装彩色の歴史と修理に向けた取り組み 日韓文化財研究交流協議会 東京文化財研究所 15.10.20

(6 発表) 文化財建造物の塗装彩色修理と漆塗装 第9回文化財における伝統技術及び材料に関する研究会 東京文化財研究所 16.1.26

(6 講演) 文化財レスキュー (東日本大震災後の取り組み) 第4回APTCCN会合専門家会議 新潟市 15.11.6

(6 講演) 文化遺産に対する文化財科学からのアプローチ 2015年度龍谷大学史学会 龍谷大学 15.11.6

(6 講演) 豊臣家と桃山文化期の漆工技術 第46回ミュージアム講座 岡山シティミュージアム 16.2.6

(6 講義) 考古・民俗資料の劣化と保存 平成27年度保存担当学芸員研修 東京文化財研究所 15.7.24

(6 講義) 漆器の整理と調査研究 平成27年度文化財担当者専門研修「木器・木製品調査課程」 奈良文化財研究所 15.9.15

(6 講習会) 被災した文化財の除染対策 (佐野千絵、北野信彦) 平成27年度第1回、第2回福島県被災文化財等救援本部研修会 南相馬市博物館、白河館まほろん 15.11.4、16.1.28

(6 講習会) 学芸員自身で可能な汚損への対処法 宮城県博物館等連絡協議会第2回研修会 東北歴史博物館 16.2.26

(7 所属学会) 日本建築学会、日本考古学協会、日本文化財科学会、日本民具学会、文化財保存修復学会 (7 委員会等) 東京都文化財保護審議会委員 (第3部会)、東京都港区新郷土資料館開設準備委員会委員、京都市埋蔵文化財研究所各員指導研究員、松浦市鷹島改定遺跡調査指導委員会保存処理専門部会委員、日本文化財科学会評議員

(8 教育) 東京藝術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻連携教授、龍谷大学非常勤講師、首都大学東京非常勤講師、京都嵯峨芸術大学非常勤講師

橘川英規 KIKKAWA Hideki (企画情報部)

- (4 編集) 三木宗策 文献及び図版目録 『三木宗策の世界—木彫の正統 没後70年』 pp.106-107 郡山市立美術館 15.10
- (4 編集) 五味文彦文献目録 『五味文彦画集 瞳の中の触覚』 pp.141-143 求龍堂 15.11
- (4 編集) 馬場まり子年譜 (馬場まり子、橘川英規) 『馬場まり子画集 ピンク幻想』 pp.252-253 求龍堂 16.2
- (4 記事) 「物故者」片山利弘、中村誠、村瀬雅夫、渡辺恂三 『日本美術年鑑』平成26年版 pp.448-449、455-456、458、462 16.3
- (5 学会発表) 文化財研究情報アーカイブの構築—東京文化財研究所の取り組み (山梨絵美子、皿井舞、橘川英規、福永八朗、小山田智寛、安永拓世、津田徹英、二神葉子) 2015東アジア文化遺産保存国際シンポジウム in 奈良 奈良春日野国際フォーラム麓〜I・RA・KA〜 15.8.27-28
- (7 所属学会) アート・ドキュメンテーション学会
- (7 委員会等) 「海外日本美術資料専門家(司書)の招へい・研修・交流事業」実行委員

楠京子 KUSUNOKI Kyoko (アソシエイトフェロー)

- (2 報告) 修復報告(楠京子、井上さやか、山田祐子、君嶋隆幸、加藤雅人) 『在外日本古美術品保存修復協力事業 二十五菩薩来迎図』 pp.1-20 東京文化財研究所 16.3
- (2 報告) 付録(楠京子、山田祐子、藤澤明、加藤雅人) 『在外日本古美術品保存修復協力事業 二十五菩薩来迎図』 pp.25-84 東京文化財研究所 16.3
- (2 報告) 修復報告(山田祐子、井上さやか、楠京子、君嶋隆幸、加藤雅人) 『在外日本古美術品保存修復協力事業 源氏物語図屏風』 pp.1-16 東京文化財研究所 16.3
- (2 報告) 付録(山田祐子、楠京子、藤澤明、加藤雅人) 『在外日本古美術品保存修復協力事業 源氏物語図屏風』 pp.22-56 東京文化財研究所 16.3
- (4 編集) 『在外日本古美術品保存修復協力事業 二十五菩薩来迎図』 88p 東京文化財研究所 16.3
- (5 学会発表) キンベル美術館所蔵『二十五菩薩来迎図』修復事例報告(楠京子、山田祐子、加藤雅人、君嶋隆幸、井上さやか) 文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.28
- (5 学会発表) シンシナティ美術館所蔵『源氏物語図屏風』修復事例報告(楠京子、山田祐子、加藤雅人、君嶋隆幸、井上さやか) 文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.28
- (5 学会発表) ポリビニルアルコール分解酵素におよぼす接着剤および顔料の影響(酒井清文、楠京子、早川典子、山中勇人、川野邊渉) 文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.28
- (5 学会発表) フノリ抽出物の物性に及ぼす抽出条件の影響—温度・種・水の硬度—(早川典子、大村卓也、原由宇稀、楠京子、貴田啓子、本多貴之) 文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.28
- (5 学会発表) 紙本、絹本の修復に使用される補彩絵具の変色(山田祐子、加藤雅人、楠京子) 文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.28
- (6 講義) パピルス裏打ちサンプルを用いた物性試験および評価(加藤雅人、楠京子、山田祐子) 大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト「保存修復材料としての和紙研修」 東京文化財研究所 15.6.8-17
- (6 講義) “Starch for soko” Basic-Japanese Paper and Silk Cultural Properties- Workshops on the Conservation and Restoration of Japanese Art Objects on Paper and Silk ベルリン国立博物館アジア美術館 15.7.8
- (6 講義) “Advanced – Restoration of Japanese Hanging Scroll-” (Takayuki KIMISHIMA, Keisuke SUGIYAMA, Kyoko KUSUNOKI, Yuko YAMADA, Masato KATO) Workshops on the Conservation and Restoration of Japanese Art Objects on Paper and Silk ベルリン国立博物館アジア美術館 15.7.13-17
- (6 講義) “Starch for soko”, International Course on Conservation of Paper in Latin America メキシコ国

立人類学歴史機構 国立文化財保存修復機関 15.11.5

(6 講義) International Course on Conservation of Paper in Latin America メキシコ国立人類学歴史機構・国立文化遺産保存修復機関 15.11.4-20

(7 所属学会) 文化財保存修復学会、ICON

朽津信明 KUCHITSU Nobuaki (保存修復科学センター)

(2 報告) 日本における石塔の地震対策 『日韓共同研究成果報告会報告書2015』 pp.44-58 15.7

(2 報告) 日韓共同研究2011～2015年の歩み 『2011-2015年日韓共同研究報告書』 pp.1-3 16.3

(2 報告) 被災遺構の保存と活用 中期計画「文化財の防災計画に関する調査研究」五カ年報告書 pp.12-14 16.3

(2 報告) 下藤キリシタン墓地の遺構保存環境について 『下藤キリシタン墓地』 pp.31-33 白杵市教育委員会 16.3

(3 論文) 屋外石造文化財における金箔の保存条件に関する研究(朽津信明、渡邊尚恵、佐多麻美、森井順之) 『保存科学』 55 pp.1-10 16.3

(3 論文) 漆喰表面の劣化形態に関する実験的考察(朽津信明、久住有生、前川佳文、早川典子) 『保存科学』 55 pp.27-35 16.3

(5 学会発表) 石人山古墳における石棺装飾の保存に関する調査(朽津信明、森井順之、犬塚将英、佐藤嘉則、日高翠、木川りか、尾崎源太郎、岡田健) 文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.27

(5 学会発表) 東京大学史料編纂所所蔵「落合左平次道次背旗」の保存修理報告(山口悟史、高島昌彦、金子拓、市宮景子、宇都宮正紀、朽津信明、早川典子、城野誠治) 文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.27

(5 学会発表) 漆喰表面の劣化形態に関する実験的考察(朽津信明、久住有生、前川佳文、早川典子) 日本文化財科学会第32回大会 東京学芸大学 15.7.11-12

(5 学会発表) 屋外石造文化財における金箔の保存条件に関する研究(朽津信明、渡邊尚恵、佐多麻美、森井順之) 日本文化財科学会第32回大会 東京学芸大学 15.7.11-12

(5 学会発表) 前橋市・宝塔山古墳における漆喰の施工過程に関する研究(前川佳文、朽津信明、久住有生) 日本文化財科学会第32回大会 東京学芸大学 15.7.11-12

(5 学会発表) 帯磁率計を用いた古墳使用石材の簡易判定(池田朋生、朽津信明) 日本文化財科学会第32回大会 東京学芸大学 15.7.11-12

(5 学会発表) 伝統的修復部材の研究～国重要文化財「通潤橋」における目地漆喰について～(坂口圭太郎、西慶喜、大津山恭子、朽津信明) 日本文化財科学会第32回大会 東京学芸大学 15.7.11-12

(5 学会発表) 砂岩製文化財の表面風化形態について(朽津信明、森井順之、西山賢一) 日本応用地質学会平成27年度研究発表会 京都大学宇治キャンパス 15.9.24-25

(6 発表) 日本における石塔の地震対策 日韓共同研究2015年度成果報告会 東京文化財研究所 15.7.8

(6 講義) 材料と技法 絵具 修理技術者講習会 文化庁 15.10.28

(7 所属学会) 日本応用地質学会、日本地形学連合、日本地質学会、日本文化財科学会、文化財保存修復学会

(7 委員会等) 清戸迫横穴保存委員会委員、白杵磨崖仏保存修理査査委員、白杵市内キリシタン遺跡調査指導委員会委員、大悲山石仏保存修理指導委員会委員、「通潤橋」保存活用検討委員会委員、西谷戸横穴墓群整備検討委員会委員、屋形古墳群整備基本計画策定委員会委員、竹原古墳整備計画策定委員会委員、小豆島町「世界遺産化」運営委員会委員、南島原市文化財専門委員会委員

(8 教育) 東京藝術大学大学院併任教授、東京大学理学部非常勤講師

久保田裕道 KUBOTA Hiromichi (無形文化遺産部)

- (2 報告) (石村智、久保田裕道) 『平成26年度文化庁文化遺産国際協力拠点交流事業 大洋州島しょ国の文化遺産保護に関する拠点交流事業 報告書』 東京文化財研究所 15.4
- (2 報告) 神楽の歴史と鷺宮咲前神社太々神楽 『鷺宮咲前神社と太々神楽二百年記念誌』 pp.10-44 鷺宮咲前神社太々神楽二百年記念事業実行委員会 15.10
- (2 報告) 古戸 『東栄町の盆行ーハネコミ・手踊り・大念仏ー』 pp.14-22 東栄町文化遺産活用実行委員会 16.3
- (2 報告) 盆踊りと神楽／徳山の盆踊りの記録／小河内の鹿島踊り 『徳山の盆踊調査報告書』 pp.45-54、109-141、197-204 川根本町 16.3
- (3 論文) 無形文化遺産としての儀礼文化 『儀礼文化学会紀要』 2 pp.126-137 16.3
- (4 解説) 東日本大震災を乗り越えた民俗芸能の力 『岩手県民俗芸能北京公演プログラム』 国際交流基金 pp. i-iii、v、ix、xii 15.10
- (4 エッセイ) 籠を編む 『四季の味』 81 pp.72-75 ニューサイエンス社 15.6
- (4 エッセイ) 無形文化遺産としての和紙 『四季の味』 82 pp.72-75 ニューサイエンス社 15.9
- (4 エッセイ) 神霊の込められる餅～杵と臼 『四季の味』 83 pp.72-75 ニューサイエンス社 15.12
- (4 エッセイ) 災いを流し去る人形 『四季の味』 84 pp.72-75 ニューサイエンス社 16.3
- (6 講演) 岩手県民俗芸能講演とレクチャー 平成27年度日本祭り開催支援事業中国北京公演 北京市中華世紀壇当代芸術館劇場 15.10.17-18
- (6 講演) 神楽の歴史と鷺宮咲前神社太々神楽 鷺宮咲前神社太々神楽奉納二百年記念式典 並木苑 15.10.24
- (6 パネリスト) 震災から五年～被災地芸能の現状と展望～(古水力、久保田裕道、茂木栄、小島美子) 平成27年度民俗芸能学会岩手県住田大会 岩手県住田町農林会館ホール 15.10.31
- (6 コメンテーター) 東日本大震災後の復興過程に関わる地域社会比較と民族誌情報の応用(大館勝治、小谷竜介、一柳智子、久保田裕道、吉田優貴) 東北大学東北アジア研究センター 東北大学 16.2.7
- (6 講演) 防災を目的とした文化財情報のデータ共有について 文化財防災と無形文化遺産 和歌山県文化財保護指導委員後期研修会 和歌山県民文化会館 16.3.23
- (7 所属学会) 静岡県民俗学会、日本宗教民俗学会、日本民俗学会、民俗芸能学会、儀礼文化学会、岩手民俗の会
- (7 委員会等) 文化庁文化財部調査員、武蔵野市文化財保護委員、川根本町国指定重要無形民俗文化財「徳山の盆踊」調査報告書作成委員、日本芸術文化振興会民俗芸能公演及び琉球芸能公演専門委員、第64回全国民俗芸能大会企画委員
- (8 教育) 國學院大學兼任講師

久米正吾 KUME Shogo (アソシエイトフェロー)

- (1 公刊図書) 「キルギスー旧ソ連圏における宗教・民族・文化復興と文化財」 『イスラームと文化財』 (野口淳、安倍雅史編) pp.41-48 新泉社 15.10
- (2 報告) Preliminary Report on the Safeguarding of the Bamiyan Site 2013: 11th Mission (Kazuya Yamauchi, Shogo Kume, Hiroshi Kondo eds.) Recent Cultural Heritage Issues in Afghanistan Preliminary Report Series, 7 95p Ministry of Information and Culture, Islamic Republic of Afghanistan, Japan Center for International Cooperation in Conservation, National Research Institute for Cultural Properties, Tokyo/Nara 15.12
- (2 報告) 『キルギス共和国チュール川流域の文化遺産の保護と研究 アク・ベシム遺跡、ケン・ブルン遺跡ー2011～2014年度ー』 (山内和也、バキット・アマンヴァエヴァ、安倍雅史、久米正吾、間舎裕生、山藤正敏編著) 中央アジア文化遺産保護報告集 13 108p キルギス共和国国立科学アカデミー歴史

文化遺産研究所、東京文化財研究所 16.3

(2 報告) 『紛争と文化遺産—紛争下・紛争後の文化遺産保護と復興—』(山内和也、久米正吾、山藤正敏、近藤洋、間舎裕生編) 91p 東京文化財研究所 16.3

(3 論文) Ecology and subsistence at the Mesolithic and Bronze Age site of Aigyrzhal-2, Naryn valley, Kyrgyzstan. (G. Motuzaitė Matuzevičiūtė, R. C. Preece, S. Wang, L. Colominas, K. Ohnuma, S. Kume, A. Abdykanova, M. K. Jones) *Quaternary International* doi:10.1016/j.quaint.2015.06.065 15.8

(3 論文) ユーラシア古代遊牧社会形成の比較考古学—キルギス、ナリン川流域、イシク・クル域での日本—キルギス合同考古学調査(2015年)—(久米正吾、アイダ・アブディカノワ、早川裕式、宮田佳樹、荒友里子、テミルラン・シャルギノフ、大沼克彦) 『平成27年度考古学が語る古代オリエント—第23回西アジア発掘調査報告会報告集—』日本西アジア考古学会 16.3

(5 学会発表) 古代メソポタミアの死者供養—副葬土器内包土壌の脂質分析からの新視点—(久米正吾、宮田佳樹、堀内晶子) 日本西アジア考古学会第20回総会・大会(ポスター発表) 名古屋大学野依記念学術交流館 15.6.13-14

(5 学会発表) 海外調査におけるUAVとGISを用いたオンサイト即時地形情報解析—キルギス・イシククル地域の考古遺跡周辺を例に—(早川裕式、久米正吾、荒友里子、アイダ・アブディカノワ) 日本地形学連合2015年秋季大会(ポスター発表) 鹿児島大学稲盛会館 15.10.10-12

(6 発表) 山岳地帯における遊牧社会の形成—キルギスにおける青銅器時代考古学調査— 中央アジア考古学研究会—キルギスとその周辺地域における遊牧社会の形成— 黒田記念館 16.2.6

(6 発表) ユーラシア古代遊牧社会形成の比較考古学—キルギス、ナリン川流域、イシク・クル域での日本—キルギス合同考古学調査(2015年)—(久米正吾、アイダ・アブディカノワ、早川裕式、宮田佳樹、荒友里子、テミルラン・シャルギノフ、大沼克彦) 平成27年度考古学が語る古代オリエント—第23回西アジア発掘調査報告会— 池袋サンシャインシティ文化会館 16.3.26-27

(7 所属学会) 日本オリエント学会、日本考古学協会、日本西アジア考古学会(編集委員)

古田嶋智子 KOTAJIMA Tomoko (客員研究員)

(2 報告) 試験用実大展示ケースを用いたケース内のガス清浄化と濃度予測(呂俊民、古田嶋智子、林良典、須賀政晴、佐野千絵) 『保存科学』55 pp.125-138 16.3

(2 報告) 展示ケース内有機酸濃度への展示台の寄与(佐野千絵、古田嶋智子、呂俊民) 『保存科学』55 pp.79-88 16.3

(5 学会発表) 展示内装材料としての合板のガス放散挙動—樹種と単板乾燥条件の影響—(古田嶋智子、佐野千絵、勝亦京子、稲葉政満) 文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.27

(5 学会発表) 展示台からの有機酸放散と遮蔽シートによる対策事例の評価(佐野千絵、古田嶋智子、呂俊民) 文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.27

(5 学会発表) 換気と吸着フィルタによる展示ケースの清浄化(呂俊民、古田嶋智子、林良典、須賀政晴、佐野千絵) 文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.27

(5 学会発表) 美術館・博物館展示ケースの空気環境に関する研究 その1. 実験用展示ケースの製作と基本性能(呂俊民、古田嶋智子、林良典、須賀政晴、佐野千絵) 2015年度日本建築学会大会(関東) 東海大学湘南キャンパス 15.9.4

(5 学会発表) 美術館・博物館展示ケースの空気環境に関する研究 その2. 実験用展示ケースの温湿度推移と分布(古田嶋智子、呂俊民、林良典、須賀政晴、佐野千絵) 2015年度日本建築学会大会(関東) 東海大学湘南キャンパス 15.9.4

(5 学会発表) Changing gas concentration in a display case using low emission materials (Tomoko Kotajima, Toshitami Ro, Chie Sano) Indoor Air Quality in Heritage and Historic Environments, 12th International Conference Thinktank, Birmingham Science Museum 16.3.3-4

- (5 学会発表) Gas emissions and sugar compositions of different wood species of plywood used in museums (Tomko Kotajima, Kyoko Saito Katsumata, Chie Sano, Masamitsu Inaba) Indoor Air Quality in Heritage and Historic Environments, 12th International Conference Thinktank, Birmingham Science Museum 16.3.3-4
- (5 学会発表) 湿度制御した温風による熱処理による漆仕上げ材の表面ひずみの測定 (竹口彩、藤原裕子、藤井義久、高妻洋成、木川りか、佐藤嘉則、古田嶋智子、犬塚将英) 第66回日本木材学会大会 名古屋大学 16.3.27
- (7 所属学会) ICOM-CC、室内環境学会、日本建築学会、文化財保存修復学会

小林公治 KOBAYASHI Koji (企画情報部)

- (2 報告) Technical Similarity of the Making of Mother-of-Pearl Inlay between Thailand and Mughal India The Second International Conference "Study of Oriental Lacquer Initiated by H.R.H. Princess Maha Chakri Sirindhorn for the Revitalization of Thai Wisdom" Preliminary Report p.14 The Ministry of Culture, the Fine Arts Department, /the Royal Forest Department/the Industrial Promotion Department/Chulalongkorn University 15.7
- (3 論文) 15-17世紀朝鮮螺鈿漆器編年および日本製螺鈿器との並行関係検討 『鹿島美術研究』年報別冊 32 pp.481-492 公益財団法人鹿島美術財団 15.11
- (3 論文) 南蛮漆器書見台編年試論 『美術研究』 417 pp.43-64 16.1
- (4 解説) きらめく螺鈿 『小原流 挿花』 777 pp.22-24 一般財団法人小原流 15.8
- (4 記事) 「物故者」斎藤忠、森浩一 『日本美術年鑑』平成26年版 pp.460-462 16.3
- (6 発表) Technical Similarity of the Making of Mother-of-Pearl Inlay between Thailand and Mughal India The Second International Conference "Study of Oriental Lacquer Initiated by H.R.H. Princess Maha Chakri Sirindhorn for the Revitalization of Thai Wisdom" Dusit Thani Hotel, Bangkok, Thailand 15.7.24-25
- (7 所属学会) 東南アジア考古学会、日本考古学協会

小林達朗 KOBAYASHI Tatsuro (企画情報部)

- (3 論文) 東京国立博物館蔵・国宝普賢菩薩像の表現および平安仏画における「荘厳」 『美術研究』 416 pp.1-15 15.8
- (4 解説) 聖徳太子及天台高僧像カラー画像の美術史的意義について—表現の問題及び各図版コメント 『法華山一乗寺蔵国宝・聖徳太子及天台高僧像—カラー画像篇』 pp.172-173 奈良国立博物館・東京文化財研究所 16.3
- (4 解説) 二十五菩薩来迎図 キンベル美術館所蔵 『在外日本古美術品保存修復協力事業 二十五菩薩来迎図』 pp.21-22 東京文化財研究所 16.3
- (7 所属学会) 美術史学会、九州藝術学会

小堀信幸 KOBORI Nobuyuki (客員研究員)

- (2 報告) 日本の保存船舶一覧 15.6
- (6 発表) 雲鷹丸の保存と利活用 雲鷹丸保存委員会 東京海洋大学 15.7.21
- (6 発表) 東京港の船舶 江戸前みなと塾「江戸前のうみとふねをしる」 東京海洋大学 15.12.17
- (7 所属学会) 日本海事史学会

酒井清文 SAKAI Kiyofumi (客員研究員)

- (5 学会発表) ポリビニルアルコール分解酵素におよぼす接着剤および顔料の影響 (酒井清文、楠京子、早川典子、山中勇人、川野邊渉) 文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.28
- (5 学会発表) 文化財修復に有用なPseudomonas vesicularis由来ポリビニルアルコール分解酵素の生産性

の向上に向けた検討（山中勇人、駒大輔、森芳邦彦、酒井清文、早川典子、川野邊渉、大本貴士） 日本農芸化学会2016年度大会 札幌コンベンションセンター 16.3.28-30

(7 所属学会) 文化財保存修復学会、日本農芸化学会、日本生物工学会、高分子学会

(7 所属学会等) 関西バイオポリマー研究会、近畿化学協会、バイオインダストリー協会

境野飛鳥 SAKAINO Asuka (アソシエイトフェロー)

(2 報告) 『平成27年度文化庁委託 第39回世界遺産委員会審議調査研究事業』(川野邊渉、二神葉子、境野飛鳥、増渕麻里耶、原本知実) pp.72-136、185-229、239-263、294-322 東京文化財研究所 15.10

(2 報告) 『選定保存技術に関する調査報告書1 和鋼』(川野邊渉、江村知子、境野飛鳥、増渕麻里耶、城野誠治) 160p 東京文化財研究所 16.3

(4 解説) カレンダー「文化財を守る日本の伝統技術」(川野邊渉、江村知子、境野飛鳥、増渕麻里耶、城野誠治) 東京文化財研究所 15.11

(4 解説) 『世界遺産用語集』(川野邊渉、二神葉子、境野飛鳥、増渕麻里耶) 144p 東京文化財研究所 16.3

(4 解説) ロビー展示「選定保存技術—漆の文化財を守り伝えるために」(川野邊渉、江村知子、境野飛鳥、増渕麻里耶、城野誠治) 東京文化財研究所 16.3

(4 解説) パンフレット「選定保存技術に関する調査研究」(川野邊渉、江村知子、境野飛鳥、増渕麻里耶、城野誠治) 東京文化財研究所 16.3

(4 校閲) 各国の文化財保護法令シリーズ [20] 『メキシコ【考古学・芸術・歴史的記念物及び地区に関する連邦法】』(江村知子、境野飛鳥) pp.1-79 東京文化財研究所 16.3

(7 所属学会) ICOMOS、日本建築学会、日本歴史学会

佐藤桂 SATO Katsura (文化遺産国際協力センター)

(2 報告) Bab I Garis Besar Riset *Riset Integrasi Berlandaskan Rekonstruksi Warisan Budaya Kawasan Padang Lama di Padang, Sumatera Barat*, pp.1-7 National Research Institute for Cultural Properties, Tokyo 15.8

(2 報告) Berbagai Aspek Pemukiman Minang yang Mengalami Perubahan *Laporan 'Workshop mengenai Rehabilitasi Kawasan Padang Lama di Provinsi Sumatera Barat'*, pp.136-138 National Research Institute for Cultural Properties, Tokyo 16.3

(2 報告) 第1章 研究概要、第2章 カンボジアにおける文化遺産保存修復協力、第4章 研究会「東南アジアの遺跡保存をめぐる技術的課題と展望」『東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力 平成27年度成果報告書』 pp.7-8、11-18、53-72 東京文化財研究所 16.3

(2 報告) 第1章 事業の概要、第2章 建造物分野 『ミャンマーにおける文化遺産保護に関する拠点交流事業報告書』 pp.11-26、29-68 東京文化財研究所 16.3

(3 論文) 山を降りた聖域 7世紀から10世紀におけるクメール都市の展開 『東南アジア古代史の複合的研究 2013~2015年度科学研究費補助金(基盤研究B) 研究成果報告書』 pp.51-56 16.3

(4 編集) *Riset Integrasi Berlandaskan Rekonstruksi Warisan Budaya Kawasan Padang Lama di Padang, Sumatera Barat*, National Research Institute for Cultural Properties, Tokyo 15.8

(4 編集) *Laporan 'Workshop mengenai Rehabilitasi Kawasan Padang Lama di Provinsi Sumatera Barat'* National Research Institute for Cultural Properties, Tokyo 16.3

(4 編集) 『東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力 平成27年度成果報告書』 東京文化財研究所 16.3

(4 編集) 『東南アジアの遺跡保存をめぐる技術的課題と展望 Technical Issues and Prospects on the Preservation of Historical Sites in Southeast Asia』 東京文化財研究所 16.3

- (4 編集) 『ミャンマーにおける文化遺産保護に関する拠点交流事業報告書』 東京文化財研究所 16.3
- (4 翻訳) 東南アジアの遺跡保存をめぐる技術的課題と展望 Technical Issues and Prospects on the Preservation of Historical Sites in Southeast Asia 東京文化財研究所 16.3
- (4 資料紹介) 3. 建築・美術班 1. クメール 『東南アジア古代史の複合的研究 2013～2015年度科学研究費補助金(基盤研究B) 研究成果報告書』 pp.202-203 16.3
- (5 学会発表) ブータン王国における民家等の伝統的建造物保存に関する研究 その5 班築職人への聞き取り調査(佐藤桂、友田正彦、江面嗣人、青木孝義、富永善晋、宮本慎宏) 日本建築学会大会学術講演会 東海大学 15.9.4
- (5 学会発表) インドネシア・パダン旧市街地における地震前後の環境以降に関する考察 2009年西スマトラ地震後のパダンにおける歴史的町並み復興 その8 (マハラジャン・アキララル、脇田祥尚、竹内泰、友田正彦、佐藤桂、張漢賢、後藤沙紀、中尾謙太) 日本建築学会大会学術講演会 東海大学 15.9.4
- (5 学会発表) インドネシア・パダン旧市街地における歴史的町並み復興に関する課題 2009年西スマトラ地震後のパダンにおける歴史的町並み復興 その9 (竹内泰、脇田祥尚、友田正彦、佐藤桂、張漢賢、後藤沙紀) 日本建築学会大会学術講演会 東海大学 15.9.4
- (6 発表) 3D Documentation at Ta Nei temple 24th Technical Committee of the International Coordinating Committee for the Safeguarding and Development of Angkor (ICC-Angkor) APSARA National Authority, Siem Reap 15.6.5
- (6 講演) 過去を知る・未来へつなぐ カンボジア・ブータン・ミャンマーでの文化遺産保存活動を通じて 金沢大学人間社会研究域附属国際文化資源学センター第11回文化資源学セミナー「女性がきりひらくアジア文化資源の未来」 石川四高記念文化交流館 15.6.28
- (6 講義) 「日本」を超えて 海外の文化財を護る仕事 平成27年度同窓生による特別授業 金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校 15.12.19
- (6 司会) 研究会「東南アジアの遺跡保存をめぐる技術的課題と展望」 東京文化財研究所 15.11.13
- (7 所属学会) 東南アジア考古学会、ICOMOS、日本建築学会、建築史学会、文化財建造物保存修理研究会

佐藤嘉則 SATO Yoshinori (保存修復科学センター)

- (1 共著) 「第13章 糸状菌の細胞に内生する細菌」(太田寛行、佐藤嘉則、西澤智康) 『難培養微生物研究の最前線Ⅲ』 pp.115-124 シーエムシー出版 15.8
- (1 共著) 「カビの中にバクテリアがいる、ってほんと?」 『土のひみつ』 pp.178-179 朝倉書店 15.9
- (3 論文) Unique pioneer microbial communities exposed to volcanic sulfur dioxide (Reiko Fujimura, Seok-Won Kim, Yoshinori Sato, Kenshiro Oshima, Masahira Hattori, Takashi Kamijo, Hiroyuki Ohta) Scientific Reports, 6:19687 16.1
- (2 報告) 古墳公開保存施設におけるIPMの取り組み(佐藤嘉則、犬塚将英、森井順之、矢島國雄、木川りか) 『臭化メチル全廃から10年:文化財のIPMの現在』 pp.78-84 東京文化財研究所 15.12
- (2 報告) 博物館施設におけるバイオエアロゾル測定の利用について(間瀬創、佐藤嘉則) 『保存科学』 55 pp.103-113 16.3
- (4 解説) 古墳などの公開保存施設における微生物制御のとりくみ—IPMの考え方に基づいて—(佐藤嘉則、木川りか) 『CLEAN LIFE 2015ミュージアムIPM編 II』 pp.14-17 環境文化創造研究所 15.11
- (5 学会発表) 土壌糸状菌 *Mortierella elongata* に内生する細菌のゲノム特性の解析(大島翔子、藤村玲子、水上沙紀、佐藤嘉則、西澤智康、成澤才彦、太田寛行) 日本土壌微生物学会2015年度大会 つくば国際会議場 15.5.22

- (5 学会発表) Characterization of microbial communities in new soil horizons forming on the recent Miyake-jima volcanic deposits (郭永、平野明則、藤村玲子、佐藤嘉則、西澤智康、上條隆志、成澤才彦、太田寛行) 日本土壤微生物学会2015年度大会 つくば国際会議場 15.5.22
- (5 学会発表) 三宅島 2000年噴火堆積物中の窒素固定細菌に関する研究(平野明則、郭永、藤村玲子、佐藤嘉則、西澤智康、上条隆志、成澤才彦、太田寛行) 日本土壤微生物学会2015年度大会 つくば国際会議場 15.5.22
- (5 学会発表) 石人山古墳における石棺装飾の保存に関する調査(朽津信明、森井順之、犬塚将英、佐藤嘉則、日高翠、木川りか、尾崎源太郎、岡田健) 文化財保存修復学会37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.27
- (5 学会発表) 虎塚古墳公開保存施設の管理方法変更による微生物汚染状況の推移(佐藤嘉則、犬塚将英、森井順之、矢島國雄、木川りか) 文化財保存修復学会37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.28
- (5 学会発表) キトラ古墳の微生物調査結果：発掘直後から埋戻しに至る期間(2004年～2013年)の微生物相と考察(木川りか、喜友名朝彦、立里臨、佐藤嘉則、佐野千絵、杉山純多、宇田川滋正、建石徹) 日本文化財科学会第32回大会 東京学芸大学 15.7.12
- (5 学会発表) 土壌糸状菌に内生するBurkholderiaceae科細菌の比較ゲノム解析(西澤智康、藤村玲子、大島翔子、大島健志朗、郭永、佐藤嘉則、服部正平、成澤才彦、太田寛行) 日本土壤肥料学会2015年度大会 京都大学 15.9.10
- (5 学会発表) The development of soil microbial community during vegetation recovery and pedogenesis on the new volcanic deposits of Miyake-jima (Yong Guo, Akinori Hirano, Reiko Fujimura, Yoshinori Sato, Tomoyasu Nishizawa, Takashi Kamijo, Kazuhiko Narisawa, Hiroyuki Ohta) 日本微生物生態学会第30回大会 土浦亀城プラザ 15.10.20
- (5 学会発表) Release from catabolite repression and enhancement of butanol production in solventogenic *Clostridium beijerinckii* SBP2-HB by ammonium acetate (Miho Kanemoto, Kent Uehara, Manami Akiyama, Yoshinori Sato, Shigeru Chohnan, Youji Nitta, Yasuro Kurusu, Hiroyuki Ohta) 日本微生物生態学会第30回大会 土浦亀城プラザ 15.10.19
- (5 学会発表) Complete genome sequence of a novel endophytic bacterium *Mycophilus cysteinexigens* from the soil fungus *Mortierella elongata* FMR23-6 (Tomoyasu Nishizawa, Shoko Ohshima, Yong Gao, Reiko Fujimura, Kenshiro Oshima, Masahira Hattori, Yoshinori Sato, Kazuhiko Narisawa, Hiroyuki Ohta) 日本微生物生態学会第30回大会 土浦亀城プラザ 15.10.18-19
- (5 学会発表) 湿度制御した温風による熱処理による漆仕上げ材の表面ひずみの測定(竹口彩、藤原裕子、藤井義久、高妻洋成、木川りか、佐藤嘉則、古田嶋智子、犬塚将英) 第66回日本木材学会大会 名古屋大学 16.3.27
- (6 発表) 古墳公開保存施設におけるIPMの取り組み(佐藤嘉則、犬塚将英、森井順之、矢島國雄、木川りか) フォーラム「臭化メチル全廃から10年：文化財のIPMの現在」東京文化財研究所 15.7.16
- (6 発表) 古墳環境における微生物制御 小研究会「壁画の生物劣化—生物劣化メカニズム解明に向けた科学的探究—」東京文化財研究所 15.11.11
- (6 講習会) 害虫およびカビの予防・防除 第7回文化財(美術工芸品)修理技術者講習会 文化庁 15.10.28
- (6 講習会) 文化財公開施設におけるIPMの取組について(木川りか、佐藤嘉則) H27年度公開承認施設担当者会議 文化庁 15.11.5
- (7 所属学会) International Biodeterioration & Biodegradation Society、日本土壤微生物学会、日本微生物生態学会、日本文化財科学会、文化財保存修復学会
- (7 委員会等) ひたちなか市史跡保存対策委員会、Microbes and Environments production editor
- (8 教育) 東京藝術大学大学院文化財保存学専攻連携准教授

佐野千絵 SANO Chie (保存修復科学センター)

- (2 報告) 試験用実大展示ケースを用いたケース内のガス清浄化と濃度予測 (呂俊民、古田嶋智子、林良典、須賀政晴、佐野千絵) 『保存科学』 55 pp.125-138 16.3
- (2 報告) 展示ケース内有機酸濃度への展示台の寄与 (佐野千絵、古田嶋智子、呂俊民) 『保存科学』 55 pp.79-88 16.3
- (2 報告) 福島県文化財レスキュー事業で一時保管場所となった旧相馬女子高校の保存環境について (佐野千絵、北野信彦、杉崎佐保恵) 『保存科学』 55 pp.89-101 16.3
- (3 論文) 美術館・博物館の資料保護に向けた光曝露量の評価方法—染色布を事例に (黄川田翔、吉田直人、佐野千絵) 『照明学会誌』 100 (2) pp.74-81 照明学会 16.2
- (4 解説) Rescued Historical Objects: Revitalising the Local Community of the Fukushima Restricted Area (Chie Sano, Yuuki Yamamoto) *Museum International*, 65 pp.37-49 ICOM 15.6
- (5 学会発表) 換気と吸着フィルタによる展示ケースの清浄化 (呂俊民、古田嶋智子、林良典、須賀政晴、佐野千絵) 文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.27
- (5 学会発表) 展示内装材料としての合板のガス放散挙動—原木と単板乾燥の影響— (古田嶋智子、佐野千絵、勝亦京子、稲葉政満) 文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.27
- (5 学会発表) 展示台からの有機酸放散と遮蔽シートによる対策事例の評価 (佐野千絵、古田嶋智子、呂俊民) 文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.27
- (5 学会発表) Evaluation of colour degradation under high colour rendering index ssIs (Yasuki Yamauchi, Yosuke Sakano, Yuki Kawashima, Sho Kikawada, Naoto Yoshida, Chie Sano) CIE 2015 Manchester 15.6.30
- (5 学会発表) キトラ古墳の微生物調査結果：発掘直後から埋戻しに至る期間 (2004～2013年) の微生物相と考察 (木川りか、喜友名朝彦、立里臨、佐藤嘉則、佐野千絵、杉山純多、宇田川滋正、建石徹) 日本文化財科学会第32回大会 東京学芸大学 15.7.12
- (5 学会発表) 東日本大震災で被災した文化財の救出活動の経験から (岡田健、伊藤嘉章、佐野千絵、山梨絵美子、山内和也、森井順之) 2015東アジア文化遺産保存国際シンポジウム 奈良春日野国際フォーラム麓～I・RA・KA～ 15.8.28
- (5 学会発表) 美術館・博物館展示ケースの空気環境に関する研究 その1. 実験用展示ケースの製作と基本性能 (呂俊民、古田嶋智子、林良典、須賀政晴、佐野千絵) 2015年度日本建築学会大会 (関東) 東海大学湘南キャンパス 15.9.4
- (5 学会発表) 美術館・博物館展示ケースの空気環境に関する研究 その2. 実験用展示ケースの温湿度推移と分布 (古田嶋智子、呂俊民、林良典、須賀政晴、佐野千絵) 2015年度日本建築学会大会 (関東) 東海大学湘南キャンパス 15.9.4
- (5 学会発表) Changing gas concentration in a display case using low emission materials (Tomoko Kotajima, Toshitami Ro, Chie Sano) IAQ 2016: Heritage Research to Conservation Practice, Indoor Air Quality- in heritage and historic environments, 12th International Conference Birmingham, Thinktank 16.3.3-4
- (5 学会発表) Gas emissions and sugar compositions of different wood species of plywood used in museums (Tomoko Kotajima, Kyoko Saito Katsumata, Chie Sano, Masamitsu Inaba) IAQ 2016: Heritage Research to Conservation Practice, Indoor Air Quality- in heritage and historic environments, 12th International Conference Birmingham, Thinktank 16.3.3-4
- (6 講演) 文化財のための美術館・博物館の空気環境の現状と対策 第32回空気清浄とコンタミネーションコントロール研究大会 (公社) 空気清浄協会 東京 15.4.21
- (6 講演) 放射性物質汚染と文化財—対応の実例 第64回全国美術館会議総会 郡山 15.5.28
- (6 講演) 放射線への対応について 平成27年度 みんなでまもる文化財みんなをまもるミュージアム

事業 九州国立博物館 福岡 15.7.8

(6 講演) 図書館の保存環境整備に関する基礎知識 国立国会図書館長と行政・司法各部門支部図書館長との懇談会 東京 国立国会図書館 15.12.7

(6 講義) 環境制御—温湿度・光・空気清浄 平成27年度アーカイブズカレッジ(史料管理学研修会) 長期コース 国文学研究資料館 立川 15.9.8

(6 講義) 福島県における東日本大震災への対応④放射性物質汚染への対応 平成27年度 国立文化財機構AF研修 福島 15.9.29

(6 講義) 企業アーカイブズでの資料の保存と管理 第20回ビジネスアーキビスト研修講座 企業史料協議会 東京 15.11.26

(6 講義) 放射線に関する基礎知識、放射線計測実習、水損試料対応実習(佐野千絵、北野信彦) 平成27年度第1回、第2回福島県被災文化財等救援本部研修会 南相馬市博物館、白河館まほろん 15.11.4、16.1.28

(6 講習会) 文化財の保存と環境 第7回文化財(美術工芸品)修理技術者講習会 文化庁 東京 15.10.29

(6 講習会) IPMからみた博物館等の施設管理 第5回文化財IPMコーディネーター資格取得のための講習会(公財)文化財虫菌害研究所 吹田 15.12.16

(7 所属学会) ICOM、ICOM-CC、IIC、IIC-Japan、高分子学会、室内環境学会、照明学会、繊維学会、大気環境学会、日本化学会、日本文化財科学会、文化財保存修復学会、マテリアルライフ学会、防菌防黴学会

(7 委員会等) 文化審議会専門委員、国立歴史民俗博物館運営会議委員、群馬県文化財保護審議会委員、郡山市歴史資料保存整備検討委員会委員、富山市史跡北代遺跡復元建物修理検討専門家会議委員、宗像市史跡保存整備審議会委員、(仮称)町田市国際工芸美術館基本設計プロポーザル評価委員会委員、(公)文化財虫菌害研究所総合調整委員会委員、学術振興会科学研究費委員会専門委員、九州国立博物館文化財保存修復施設運営委員会委員、長野県信濃美術館整備検討委員会作業部会委員、石川県文化財保存修復工房運営委員会委員、東京国立博物館本館保存活用計画検討委員会委員

(8 教育) 東京藝術大学大学院文化財保存学専攻システム保存学連携教授、国際基督教大学非常勤講師

佐野真規 SANO Masaki (アソシエイトフェロー)

(2 報告) 講義を受けて 地域歴史(文化)遺産の拡張 『平成26年度独立行政法人国立文化財機構アソシエイトフェロー研修報告書』 pp.180-181 独立行政法人国立文化財機構 16.8

(3 論文) 工芸技術記録としての映像—熊谷地域の染色技術映像記録作成の事例から— 『無形文化遺産(伝統技術)の伝承に関する研究報告書』 pp.53-60 東京文化財研究所 16.9

(4 撮影・編集) 附属映像DVD 『無形文化遺産(伝統技術)の伝承に関する研究報告書』 143p 東京文化財研究所 15.9

(4 資料紹介) 「雪祭」ラッシュフィルム—無形文化遺産部収蔵フィルムとそのデジタル化(3)— 『無形文化遺産研究報告』10 pp.53-62 東京文化財研究所 16.3

(6 発表) 無形文化遺産と防災 AF研究成果発表会 東京国立博物館 16.3.10

(6 撮影映像提供) 「復刻銘仙の製作工程」 特別展「きものモダニズム」 公益財団法人泉屋博古館分館 15.9.26-12.6

(6 撮影映像提供) 「復刻銘仙の製作工程」 企画展「銘仙展—そしてこれからも—」 須坂クラシック美術館 16.2.19-4.13

(6 司会) 研究会「無形文化遺産と防災—伝統技術と記録の意義—」 東京文化財研究所 15.12.22

(6 司会) 無形の文化財に関する映像記録作成研究会 東京文化財研究所 16.2.22

(8 教育) 特定非営利法人映画美学校撮影実習アシスタント

皿井舞 SARAI Mai (企画情報部)

- (3 論文) 鳳凰堂須弥壇の美術史的考察 『平等院鳳凰堂内光学調査報告書』 pp.50-75 東京文化財研究所 16.3
- (5 学会発表) 文化財情報における専門的アーカイブの構築—東京文化財研究所の取り組み (田中淳、皿井舞) 2015年度アート・ドキュメンテーション学会年次大会 国立西洋美術館 15.6.9
- (6 発表) 仁和寺阿弥陀三尊像と宇多天皇の信仰 第49回オープンレクチャー 東京文化財研究所 15.10.31
- (7 所属学会) 日本仏教総合研究学会、美術史学会、密教図像学会
- (8 教育) 京都造形大学大学院非常勤講師

塩谷純 SHIOYA Jun (企画情報部)

- (4 解説) 図版解説15点 『日本美術全集 第18巻 戦前・戦中 戦争と美術』 小学館 15.4
- (4 解説) 図版解説55点 『生誕150年 黒田清輝 日本近代絵画の巨匠』 美術出版社 16.3
- (4 記事) 黒田清輝《読書》—黒田記念館の特別室公開によせて 『うえの』 678 pp.40-41 上野のれん会 15.10
- (4 記事) 特別展 生誕150年 黒田清輝 日本近代絵画の巨匠 『うえの』 683 pp.32-34 上野のれん会 16.3
- (4 記事) 失われた黒田清輝の作品、および第2回文展出品作《樹かげ》の改変について 『生誕150年 黒田清輝 日本近代絵画の巨匠』 pp.284-285 美術出版社 16.3
- (4 記事) 黒田記念館と黒田清輝研究の営み 『生誕150年 黒田清輝 日本近代絵画の巨匠』 pp.288-289 美術出版社 16.3
- (6 講演) 近代歴史画の魅力 「平家物語を描く—近代によみがえった古典」展記念講演会 井原市民会館 15.5.16
- (6 講演) 近代日本画を支えた人たち 「この絵、私が持っていました。収集家・安齊羊造と近代日本画家との愉快的交流」展講演会 川越市立美術館 16.3.21
- (7 所属学会) 美術史学会、明治美術学会
- (8 教育) 明治学院大学大学院非常勤講師、金沢美術工芸大学非常勤講師

城野誠治 SHIRONO Seiji (企画情報部)

- (2 報告) 平等院鳳凰堂国宝扉の金属部材の材料調査 (早川泰弘、城野誠治) 『鳳翔学叢』 12 平等院 16.3
- (2 報告) 平等院鳳凰堂須弥壇の金属部材の材料調査 (早川泰弘、城野誠治) 『平等院鳳凰堂内 光学調査報告書』 pp.XRF4-XRF7 東京文化財研究所 16.3
- (2 報告) 四季花鳥図屏風の彩色材料調査 (早川泰弘、城野誠治) 『四季花鳥図屏風 光学調査報告書』 pp.148-153 東京文化財研究所 16.3
- (2 報告) 選定保存技術に関する調査報告書1 和鋼 (川野邊渉、江村知子、境野飛鳥、増淵麻里耶、城野誠治) 『選定保存技術に関する調査報告書1 和鋼』 160p 東京文化財研究所 16.3
- (3 論文) 2014年の写真の進歩 10.1文化財 『日本写真学会誌』 78 (3) pp.126-128 日本写真学会 15.8
- (4 解説) カレンダー「文化財を守る日本の伝統技術」(川野邊渉、江村知子、境野飛鳥、増淵麻里耶、城野誠治) 東京文化財研究所 15.11
- (4 記事) 光が歴史を写し出す The Asahi Shimbun Globe Nov.1-14, 2015 G-5 朝日新聞社 15.11.1
- (5 学会発表) 国宝 平等院鳳凰堂内 西面扉の押縁に施された文様及び色彩の想定復元 (神居文彰、早川泰弘、荒木恵信) 文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.28

(5 学会発表) 永青文庫所蔵 洋人奏楽図屏風の彩色材料調査 (早川泰弘、城野誠治、三宅秀和) 日本文化財科学会第32回大会 東京学芸大学 15.7.11-12

(7 所属学会) 日本法科学技術学会、日本写真学会、日本写真家協会

高桑いづみ TAKAKUWA Izumi (無形文化遺産部)

(3 論文) 『井筒』待つ女の名ノリなど 『鍔仙』 331 pp.4-5 鍔仙会 15.5

(3 論文) 日本語はどのように謡われてきたか 『花もよ』 21 pp.10-11 ぶんがく社 15.9

(3 論文) 長唄に昔の謡を聞く 『花もよ』 22 pp.10-11 ぶんがく社 15.11

(3 論文) 能のセリフ・狂言のセリフ 『花もよ』 23 pp.14-15 ぶんがく社 16.1

(3 論文) 室町時代のアクセントと謡のフシ 『無形文化遺産研究報告』 10 pp.90-76 16.3

(3 論文) 能はどのように動物を描いているか 『武蔵野大学 能楽資料センター紀要』 27 pp.98-111 16.3

(4 解説) 三輪の演出 『TTR能プロジェクト公演パンフレット』 TTR能プロジェクト 16.1

(5 学会発表) 地拍子の古態 能楽学会第14回大会 早稲田大学 15.6.21

(6 講演) 能はどのように動物を描いているか 武蔵野大学能楽資料センター公開講座 武蔵野大学 15.7.30

(6 講演) 明治以前の謡とアクセント 第10回無形文化遺産部公開学術講座 東京国立博物館平成館大講堂 15.12.18

(6 講演) 楽器行脚20年 総合研究会 東京文化財研究所セミナー室 16.1.12

(6 講演) 舞の楽しみ 国立能楽堂公開講座 国立能楽堂大講堂 16.1.22

(6 講演) 謡と囃子 国立能楽堂公開講座 国立能楽堂大講堂 16.2.19

(6 講演) 所作を読み解く 国立能楽堂公開講座 国立能楽堂大講堂 16.3.25

(6 司会) 観世寿夫からのメッセージ (高桑いづみ、観世鍔之丞、大谷いづみ) 楽劇学会第88回例会 法政大学 15.5.22

(6 パネリスト) 楽劇研究と絵画資料 (高桑いづみ、蒲生郷昭、小林健二、藤岡道子、田草川みづき、石橋健一郎) 楽劇学会第23回大会シンポジウム 国立能楽堂大講堂 15.6.28

(6 パネリスト) 能の復元的上演の可能性 (高桑いづみ、宮本圭造、中司由起子、山中玲子) 演劇学会秋の研究集会 法政大学 15.10.25

(7 所属学会) 楽劇学会、能楽学会

(8 教育) 東京藝術大学音楽学部非常勤講師

高林弘実 TAKABAYASHI Hiromi (客員研究員)

(2 報告) 敦煌莫高窟第285窟東壁に描かれた如来像に用いられた彩色材料と技法 (岡田健、渡辺真樹子、高林弘実、蘇伯民、崔強) 『保存科学』 55 pp.139-149 16.3

(5 学会発表) 敦煌莫高窟第285窟東壁に描かれた如来像に用いられた彩色材料と技法 (岡田健、渡辺真樹子、高林弘実、蘇伯民、崔強) 文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.28

(5 学会発表) 敦煌莫高窟第285窟の壁画制作における構図を決める当たり線の役割に関する研究 (中田愛乃、高林弘実、岡田健、蘇伯民、崔強) 日本文化財科学会第32回大会 東京学芸大学 15.7.12

(7 所属学会) 日本文化財科学会、文化財保存修復学会

田所泰 TADOKORO Tai (アソシエイトフェロー)

(4 解説) 作品解説49点 『特別展 生誕150年 黒田清輝 日本近代絵画の巨匠』 美術出版社 16.3

(5 学会発表) 上村松園の出光美術館所蔵本《四季美人図》について 早稲田大学美術史学会 早稲田大学 15.6.20

(7 所属学会) 美術史学会、早稲田大学美術史学会

田中淳 TANAKA Atsushi (副所長)

(3 論文) 時空を超えて「かたち」をつむぐために 『時空を超えてつむぐ—多和英子vs放菴・達吉・鉄五郎』展カタログ 碧南市藤井達吉現代美術館等 pp.8-15 15.7-12

(4 評論) 展覧会評 歴史をつくる学芸員の眼 『美術研究』117号 pp.73-77 16.1

(4 エッセイ) 東文研の歴史—所屋の新営と独立行政法人化 引っ越しと現代美術資料の整理作業、そして黒田記念館改修 Tobunken News no.60 pp.38-39 16.3

(6 発表) 近代日本美術の基層をめぐって—岸田劉生を中心に 総合研究会 東京文化財研究所 16.3.1

(6 講演) 木村莊八の描いた東京 市川市文学ミュージアム 15.5.3

(6 講演) 時をこえてかたちをつむぐ 碧南市藤井達吉現代美術館 15.7.25

(6 司会) 「鼎談」現代美術と近代美術が向き合うとき 萬鉄五郎記念美術館 15.9.27

(6 講演) 近代洋画について 苫小牧市美術博物館 15.10.11

(6 講演) 住友春翠と近代美術 黒田清輝の支援者 新居浜市美術館 15.11.21

(6 講演) The Portrait, painted in 1916 セインズベリー日本藝術研究所 16.2.18

(7 所属学会) 美術史学会、明治美術学会

(7 委員会等) 千葉県美術館資料審査委員会委員、岩手県立美術館美術品収集評価委員会委員、佐倉市立美術館運営協議会委員、公益信託 倫雅美術奨励基金運営委員、茨城県近代美術館美術資料審査委員会委員、愛知県美術館美術品収集委員会委員、小杉放菴記念日光美術館評議員

谷口陽子 TANIGUCHI Yoko (客員研究員)

(5 学会発表) Scientific Research for Conservation of the Rock hewn church of Üzümlü, Cappadocia (Taniguchi, Y., Koizumi, K., Iba, C., Poter, J., Acıyoz, F., Gulyaz, M.) 37th International Symposium of Excavations, Surveys and Archaeometry Erzurum, Turkey 15.5.11-15

(5 学会発表) カップアドキア・ウズムル岩窟教会壁画の保存修復：彩色材料と保存状態 (谷口陽子、島津美子、釘屋奈都子、柴田みな、樋口諒、Jennifer Porter、鈴木環、Murat Gulyaz) 文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.28

(5 学会発表) 含浸硬化系保護剤を用いたカップアドキア岩石保護の検討 (佐野勝彦、谷口陽子、渡邊晋生、小泉圭吾、伊庭千恵美) 文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.25-26

(5 学会発表) カップアドキア岩窟教会外壁での表面処理が壁体内部の含水率分布に与える影響の検討 (伊庭千恵美、吉岡瑞穂、銚井修一、谷口陽子、小泉圭吾、渡邊晋生、朴春澤、佐野勝彦) 日本文化財科学会第32回大会 東京学芸大学 15.7.11-12

(5 学会発表) Methodology of high-resolution photography for mural condition database (Higuchi, R., Suzuki, T., Shibata, M., Taniguchi, Y.) ISPRS Annals of the Photogrammetry, Remote Sensing and Spatial Information Sciences, 25th International CIPA Symposium Taipei, Taiwan 15.8.31-9.4

(5 学会発表) カップアドキア岩窟教会の風化メカニズムに関する調査研究：初回調査報告 (小泉圭吾、朴春澤、渡邊晋生、伊庭千恵美、谷口陽子、佐野勝彦) 第50回地盤工学研究発表会 北海道科学大学 15.8.31-9.4

(6 講義) 彩色文化財研修IV JICA 大エジプト博物館保存修復センター (GEM-CC) プロジェクト フェーズ2 カイロ、エジプト 15.8

(7 所属学会) ICOM、IIC、ICOMOS、日本文化財科学会、文化財保存修復学会、日本情報考古学会、歴史人類学会

近松鴻二 CHIKAMATSU Koji (客員研究員)

- (6 講演) 江戸の成立 杉の樹大学専科講座 杉並区高齢者活動支援センター 15.10.15
- (6 講演) 織田信長と家康の孫娘 世田谷老人大学さんまる会 世田谷区立老人会館 16.2.15
- (6 講演) 江戸町人の明治維新一書役徳兵衛の日記から I～VI えどはくカルチャー 江戸東京博物館大ホール 15.7.30、15.8.27、15.9.17、16.1.29、16.2.26、16.3.18
- (7 所属学会) 鹿大史学会
- (8 教育) 東京都江戸東京博物館客員研究員、学習院大学史料館客員研究員、国土館大学非常勤講師、学習院大学非常勤講師、松蔭大学非常勤講師

津田徹英 TSUDA Tetsuei (企画情報部)

- (1 公刊図書) 『平安密教彫刻論』 808p 中央公論美術出版 16.2
- (2 報告) 親鸞の念仏と真宗の本尊 『企画展 親鸞 高田本山専修寺の至宝 連続講座 講演録』 pp.11-16 三重県総合博物館 15.6
- (3 論文) 中世真宗の「一流相承系図」をめぐる一京都・長性院本ならびに広島・光照寺本の熟覧を通じて一 『美術研究』 418 pp.1-37 16.3
- (4 解説) 一流相承系図(佛光寺)、一流相承系図(長性院)、親鸞聖人像・鏡御影(西本願寺)法然上人像・足曳御影(二尊院) 『日本美術全集』 8 pp.255-256、258-259 小学館 15.6
- (4 解説) 仕舞・半部曲(クセ)、同・角田川狂(クルイ)、同・杜若切(キリ)、同・松風、同・江口切(キリ)、狂言・簸屑、能・海人一懐中之舞一、同・道成寺 『第11回櫻間右陣之會 櫻間道雄33回忌追善能』公演パンフレット pp.2-3 国立能楽堂 15.7.4
- (4 エッセイ) 白拍子の孤独とその果てに—故櫻間道雄三十三回忌追善能に寄せて— 『第11回櫻間右陣之會 櫻間道雄33回忌追善能』公演パンフレット p.3 国立能楽堂 15.7.4
- (4 エッセイ) 中世絵巻研究・余談 『三田評論』 p.43 15.10
- (4 資料紹介) 東寺観智院金剛蔵本(建武二年写) 『諸説不同記』 卷第二(後半) 解題・翻刻・校註・影印(津田徹英、加藤詩乃、石井千紘、上村顕太郎、蔀政人) 『パラゴナーネ』 3 pp.20-50 16.3
- (6 発表) 14世紀絵巻総覧の構想と有効利用について—京都・金蓮寺本「遊行上人縁起絵」での適用事例を中心に、その即効性と限界を考える— 総合研究会 東京文化財研究所 15.12.3
- (6 講演) 親鸞の念仏と真宗の本尊 企画展 親鸞 高田本山専修寺の至宝 連続講座 三重総合博物館 15.4.19
- (6 講演) 草木国土悉皆成仏と能 櫻間会例会 センチュリー能楽堂 15.6.20
- (7 所属学会) 日本宗教文化史学会、美術史学会、密教図像学会、三田芸術学会
- (7 委員会等) 密教図像学会常任委員
- (8 教育) 青山学院大学文学部比較芸術学科非常勤講師

堤一郎 TSUTSUMI Ichiro (客員研究員)

- (1 共著) 「新幹線50年史 参考文献一覧」(望月旭、岩沙克次、小野田滋、佐々木敏明、馬場亮介、菅建彦、石堂正信、堤一郎) 『新幹線50年史』 828p 交通協力会/交通新聞社 15.5
- (2 報告) 鳥取県南部町に帰ってきた旧日ノ丸自動車デハ203号電車(光木義則、川上敬介、堤一郎) 『鉄道ピクトリアル』 66 (4) p.113 電気車研究会 16.2.21
- (3 論文) 茨城県内の煉瓦造鉄道施設に関する追跡調査—停車場内煉瓦造危険品庫について—(堤一郎、安田健一) 『茨城大学教育学部紀要』 65 pp.173-185 茨城大学 16.3
- (4 解説) まえがき「鉄道190周年」—社会・文化・経済と鉄道— 『日本機械学会誌』 118 (1162) (一社) 日本機械学会 15.9
- (4 解説) 文化財を通して新しい鉄道文化を創造する(小山徹、小西純一、堤一郎、小野田滋) 『JR西

日本の登録鉄道文化財』 巻頭言 西日本旅客鉄道（株） 15.10
(4 資料紹介) 草軽電気鉄道の列車（自作鉄道模型も同時展示）『第38回企画展 温泉と文芸と鉄道 展示図録』（公財）東日本鉄道文化財団 15.8-11
(5 学会発表) 幌内鉄道とストックトン・アンド・ダーリントン鉄道（堤一郎、池森寛、緒方正則、石田正治、吉田敬介）日本機械学会2015年度大会 北海道大学 15.9.14
(5 学会発表) 茨城県に残っていた旧北九州鉄道のディーゼル動車（堤一郎、池森寛、緒方正則、石田正治、吉田敬介）日本機械学会九州支部2015年度総会講演会 熊本大学 16.3.15
(6 講演) 地域の宝！法勝寺電車 「おかえりなさい！法勝寺電車」関連行事 鳥取県南部町 15.12.12
(7 所属学会) 日本機械学会、日本技術史教育学会、産業考古学会
(7 委員会等) 日本機械学会技術と社会部門機械遺産委員会
(8 教育) 中央大学理工学部精密機械工学科兼任講師、東京工業大学大学院社会理工学研究科非常勤講師、武蔵野美術大学造形学部基礎デザイン学科非常勤講師、サレジオ工業高等専門学校本科及び専攻科非常勤講師

友田正彦 TOMODA Masahiko（文化遺産国際協力センター）

(2 報告) Penelitian Arsitektur Bangunan *Riset Integrasi Berlandaskan Rekonstruksi Warisan Budaya Kawasan Padang Lama di Padang, Sumatera Barat*, pp.29-49 Nobuo KAMEI 15.8
(2 報告) カンボジアにおける文化遺産保存修復協力（友田正彦、佐藤桂）『東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力 平成27年度成果報告書』 pp.11-32 東京文化財研究所 16.3
(2 報告) Menuju Pemanfaatan dan Pelestarian Warisan Budaya di Kawasan Padang Lama *Laporan "Workshop mengenai Rehabilitasi Kawasan Padang Lama di Provinsi Sumatera Barat"*, pp.139-140 National Research Institute for Cultural Properties, Tokyo 16.3
(2 報告) 建造物分野『平成25-27年度文化庁委託文化遺産国際協力拠点交流事業ミャンマーにおける文化遺産保護に関する拠点交流事業報告書』 pp.11-24、31-43、179-181 東京文化財研究所 16.3
(2 報告) 全体的被災状況、事業の総括と今後に向けた課題『平成27年度文化庁委託文化遺産保護国際貢献事業（専門家交流）ネパールにおける文化遺産被災状況調査事業成果概要報告書』 pp. 17-25、141-143 東京文化財研究所 16.3
(2 報告) 『東南アジアの遺跡保存をめぐる技術的課題と展望』 104p 東京文化財研究所 16.3
(2 報告) アジアの建築遺産と保護協力の仕事『異文化研究』10 pp.79-95 山口大学人文学部異文化交流研究施設 16.3
(3 論文) 李陳朝期の模型に見られる建築表現 『「考古遺物等を通じたベトナム木造建築様式の形成過程に関する研究」論集』 pp.1-29 16.3
(5 学会発表) プータン王国における民家等の伝統的建造物保存に関する研究 その5 版築職人への聞き取り調査（佐藤桂、友田正彦、江面嗣人、青木孝義、富永善啓、宮本慎宏）日本建築学会大会 東海大学 15.9.4
(5 学会発表) インドネシア・パダン旧市街地における地震前後の環境移行に関する考察 2009年西スマトラ地震後のパダンにおける歴史的町並み復興 その8（マハラジャン・アキララル、脇田祥尚、竹内泰、友田正彦、佐藤桂、張漢賢、後藤沙紀、中尾謙太）日本建築学会大会 東海大学 15.9.4
(5 学会発表) インドネシア・パダン旧市街地における歴史的町並み復興に関する課題 2009年西スマトラ地震後のパダンにおける歴史的町並み復興 その9（竹内泰、脇田祥尚、友田正彦、佐藤桂、張漢賢、後藤沙紀）日本建築学会大会 東海大学 15.9.4
(6 発表) Terminology for degradation patterns seen on Bagan monuments Working session for UNESCO/JFIT project "Technical Assistance for the Conservation of Built Heritage at Bagan" Bagan archaeology museum 15.6.18

- (6 発表) On-site activities at PSSG in June 2015 working session Working session for UNESCO/JFIT project “Technical Assistance for the Conservation of Built Heritage at Bagan” Bagan archaeology museum 15.9.27
- (6 発表) Outline for in-depth condition assessment document Working session for UNESCO/JFIT project “Technical Assistance for the Conservation of Built Heritage at Bagan” Bagan archaeology museum 15.9.30
- (6 発表) 事業概要説明 2015年ネパール・ゴルカ地震による被災文化遺産に関するセミナー 東京文化財研究所 15.12.5
- (6 発表) Structural condition assessment for built heritage in Bagan Final meeting for the UNESCO/JFIT project “Technical Assistance for the Conservation of Built Heritage at Bagan” Bagan archaeology museum 15.12.7
- (6 発表) 李陳朝期の模型に見られる建築表現 研究会「歴史考古資料を通じて李陳朝期以降のベトナム建築を特定する」ベトナム社会科学院本部 16.2.22
- (6 講演) アジアの建築遺産と保護協力の仕事 山口大学人文学部異文化交流研究施設第30回講演会 山口大学 15.10.30
- (6 講演) International Cooperation for Asian Built Heritage Public lecture: Conservation of Built Heritage in Bagan & Inventory of Bagan Monuments, organized by Association of Myanmar Architects and UNESCO ヤンゴン市庁舎 15.12.6
- (6 講義) 日本における文化財建造物修理の歴史と現状 文化遺産国際協力拠点交流事業によるミャンマー考古局職員招聘研修 東京文化財研究所 15.7.31
- (6 議長) 総合討議 研究会「東南アジアの遺跡保存をめぐる技術的課題と展望」東京文化財研究所 15.11.13
- (6 議長) Technical session, Final meeting for the UNESCO/JFIT project “Technical Assistance for the Conservation of Built Heritage at Bagan” Bagan archaeology museum 15.12.7
- (6 司会) 第2セッション「文化遺産を受け継ぐ絆を強化し、未来に活かす」アセアン+3文化遺産フォーラム2015「東南アジア諸国と共に歩む—多様な文化遺産の継承と活用—」東京国立博物館 15.12.13
- (6 議長) 2015年ネパール・ゴルカ地震による被災文化遺産に関するセミナー 東京文化財研究所 16.2.5
- (6 議長) 研究会「歴史考古資料を通じて李陳朝期以降のベトナム建築を特定する」ベトナム社会科学院本部 16.2.24
- (6 パネリスト) アドバイザー 「平泉の文化遺産」の拡張登録に係る研究集会 奥州市役所江刺総合支所 15.11.14-15
- (6 パネリスト) 国際会議「木造建造物の保存理念を再考する—アジアの木造建造物の価値の所在と真実性概念—」ホテル日航奈良 15.12.16-17
- (7 所属学会等) ICOMOS、日本建築学会

長島宏行 NAGASHIMA Hiroyuki (客員研究員)

- (2 報告) 『航空資料保存の研究』(継続) 東京文化財研究所 16.3
- (4 編集) 『J-BIRD 写真と登録記号で見る戦前の日本民間航空機 満洲航空・中華航空などを含む』一般財団法人日本航空協会 16.3
- (6 講演) 日本航空協会の航空遺産継承活動 産業考古学会第28回航空分科会研究会 航空会館 16.2.20
- (7 委員会等) 文化庁 近代産業遺産(歴史資料分野)の保存・活用に関するヒアリング 15.6.19、15.8.26

中山俊介 NAKAYAMA Shunsuke (保存修復科学センター)

- (2 報告) 洋紙の保存と修復 『洋紙の保存と修復』 pp.5-10 東京文化財研究所 16.3
- (2 報告) Conservation and restoration of modern textile *Conservation and restoration of modern textile*, pp.4-17 東京文化財研究所 16.3
- (2 報告) 近代文化遺産としての道具の保存 『無形文化遺産(伝統技術)の伝承に関する研究報告書』 pp.47-52 東京文化財研究所 15.9
- (2 報告) 道具の保存と活用 『無形文化遺産(伝統技術)の伝承に関する研究会 II 「染織技術の伝承と地域の関わり」報告書』 pp.7-13 東京文化財研究所 16.3
- (6 発表) 近代文化遺産の保存理念と修復理念 近代文化遺産の保存理念と修復理念に関する研究会 東京文化財研究所 16.1.15
- (6 講演) 近代文化遺産の保存と修復について シンポジウム「国産旅客機の開発とその意義」 東京大学 15.7.28
- (6 講演) 近代文化遺産の保存と修復—産業遺産を中心に— 全国近代化遺産活用連絡協議会鉄道遺産部会2015愛知研修大会 パレッタ勝川 15.11.6
- (6 講演) 道具の保存と活用 無形文化遺産(伝統技術)の伝承に関する研究会 II (染色技術の伝承と地域の関わり) 東京文化財研究所 15.11.11
- (6 講演) 葦山反射炉本体の修復に向けて 第5回伊豆の国市世界遺産シンポジウム 葦山文化センター 16.3.5
- (7 所属学会) 日本船舶海洋工学会、日本文化財科学会、文化財保存修復学会
- (8 教育) 東京藝術大学大学院文化財保存学専攻システム保存学連携併任教授、公立大学法人長岡造形大学非常勤講師

早川典子 HAYAKAWA Noriko (保存修復科学センター)

- (3 論文) The Effect of Iron Ions from Prussian Blue Pigment on the Deterioration of Japanese Paper (Keiko Kida, Antje Potthast, Masamitsu Inaba, Noriko Hayakawa) *Restaurator* 36(4) pp.251-268 15.12
- (3 論文) テトラクロロ銅(II)酸カリウム二水和物添加による漆硬化の温湿度条件緩和の検討(小川歩、早川典子) 『保存科学』55 pp.11-26 16.3
- (5 学会発表) 緑青を使用した絹本絵画における裏打紙の劣化(貴田啓子、岡泰央、稲葉政満、早川典子) 文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.27
- (5 学会発表) 東京大学史料編纂所所蔵「落合左平次道次背旗」の保存修理報告(山口悟史、高島昌彦、金子拓、市宮景子、宇都宮正紀、朽津信明、早川典子、城野誠治) 文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.27
- (5 学会発表) ポリビニルアルコール分解酵素におよぼす接着剤および顔料の影響(酒井清文、楠京子、早川典子、山中勇人、川野邊渉) 文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.28
- (5 学会発表) フノリ抽出物の物性に及ぼす抽出条件の影響—温度・種・水の硬度—(早川典子、大村卓也、原由宇稀、楠京子、貴田啓子、本多貴之) 文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.28
- (5 学会発表) 水の硬度がフノリの固化や溶解性に与える影響の検討(原由宇稀、早川典子、本多貴之) 文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.28
- (5 学会発表) 脱脂大豆糊の湿潤加熱処理による物性変化—糊塗布紙のヤング率と変色挙動—(大橋有佳、稲葉政満、早川典子) 文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.28
- (5 学会発表) 紙に付着した粘着テープの劣化(内田優花、早川典子) 文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.28

- (5 学会発表) Effect of malachite corrosion on the molecular weight distribution of cellulose in lining paper used for color painting on silk (Keiko Kida, Yasuhiro Oka, Masamitsu Inaba, Noriko Hayakawa) 10th International Symposium on Weatherability Ota Campus of Gunma University Graduate School of Science and Technology 15.7.2-3
- (5 学会発表) 銅錯体触媒による高乾燥性漆材料の開発とその耐久性評価 (小川歩、山下好彦、早川典子) マテリアルライフ学会第26回研究発表会 群馬大学 15.7.4
- (5 学会発表) 麦漆の接着強度評価と銅触媒添加によるミャンマー産漆への応用 (小川歩、山下好彦、早川典子) 日本文化財科学会第32回大会 東京学芸大学 15.7.11-12
- (6 講演) Scientific Approaches for Adhesives in the Conservation of Japanese Paintings The Institute of Conservation University of London 15.4.9
- (6 講演) 接着と膠 膠文化研究会第7回公開研究会 東京藝術大学 15.6.13
- (6 講義) 修理技術者に必要な科学 国宝修理装飾師連盟平成27年度新人研修会 京都国立博物館 15.4.17
- (6 講義) 修理技術者に必要な科学 (2) 国宝修理装飾師連盟平成27年度中級上級研修会 京都国立博物館 15.7.10
- (6 講義) 修復技術 平成27年度修理主任技術者講習会 東京国立博物館 15.8.24
- (6 講義) On Adhesives Used in the Restoration of Japanese Paintings 国際研修「紙の保存と修復」 東京文化財研究所 15.9.1
- (6 講義) 材料及び技術：漆、膠等 第7回文化財(美術工芸品)修理技術者講習会 文化庁 15.10.28
- (6 講義) Characteristics of Urushi and Japanese Adhesives 在外日本古美術品保存修復協力事業ケルンワークショップ ケルン東洋美術館 15.11.14
- (6 講義) Scientific research for Urushi materials and Japanese Adhesives 在外日本古美術品保存修復協力事業ケルンワークショップ ケルン東洋美術館 15.11.17
- (7 所属学会) IIC、高分子学会、日本文化財科学会、文化財保存修復学会、マテリアルライフ学会
- (7 委員会等) 修理技術者資格制度委員会委員、マテリアルライフ学会編集委員
- (8 教育) 東京藝術大学大学院併任准教授

早川泰弘 HAYAKAWA Yasuhiro (保存修復科学センター)

- (2 報告) エックス線透過撮影による長八作品の調査 (犬塚将英、早川泰弘) 『伊豆の長八 幕末・明治の空前絶後の鍍絵師』 pp.160-163 平凡社 15.8
- (2 報告) 板絵着色大蔵氷川神社奉納絵図の蛍光X線分析 『世田谷区文化財調査報告集25、区指定有形文化財「板絵着色大蔵氷川神社奉納絵図」の修理及びデジタル復元事業報告』 pp.41-44 世田谷区教育委員会 16.3
- (2 報告) 平等院鳳凰堂国宝扉の金属部材の材料調査 (早川泰弘、城野誠治) 『鳳翔学叢』12 平等院 16.3
- (2 報告) 平等院鳳凰堂須弥壇の金属部材の材料調査 (早川泰弘、城野誠治) 『平等院鳳凰堂内 光学調査報告書』 pp.XRF4-XRF7 東京文化財研究所 16.3
- (2 報告) 四季花鳥図屏風の彩色材料調査 (早川泰弘、城野誠治) 『四季花鳥図屏風 光学調査報告書』 pp.148-153 東京文化財研究所 16.3
- (2 報告) X線透過撮影による伊豆長八の作品の調査 (犬塚将英、早川泰弘) 『保存科学』55 pp.115-124 16.3
- (3 論文) 国宝「阿弥陀聖衆来迎図」の彩色材料に関する調査 (武田裕子、早川泰弘) 『保存科学』55 pp.47-62 16.3
- (3 論文) 徳島大学附属図書館所蔵「伊能図」の彩色材料調査結果 (吉田直人、早川泰弘、村岡ゆかり)

『保存科学』55 pp.63-78 16.3

(5 学会発表) 国宝 平等院鳳凰堂内 西面扉の押縁に施された文様及び色彩の想定復元 (神居文彰、早川泰弘、荒木恵信) 文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.28

(5 学会発表) 一宮市博物館所蔵の陣羽織に使用されている金属糸の材質調査 (吉田滯代、早川泰弘、伊藤和彦、成河端子) 日本文化財科学会第32回大会 東京学芸大学 15.7.11-12

(5 学会発表) 永青文庫所蔵 洋人奏楽図屏風の彩色材料調査 (早川泰弘、城野誠治、三宅秀和) 日本文化財科学会第32回大会 東京学芸大学 15.7.11-12

(5 学会発表) 東アジアにおける黄銅(真鍮)利用の歴史の研究—日本の古代～近世の紺紙金字経・絵画・黄銅製品の蛍光X線分析による— (西山要一、東野治之、関根俊一、早川泰弘、植田直見、魚島純一、望月規史、宮崎真由) 2015東アジア文化遺産保存国際シンポジウム in 奈良 奈良春日野国際フォーラム 15.8.27-28

(6 発表) Scientific Analysis of Metallic Thread used for Woolen Jinbaori (Military Campaign Coat) in the Collection of Ichinomiya City Museum, Japan (M. Yoshida, Y. Hayakawa) 名古屋大学宇宙地球環境研究所設立記念国際シンポジウム 名古屋大学 15.11.4

(6 発表) 染織文化財に使用されている金属糸の接着剤に関する科学分析 (吉田滯代、本多貴之、宮越哲雄、早川泰弘) 漆サミット2015 明治大学 15.12.4

(6 発表) 染織文化財の科学分析とその現状 (吉田滯代、早川泰弘) 第29回東海支部若手繊維研究会 金城学院大学 15.12.12

(6 発表) 徳大本伊能図に使用されている彩色材料 (吉田直人、早川泰弘、村岡ゆかり) 伊能図を科学する—徳島大学附属図書館所蔵伊能図の学術調査報告 東京文化財研究所 16.1.20

(6 発表) 前三千年紀第四四半期から出土した着磁性物質の自然科学的分析 (平井昭司、早川泰弘、長谷川真也、白木尚人、坂下明子) アナトリア考古学研究会 学習院大学 16.2.29

(6 講演) 高松塚古墳壁画の彩色材料について 国際学術シンポジウム「古代の色と漆」 国立扶余博物館、韓国 15.10.2

(6 講義) 科学的方法による材料及び技術の分析 文化財(美術工芸品)修理技術者講習会 経済産業省 15.10.30

(7 所属学会) 日本化学会、日本文化財科学会、日本分析化学会、文化財保存修復学会

(7 委員会等) 文化財保存修復学会第37回大会プログラム作成委員会、徳島大学附属図書館伊能図検証プロジェクト委員会、琉球王国文化遺産集積・再興事業実施計画業務に係る監修委員

(8 教育) 東京藝術大学大学院非常勤講師、金沢美術工芸大学非常勤講師

原本知実 HARAMOTO Tomomi (客員研究員)

(2 報告) 『平成27年度文化庁委託 第39回世界遺産委員会審議調査研究事業』(川野邊渉, 二神葉子, 境野飛鳥, 増淵麻里耶, 原本知実) pp.28-49, 100-142, 236-238 東京文化財研究所 15.10

福永八朗 FUKUNAGA Hachiro (アソシエイトフェロー)

(5 学会発表) 文化財研究情報アーカイブの構築—東京文化財研究所の取り組み (山梨絵美子、皿井舞、橘川英規、福永八朗、小山田智寛、安永拓世、津田徹英、二神葉子) 2015東アジア文化遺産保存国際シンポジウム in 奈良 奈良春日野国際フォーラム 15.8.27-28

(6 発表) 東文研の文化財データベース 文化財データベース・アーカイブの構築と活用に関する研究会 東京文化財研究所 16.3.23

藤井義久 FUJII Yoshihisa (客員研究員)

(1 共著) Nondestructive Visualization Using Electromagnetic Waves for Real and Practical Sensing Technology

- for Robotics. (Hiroshoshi Togo, Soichi Oka, Yoshihisa Fujii, Yuko Fujiwara) *Integrated Imaging and Vision Techniques for Industrial Inspection*, Springer Verlag pp.413-482 15.12
- (3 論文) 木橋敷板接合面への水の浸入に対する伝統的工法の効果 (森山友紀子、澤田豊、藤井義久、奥村正悟) 『木材保存』41(5) pp.213-219 日本木材保存協会 15.10
- (3 論文) 伝統的木構造物で使用される銅金物の劣化制御への寄与 (第I報) 一京都三条大橋欄干の蛍光X線分析— (栗崎宏、藤井義久、築瀬佳之、西川智子、中野ひとみ、瀬川真麻、清水秀丸) 『木材保存』41(6) pp.256-263 日本木材保存協会 15.12
- (5 学会発表) チビタケナガシンクイの幼虫の成長と摂食活動のX線CTおよびAEモニタリングによる非破壊評価 (渡辺祐基、築瀬佳之、藤井義久) 日本木材保存協会第31回年次大会 メルパルク東京 15.5.26-27
- (5 学会発表) 銅板等金属素材の木材劣化作用 (栗崎宏、清水秀丸、藤井義久、築瀬佳之、森拓郎) 日本木材保存協会第31回年次大会 メルパルク東京 15.5.26
- (5 学会発表) 切削仕上げ付近に発生するひずみの画像相関法による測定 (松田陽介、藤原裕子、村田功二、藤井義久) 日本木材加工技術協会第33回年次大会 北海道大学学術交流会館 15.9.29-30
- (5 学会発表) すりあわせ・木殺しが接着性能に及ぼす効果 すり合わせによる接合面の引掛り度の影響 (片山雄太、澤田豊、築瀬佳之、藤原裕子、藤井義久) 日本木材加工技術協会第33回年次大会 北海道大学学術交流会館 15.9.29-30
- (5 学会発表) AEモニタリングによるチビタケナガシンクイの摂食活動の非破壊評価 (渡辺祐基、築瀬佳之、藤井義久) 第27回日本環境動物昆虫学会年次大会 関西大学 15.11.28
- (5 学会発表) マイクロフォーカスX線CTによる木材中のヒラタキクイムシおよびアフリカヒラタキクイムシ幼虫の摂食過程の可視化 (築瀬佳之、渡辺祐基、藤井義久、藤本いずみ、吉村剛) 第27回日本環境動物昆虫学会年次大会 関西大学 15.11.28
- (5 学会発表) こけら葺屋根に用いた銅板の防腐効果について—屋根の高さ方向及びこけら板厚さ方向における銅元素分布— (村上奈央、藤原裕子、藤井義久、高妻洋成、中野ひとみ、西川智子) 第66回日本木材学会大会 名古屋大学 16.3.27
- (5 学会発表) 湿度制御した温風による熱処理による漆仕上げ材の表面ひずみの測定 (竹口彩、藤原裕子、藤井義久、木川りか、佐藤嘉則、古田嶋智子、犬塚将英) 第65回日本木材学会大会 名古屋大学 16.3.27
- (6 講演) 文化財建造物の劣化特性、診断と耐久性評価 第302回生存圏シンポジウム 文化財建造物やその街並みの保存等技術と活用による地域活性化の可能性 京都大学 15.12.19
- (6 講演) 木材の基本的性質 近畿中国森林管理局平成27年度研修会 近畿中国森林管理局 15.9.11
- (6 講演) 民家の木材 劣化診断と対策 日本民家再生協会 劣化診断と対策 京橋創生館 15.10.2
- (6 講習会) 木材・木造の劣化と耐久性 平成27年石川県ヘリテージマネージャー育成講習会 金沢職人大学校 15.8.8
- (6 講習会) 木材・木造の劣化と耐久性 日本伝統建築棟梁研修 滋賀県立文化産業会館 15.11.23
- (6 講習会) 木材の劣化診断技術・一次診断・二次診断 木材劣化診断士講習会 メルパルク東京・エル・おおさか 15.8.28、15.9.2
- (6 講習会) 木造の劣化診断技術 住宅メンテナンス診断士講習会 大阪府社会福祉会館、宮日会館、連合会館 15.8.5、15.11.17、15.12.7
- (7 所属学会) International Research Group on Wood Protection、住環境疾病予防研究会、精密工学会、日本環境動物昆虫学会、日本建築学会、日本材料学会、日本文化財科学会、日本木材加工技術協会、日本木材学会、日本木材保存協会、文化財保存修復学会
- (7 委員会等) (一財) 建築研究協会非常勤研究員、重要文化財建造物輪王寺本堂保存修理専門委員会委員、東本願寺耐震調査研究委員会委員、史跡北代遺跡復元建物修理検討専門家会議委員、高山市伝統構

法木造建築物耐震化マニュアル作成検討委員会委員、加子母明治座改修検討委員会委員

(8 教育) 京都大学農学部森林科学科、京都大学大学院農学研究科、東京大学大学院農学生命科学研究科非常勤講師、京都府立大学農学部非常勤講師

藤澤明 FUJISAWA Akira (客員研究員)

(2 報告) フルブック遺跡出土壁画断片の保存修復 (山内和也、島津美子、藤澤明、小川絢子、影山悦子、増田久美、ステファニー・ボガン、成田朱美) 『中央アジア文化遺産保護報告集 第12巻 日本タジキスタン文化遺産共同調査 第9巻』 pp.73-80、111-113 東京文化財研究所 16.3

(2 報告) Twenty-Five Bodhisattvas Descending from Heaven(楠京子、井上さやか、山田祐子、君嶋隆幸、加藤雅人、小林達郎、藤澤明) 『在外日本古美術品保存修復協力事業 二十五菩薩来迎図』 pp.67-80 東京文化財研究所 16.3

(2 報告) Episode from The Tale of Genji (山田祐子、井上さやか、楠京子、君嶋隆幸、加藤雅人、江村知子、藤澤明) 『在外日本古美術品保存修復協力事業 源氏物語図屏風』 pp.38-43 東京文化財研究所 16.3

(5 学会発表) タジキスタン国立古代博物館におけるフルブック遺跡出土壁画断片の保存修復—壁画断片群のマウント処置と展示— (小川絢子、藤澤明、成田朱美、増田久美、島津美子) 文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.28

(7 所属学会) 日本文化財科学会、文化財保存修復学会

(7 委員会等) 国宝銅造阿弥陀如来坐像保存修理委員会、文化財保存修復学会編集委員会

二神葉子 FUTAGAMI Yoko (企画情報部)

(2 報告) 調査研究報告書 (山下好彦、二神葉子、早川泰弘、犬塚将英、城野誠治、本多貴之、増渕麻里耶) 受託研究「ラチャプラディット寺院の螺鈿扉修復計画策定のための調査研究」 pp.11-14、191-198 東京文化財研究所 15.7

(2 報告) 第5章 世界遺産委員会：2012～2015年の動向 (川野邊渉、二神葉子、境野飛鳥、増渕麻里耶、原本知実) 『平成27年度文化庁委託 第39回世界遺産委員会審議調査研究事業』 pp.323-335 東京文化財研究所 15.10

(2 報告) タイにおける文化遺産保存修復協力 『東南アジア諸国文化遺産保存修復協力 平成27年度成果報告書』 pp.79-83 東京文化財研究所 16.3

(2 報告) 受託研究「ラチャプラディット寺院の螺鈿扉修復計画策定のための調査研究」(山下好彦、二神葉子、早川泰弘、犬塚将英、城野誠治、本多貴之、増渕麻里耶) 東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力 『平成27年度成果報告書』 pp.89-92、114-121 東京文化財研究所 16.3

(3 論文) Chapter 3 Multiple Regression Analysis for Estimating Earthquake Magnitude as a Function of Fault Length and Recurrence Interval (Takashi Kumamoto, Kozo Oonishi, Yoko Futagami, and Mark W. Stirling) *Earthquakes, Tsunamis and Nuclear Risks* pp.43-53 Springer 16.1

(3 論文) 無形文化遺産の保護に関する第10回政府間委員会における議論の概要と課題 『無形文化遺産研究報告』10 16.3

(4 解説) 第39回世界遺産委員会ニュース 『世界遺産年報2016』21 pp.32-33 公益社団法人日本ユネスコ協会連盟 15.11

(4 解説) 用語解説 (川野邊渉、二神葉子、境野飛鳥、増渕麻里耶) 『世界遺産用語集』144p 東京文化財研究所 16.3

(4 翻訳) Neville Agnew、前川信「甦った王妃ネフェルタリ」『古代文明の輝き 別冊日経サイエンス』210 pp.44-50 日経サイエンス 15.12

(5 学会発表) 文化財研究情報アーカイブの構築—東京文化財研究所の取り組み (山梨絵美子、皿井舞、

橘川英規、福永八朗、小山田智寛、安永拓世、津田徹英、二神葉子) 2015東アジア文化遺産保存国際シンポジウム in 奈良 奈良春日野国際フォーラム 薨〜I・RA・KA〜 15.8.27-28

(6 発表) 文化財の地震危険度評価とその活用—文化財GISデータベースによる— 国際会議「文化財防災体制についての国際比較研究」 神戸大学文学部 15.10.22

(6 講演) Investigation and Conservation of Lacquer Panels with mother-of pearl inlay with under paint used for interior decoration of Wat Rajpradit, Bangkok (Yoshihiko Yamashita, Yoko Futagami, Yasuhiro Hayakawa, Masahide Inuzuka, Takayasu Honda, Phrakhrupalatsutavat Arayapong) The conservation of East Asian Cabinets in Imperial Residences (1700-1900) the Schloss Schönbrunn, AUSTRIA 15.12.4

(6 司会) 総合討議 被災文化財等保全活動の記録に関する研究会 東京文化財研究所 16.1.29

(7 所属学会) 地理情報システム学会、ICOMOS、日本第四紀学会、日本文化財科学会、文化財保存修復学会

(7 委員会等) 文化審議会専門委員 (世界文化遺産・無形文化遺産部会世界文化遺産特別委員会)

古川尚彬 FURUKAWA Naoaki (客員研究員)

(2 報告) 町並み変容調査 ~Nyala Dan通り沿いにおけるケーススタディ~ (山田大樹、古川尚彬) 『文化庁委託事業平成27年度文化遺産保護国際貢献事業「ネパールにおける文化遺産被災状況調査事業」歴史的集落に関する調査』 pp.33-59 東京文化財研究所 16.3

(2 報告) 町並み変容調査からの住宅の損傷・倒壊要因の推察 (山田大樹、古川尚彬) 『文化庁委託事業平成27年度文化遺産保護国際貢献事業「ネパールにおける文化遺産被災状況調査事業」歴史的集落に関する調査』 pp.85-93 東京文化財研究所 16.3

(7 所属学会) 日本建築学会、日本都市計画学会

本多貴之 HONDA Takayuki (客員研究員)

(5 学会発表) フノリ抽出物の物性に及ぼす抽出条件の影響—温度・種・水の硬度— (早川典子、大村卓也、原由宇稀、楠京子、貴田啓子、本多貴之) 文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.28

(5 学会発表) 日光東照宮陽明門西壁面の唐油蒔絵の調査と修理 (北野信彦、犬塚将英、本多貴之、中右恵理子、武田恵理、何思縁、佐藤則武、浅尾和年) 文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.28

(5 学会発表) 水の硬度がフノリの固化や溶解性に与える影響の検討 (原由宇稀、早川典子、本多貴之) 文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.28

(7 所属学会) 日本化学会、日本文化財科学会、高分子分析研究懇談会、日本塗装技術協会、漆を科学する会

前川佳文 MAEKAWA Yoshifumi (客員研究員)

(2 報告) 調査報告 『ヴォーティの回廊所蔵アンドレア・デル・サルト壁画作品に関する調査研究』 公益財団法人 文化財保護・芸術研究助成財団 15.5

(2 報告) 保存修復報告 『長谷川路可壁画作品「長崎への道」の保存修復』 公益財団法人 朝日新聞文化財団 15.12

(2 報告) 保存修復報告 『長谷川路可壁画作品「長崎への道」の保存修復』 公益財団法人 出光文化福祉財団 15.12

(2 報告) 保存修復報告 (Yoshifumi MAEKAWA, Guido BOTTICELLI, Stefania FRANCESCHINI) *Relazione finale dell'intervento di restauro dei dipinti murali in affresco attribuiti a Giacomo Pacchiarotti e raffiguranti*, La Soprintendenza Belle Arti e Paesaggio per le province di Siena, Grosseto e Arezzo

15.12

(2 報告) 調査報告 (Yoshifumi MAEKAWA, Stefania FRANCESCHINI) *Progetto di intervento di restauro conservativo ed estetico dell'affresco cinquecentesco raffigurante La Crocifissione situato all'interno della Chiesa di San Francesco*, Comune di Asciano, Siena 15.12

(4 記事) 二十六聖人記念館のフレスコ画 修復 朝日新聞 15.11.10

(4 記事) 「長崎への道」色鮮やかに 長崎新聞 16.2.1

(5 学会発表) アッシャーノ・サンティッポリート教会主祭壇壁画の調査研究と保存修復—状態診断から補強作業まで— 文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.28

(5 学会発表) 前橋市・宝塔山古墳における漆喰の施工過程に関する研究 (前川佳文、朽津信明、久住有生) 日本文化財科学会第32回大会 東京学芸大学 15.7.11-12

(5 学会発表) 漆喰表面の劣化形態に関する実験的考察 (朽津信明、久住有生、前川佳文、早川典子) 日本文化財科学会第32回大会 東京学芸大学 15.7.11-12

(6 講義) Intervention process for the restoration and conservation of wall paintings ミャンマーの文化遺産保護に関する拠点交流事業 メットウヤ寺院アベヤダナ寺院 16.1.12-13

(7 所属学会) 日本文化財科学会、文化財保存修復学会、Associazione Bastioni, Associazione Amici dell'Opificio

(8 教育) 青山学院大学文学部史学科非常勤講師、東京学芸大学文化財科学分野非常勤講師

増淵麻里耶 MASUBUCHI Mariya (アソシエイトフェロー)

(2 報告) 漆工芸現地調査 (第2回) 「ポータブル蛍光X線分析装置による材質分析」『平成26年度文化遺産国際協力拠点交流事業「ミャンマーにおける文化遺産保護に関する拠点交流事業」成果報告書』 pp.58-62 東京文化財研究所 15.4

(2 報告) ナンチー寺院およびラチャプラディット寺院漆絵・螺鈿扉の蛍光X線分析結果 『受託研究「ラチャプラディット寺院の螺鈿扉修復計画策定のための調査研究」調査研究報告書』 pp.169-189 東京文化財研究所 15.7

(2 報告) (川野邊渉、二神葉子、境野飛鳥、増淵麻里耶、原本知実) 『平成27年度文化庁委託 第39回世界遺産委員会審議調査研究事業』 pp.50-71、143-184、264-293 東京文化財研究所 15.10

(2 報告) No.1205寺院壁画の材質調査報告 『平成25年度～27年度文化庁委託事業「ミャンマーにおける文化遺産保護に関する拠点交流事業」最終成果報告書』 pp.86-94 東京文化財研究所 16.3

(2 報告) 漆芸大学博物館所蔵漆工作品の材質調査 『平成25年度～27年度文化庁委託事業「ミャンマーにおける文化遺産保護に関する拠点交流事業」最終成果報告書』 pp. 117-134 東京文化財研究所 16.3

(2 報告) (川野邊渉、江村知子、境野飛鳥、増淵麻里耶、城野誠治) 『選定保存技術に関する調査報告書1 和鋼』 160p 東京文化財研究所 16.3

(3 論文) 中央アナトリア、カマン・カレホユック出土鉄製品に見るヒッタイト崩壊前後の鉄器文化の変容 (増淵麻里耶、大村幸弘) 日本西アジア考古学会第20回総会・大会要旨集 pp.33-36 日本西アジア考古学会 15.6

(3 論文) A Study on the Beginning of the Iron Age at Kaman-Kalehöyük *Anatolian Archaeological Studies*, 19 pp.111-122 Japanese Institute of Anatolian Archaeology 16.2

(4 解説) カレンダー「文化財を守る日本の伝統技術」(川野邊渉、江村知子、境野飛鳥、増淵麻里耶、城野誠治) 東京文化財研究所 15.11

(4 解説) 『平成27年度文化庁委託 世界遺産用語集』(川野邊渉、二神葉子、境野飛鳥、増淵麻里耶) 144p 東京文化財研究所 16.3

(4 解説) ロビー展示「選定保存技術—漆の文化財を守り伝えるために」(川野邊渉、江村知子、境野

飛鳥、増渕麻里耶、城野誠治) 東京文化財研究所 16.3

(4 解説) パンフレット「選定保存技術に関する調査研究」(川野邊渉、江村知子、境野飛鳥、増渕麻里耶、城野誠治) 東京文化財研究所 16.3

(5 学会発表) 中央アナトリア、カマン・カレホック出土鉄製品に見るヒッタイト崩壊前後の鉄器文化の変容(増渕麻里耶、大村幸弘) 日本西アジア考古学会第20回大会 名古屋大学 15.6.13-14

(6 発表) 中央アナトリアにおける製鉄文化解明の試み(7) —鉄製品の化学組成からの考察— 第26回トルコ調査研究会 学習院大学 16.2.29

(6 講義) “How to use XRF” Training Course on Diagnostic and Analytical Techniques for Conservation (session II, August 2015) The Grand Egyptian Museum Conservation Center (GEM-CC) 15.8.19

(6 講義) “General knowledge in XRF” Training Course on Diagnostic and Analytical Techniques for Conservation (session II, August 2015) The Grand Egyptian Museum Conservation Center (GEM-CC) 15.8.20

(6 講義) “Application of XRF in conservation and scientific research” Training Course on Diagnostic and Analytical Techniques for Conservation (session II, August 2015) The Grand Egyptian Museum Conservation Center (GEM-CC) 15.8.20

(6 講義) “Analysis of metallic artifacts and archaeology” Training Course on Inorganic Objects (metal) (August 2015) The Grand Egyptian Museum Conservation Center (GEM-CC) 15.8.30

(6 講義) “Some Basics of X-ray Fluorescence Analysis for Pigments” The 4th Workshop on Conservation of Mural Painting Department of Archaeology and National Museum, Bagan 16.1.11

(6 講義) “Some Basics of X-ray Fluorescence Analysis for Pigments” Workshop for the Conservation of Lacquer Ware Lacquerware Technology College, Bagan 16.1.14

(7 所属学会) IIC、日本鉄鋼協会、日本西アジア考古学会、日本分析化学会

松田泰典 MATSUDA Yasunori (客員研究員)

(5 学会発表) 大エジプト博物館保存修復センター (GEM-CC) における人材育成を目的とした国際協力プロジェクト—パピルスと和紙の時空を超えた出会い— (松田泰典、Moamen Othman) 文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.28

(7 所属学会) ICOM、ICOM-CC、特定非営利活動法人文化財保存支援機構、日本文化財科学会、東アジア文化遺産保存学会、文化財保存修復学会、北海道・東北『保存科学』研究会

(7 委員会等) 日本文化財科学会「考古学と自然科学」会誌編集委員会

(8 教育) 筑波大学大学院非常勤講師、東洋美術学校保存修復科非常勤講師

間淵創 MABUCHI Hajime (客員研究員)

(3 論文) 博物館施設におけるバイオエアロゾル測定の実用性について(間淵創、佐藤嘉則) 『保存科学』55 pp.103-113 16.3

(6 講演) 三重県博物館協会の災害時相互協力体制について 静岡県博物館協会研修会 静岡県立美術館 15.5.26

(6 講義) 博物館における保存環境管理 三重大博物館学芸員実習(生物資源学部) 三重県総合博物館 15.6.20

(6 講演) 博物館施設におけるカビ等のモニタリングとデータの活用 東文研フォーラム：臭化メチル全廃から10年：文化財のIPMの現在 東京文化財研究所 15.7.16

(6 講義) 博物館における保存環境管理 三重大博物館学芸員実習実習(人文学部) 三重県総合博物館 15.7.8

(6 講演) 三重県における博物館等の災害時に向けた取り組みについて 兵庫県博物館協会研修会 兵

庫県立考古博物館 16.2.12

(6 講義) 博物館資料保存論 三重大学学芸員課程博物館資料保存論学外講義 三重県総合博物館
15.8.19

(6 講義) 博物館資料保存論 皇学館大学学芸員課程博物館資料保存論学外講義 三重県総合博物館
15.10.18

(7 所属学会) 室内環境学会、文化財保存修復学会

丸川雄三 MARUKAWA Yuzo (客員研究員)

(3 論文) 身装画像データベース「近代日本の身装文化」の公開と運用—公開用ウェブインタフェースと研究者の参加を促す編集環境の実現— 『じんもんこん2015論文集』2015 pp.233-238 人文科学とコンピュータ研究会 15.12

(4 エッセイ) 集めてみました世界の「あかり」 『月刊みんぱく』461 pp.10-11 国立民族学博物館
16.2

(5 学会発表) 文化遺産オンラインAPIによる収蔵品情報の活用 2015年度アート・ドキュメンテーション学会年次大会 国立西洋美術館 15.6.6-7

(5 学会発表) 美術分野における制作者情報の統合—制作者データベースの実現を目指して— 2015年度アート・ドキュメンテーション学会第8回秋季研究発表会 根津美術館 15.11.14

(5 学会発表) 身装画像データベース「近代日本の身装文化」の公開と運用—公開用ウェブインタフェースと研究者の参加を促す編集環境の実現— 人文科学とコンピュータシンポジウム「じんもんこん2015」 同志社大学京田辺校地 15.12.12

(6 発表) 制作者データベースの試作と公開に向けた課題 「ミュージアムと研究機関の協働による制作者情報の統合」第3回研究会 東京文化財研究所 15.7.23

(6 発表) 近代日本の身装文化—研究資源データベースの発信と展開— 第11回 人間文化研究情報資源共有化研究会「人間文化研究機構のもつ画像データ共有化の前進に向けて」 TKP ガーデンシティ京都 16.2.6

(6 発表) Test Program of Info-Forum Museum (Yuzo Marukawa, Hirofumi Teramura) 《International Workshop》 System Development for the Info-Forum Museum: Philosophy and Technique National Museum of Ethnology 16.2.11-12

(6 発表) フォーラム型情報ミュージアムにおける情報システムの開発 (丸川雄三、寺村裕史) 平成27年度人類の文化資源に関するフォーラム型情報ミュージアムの構築「個別プロジェクト等成果報告会」 国立民族学博物館 16.3.30

(6 講演) 画像データベースで見る・学ぶ「近代日本の身装文化」 第410回 みんぱくウィークエンド・サロン 国立民族学博物館 16.1.17

(6 講義) ミュージアムにおけるデジタル・アーカイブズの活用 立命館大学大学院文化研究科・行動文化情報学専攻「情報人文の最前線」 立命館大学アート・リサーチセンター 15.11.25

(6 講義) 文化資源とデータベース 総合研究大学院大学地域・比較文化学専攻「1年生ゼミ・テーマシリーズ」 国立民族学博物館 15.10.22

(6 講義) 連想検索を活用した情報発信サービス 北陸先端科学技術大学院大学情報科学研究科「データベース特論」 北陸先端科学技術大学院大学東京サテライト 15.5.30

(7 所属学会) アート・ドキュメンテーション学会

(8 教育) 総合研究大学院大学比較文化学専攻担当教員、北陸先端科学技術大学院大学非常勤講師

三浦定俊 MIURA Sadatoshi (客員研究員)

(4 解説) 臭化メチル全廃10年と今後—ミュージアムIPMの展開とPCOの将来 (黒澤真次、三浦定俊、

亀井伸雄、本田光子、木川りか) 『CLEAN LIFE 2015ミュージアムIPM編 II』 pp.2-12 環境文化創造研究所 15.11

(4 解説) 臭化メチル全廃とその後の10年の歩み (三浦定俊、木川りか、佐野千絵) 『保存科学』 55 pp.37-45 16.3

(6 講習会) 生物被害防除と保存環境 第2回文化財くん蒸技術講習会 三田NNホール 15.5.21

(6 講習会) 生物被害防除と保存環境 第3回文化財くん蒸技術講習会 トラストシティカンファレンス 新大阪 15.6.18

(6 講習会) 保存科学概論 ミュージアムIPM研修 (基礎編) 九州国立博物館 15.9.9

(6 講習会) 講義: 温湿度記録の活用 ミュージアムIPM研修 (技術編) 九州国立博物館 15.11.9

(6 講習会) 実習: 温湿度記録の活用 ミュージアムIPM研修 (技術編) 九州国立博物館 15.11.9

(6 講習会) 演習: 温湿度記録の活用 ミュージアムIPM研修 (技術編) 九州国立博物館 15.11.9

(6 講習会) 文化財IPM概論 文化財IPMコーディネータ資格取得講習会 国立民族学博物館 15.12.16

(6 講習会) 防災を考えた日常管理 「みんなでまもる文化財みんなをまもるミュージアム」事業第3回研修会 九州国立博物館 16.2.29

(7 委員会等) 文化財保存修復学会理事長、IIC-Japan副会長、ICOM日本委員会監事、東京都文化財保護審議会委員、日本銀行金融研究所貨幣博物館諮問委員、愛知県美術館専門委員、特定非営利活動法人文化財保存支援機構理事

(8 教育) 武蔵野美術大学造形学部非常勤講師、上智大学文学部非常勤講師

三上豊 MIKAMI Yutaka (客員研究員)

(1 共著) 「制作ノート」 『針生一郎蔵書資料年表 美術・文学・思想』 pp.490-496 せりか書房 15.4

(4 編集) 『針生一郎蔵書資料年表 美術・文学・思想』 (三上豊、上野俊哉、沢山遼) 496p せりか書房 15.4

(7 所属学会) アート・ドキュメンテーション学会

(8 教育) 和光大学表現学部芸術学科教授

森井順之 MORII Masayuki (保存修復科学センター)

(2 報告) 石灯籠の地震対策に関する評価 (森井順之、近藤希美、新津靖、御子柴正、花里利一) 『日韓共同研究報告書2015』 pp.59-70 東京文化財研究所/大韓民国国立文化財研究所 15.6

(2 報告) 屋外石造文化財の地震対策に関する研究、被災文化財の保存環境に関する研究 中期計画「文化財の防災計画に関する調査研究」五カ年報告書 pp.2-11 16.3

(3 論文) 磨崖仏の覆屋内温度環境制御による保存について 『2015東アジア文化遺産保存シンポジウム論文集』 pp.30-33 東アジア文化遺産保存学会 15.8

(3 論文) 仏像の耐震対策に関する研究 EDEM を用いた実物大実験の解析 (安井佑佳、森井順之、中川貴文、花里利一) 『2015年度日本建築学会大会学術講演梗概集』 pp.845-846 日本建築学会 15.8

(3 論文) 石灯籠の耐震対策に関する評価 実物大石灯籠の振動台実験 (森井順之、花里利一、新津靖、御子柴正) 『2015年度日本建築学会大会学術講演梗概集』 pp.847-848 日本建築学会 15.8

(3 論文) Monitoring system for preservation of the Usuki stone Buddha by volunteer and scientific supports ISSM2015, pp.39-44 National Science Museum, Korea 15.10

(3 論文) 屋外石造文化財における金箔の保存条件に関する研究 (朽津信明、渡邊尚恵、佐多麻美、森井順之) 『保存科学』 55 pp.1-10 16.3

(5 学会発表) Reconstruction of the shelter for Buddhist image carved on tuff cliff (Masayuki Morii, Shinobu Yamaji, Hironobu Ito, Takeo Yamamura and Tetsushi Toyoda) 23rd ISCS Meeting, Edinburgh The British Geological Survey 15.5.20

- (5 学会発表) ベルー、マチュピチュ遺跡の保存修復—「太陽の神殿」の劣化原因と保存修復方針—(西浦忠輝、岡田保良、柴田英明、小野勇、伊藤淳志、西形達明、藤田晴啓、森井順之、荒木祐一郎、荒木良祐、フェルナンド・アステテ、ピエダッド・チャンピ、グラディス・ファルパリマチ、カルロス・カノー) 文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.27
- (5 学会発表) 石人山古墳における石棺装飾の保存に関する調査(朽津信明、森井順之、犬塚将英、佐藤嘉則、日高翠、木川りか、尾崎源太郎、岡田健) 文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.27
- (5 学会発表) 被災資料一時保管施設の収蔵環境について—タイプの異なる施設の比較—(芳賀文絵、及川規、森井順之、佐々木淳、福山宗志) 文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.27
- (5 学会発表) 虎塚古墳公開保存施設の管理方法変更による微生物汚染状況の推移(佐藤嘉則、犬塚将英、森井順之、矢島國雄、木川りか) 文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.28
- (5 学会発表) 磨崖仏の覆屋内温度環境制御による保存について 2015東アジア文化遺産保存国際シンポジウム専門家会議 奈良春日野国際フォーラム薨~I・RA・KA~ 15.8.26
- (5 学会発表) 屋外石造文化財における金箔の保存条件に関する研究(朽津信明、渡邊尚恵、森井順之) 日本文化財科学会第32回大会 東京学芸大学 15.9.4
- (5 学会発表) 東日本大震災文化財レスキュー活動日報の分析および将来に向けた提案 2015東アジア文化遺産保存国際シンポジウム 奈良春日野国際フォーラム薨~I・RA・KA~ 15.8.26
- (5 学会発表) 東日本大震災で被災した文化財の救出活動の経験から(岡田健、伊藤嘉章、佐野千絵、山梨絵美子、山内和也、森井順之) 2015東アジア文化遺産保存国際シンポジウム in 奈良 奈良春日野国際フォーラム薨~I・RA・KA~ 15.8.28
- (5 学会発表) 仏像の耐震対策に関する研究 EDEM を用いた実物大実験の解析(安井佑佳、森井順之、中川貴文、花里利一) 2015年度日本建築学会大会学術講演会 東海大学 15.9.4
- (5 学会発表) 石灯籠の耐震対策に関する評価 実物大石灯籠の振動台実験(森井順之、花里利一、新津靖、御子柴正) 2015年度日本建築学会大会学術講演会 東海大学 15.9.4
- (5 学会発表) 砂岩製文化財の表面風化形態について(朽津信明・森井順之・西山賢一) 日本応用地質学会平成27年度研究発表会 京都大学宇治キャンパス 15.9.24-25
- (6 発表) 石灯籠の地震対策に関する評価(森井順之、近藤希美、新津靖、御子柴正、花里利一) 日韓共同研究平成27年度報告会 東京文化財研究所 15.7.8
- (6 講演) 東日本大震災文化財レスキュー事業の参加を通じて考える将来の備え みえ歴史的町並み防災・復興研究会 第3回公開研究会 三重大学 15.8.22
- (6 講演) Monitoring System for Preservation of the Usuki Stone Buddha by Volunteer and Scientific Supports International Symposium of Science Museums 2015 National Science Museum, Korea 15.10.22
- (7 所属学会) ICOMOS、日本建築学会、東アジア文化遺産保存学会、文化財保存修復学会
- (7 委員会等) 羅漢寺五百羅漢調査委員、大悲山石仏保存修理指導委員会委員、日本建築学会熱環境運営委員会湿気小委員会文化財の保存と公開における熱湿気環境ワーキンググループ
- (8 教育) 慶應義塾大学文学部非常勤講師

安永拓世 YASUNAGA Takuyo (企画情報部)

- (4 記事)「物故者」飯田真 『日本美術年鑑』平成26年版 pp.469-470 16.3
- (5 学会発表) 伝祇園南海筆「山水図巻」(東京国立博物館蔵)について 美術史学会東支部例会 東京大学 15.7.25
- (5 学会発表) 文化財研究情報アーカイブの構築—東京文化財研究所の取り組み(山梨絵美子、皿井舞、

橘川英規、福永八朗、小山田智寛、安永拓世、津田徹英、二神葉子) 2015東アジア文化遺産保存国際シンポジウム in 奈良 奈良春日野国際フォーラム 薨~I・RA・KA~ 15.8.27-28

(6 講義) 博物館で扱う資料について—工芸品と絵画を中心に— 東京大学 博物館資料論 東京大学 15.4.8

(6 発表) 伝祇園南海筆「山水図巻」(東京国立博物館蔵)について 企画情報部研究会 東京文化財研究所 15.6.5

(6 講演) 与謝蕪村の絵画に見る和漢 第49回オープンレクチャー 東京文化財研究所 15.10.31

(6 講演) 江戸時代の山水画に見る材質効果と筆墨表現—文人画を中心に— 大和文華館特別講演 大和文華館 16.3.20

(6 講演) 防災を目的とした文化財情報のデータ共有について 地方指定有形文化財(美術・工芸品)の情報収集と期待される成果 平成27年度 和歌山県文化財保護指導委員後期研修会 和歌山県民文化会館 16.3.22

(7 所属学会) 美術史学会、和歌山地方史研究会

(7 委員会等) 八尾市史専門部会員

山内和也 YAMAUCHI Kazuya (文化遺産国際協力センター)

(1 公刊図書) 「アフガニスタン：バーミヤーン大仏の破壊、そして再建」 山内和也『イスラームと文化財』 pp.16-23 新泉社 15.10

(2 報告) Preliminary Report on the Safeguarding of the Bamiyan Site 2013: 11th Mission (Kazuya Yamauchi, Shogo Kume, Hiroshi Kondo eds.) Recent Cultural Heritage Issues in Afghanistan Preliminary Report Series, 7 95p Ministry of Information and Culture, Islamic Republic of Afghanistan, Japan Center for International Cooperation in Conservation, National Research Institute for Cultural Properties, Tokyo/Nara 15.12

(2 報告) 『キルギス共和国チュウ川流域の文化遺産の保護と研究 アク・ベシム遺跡、ケン・ブルン遺跡—2011~2014年度—』(山内和也、バキット・アマンバエヴァ、安倍雅史、久米正吾、間舎裕生、山藤正敏) 中央アジア文化遺産保護報告集 13 108p キルギス共和国国立科学アカデミー歴史文化遺産研究所、東京文化財研究所 16.3

(2 報告) 『紛争と文化遺産—紛争下・紛争後の文化遺産保護と復興—』(山内和也、久米正吾、山藤正敏、近藤洋、間舎裕生) 東京文化財研究所 91p 16.3

(4 記事) 戦乱アフガンで受難……収集、返還へ 流出文化財日本が救う 読売新聞 15.8.15

(4 記事) シルクロード キルギスのアク・ベシム遺跡 唐代城壁の一部出土 読売新聞 15.12.30

(4 記事) 九州国立博物館特別展「黄金のアフガニスタン」 悠久の輝き再び 寛容の地に開いた花 西日本新聞 16.1.10

(4 記事) 戦乱の地 守られた遺産 朝日新聞 16.1.19

(4 記事) シンポジウム「紛争と文化遺産」「人類の宝」保護への国際協力を 産経新聞 16.2.4

(4 記事) フルブック遺跡出土壁画断片の保存修復(山内和也、島津美子、サイドムラド・ボボムロエフ、山藤正敏、近藤洋、柴田みな、清水信宏) 『中央アジア文化遺産保護報告集文化遺産保護報告集12』 139p 東京文化財研究所、タジキスタン共和国科学アカデミー歴史・考古・民俗研究所 16.2

(4 解説) イスラム教の国 保存に課題 The Asahi Shimbun Globe 15.9.6-19

(4 解説) バーミヤーン遺跡の破壊、そして現在 『黄金のアフガニスタン—守り抜かれたシルクロードの秘宝—』 pp.187-191 産経新聞社 16.1.1

(5 学会発表) 東日本大震災で被災した文化財の救出活動の経験から(岡田健、伊藤嘉章、佐野千絵、山梨絵美子、山内和也、森井順之) 2015東アジア文化遺産保存国際シンポジウム in 奈良 奈良春日野国際フォーラム 薨~I・RA・KA~ 15.8.28

(6 講演) 「文化遺産の破壊、そして復興：日本の文化遺産国際協力」 シンポジウム「紛争と文化遺産」

- 東京文化財研究所 16.1.24
(6 司会) パネルディスカッション「紛争下・紛争後の地域における今後の国際的な文化遺産保護協力の在り方」シンポジウム「紛争と文化遺産」東京文化財研究所 16.1.24
(7 所属学会) 日本オリエント学会、日本西アジア考古学会

山下好彦 YAMASHITA Yoshihiko (文化遺産国際協力センター)

- (2 報告) 調査研究報告書(山下好彦、二神葉子、早川泰弘、犬塚将英、城野誠治、本多貴之、増渕麻里耶) 受託研究『ラチャプラディット寺院の螺鈿扉修復計画策定のための調査研究』 pp.1-10、15-35、123-167 東京文化財研究所 15.7
(2 報告) *Report on a Study of Conservation and Restoration Techniques Regarding Shwei-Nan-Daw Kyaung* 19p National Research Institute for Cultural Properties, Tokyo 15.12
(2 報告) 受託研究「ラチャプラディット寺院の螺鈿扉修復計画策定のための調査研究」(山下好彦、二神葉子、早川泰弘、犬塚将英、城野誠治、本多貴之、増渕麻里耶) 『東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力 平成27年度成果報告書』 pp.84-88、93-113 東京文化財研究所 16.3
(2 報告) 美術工芸分野・漆工品 『平成25-27年度 文化庁文化遺産国際協力拠点交流事業 ミャンマーにおける文化遺産保護に関する拠点交流事業報告書』 pp.83-105、124-130 東京文化財研究所 16.3
(2 報告) 平等院鳳凰堂須弥壇および高欄の保存状態 『平等院鳳凰堂内光学調査報告書』 pp.86-88 東京文化財研究所 16.3
(2 報告) 修理報告『在外日本古美術品保存修復協力事業 秋野蒔絵硯箱』 pp.1-32 東京文化財研究所 16.3.31
(2 報告) Introduction to the course I-Purpose and contents, Traditional Japanese lacquer, Urushi-materials and techniques, Concept to Urushi Conservation, Restoration of Urushi objects, Maki-e and Raden, Investigation into Urushi objects, Pressurizing and supporting techniques for damaged Urushi objects, Test of traditional Japanese adhesives, Consolidation, Test of pressurizing and restoration materials, Way of pressurizing, Concept of Restoration of Lacquer ware, Filling, making sample board for Maki-e powder, Color Matching CHAPTER 3 *Workshop on the Conservation and Restoration of Urushi (Japanese lacquer) Ware 2015, International Courses on Conservation with Japanese Materials and Techniques* p.178, pp.179-188, p.218, pp.219-228, p.229-230, pp.231-233, pp.243-254, pp.255, pp.256-258, pp.259-263, pp.264-267, pp.289-297, pp.298-301, pp.302-303, pp.304-306 National Research Institute for Cultural Properties, Tokyo 16.3.
(3 論文) On the Conservation of a Lacquer Cabinet with Mounting in the collection of the Museum of Applied Arts, Vienna (Yoshihiko Yamashita, Yasuhiro Hayakawa, Wataru Kawanobe, Noriko Hayakawa) *Investigation and Conservation of East Asian Cabinets in Imperial Residences (1700-1900): Lacquerware & Porcelain* pp.183-193 Boehlverlag 2015
(3 論文) Short Communication: Goberge, Shinbari, Go-bars: The Use of Flexible Sticks for Clamping (Tristram Bainbridge, Shayne Rivers, Yoshihiko Yamashita, Andrew Thackray, and Nicola Newman) *Journal of the American Institute for Conservation* 2015, 54(2) pp.65-73 2015
(3 論文) Filling lacquer losses on the Mazarin Chest: practice and continuing research (Shayne Rivers, Ambrose C Taylor, Hsin-Hui Hsu, Brenda Keneghan, Fahad Alamro and Yoshihiko Yamashita) *The Second International Conference on the Study of Oriental Lacquer Initiated by H.R.H. Princess Maha Chakri Sirindhorn*, H. R. H. Princess Maha Chakri Sirindhorn, 15.7
(4 編集) 『国際研修「日本の材料と技術による保存修復」』 329p 東京文化財研究所 16.3
(4 記事) Japanese architect shares preservation techniques Global NEW LIGHT of MYANMAR 15.9.4
(4 記事) 古伊万里 日独で修復 p.6 夕刊読売新聞 16.2.16
(4 記事) 古伊万里 日独で修復 p.35 読売新聞 16.2.20

- (4 記事) 漆新時代(中) 修復需要に向け国産増やす p.19 読売新聞 16.3.9
- (6 発表) 銅錯体触媒による高乾性漆材料の開発とその耐久性評価(小川歩、山下好彦、早川典子) マテリアルライフ学会第26回大会 群馬大学 15.7.4
- (6 発表) 麦漆の接着強度評価と銅触媒添加によるミャンマー産漆への応用(小川歩、山下好彦、早川典子) 日本文化財科学会第32回大会 東京学芸大学 15.7.11
- (6 講義) “Traditional Japanese Lacquer, Urushi: Materials and Techniques”, “Concept to Urushi Conservation”, “Case study for Pressing”, “Case study for Filling and Color matching” Workshop on the Conservation and Restoration of Urushi (Japanese lacquer) Ware Museum for East Asian Art, Cologne 15.11.13-14, 15.11.20, 15.11.26
- (6 講義) “Case study for Cleaning”, “Case study for Color matching” Workshop II on the Conservation and Restoration of Urushi (Japanese lacquer Ware)-Wein 2016 University of Applied Arts, AUSTRIA 16.3.23, 16.3.25
- (6 講演) Conservation and Restoration of Lacquer World Monuments Fund Lecture Series at Jefferson centre Jefferson Centre, Mandalay MYANMAR 15.9.2
- (6 講演) Investigation and Conservation of Lacquer Panels with mother-of pearl inlay with under paint used for interior decoration of Wat Rajpradit, Bangkok (Yoshihiko Yamashita, Yoko Futagami, Yasuhiro Hayakawa, Masahide Inuzuka, Takayasu Honda, Phrakhrupalatsutavat Arayapong) The conservation of East Asian Cabinets in Imperial Residences(1700-1900) the Schloss Schönbrunn, AUSTRIA 15.12.4
- (7 所属学会) 漆工史学会、特定非営利活動法人文化財保存支援機構、日本文化財漆協会
- (8 教育) 鶴見大学文学部文化財学科非常勤講師、東京藝術大学大学院美術研究科漆芸専攻非常勤講師、京都造形芸術大学通信教育部非常勤講師

山田大樹 YAMADA Hiroki (アソシエイトフェロー)

- (2 報告) 『イラン文化財の現地調査および関係機関との文化遺産保護に関する意見交換の報告書』 142p 東京文化財研究所 15.8
- (2 報告) Research Report on the Safeguarding of Iranian Cultural Heritage 82p National Research Institute for Cultural Properties, Tokyo 15.9
- (2 報告) 事業概要 『文化庁委託事業平成27年度文化遺産保護国際貢献事業「ネパールにおける文化遺産被災状況調査事業」報告書』 pp.1-10 東京文化財研究所 16.3
- (2 報告) 町並み変容調査 ～Nyala Dan通り沿いにおけるケーススタディ～(山田大樹、古川尚彬) 『文化庁委託事業平成27年度文化遺産保護国際貢献事業「ネパールにおける文化遺産被災状況調査事業」歴史的集落に関する調査』 pp.33-59 東京文化財研究所 16.3
- (2 報告) 町並み変容調査からの住宅の損傷・倒壊要因の推察(山田大樹、古川尚彬) 『文化庁委託事業平成27年度文化遺産保護国際貢献事業「ネパールにおける文化遺産被災状況調査事業」歴史的集落に関する調査』 pp.85-93 東京文化財研究所 16.3
- (3 論文) イランおよび中央アジアにおける歴史都市景観保護のための基礎的研究(1) —歴史都市ヤズドの景観保護政策と課題— 『2015 年度日本建築学会 大会学術講演梗概集』 F-1 pp.405-406 日本建築学会 15.9
- (4 編集) (山内和也、山田大樹他) 『バーミヤーン東大仏「足」状工作物構築と再建に関する資料集』 469p 東京文化財研究所 15.7
- (5 学会発表) イランおよび中央アジアにおける歴史都市景観保護のための基礎的研究(1) —歴史都市ヤズドの景観保護政策と課題— 2015年度 日本建築学会大会 東海大学 15.9.4
- (6 発表) 平成26年度協力相手国調査報告(マレーシア)(泉田英雄、山形真理子、山田大樹) 第27回東南アジア・南アジア分科会 東京国立博物館 15.6.8

- (6 発表) Preservation as the Sustainable Historic District The 8th International Policy Forum on Urban Growth and Conservation in Euro-Asian Corridor Tehran-Hamadan Conference 2015 Hamadan University Iran 15.9.30
- (6 講演) イランの建築と文化 (山田大樹、山内和也) 2015年度トルコ文化研究センター 研究会 武庫川女子大学 15.6.4
- (6 講演) イランのヴァナキュラー建築 2015年度トルコ文化研究センター 研究会 武庫川女子大学 15.6.4
- (6 講義) 世界の文化遺産と街並み 2015 石見銀山三日籠り 湯迫温泉 15.9.11
- (6 講義) 伝統的な町並みを残していくために 2015 石見銀山三日籠り 石見あすみ館 15.9.12
- (6 講義) Learning SfM UNESCO Workshop on Archaeological Survey in Uzgen, the Kyrgyz Republic, 2015 Uzgen City Hall 15.10.8
- (6 講義) Management Plan UNESCO Workshop on Archaeological Survey in Uzgen, the Kyrgyz Republic, 2015 Uzgen City Hall 15.10.9
- (7 所属学会) ICOMOS、日本建築学会、日本都市計画学会
- (8 教育) 早稲田大学都市・地域研究所招聘研究員

山田祐子 YAMADA Yuko (アソシエイトフェロー)

- (2 報告) 修復報告(楠京子、井上さやか、山田祐子、君嶋隆幸、加藤雅人) 『在外日本古美術品保存修復協力事業 二十五菩薩来迎図』 pp.1-20 東京文化財研究所 16.3
- (2 報告) 付録(楠京子、山田祐子、藤澤明、加藤雅人) 『在外日本古美術品保存修復協力事業 二十五菩薩来迎図』 pp.25-84 東京文化財研究所 16.3
- (2 報告) 修復報告 『在外日本古美術品保存修復協力事業 源氏物語図屏風』 pp.1-16 東京文化財研究所 16.3
- (2 報告) 付録(山田祐子、楠京子、藤澤明、加藤雅人) 『在外日本古美術品保存修復協力事業 源氏物語図屏風』 pp.22-56 東京文化財研究所 16.3
- (4 編集) 『在外日本古美術品保存修復協力事業』 24p 東京文化財研究所 16.3
- (4 編集) 『在外日本古美術品保存修復協力事業 二十五菩薩来迎図』 88p 東京文化財研究所 16.3
- (4 編集) 『在外日本古美術品保存修復協力事業 源氏物語図屏風』 60p 東京文化財研究所 16.3
- (4 編集) 『在外日本古美術品保存修復協力事業 秋野蒔絵硯箱』 32p 東京文化財研究所 16.3
- (4 編集) 『在外日本古美術品保存修復協力事業 ワークショップ2014』 16p 東京文化財研究所 16.3
- (4 編集) 『国際研修「日本の材料と技術による保存修復」』 329p 東京文化財研究所 16.3
- (5 学会発表) 紙本、絹本の修復に使用される補彩絵具の変色(山田祐子、加藤雅人、楠京子) 文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.28
- (5 学会発表) キンベル美術館所蔵『二十五菩薩来迎図』 修復事例報告(楠京子、山田祐子、加藤雅人、君嶋隆幸、井上さやか) 文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.28
- (5 学会発表) シンシナティ美術館所蔵『源氏物語図屏風』 修復事例報告(楠京子、山田祐子、加藤雅人、君嶋隆幸、井上さやか) 文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.28
- (6 講義) パピルス裏打ちサンプルを用いた物性試験および評価(加藤雅人、楠京子、山田祐子) 大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト「保存修復材料としての和紙研修」 東京文化財研究所 15.6.8-17
- (6 講義) “Advanced - Restoration of Japanese Folding Screen -” (Takayuki KIMISHIMA, Hisashi HAKAMATA, Keisuke SUGIYAMA, Kyoko KUSUNOKI, Yuko YAMADA, Momoko ODA, Masato KATO) Workshops on the Conservation and Restoration of Japanese Art Objects on Paper and Silk ベルリン国立博物館アジア美術館 15.7.13-17
- (7 所属学会) 日本色彩学会、文化財保存修復学会

山梨絵美子 YAMANASHI Emiko (企画情報部)

- (3 論文) Yashiro and the Institute of Art Research オンライン展示 Yashiro and Berenson —Art History between Japan and Italy Yashiro.ittati.harvard.edu 15.6.1
- (3 論文) 黒田清輝の画業と遺産 『生誕150年 黒田清輝 日本近代絵画の巨匠』 pp.29-36 美術出版社 16.3
- (4 解説) 解題「自伝・回顧」「画論・展評その他」「文書・日記等」『鹿子木孟郎史料集』 pp.2-4、172-172、244-245 鹿子木孟郎調査会 16.1
- (4 解説) コラム2《朝妝》と裸体画論争 『生誕150年 黒田清輝 日本近代絵画の巨匠』 p.206 美術出版社 16.3
- (4 解説) 焼失した東京駅帝室用玄関壁画 『生誕150年 黒田清輝 日本近代絵画の巨匠』 pp.24-241 美術出版社 16.3
- (4 解説) 黒田清輝をとりまく近代洋画 『生誕150年 黒田清輝 日本近代絵画の巨匠』 p.274 美術出版社 16.3
- (4 解説) 黒田清輝《菊花と西洋婦人》《浜辺の夕月》《昔語り》他作品解説 『生誕150年 黒田清輝 日本近代絵画の巨匠』 p.112、153、116 美術出版社 16.3
- (4 解説) 黒田清輝 PARTNER 4-5月号 p.7 三菱UFJニコス 16.3
- (5 学会発表) 文化財研究情報アーカイブの構築—東京文化財研究所の取り組み(山梨絵美子、皿井舞、橘川英規、福永八朗、小山田智寛、安永拓世、津田徹英、二神葉子 2015東アジア文化遺産保存国際シンポジウム in 奈良 奈良春日野国際フォーラム薨〜I・RA・KA〜 15.8.27-28
- (5 学会発表) 東日本大震災で被災した文化財の救出活動の経験から(岡田健、伊藤嘉章、佐野千絵、山梨絵美子、山内和也、森井順之) 2015東アジア文化遺産保存国際シンポジウム in 奈良 奈良春日野国際フォーラム薨〜I・RA・KA〜 15.8.28
- (6 発表) The art historian, collector and dealer Hayashi Tadamasu – negotiating the concepts of “Fine arts” in Europe and “bijutsu” in Japan Histories of Japanese Art and Their Global Contexts—New Directions ハイデルベルグ大学 15.10.24
- (6 発表) 矢代幸雄と原三溪 横浜美術館 15.11.14
- (6 発表) 近代洋画に見る女性像 長野県信濃美術館 15.11.24
- (6 発表) 矢代幸雄とベレンソンをつなぐ両洋の視点 美術史家矢代幸雄における西洋と東洋 東京文化財研究所 16.1.13
- (6 パネリスト)(鼎談) かたちの生成をめぐって—イケムラレイコの場合(イケムラレイコ、皿井舞、山梨絵美子) 東京文化財研究所 15.6.9
- (6 講演) 黒田清輝の人と芸術 生誕150年黒田清輝展関連講演会 立川市女性総合センター 16.3.15
- (6 講演) 黒田清輝の人と芸術 生誕150年黒田清輝展関連講演会 町田市立中央図書館 16.3.19
- (6 講演) 黒田清輝の画業—美術で社会を変える試み 生誕150年黒田清輝展記念講演会 東京国立博物館 16.3.26
- (7 委員会等) 秋田県立美術館アドバイザー、秋田市千秋美術館美術作品等評価審査委員会委員、江戸東京博物館資料収蔵委員、大分市美術館美術品収集委員会委員、迎賓館の改修に関する懇談会委員、静岡県立美術館研究活動評価委員会委員

山藤正敏 YAMAFUJI Masatoshi (アソシエイトフェロー)

- (2 報告) ケン・ブルン遺跡の表面遺物採集調査の成果 『キルギス共和国チュウ川流域の文化遺産の保護と研究 アク・バシム遺跡、ケン・ブルン遺跡—2011~2014年度—』 pp.66-73 キルギス共和国国立科学アカデミー歴史文化遺産研究所、東京文化財研究所 16.2
- (4 編集) 『フルブック遺跡出土壁画断片の保存修復』 東京文化財研究所、タジキスタン共和国国立古

代博物館 16.2

(4 編集)『キルギス共和国チュール川流域の文化遺産の保護と研究 アク・ベシム遺跡、ケン・ブルン遺跡—2011～2014年度—』キルギス共和国国立科学アカデミー歴史文化遺産研究所、東京文化財研究所 16.2

(4 編集)『紛争と文化遺産—紛争下・紛争後の文化遺産保護と復興—』東京文化財研究所 16.3

(6 講義)“Basic Concept and Method of Archaeological Survey” UNESCO Workshop on Archaeological Survey in Uzgen, the Kyrgyz Republic, 2015 Uzgen Archaeological Site 15.10.2

(6 講義)“Global Navigation Satellite System” UNESCO Workshop on Archaeological Survey in Uzgen, the Kyrgyz Republic, 2015 Uzgen Archaeological Site 15.10.3

(6 講義)“Geographic Information System on Site” UNESCO Workshop on Archaeological Survey in Uzgen, the Kyrgyz Republic, 2015 Uzgen Archaeological Site 15.10.7

(6 司会)読書会「Bruno Latour 科学論の实在—パンドラの希望— 第2・3章」(石村智、山藤正敏)共同研究「考古学の民族誌—考古学的知識の多用な形成・利用・変成過程の研究」国立民族学博物館 15.10.18

(7 所属学会)日本オリエント学会、日本西アジア考古学会、The American Schools of Oriental Research

横山晋太郎 YOKOYAMA Shintaro (客員研究員)

(7 委員会等)(一財)日本航空協会 航空遺産継承基金専門委員、かかみがはら航空宇宙科学博物館リニューアル基本構想検討委員会委員

吉田直人 YOSHIDA Naoto (保存修復科学センター)

(2 報告)蛍光スペクトルから彩色材料に繋がる情報を得る試み(吉田直人、渡辺真樹子)〔敦煌壁画の保護に関する日中共同研究報告書〕壁画材料劣化メカニズムの解明と壁画芸術の科学的復原研究—敦煌莫高窟第285窟における日中共同研究の成果— pp.92-95 東京文化財研究所・敦煌研究院保護研究所編 16.3

(2 報告)徳島大学附属図書館所蔵伊能図に使われた彩色材料の科学調査(吉田直人、早川泰弘、村岡ゆかり)『平成26・27年度伊能図検証プロジェクト成果報告書』 pp.43-56 徳島大学附属図書館 16.3

(3 論文)美術館・博物館の資料保護に向けた光曝露量の評価方法—染色布を事例に(黄川田翔、吉田直人、佐野千絵)『照明学会誌』100(2) pp.74-81 照明学会 16.2

(3 論文)徳島大学附属図書館所蔵「伊能図」の彩色材料調査結果(吉田直人、早川泰弘、村岡ゆかり)『保存科学』55 pp.63-78 16.3

(5 学会発表)蛍光スペクトルシフト観測による文化財材料分析に関する研究 文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.27-28

(5 学会発表)近紫外・可視光波長域を応用した博物館資料の光学調査法—カビに由来する蛍光反応の可視化を事例として(末森薫、園田直子、日高真吾、高鳥浩介、吉田直人、川越和四、和高智美、河村友佳子、橋本沙知) 文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.27

(5 学会発表)Evaluation of colour degradation under high colour rendering index ssIs (Yasuki Yamauchi, Yosuke Sakano, Yuki Kawashima, Sho Kikawada, Naoto Yoshida, Chie Sano) CIE 2015 Manchester 15.6.30

(5 学会発表)トルコの歴史的建築物の内壁における塩類析出に関する調査(佐々木淑美、吉田直人、小椋大輔、安福勝、水谷悦子、石崎武志) 日本文化財科学会第32回大会 東京学芸大学 15.7.11

(5 学会発表)ハギア・ソフィア大聖堂の南北ティンパナム壁画材料に関する調査(佐々木淑美、吉田直人、小椋大輔、安福勝、水谷悦子、石崎武志) 日本文化財科学会第32回大会 東京学芸大学

15.7.11-12

(5 学会発表) 蛍光寿命測定 of 文化財材料への応用に関する基礎研究 2 (佐々木良子、吉田直人、佐々木健) 日本文化財科学会第32回大会 東京学芸大学 15.7.11-12

(6 発表) 徳大本伊能図に使用されている彩色材料 (吉田直人、早川泰弘、村岡ゆかり) 徳島大学附属図書館伊能図検証プロジェクトシンポジウム「伊能図を科学する—徳島大学附属図書館所蔵伊能図の学術調査報告—」 東京文化財研究所 16.1.10

(6 講演) 博物館環境DEサイエンス 姫路高校科学探求コース第3回公開講座 姫路市立姫路高等学校 15.10.3

(6 講演) 博物館の大きな役割としての資料保存—そのための環境と維持管理— ミニ展示:「文化財を守る技術」 関連講演会 神奈川県立川崎図書館 16.1.23

(6 講義) 保存・展示環境の科学 文化庁 第9回 指定文化財(美術工芸品) 企画・展示セミナー 東京国立博物館、京都国立博物館 15.7.7、15.10.19

(6 講義) 光・照明対策とLED 群馬県立歴史博物館資料保存研修会 群馬県立近代美術館 15.8.28

(6 講義) 文化財施設における保存環境の把握について 文化庁 公開承認施設担当者会議 文化庁 15.11.5

(6 講義) 環境管理の基本と改善への対策 宮城県博物館等協議会27年度第2回研修会 東北歴史博物館 16.2.26

(7 委員会等) 文化財保存修復学会理事、徳島大学附属図書館伊能図検証プロジェクト委員会委員

(8 教育) 大妻女子大学非常勤講師

吉原大志 YOSHIHARA Daishi (アソシエイトフェロー)

(2 報告) 民間所在未指定文化財の災害対策をめぐる課題 『平成26年度独立行政法人国立文化財機構アソシエイトフェロー研修報告書』 pp.181-184 16.3

(2 報告) 被災文化財等保全活動の対象を考える—阪神・淡路大震災の事例から— 『被災文化財等保全活動の記録に関する研究会』 pp.45-54 東京文化財研究所 16.3

(3 論文) 文化財等の災害対策をめぐる地域体制整備の現状について 『保存科学』 55 pp.151-160 16.3

(4 記事) 文化財防災ネットワーク推進事業について 『史料ネットNewsLetter』 78 pp.10-11 歴史資料ネットワーク 15.4

(4 記事) 全国史料ネット研究交流集会を開催しました 『史料ネットNewsLetter』 78 p.11 歴史資料ネットワーク 15.4

(4 記事) 史料ネット20年から水損資料応急処置ワークショップの10年を考える 『史料ネットNewsLetter』 80 pp.2-3 歴史資料ネットワーク 15.11

(4 記事) 2004年台風23号被災資料のクリーニング作業 『史料ネットNewsLetter』 80 pp.11-12 歴史資料ネットワーク 15.11

(5 学会発表) 地域歴史資料の防災・減災対策と史料ネットワークの役割—宮崎県・静岡県における文化財防災意見交換会— (天野真志、内田俊秀、吉原大志、竹原万雄、吉川圭太) 文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.27

(6 発表) 被災文化財等保全活動の対象を考える—阪神・淡路大震災の事例から— 被災文化財等保全活動の記録に関する研究会 東京文化財研究所 16.1.29

(6 講義) 被災写真のクリーニング—2014年8月豪雨による広島市の土砂災害から— 近大姫路大学人文学・人権教育研究所主催「文化財を災害から守る」 近大姫路大学 15.8.7

(6 講義) 災害から地域の歴史遺産を守る 東京未来大学日本史演習 東京未来大学 15.11.11

(6 講演) 災害と歴史遺産 和歌山県博物館施設等災害対策連絡会議平成27年度研修会 和歌山県立情

報交流センター 15.8.26

(6 講演) 災害から地域歴史資料を守る 広島県立文書館行政文書・古文書保存管理講習会 広島県立文書館 15.11.20

(6 講演) 被災資料の取り扱い・応急処置 和歌山県文化財保護指導委員後期研修会 和歌山県民文化会館 16.3.22

(6 講演) 災害から地域の文化財を守る 香川県文化財保護管理指導事業巡視報告会 香川県立ミュージアム 16.3.25

(6 講習会) 被災文化財等の救出活動 NPO文化財を守る会公開講座 静岡市葵生涯学習センター 15.8.22

(7 所属学会) 神戸史学会、大阪歴史科学協議会、大阪歴史学会、日本史研究会

(7 委員会等) 歴史資料ネットワーク運営委員、第2回全国史料ネット研究交流集会実行委員

呂俊民 RO Toshitami (客員研究員)

(2 報告) 試験用実大展示ケースを用いたケース内のガス清浄化と濃度予測 (呂俊民、古田嶋智子、林良典、須賀政晴、佐野千絵) 『保存科学』55 pp.125-138 16.3

(2 報告) 展示ケース内有機酸濃度への展示台の寄与 (佐野千絵、古田嶋智子、呂俊民) 『保存科学』55 pp.79-88 16.3

(4 解説) 建築物衛生法からみた博物館・美術館の管理 『文化財の虫菌害』70 pp.3-10 15.12

(5 学会発表) 換気と吸着フィルタによる展示ケースの清浄化 (呂俊民、古田嶋智子、林良典、須賀政晴、佐野千絵) 文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.27

(5 学会発表) 展示台からの有機酸放散と遮蔽シートによる対策事例の評価 (佐野千絵、古田嶋智子、呂俊民) 文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.27

(5 学会発表) 美術館・博物館展示ケースの空気環境に関する研究 その1. 実験用展示ケースの製作と基本性能 (呂俊民、古田嶋智子、林良典、須賀政晴、佐野千絵) 2015年度日本建築学会大会 (関東) 東海大学湘南キャンパス 15.9.4

(5 学会発表) 美術館・博物館展示ケースの空気環境に関する研究 その2. 実験用展示ケースの温湿度推移と分布 (古田嶋智子、呂俊民、林良典、須賀政晴、佐野千絵) 2015年度日本建築学会大会 (関東) 東海大学湘南キャンパス 15.9.4

(5 学会発表) Changing gas concentration in a display case using low emission materials (Tomoko Kotajima, Toshitami Ro, Chie Sano) Indoor Air Quality in Heritage and Historic Environments, 12th International Conference Thinktank, Birmingham Science Museum 16.3.3-4

(6 講演) 文化財のための美術館・博物館の空気環境の現状と対策 日本空気清浄協会第293回クリーンテクノロジー研究会 連合会館 15.8.5

(6 講習会) 温湿度環境の測定と解析 第5回文化財IPMコーディネータ資格所得講習会 国立民族学博物館 15.12.16-18

(7 所属学会) 室内環境学会、日本建築学会、文化財保存修復学会

(7 委員会等) 室内環境学会化学物質分科会

(8 教育) 武蔵野美術大学学芸員課程非常勤講師

渡辺真樹子 WATANABE Makiko (客員研究員)

(2 報告) 敦煌莫高窟第285窟東壁に描かれた如来像に用いられた彩色材料と技法 (岡田健、渡辺真樹子、高林弘実、蘇伯民、崔強) 『保存科学』55 pp.139-149 16.3

(5 学会発表) 敦煌莫高窟第285窟東壁に描かれた如来像に用いられた彩色材料と技法 (岡田健、渡辺真樹子、高林弘実、蘇伯民、崔強) 文化財保存修復学会第37回大会 京都工芸繊維大学 15.6.28

(7 所属学会) 日本文化財科学会、文化財保存修復学会

5. 研究交流

1. 職員の海外渡航

氏名	渡航先	期間	目的	経費
加藤雅人	イギリス	27.4.7～4.12	在外日本古美術品保存修復協力事業における成果発表	セ04
楠京子		27.4.7～4.13	海外における日本の文化財修復材料の使用状況調査およびICON（イギリス修復家学会）の2015年大会"Starch paste and Japanese adhesives for conservation"ワークショップ講師アシスタント	保修12
早川典子		27.4.8～4.13	ICON(イギリス修復家学会)の2015年大会"East Asian Materials and Techniques in Western Conservation"における招待講演及び"Starch paste and Japanese adhesives for conservation"ワークショップ講師	先方負担、保修12
田中淳	韓国	27.4.12～4.15	第7回世界水フォーラムへの参加	一般管理費
森井順之		27.4.12～4.17		
鈴木絢香				
森井順之	イギリス	27.5.19～5.23	イコモス石造文化財会ミーティング参加発表	保修04
山内和也	中国	27.5.21～5.26	ユネスコ・シルクロード・オンラインプラットフォームによる国際ネットワークに関する第1回会議への出席	先方負担、セ03
佐藤桂	カンボジア	27.5.26～6.6	タネイ遺跡における測量作業およびICC-Angkorへの参加	科学研究費
友田正彦	カンボジア	27.5.31～6.3	タネイ遺跡保存に関するAPSARA機構との協力	セ02
友田正彦	ミャンマー	27.6.10～20	バガン・ユネスコ事業に係る現地調査および協議	受託（ユネスコ・バガン）
岡田健	中国	27.6.14～6.21	中国壁画の保存・展示事例調査	受託（文化庁・高松塚・保存展示在り方）
楠京子	ミャンマー	27.6.14～6.23	バガン遺跡の壁画保護に係る現地調査および研修	受託（文化庁・拠点・ミャンマー）
皿井舞	アメリカ	27.6.15～6.19	ゲッティ研究所との共同研究の為の協議	企07
田中淳		27.6.15～6.20		
久米正吾	キルギス	27.6.16～7.7	アク・ベシム遺跡での発掘調査・研究	科学研究費
山藤正敏				

氏名	渡航先	期間	目的	経費
山内和也	キルギス カザフスタン	27.6.16～7.8	アク・ベシム遺跡での発掘調査・研究 および打ち合わせ	科学研究費
加藤雅人	台湾	27.6.22～6.24	研修開催に関する協議	セ05
増渕麻里耶	イギリス ドイツ	27.6.24～7.17	第39回世界遺産委員会、産業遺産の調査	受託（文化庁・世界遺産）、セ01
川野邊渉	ドイツ	27.6.27～7.17		セ01
境野飛鳥		27.6.27～7.17		保修07（近代）
中山俊介		27.6.27～7.20		
亀井伸雄		27.7.2～7.14		
二神葉子		27.6.27～7.10	第39回世界遺産委員会に係る調査	受託（文化庁・世界遺産）
佐藤桂	ミャンマー	27.6.29～7.6	第4回ミャンマー木造建造物保存研修	受託（文化庁・拠点・ミャンマー）
友田正彦		27.7.4～7.12		
加藤雅人	ドイツ	27.7.5～7.19	在外日本古美術品保存修復協力事業におけるワークショップの開催	セ04
楠京子				
山田祐子				
小田桃子				
岡田健	中国	27.7.8～7.11	中国文化遺産研究院創立80周年記念シンポジウム出席、壁画関係資料収集	先方負担、受託（文化庁・高松塚・保存展示在り方）
石村智	ミクロネシア アメリカ	27.7.18～7.23	ヤップ州歴史保存局にて世界遺産候補「ヤップの石貨」の申請書作成支援、グアム大学にて資料調査	所長裁量（大洋州島しょ国保護）
小林公治	タイ	27.7.23～7.29	第2回国際会議“Study of Oriental Lacquer Initiated by H.R.H. Princess Maha Chakri Sirindhorn for the Revitalization of Thai Wisdom”参加・発表、バンコク市内外寺院・博物館等での螺鈿漆器・工房調査および打ち合わせ	科学研究費
久米正吾	キルギス	27.7.27～8.27	発掘調査・考古学研究	科学研究費
山内和也	イスラエル	27.8.1～8.8	ヒシャム宮殿遺跡整備計画準備調査	先方負担
増渕麻里耶	エジプト	27.8.14～9.2	JICAプロジェクト診断分析研修講師	先方負担
山下好彦	ミャンマー	27.8.16～9.10	シュエナンドー僧院の現状調査および一部修復処理	セ02
岡田健	中国	27.8.20～8.26	敦煌壁画の保護に関する日中共同研究調査、国際シンポジウム参加	セ02
佐藤桂	インドネシア	27.8.22～8.27	パダン歴史地区保存のためのワークショップ開催	セ02
亀井伸雄		27.8.24～8.27		
友田正彦				

氏名	渡航先	期間	目的	経費
中山俊介	フランス イギリス	27.9.1～9.19	BigStuff2015講演 TICCIH2015への参加およびイギリス 国内の産業遺産の現状の現地調査	所長裁量 (BigStuff2015講演 及びTICCIH2015 への参加)
亀井伸雄	イギリス	27.9.9～9.16	イギリス国内の産業遺産調査	所長裁量 (BigStuff2015講演 及びTICCIH2015 への参加)
岡田健	中国	27.9.2～9.15	中国初唐期仏教造像に関する調査研究	助成(仏教・龍門 石窟)
友田正彦	ベトナム	27.9.3～9.10	ベトナム北部における古建築・考古遺 物等の現地調査	科学研究費
朽津信明	イタリア	27.9.7～9.11	壁画の保存状態調査	保修12
早川典子				受託(文化庁・高 松塚・保存展示在 り方)
佐藤桂	インドネシア	27.9.7～9.12	ジャワ遺跡調査	科学研究費
小林公治	韓国	27.9.7～9.13	韓国内の螺鈿漆器および工房調査、研 究打ち合わせ	科学研究費
山内和也	イラン	27.9.8～9.19	イラン国内の世界遺産候補地(カナー ト)の視察および評価	先方負担
友田正彦	ネパール	27.9.14～9.23	ネパールにおける文化遺産被災状況調 査事業に係る現地調査	受託(文化庁・ネ パール)
山田大樹		27.9.20～9.28		
石村智				
久保田裕道				
皿井舞	中国	27.9.16～9.23	四川省石門山・南山・石篆山石窟・茗 山寺等石窟の調査	科学研究費
友田正彦	ミャンマー	27.9.26～10.3	バガン・ユネスコ事業に係る現地調査 及び協議	受託(ユネスコ・ バガン)
山田大樹	イラン	27.9.28～10.5	中央アジア歴史都市会議への出席・講 演、その他打ち合わせ	セ03、受託(ユネ スコ・シルクロード)、先方負担
山内和也	キルギス カザフスタン	27.9.29～10.12	ユネスコ日本信託基金現地ワークショ ップ	セ03
久米正吾	キルギス	27.9.29～10.14		受託(ユネスコ・ シルクロード)
山藤正敏				
山梨絵美子	韓国	27.10.1～10.3	美術館および図書館調査	企03
早川泰弘	韓国	27.10.1～10.4	国際シンポジウムへの参加および講演	先方負担
橘川英規	ドイツ チェコ	27.10.2～10.7	「海外日本美術資料専門家(司書)の 招へい・研修・交流事業2015」招へい 専門家へのヒアリング及び関連調査	先方負担

氏名	渡航先	期間	目的	経費
山田大樹	キルギス	27.10.5～10.14	ユネスコ日本信託基金現地ワークショップ、資材整理他	受託（ユネスコ・シルクロード）
増渕麻里耶	トルコ	27.10.15～10.22	遺跡出土鉄製品に関する調査	科学研究費
久保田裕道	中国	27.10.16～10.19	平成27年度日本祭開催支援事業中国北京公演「岩手民俗芸能公演」における講演	先方負担
岡田健	中国	27.10.19～10.24	第2回曲江壁画シンポジウム参加・発表、古墳壁画調査	セ06
小林公治	中国	27.10.19～10.25	美術研究翻訳論文執筆者打ち合わせ、国際会議参加発表他	科学研究費
山藤正敏	キルギス	27.10.20～11.9	アク・ベシム遺跡における考古学発掘調査の実施及び出土資料の調査・研究	科学研究費
森井順之	韓国	27.10.21～10.23	ISSM2015における講演	先方負担
山梨絵美子	ドイツ	27.10.21～10.26	国際シンポジウム「日本美術史研究の現在－グローバルな視点から」参加および発表	先方負担
山内和也	キルギス	27.10.23～11.6	アク・ベシム遺跡における考古学発掘調査の実施及び出土資料の調査・研究	科学研究費
加藤雅人 小田桃子	台湾	27.10.25～10.27	国際研修の為の協議	セ05
皿井舞	韓国	27.11.1～11.4	調査および関連展示の見学	科学研究費
亀井伸雄 古澤誠	メキシコ	27.11.2～11.9	ICCROM-LATAMプログラムにおける紙の保存に関するラテンアメリカでの国際研修事業の為の視察	セ05
加藤雅人 楠京子 小田桃子		27.11.2～11.14	ICCROM-LATAMプログラムにおける紙の保存に関するラテンアメリカでの国際研修の開催	セ05
岡田健		台湾	27.11.5～11.9	国際シンポジウム参加・発表
山下好彦 嶋原由美	ドイツ	27.11.10～11.27	漆工品保存修復に関するワークショップの開催	セ04
早川典子		27.11.10～11.28		
川野邊渉	イタリア	27.11.13～11.18	漆工品保存修復に関するワークショップでの講義	セ04
境野飛鳥				27.11.14～11.23
石村智 友田正彦 山田大樹	ネパール	27.11.21～11.25	「ネパールにおける文化遺産被災状況調査事業」に関わる調査	受託（文化庁・ネパール）
		27.11.21～11.27		
		27.11.21～12.8		
佐藤桂	ミャンマー	27.11.21～11.30	第5回ミャンマー木造建造物保存研修	受託（文化庁・拠点・ミャンマー）
亀井伸雄	ベトナム	27.11.22～11.24	タンロン・ハノイ遺産保存センター主催国際シンポジウム出席	先方負担

氏名	渡航先	期間	目的	経費
山内和也	カザフスタン	27.11.22～11.28	シルクロード世界遺産登録国際調整会議への出席	受託（ユネスコ・シルクロード）
楠京子	イギリス	27.11.22～12.3	日本絵画修復に関する協議および技術協力	先方負担
石村智	ナミビア	27.11.28～12.5	無形文化遺産の保護に関する第10回政府間委員会に係る調査	無06
二神葉子		27.11.28～12.6		
友田正彦	ミャンマー	27.11.28～12.8	マンダレーにおける木造建造物調査研修実施、バガンにおけるユネスコ会議出席他	受託（文化庁・拠点・ミャンマー）、 受託（ユネスコ・バガン）
佐藤桂	カンボジア	27.12.1～12.5	ICC-Angkorへの出席等	セ02
山下好彦	オーストリア	27.12.3～12.7	国際シンポジウムでの講演	先方負担、セ04
山藤正敏	フィジー	27.12.6～12.12	フィジー南太平洋大学との共同研究	受託（文化庁・拠点・大洋州）
久保田裕道		27.12.6～12.15		
石村智				
佐野真規				
山内和也	エジプト	27.12.12～12.18	大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト終了時評価調査	先方負担
江村知子	アメリカ	27.12.14～12.18	動産文化財保護制度の調査	セ01
境野飛鳥				
友田正彦	ブータン	27.12.20～12.24	伝統的版築建造物保存事業のための協議等	セ02
佐藤桂				
増淵麻里耶	ミャンマー	28.1.7～1.17	壁画および漆工芸品の顔料調査	受託（文化庁・拠点・ミャンマー）
橋本広美		28.1.7～1.18	壁画に関する現地調査と研修	
楠京子				
山下好彦	ミャンマー	28.1.11～1.17	漆工芸品の調査および研修	セ02
山田大樹		28.1.12～1.17	煉瓦造遺跡での現地調査	受託（文化庁・拠点・ミャンマー）
川野邊渉		28.1.13～1.17	壁画・漆工芸品の調査保存に関する協議	
石村智		サモア	28.1.8～1.17	サモアの無形文化遺産の調査
北川瑞季				
二神葉子	タイ	28.1.18～1.25	文化財防災に関する聞き取り調査	科学研究費
小林公治	韓国	28.1.27～1.29	国立中央博物館他における協議および調査	科学研究費
亀井伸雄	アメリカ	28.2.6～2.11	ゲッティ研究所との合意書締結及び打合せ等	一般管理費
山梨絵美子				
鈴木絢香		28.2.6～2.14		
江村知子	アメリカ	28.2.8～2.12	在外日本古美術品保存修復協力事業の作品調査	セ04
小田桃子				

氏名	渡航先	期間	目的	経費
友田正彦	カンボジア	28.2.13～2.16	タネイ遺跡リスクマップ作成のための調査	セ02
佐藤桂		28.2.13～2.18	タネイ遺跡周辺地形調査等	科学研究費
山内和也	エジプト	28.2.13～2.18	大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト運営指導調査	先方負担
江村知子	イギリス	28.2.15～2.19	在外日本古美術品保存修復協力事業の作品調査	セ04
山下好彦				
津田徹英	イギリス オランダ	28.2.16～2.21	セインズベリー日本藝術研究所長等との日本芸術研究の基盤形成事業の打合せ等	一般管理費
田中淳	イギリス オランダ フランス	28.2.16～2.23		
友田正彦	ベトナム	28.2.21～2.25	ベトナム社会科学院における李・陳朝期木造建築に関する研究会への参加および発表	科学研究費
川嶋陶子	韓国	28.2.22～2.26	韓国国際協力調査	受託（文化庁・コンソーシアム）
加藤雅人	アルゼンチン	28.2.27～3.4	在外日本古美術品保存修復協力事業の作品調査および国際協力事業に関する協議	セ04
小田桃子				
後藤里架				
石村智	グアム	28.2.29～3.4	太平洋芸術祭に係る情報収集	受託（文化庁・拠点・大洋州）
岡田健	中国	28.3.9～3.16	敦煌壁画の保護に関する日中共同研究調査、打合せ	セ06
加藤雅人	イタリア	28.3.12～3.16	ICCRROM合意書更新及び今後の研修内容に関する打合せ	所長裁量（ICCRROM合意書の更新）
亀井伸雄				
友田正彦	ネパール	28.3.16～3.27	ネパールにおける文化遺産被災状況調査事業に関する調査	受託（文化庁・ネパール）
山下好彦	オーストリア	28.3.20～3.27	漆工品保存修復に関するワークショップの運営	先方負担、セ04
井内千紗	韓国	28.3.29～3.31	韓国ユネスコ国内委員会「文化遺産国際協力ワークショップ」出席	受託（文化庁・コンソーシアム）

平成27年度における国外から国外への派遣申請については下記のとおりである。

招聘期間	氏名(所属)	招聘理由	用務地	経費
27.6.17～6.25	Altynai Karimzhan kyzy スレイマン・トー博物館・ 学芸員	発掘調査	アク・ベシム遺跡	科学研究費

招聘期間	氏名(所属)	招聘理由	用務地	経費
27.8.22～8.26	Aeni, Rasmi Nur インドネシア語通訳	パダン歴史地区保存のためのワークショップ開催のための通訳	パダン	セ02
27.11.12～11.26	Anna Cumlivska プラハ芸術大学・学生	漆工品保存修復に関するワークショップの運営	ケルン東洋美術館	セ04
27.11.10～11.28	Balazs Lencz ハンガリー国立博物館・保存修復部副部長			

2. 招へい研究員等

平成27年度における海外からの招へいについては、下記のとおりである。

派遣期間	氏名(国籍)	所属	招聘理由	経費
27.6.4	Paul Whitmore (アメリカ)	イェール大学 文化遺産保存機構	保存修復技術に係る研究交流	先方負担
27.7.23～7.29	Ampol Summavuti (タイ)	文化省芸術局 伝統芸術部門主任芸術研究振興担当	ラチャプラディット寺院の螺鈿扉修復計画策定のための調査研究	先方負担
	Phrakhruwinaithorn Arayapong Chengcharoen (タイ)	住職補佐、王室後援ラチャプラディットサティマハシマラム寺院修理事業事務所長		
	Phramaha Anulak Prapavadee (タイ)	ラチャプラディット寺院教育担当官、王室後援ラチャプラディットサティマハシマラム寺院修理事業事務所秘書		
	Phrakhrusamu Decho Samreaj (タイ)	ラチャプラディット寺院王室後援ラチャプラディットサティマハシマラム寺院修理事業事務所職員		
	Phrakhruthammathon Wiwat Puangkerd (タイ)	ラチャプラディット寺院公的扶助担当官		
	Sookprasong Weerasri (タイ)	ラチャプラディット寺院職員		
	Piya Sinthavarayan (タイ)	ラチャプラディット寺院職員		
	Wattana Jirasagultha (タイ)	ラチャプラディット寺院所属写真家		
	Suwiwan Euasookkul (タイ)	TPA School AS所属通訳		

派遣期間	氏名(国籍)	所属	招聘理由	経費
27.7.29～8.6	Htun Htun Win (ミャンマー)	文化省考古・国立博物館 局バガン支局 技官	ミャンマーの歴史的建造物の保存に関する専門家のための研修への参加	受託(文化庁・拠点・ミャンマー)
	Myo Sandar Oo (ミャンマー)	文化省考古・国立博物館 局ネピドー支局 課長補佐		
	Nay Yi Yi (ミャンマー)	文化省考古・国立博物館 局マンダレー支局 技官		
	Nyo Myint Tun (ミャンマー)	文化省考古・国立博物館 局マンダレー支局 支局長		
27.8.30～9.19	Beate Murr (オーストリア)	オーストリア応用美術博物館 保存修復部副室長・紙保存修復部室長	国際研修「紙の保存と修復」 2015	セ05
	Elisa Maria Coelho Barros (ベルギー)	ルーヴァン・カトリック大学 紙保存修復技術者		
	Stephanie Dianne Baily (オーストラリア)	西オーストラリア州立美術館 紙保存修復技術者		
	Idelette Madelon Van Leeuwen (オランダ)	アムステルダム国立美術館 紙保存修復技術室長		
	Natalia Seregina (ロシア)	国立A.S.プーシキン造形美術館 紙保存修復技術者		
	Julia Elise Poirier (アイルランド)	チェスター・ビーティ図書館 本・紙保存修復技術者		
	Nilanthi Pushpalatha Karanachcharige (スリランカ)	スリランカ国立公文書部 文書修復技術者		
	Ioan Paul Colta (ルーマニア)	アラド県立博物館 絵画保存修復技術者		
	Morgan Boyd Zinsmeister (アメリカ)	アメリカ国立公文書館 主任保存修復技術者		
	Marcia Valeria De Souza (ブラジル)	リオデジャネイロ連邦大学国立博物館 保存修復技術者		
27.11.10～11.28	武 發思 (中国)	敦煌研究員保護研究所 副研究館員	中国壁画の保護に関する日中共同研究	セ06

派遣期間	氏名(国籍)	所属	招聘理由	経費
27.11.12～11.18	Le Thi Lien (ベトナム)	ベトナム社会科学院考古 学研究所 上席研究員	「東南アジアの 遺跡保存をめぐる 技術的課題と 展望」研究会へ の参加	セ02
27.11.12～11.18	Hubertus Sadirin (インドネシア)	ジャカルタ首都特別州知 事の文化財に関する諮問 専門委員会 保存技術者・技術指導官		
27.11.12～11.15	An Sopheap (カンボジア)	カンボジア政府アンコール 地域保存整備機構 アンコール公園内遺跡保 存及び予防考古学局・考 古室長		
27.11.12～11.15	Thein Lwin (ミャンマー)	文化省考古・国立博物館 局 副局長		
27.11.12～11.15	Vasu Poshyanandana (タイ)	文化省芸術局 建造物課主任建築家		
27.12.11～12.15	Ly Vanna (カンボジア)	APSARA機構アンコール 公園内遺跡保存課・課長	アセアン+3 文化遺産フォー ラム2015「東 南アジア諸国と 共に歩むー多様 な文化遺産の継 承と活用」講演	受託(文化庁・ コンソーシアム)
	Harry Widiyanto (インドネシア)	教育文化省文化遺産保 護・博物館局・局長		
	Viengkeo Souksavatdy (ラオス)	情報・文化・観光省遺産 局・副局長		
	Kyaw Oo Lwin (ミャンマー)	文化省考古・国立博物館 局・局長		
	Vira Rojpojchanarat (タイ)	文化省・大臣		
	Borvornvate Rungrujee (タイ)	文化省芸術局・局長		
	邵甬 (中国)	ユネスコ・アジア太平洋 地域世界遺産研修研究セ ンター(上海センター)・ 代表		
俞在恩 (韓国)	国立文化財研究所・復原技 術研究室長			
27.12.12～12.15	Wee Mei Yin Jean (シンガポール)	国家遺産委員会史跡・記 念物保護部・部長		
	Bui Chi Hoang (ベトナム)	ベトナム社会科学院南部 社会科学研究所・所長		

派遣期間	氏名(国籍)	所属	招聘理由	経費
27.12.12～12.15	Khalid Bin Syed Ali (マレーシア)	観光・文化省国家遺産局 遺産執行課・課長	アセアン+3 文化遺産フォー ラム2015「東 南アジア諸国と 共に歩む―多様 な文化遺産の継 承と活用」講演	受託(文化庁・ コンソーシアム)
	Miran Ted Torralba (フィリピン)	フィリピンカトリック司 教会議、教会文化遺産常 設委員会・幹事		
28.1.22～1.28	Omara Khan Masoudi (アフガニスタン)	情報文化省 カーブル国立 博物館 前館長	「紛争と文化遺 産」シンポジウ ムへの参加	セ03
28.1.23～1.26	Haider Abdollwashed Oraibi Almamori (イラク)	文化省 考古遺産庁 調査発掘部 部長		
28.1.9～1.17	Rorl Hoehmann (ドイツ)	産業考古学 事務所長	近代の文化遺産 の保存修復に関 する研究	保07
28.2.3～2.9	Bhesh Narayan Dahal (ネパール)	文化・観光・民間航空省 考古局 局長	「ネパールの被 災文化遺産」セ ミナーへの参加	受託(文化庁・ ネパール)
28.2.3～2.8	Saraswati Singh (ネパール)	ハヌマンドカ王宮博物館 発展委員会 事務局長		
28.2.3～2.12	Nabha Basnyat Thapa (ネパール)	UNESCOカトマンズ事務 所 プロジェクトコーディネ ーター		
28.3.6～6.29	Ana Dalila Terrazas Santillán (メキシコ)	メキシコ国立人類学歴史 機構国立文化遺産保存修 復機関 保存修復技術者	国際研修「ラテ ンアメリカにお ける紙文化財保 存修復国際研修 」の準備への協力	セ05

3. 海外研究者等の来訪

(1) 来訪研究員

来訪期間	氏名	国籍	所属	備考
27.6.1～6.22	方劭蓮	韓国	文化財庁 国立無形遺産院調 査研究記録課 学芸研究士	渡航費・滞在費 先方負担

(2) 表敬訪問ほか

日 程	来 訪 者 (国籍)	所 属 等	目 的
27.7.23	Bhakavat Tanskul (タイ)	在東京タイ王国大使館主席公使	表敬訪問 施設見学
	Ampol Summavuti (タイ)	タイ文化省芸術局 伝統芸術部門主任芸術担当官 芸術研究振興担当	
	Phrakhruwinaihorn Arayapong Chengcharoen (タイ)	住職補佐、王室後援ラチャプラディットサティマハシマラム寺院修理事業事務所長	
	Phramaha Anulak Prapavadee (タイ)	ラチャプラディット寺院教育担当官、王室後援ラチャプラディットサティマハシマラム寺院修理事業事務所秘書	
	Phrakhrusamu Decho Samreaj (タイ)	王室後援ラチャプラディットサティマハシマラム寺院修理事業事務所職員	
	Phrakhruhammadhathon Wiwat Puangkerd (タイ)	ラチャプラディット寺院公的扶助担当官	
	Sookprasong Weerasri (タイ)	ラチャプラディット寺院職員	
	Weerasit Sangsila (タイ)	ラチャプラディット寺院職員	
	Piya Sinthavarayan (タイ)	ラチャプラディット寺院職員	
	Wattana Jirasagulthai (タイ)	ラチャプラディット寺院所属写真家	
	Suwiban Euasookkul (タイ)	TPA School AS所属通訳	

4. 主要来訪者、施設見学

日 程	来訪者及び視察者等	備 考
27.4.3	台湾 国立台北教育大学大学院10名、家族1名、通訳1名、引率1名	施設見学
27.7.10	独立行政法人国立文化財機構新任職員研修計41名、引率4名	施設見学
27.9.4	ICCROM国際研修「紙の保存と修復」研修生10名、通訳1名	研修・施設見学
27.10.5	東京学芸大学9名	施設見学
27.11.5	大韓民国・国立中央博物館2名	施設見学
27.11.16	日本空気清浄協会21名	施設見学
27.11.17	韓国伝統文化大学大学院2名、産学協力団2名	施設見学
27.12.7	袖ヶ浦市郷土博物館1名、フィールドワーク入門講座受講生9名	施設見学

6. 主な所蔵資料

1. 図書資料

(1) 美術関係図書

日本・東洋・欧米の美術に関するものを中心に、各地方公共団体刊行の文化財関係調査報告書、展覧会の図録・目録類、売目録など欧文あわせて約145,385冊の図書に加え、和文3,561種、韓文51種、中文150種、欧文488種におよぶ美術関係雑誌約128,778冊を所蔵している。

その他江戸期の写本版本をはじめ、明治大正期刊行の大型美術図録や美術雑誌、また明治から昭和初期に開催された各種博覧会展覧会資料など、多くの貴重書を所蔵している。

(2) 無形文化遺産関係図書

雅楽・寺事・能・文楽・歌舞伎・邦楽・邦舞・民俗芸能・寄席芸、その他わが国の伝統芸能の研究に必要な図書17,245冊を所蔵している。そのなかには、雅楽画報・演芸画報・歌舞伎新報・歌舞伎（第1次）・テアトロ（第1次）・新劇・上方・民俗芸能・日本民俗・芸能復興・郷土研究・旅と伝説など現在では入手しにくい雑誌、国立劇場ほかで行われる芸能公演の上演資料や声明本・謡本・囃子手付本・丸本などの台本・譜本等、多くの貴重書を含んでいる。本年度は917冊を登録した。

(3) 保存科学・修復技術関係図書

伝統的生産および工芸技術書、技術史またはそれらの科学的究明を試みたもの、修理工事報告書および化学・物理学・生物学部門の保存科学の関連和洋書、あわせて約7,000冊を所蔵している。

(4) 日本国外の文化遺産関係図書

国際資料室では、外国の文化財や文化財保存、文化財保存国際協力や文化財保護制度に関する国内外の図書資料を約12,000点所蔵する。また、文化財保護関連機関のパンフレットなど図書以外の文献資料の収集、さらに国内外の文化財保護関連法令資料の収集を実施している。2016年1月の施設改修に伴い、国際資料室蔵書は資料閲覧室書庫に移動した。

平成27年度における収集数（韓文・中文図書は、和漢書として計上）

区分（2015年度）	美術関係	無形文化遺産関係	保存修復関係	日本国外の文化遺産関係	計
和漢書	1,306冊	887冊	5冊	29冊	2,227冊
洋書	33冊	30冊	3冊	104冊	170冊
合計	1,339冊	917冊	8冊	133冊	2,397冊

2. その他

(1) **美術関係資料**：企画情報部が管理している写真資料は、絵画・彫刻・工芸・建築等の台紙貼写真、売立目録カードなど総数約26万点である。写真原板は、モノクロ4×5フィルム約49,740点、カラー4×5フィルム約8,980点、半切ほかガラス乾板約21,000点をはじめとして、各種サイズのモノクロフィルム約3,450点、X線フィルム・赤外線フィルム約3,300点などを所蔵している。フィルムのデジタル化作業を逐次進めるとともに、新たにフルカラー撮影7,865件、特殊画像撮影226件（デジタル100%）を行った。また、当研究所旧職員梅津次郎、秋山光和、田中一松、久野健各氏寄贈研究資料の公開に向けた整理のほか、鈴木敬氏旧蔵写真資料の整理を行っている。このほか、拓本類、作家伝記資料、落款印章資料、近現代作家・団体・画廊・作品資料、資料スクラップ等と図版カード、各種索引類などを管理している。

(2) **無形文化遺産関係資料**：無形文化遺産部では、雅楽・能・歌舞伎・邦楽・寺院行事・民俗芸能その他の伝統芸能の技法を、録音・録画・写真撮影等の形で記録することを重要な業務としてきた。これまでに、現地での実況や所内舞台での演奏を記録したオープンリールテープ約2,300点、ビデオ1,191点、スチール写真は関連する文書の記録写真等も含め約19万点、CDはオープンリールテープをデジタル化した物を中心に1,976点、DVD3,758点、BD581点を作成してきた。本年度は、DVD140点、BD240点を登録した。加えてHi8のデジタル化にも着手し、DVD21点を作成した。また、市販された伝統芸能関係の資料の収集も進めている。ことに、昭和35年度文部省機関研究費によって購入した安原コレクションは、明治・大正・昭和3代にわたって発売された各種邦楽のSPレコードを網羅した約6,000枚の一大コレクションで、近代における邦楽の実態と変遷を知る上で貴重な資料である。レコードの収集枚数は現在約7,300枚に及んでいる。その他これまでに、市販のビデオ522点、CD1,834点、DVD1,192点を収集してきた。うち本年度は、CD26点、DVD88点を登録した。なおSPレコードコレクションの詳細は『音盤目録Ⅰ～Ⅴ』（東京国立文化財研究所刊 1966～1996）で公表している。

(3) **保存科学・修復技術関係資料**：保存修復科学センターでは、考古遺物や美術工芸品など、諸部門の文化財を撮影したX線フィルムを多数所蔵する。X線透過撮影は昭和20年代から力を注いで行っており、近年それらのデータをデジタル化し、整理する作業を進めている。

(4) **国際資料室保管資料**：文化遺産国際協力センターでは、日本の文化財保護に関する国際協力の分野で活躍した専門家の資料を受け入れている。関野克氏旧所蔵資料には、国際機関での会議や個別の文化遺産保存に関わる記録が含まれている。特にユネスコの条約や勧告に関わる資料には、草案や日本政府の意見書なども含まれ、その成立の経緯や日本政府の関与なども知ることができる。また、千原大五郎氏旧蔵資料には、ボロブドゥール修復事業関連の会議録、書簡類、修復案、図面、オランダ統治時代の研究書や、その他の東南アジア諸国の遺跡に関する文献や図面、写真も数多く含まれる。さらに、野口英雄氏が収集した、文化財の危機管理やユネスコ日本信託基金による保存修復事業などに関する資料を受け入れている。

7. 研究所関係資料

1. 設立の経緯

東京文化財研究所は、2001（平成13）年4月1日に東京国立文化財研究所が独立行政法人化され独立行政法人文化財研究所東京文化財研究所となった。その前身である東京国立文化財研究所は、1952（昭和27）年4月1日に発足し、その母体となったものは、昭和5年に創設された政府機関の帝国美術院附属美術研究所である。

この美術研究所は、1924（大正13）年7月、帝国美術院長子爵故黒田清輝の遺言により美術奨励事業のために寄附出捐した資金で遺言執行人が選択決定した事業である。すなわち遺言執行人代表伯爵樺山愛輔は、故子爵の遺志にしたがってこの資金で行うべき事業の選択を伯爵牧野伸顕に一任した。牧野伯爵は帝国美術院長福原隼二郎及び東京美術学校長正木直彦とはかつて諸方面の意見を徴し、またわが国美術研究の必要に照らして次の事業を行うこととした。

- (1) 美術に関する基礎的調査研究機関として美術研究所を設けること。
- (2) 黒田子爵の作品を陳列して同子爵の功績を記念すること。
- (3) 前二項の目的を達するために適当な建物を造営すること。
- (4) 事業成立の上は一切これを政府に寄附すること。

2. 年代別重要事項

期 日	事 項
昭和元年12月25日	前記の事業を遂行するため委員会が組織され、東京美術学校長正木直彦が委員長に就任し、美術研究所事業については東京美術学校教授矢代幸雄、黒田子爵作品陳列については東京美術学校教授久米桂一郎・同岡田三郎助・同和田英作・同藤島武二及び大給近清、建物造営については東京美術学校教授岡田信一郎、会計事務については遺言執行人打田伝吉を各委員として事務を分掌進行させた。
昭和2年2月1日 同年10月28日	美術研究所準備事業を開始した。 東京市上野公園内に鉄筋コンクリート造、半地階2階建、延面積1,192㎡の建物1棟を起工した（本館）。
昭和3年9月	前記の建物が竣工したので、黒田記念館と名付け、美術研究所開設のため必要な備品・図書・写真等の研究資料を設備し、また館内に黒田子爵記念室を設け、黒田清輝の作品を陳列した。
昭和4年5月29日	遺言執行人代表者樺山愛輔は、建物・設備・研究資料等一切の外に金15万円をそえて帝国美術院長に寄附を願い出た。
昭和5年6月28日 同年10月17日	勅令第125号により帝国美術院に附属美術研究所が置かれ、東京美術学校長正木直彦が同研究所の主事に補せられた。 美術研究所開所式を挙行了た。
昭和7年1月1日	美術研究所の研究成果発表機関誌として、定期刊行物『美術研究』を創刊した。
昭和7年4月18日	株式会社朝日新聞社より明治大正美術史編纂費として本年から向う5か年間毎年5千円、合計2万5千円を帝国美術院に寄附したいとの申出があった。

期 日	事 項
同年 5 月 26 日	帝国美術院はこの申出を受理した。 明治大正美術史編纂委員会規程を設け、美術研究所は明治大正美術史の編纂に関する事務を行うことになった。
昭和 9 年 10 月 18 日	毎年 10 月 18 日を開所記念日と定めた。
昭和 10 年 1 月 28 日	鉄筋コンクリート造、2 階建、延面積 129m ² の書庫が竣工した。
同年 4 月	『日本美術年鑑』の編纂事務を開始した。
同年 6 月 1 日	勅令第 148 号により美術研究所官制が公布された。 研究資料閲覧規程を制定し、閲覧事務を開始した。
昭和 12 年 6 月 24 日	勅令第 281 号により美術研究所官制中改正の件が公布され、従来、帝国美術院に附置されていたのを文部大臣の直轄に改められた。
同年 11 月 29 日	美術研究所長職務規程、美術研究所事務分掌規程が制定された。
昭和 13 年 2 月 12 日	木造、平屋建、延面積 97m ² の写真室 1 棟が竣工した。
昭和 19 年 8 月 10 日	黒田清輝の作品、並びに写真原版を東京都西多摩郡小宮村谷間家倉庫に疎開した。
昭和 20 年 5 月 28 日	美術研究所の図書・諸資料全部を山形県酒田市本町 1 丁目日本間家倉庫 3 棟に疎開した。
同年 7 ～ 8 月	酒田市本間家倉庫に疎開した図書資料を爆撃の危険を避けるため、さらに酒田市外牧曾根村松沢世喜雄家倉庫・観音寺村村上家倉庫・大沢村後藤作之丞家倉庫にそれぞれ分散疎開した。
昭和 21 年 3 月 29 日	酒田市疎開中の図書・諸資料等の東京向け発送を終了した。
同年 4 月 4 日	酒田市疎開中の図書・諸資料等が東京に到着し、引揚げを完了した。
同年 4 月 16 日	東京都西多摩郡に疎開中の黒田清輝作品並びに写真原版の引揚げを完了した。
昭和 22 年 5 月 3 日	美術研究所官制が廃止され、国立博物館官制が制定された。美術研究所は同館の附属美術研究所となった。 国立博物館に保存修理課発足。同課内に保存技術研究室を置いた（保存科学部の前身）。昭和 23 年度より専任の職員を配置し、研究を開始した。研究室は国立博物館本館地下の修理室の一室（66m ² ）に設けた。
昭和 25 年 8 月 29 日	文化財保護法の制定にともない、美術研究所は文化財保護委員会の附属機関となった。 文化財保護委員会事務局設置にともない、保存科学研究室は国立博物館保存修理課から文化財保護委員会事務局保存部建造物課に所属換えとなった。
昭和 26 年 1 月 31 日	美術研究所組織規程が定められ、第一研究部・第二研究部・資料部・庶務室が置かれた。
昭和 27 年 4 月 1 日	文化財保護法の一部が改正、東京文化財研究所組織規程が定められ、美術部・芸能部・保存科学部・庶務室の 3 部 1 室が置かれ、美術研究所組織規程が廃止された。 また文化財保護委員会事務局保存部建造物課保存科学研究室も廃止された。
同年 7 月 1 日	芸能部研究室として東京藝術大学音楽学部邦楽科教室 2 室を同大学から借用し、研究を開始した。
昭和 28 年 4 月 26 日	保存科学部研究室として、東京国立博物館構内の倉庫 132m ² を改造のうえ移転した。
昭和 29 年 7 月 1 日	東京文化財研究所組織規程の一部が改正され、東京国立文化財研究所となった。
昭和 32 年 3 月 22 日	東京国立博物館構内に木造、外部鉄網モルタル塗、平屋建、8 m ² の保存科学部の薬品庫が竣工した。

期 日	事 項
昭和32年11月30日	従来の2階建書庫の上にさらに1階を増築3階建とし、増築分延面積71㎡が竣工した。
昭和34年4月30日	東京国立文化財研究所研究受託規程が定められ、この年度から受託研究が開始された。
昭和36年9月16日	東京国立文化財研究所組織規程の一部が改正され、従来の庶務室は庶務課となった。
昭和37年3月31日	東京国立博物館内に保存科学部庁舎（保存科学部実験室）として、鉄筋コンクリート造、2階建、延面積663㎡の建物1棟が竣工した。
同年7月1日	東京国立文化財研究所組織規程の一部が改正され、新たに保存科学部に修理技術研究室が置かれた。
同年7月20日	芸能部研究室は、保存科学部庁舎の竣工にともない、旧保存科学部庁舎に移転した。
昭和43年6月15日	文部省設置法の一部が改正され、本研究所は文化庁附属機関となった。
昭和44年8月23日	保存科学部庁舎に隣接して新営される別館庁舎（延1,950.41㎡）の起工式が行われた。
昭和45年3月25日	前記の別館が竣工したので、同年5月26日竣工式が行われた。芸能部は、別館3階に移転した。
同年5月8日	保存科学部は別館の地階～2階に実験用機械類の移転据付を完了した。
同年6月29日	保存科学部庁舎の1階の模様替工事に着手し、同年10月15日工事が完了した。
同年11月2日	所長及び庶務課は、本館から保存科学部庁舎の1階に移転した（本館は、美術部庁舎となる）。これにより研究所の所在地表示は「12番53号」から「13番27号」に変更された。
昭和46年4月1日	保存科学部庁舎及び別館の敷地2,658㎡を東京国立博物館から所管換えされた。
昭和48年4月12日	文部省設置法施行規則の一部が改正され、新たに修復技術部が設けられ4部1課となり、修復技術部に第一修復技術研究室及び第二修復技術研究室が置かれ、保存科学部修理技術研究室は廃止された。
昭和52年4月18日	文部省設置法施行規則の一部が改正され、情報資料部の新設により5部1課となり、情報資料部に文献資料研究室及び写真資料研究室が置かれ、美術部資料室は廃止された。
昭和53年3月20日	本館構内の写場等（木造、平屋建、延面積144㎡）を取りこわし、情報資料部研究棟として、鉄筋コンクリート造、地下1階、地上3階、延面積569.95㎡の建物が竣工した。
同年4月5日	文部省設置法施行規則の一部が改正され、新たに修復技術部に第三修復技術研究室が置かれた。
昭和59年6月28日	文部省組織令が改正され、本研究所は文化庁施設等機関となった。
平成2年10月1日	文部省設置法施行規則の一部が改正されて、新たにアジア文化財保存研究室が置かれ、5部1室1課となった。
平成5年4月1日	文部省設置法施行規則の一部が改正されて、アジア文化財保存研究室は、国際文化財保存修復協力室となった。
平成7年4月1日	文部省設置法施行規則の一部が改正されて、国際文化財保存修復協力室が廃止され、新たに国際文化財保存修復協力センターが設置された。同センターには、企画室及び環境解析研究指導室が置かれ、1センター5部1課となった。

期 日	事 項
平成7年4月1日	東京藝術大学と「東京芸術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻の教育研究に対する連携・協力に関する協定書」が交わされ、連携併任分野として独立専攻大学院文化財保存学専攻（システム保存学）が設置された。
平成9年10月1日	文部省設置法施行規則の一部が改正されて、国際文化財保存修復協力センターに保存計画研究指導室が置かれた。
平成12年2月4日	新営庁舎として、鉄筋コンクリート造、地上4階地下1階、延面積10,557.99㎡（建築面積2,258.48㎡）が竣工した。
同年2月21日	新営庁舎の竣工にともない、別館（庶務課・芸能部・保存科学部・修復技術部・国際文化財保存修復協力センター）部分の移転が開始された。
同年3月6日	新営庁舎の竣工にともない、本館（美術部・情報資料部）の移転が開始された。
同年3月22日	建設省関東地方建設局営繕部より、新営庁舎の外構工事、植栽等の引き渡しを受け、新営庁舎関係の工事が完了した。
同年5月11日	新営庁舎の竣工を記念し、開所記念式典を挙行了。 この式典の挙行に際し、毎年5月11日を開所記念日と定めた。
平成13年3月29日	黒田記念館改修工事が竣工し、展示スペースが黒田記念室及び展示室の2室になった。
同年4月1日	東京国立文化財研究所は、奈良国立文化財研究所と統合され、独立行政法人文化財研究所東京文化財研究所となった。 この独立行政法人化にともない、東京文化財研究所は、管理部、協力調整官一情報調整室、美術部、芸能部、保存科学部、修復技術部、国際文化財保存修復協力センターの1センター5部1協力調整官一情報調整室となった。
平成15年9月19日	黒田記念館にエレベーターを設置し、門扉、外構の改修工事をを行った。
平成18年4月1日	文化財研究所組織規程の一部が改正されて、協力調整官一情報調整室は企画情報部に、芸能部は無形文化遺産部に、国際文化財保存修復協力センターは文化遺産国際協力センターとなった。
平成19年4月1日	独立行政法人文化財研究所東京文化財研究所は、独立行政法人文化財研究所と独立行政法人国立博物館との統合により、独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所となり、黒田記念館は、東京国立博物館に移管された。 この統合にともない、東京文化財研究所は、美術部を企画情報部に、保存科学部と修復技術部は保存修復科学センターに統合し、3部2センターとなった。
平成22年4月1日	国立文化財機構組織規程等の一部が改正されて、管理部は研究支援推進部となった。

3. 歴代所長（昭和5年～平成28年度）

役 職	氏 名	期 間
主事	正木直彦	昭和 5. 6.28～昭和 6.11.24
主事	矢代幸雄	昭和 6.11.25～昭和10. 5.31
所長事務取扱	和田英作	昭和10. 6. 1～昭和11. 6.21
所長	矢代幸雄	昭和11. 6.22～昭和17. 6.28
所長事務取扱	田中豊蔵	昭和17. 6.29～昭和22. 8.15
所長	田中豊蔵	昭和22. 8.16～昭和23. 5.10
所長代理	福山敏男	昭和23. 5.11～昭和24. 8.30
所長	松本栄一	昭和24. 8.31～昭和27. 3.31
所長事務代理	矢代幸雄	昭和27. 4. 1～昭和28.10.31
所長	田中一松	昭和28.11. 1～昭和40. 3.31
所長	関野克	昭和40. 4. 1～昭和53. 4. 1
所長	伊藤延男	昭和53. 4. 1～昭和62. 3.31
所長	濱田隆	昭和62. 4. 1～平成 3. 3.31
所長	西川杏太郎	平成 3. 4. 1～平成 8. 3.31
所長	渡邊明義	平成 8. 4. 1～平成13. 3.31
（独立行政法人文化財研究所 東京文化財研究所に移行）		
所長	渡邊明義	平成13. 4. 1～平成16. 3.31
所長	鈴木規夫	平成16. 4. 1～平成19. 3.31
（独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所に移行）		
所長	鈴木規夫	平成19. 4. 1～平成22. 3.31
所長	亀井伸雄	平成22. 4. 1～現在

4. 名誉研究員

氏名	退職時官職名	在所期間	名誉研究員 発令年月日
江上綏	情報資料部主任研究官	昭和38.5.18～昭和59.3.31	昭和59.10.18
猪川和子	情報資料部文献資料研究室長	昭和22.6.27～昭和60.3.31	昭和60.10.18
三隅治雄	芸能部長	昭和27.10.1～昭和63.3.31	昭和63.10.18
見城敏子	保存科学部物理研究室長	昭和34.4.1～平成元.3.31	平成元.10.18
濱田隆	所長	昭和62.4.1～平成3.3.31	平成3.10.18
関口正之	美術部長	昭和42.2.1～平成3.3.31	平成3.10.18
佐藤道子	芸能部長	昭和34.4.1～平成4.3.31	平成4.10.18
馬淵久夫	保存科学部長	昭和50.10.1～平成4.3.31	平成4.10.18
新井英夫	保存科学部長	昭和45.9.1～平成5.3.31	平成5.4.1
西川杏太郎	所長	平成3.4.1～平成8.3.31	平成8.4.1
三輪英夫	美術部第二研究室長	昭和53.8.1～平成8.3.31	平成8.4.1
蒲生郷昭	芸能部長	昭和56.4.1～平成10.3.31	平成10.4.1
中里壽克	修復技術部第一修復技術研究室長	昭和39.4.1～平成10.3.31	平成10.4.1
宮本長二郎	国際文化財保存修復協力センター長	平成6.4.1～平成11.3.31	平成11.4.1
羽田昶	芸能部音楽舞踊研究室長	昭和51.4.1～平成12.3.31	平成12.4.1
中村茂子	芸能部民俗芸能研究室長	昭和39.7.1～平成13.3.31	平成13.4.1
増田勝彦	修復技術部長	昭和48.8.1～平成13.3.31	平成13.4.1
米倉迪夫	情報資料部長	昭和50.9.1～平成13.3.31	平成13.4.1
星野紘	芸能部長	平成10.4.1～平成14.3.31	平成14.4.1
平尾良光	保存科学部化学研究室長	昭和62.4.1～平成15.3.31	平成15.4.1
井手誠之輔	協力調整官一情報調整室長	昭和62.7.1～平成16.3.29	平成16.3.30
斎藤英俊	国際文化財保存修復協力センター長	平成11.4.1～平成16.3.30	平成16.3.31
西浦忠輝	保存科学部長	昭和50.7.1～平成16.3.31	平成16.4.1
鈴木廣之	美術部日本東洋美術研究室長	昭和54.9.1～平成17.11.30	平成17.12.1
青木繁夫	文化遺産国際協力センター長	昭和49.7.1～平成19.3.31	平成19.3.31
三浦定俊	副所長	昭和48.8.1～平成20.3.31	平成20.4.1
鎌倉恵子	無形文化遺産部無形文化財研究室長	昭和63.4.1～平成20.3.31	平成20.4.1
鈴木規夫	所長	平成16.4.1～平成22.3.31	平成22.4.1
中野照男	副所長	平成4.4.1～平成23.3.31	平成23.4.1
清水真一	文化遺産国際協力センター長	平成19.4.1～平成23.3.31	平成23.4.1
石崎武志	副所長	平成8.12.1～平成26.9.30	平成26.10.1
田中淳	副所長	平成6.11.1～平成28.3.31	平成28.4.1
川野邊渉	文化遺産国際協力センター長	昭和63.10.1～平成28.3.31	平成28.4.1

5. 2015（平成27）年度予算等

(1) 予算

（単位：千円）

事 項	予 算 額
一般管理費	55,368
調査研究事業費	140,155
情報公開事業費	46,131
研修事業費	2,477
国際研究協力事業費	208,535
展示出版事業費	27,737
合 計	480,403

(2) 科学研究費助成事業交付一覧

（単位：千円）

研究種目	研究課題	研究代表者	交付額
基盤研究（B） 海外	考古遺物等を通じたベトナム木造建築様式の形成過程に関する研究	友田正彦	4,160
	中央アジア、シルクロード拠点都市と地域社会の発展過程に関する考古学的研究	山内和也	5,980
基盤研究（A）	彩色塗装のある歴史的木造文化財建造物の加湿温風処理による虫害処理方法の検討	木川りか	15,210
基盤研究（B）	酵素を利用した文化財の新規クリーニング方法の開発—旧修理材料や微生物痕の除去—	早川典子	2,470
	文化財建造物の伝統的な塗装彩色材料の再評価と保存・修理・資料活用に関する研究	北野信彦	3,380
	対外交流史の視点によるアジア螺鈿の総合的研究—大航海時代を中心に—	小林公治	3,640
基盤研究（C）	空間情報データベースによる文化財の災害被害予測の高度化及び防災計画策定への応用	二神葉子	1,170
	平安仏画の技法に関する画像情報による調査研究	小林達朗	2,080
	平安時代前期における神仏習合の展開とその彫刻に関する研究	皿井舞	1,950
	環境制御による古墳に繁茂する緑色生物の軽減法に関する研究	朽津信明	2,340

研究種目	研究課題	研究代表者	交付額
基盤研究 (C)	津波被災文書資料から発生するにおい物質の同定とその対策	佐野千絵	1,300
	日本絵画における鉛白・胡粉の利用とその変遷に関する調査研究	早川泰弘	1,820
	政治的危機に瀕する『越境文化遺産』の保護と平和活用・国際政治・公共政策研究の貢献	原本知実	(1,135)
挑戦的萌芽	文化財の材質調査のための2次元イメージング検出器の開発	犬塚将英	910
	実演用能装束の保存継承に関する研究—能楽の包括的継承の一指針として—	菊池理予	1,040
若手研究 (A)	染織技術の伝承に関する研究—材料・道具に焦点をあてて—	菊池理予	4,680
	墨、煤、膠の製法と性状の体系化—伝統的製法の再現—	宇高健太郎	5,590
若手研究 (B)	GISを用いた古代クメール都市発展史の復元的研究	佐藤 桂	(1,979)
	古代メソポタミアの葬送儀礼に関する多角的研究	久米正吾	(940)
	絵画修復と絵画制作に用いる膠の物性に関する基礎的研究	楠京子	(371)
	塑像・乾漆像の部材構造を考慮したより高精度な地震時応答解析手法の開発	森井順之	1,300
	パネル保存型壁画における劣化の検証と保存管理環境の確立	前川佳文	2,340
	リアルタイム浮遊菌測定を用いた自然共生型博物館におけるゾーニングについての研究	間瀬創	2,080
	放射光を用いた中東アナトリア出土鉄器に対する生産地同定法の開発	増渕麻里耶	1,040
特別研究員奨励費	彩色材と和紙からなる紙質文化財における和紙の劣化機構	貴田啓子	1,024
	墨、煤、膠の製法と性状の体系化	宇高健太郎	1,560
	毘沙門天像の成立と展開—唐・宋・元から平安・鎌倉へ—	佐藤有希子	1,430
学術図書	平安密教彫刻論	津田徹英	2,200
データベース	SAT 大正大藏經 画像編 データベース	津田徹英	4,500
研究活動スタート支援	江戸時代における初期文人画の基礎的研究—中国絵画学習とその地域性について—	安永拓世	1,430

※交付額が括弧内に記載された研究課題は前年度からの繰越により実施

(3) 受託調査研究一覧

(単位：千円)

研究課題	研究代表者	依頼元	契約総額
第39回世界遺産委員会審議調査研究事業	川野邊渉	文化庁	5,279
国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査業務	岡田健	文化庁	44,101
高松塚古墳壁画の保存・展示の在り方に関する調査業務	岡田健	文化庁	6,549

研究課題	研究代表者	依頼元	契約総額
特別史跡キトラ古墳保存対策等調査業務	岡田健	文化庁	36,393
文化遺産国際協力拠点交流事業(ミャンマーの文化遺産保護に関する拠点交流事業)	川野邊渉	文化庁	15,863
文化遺産国際協力拠点交流事業(大洋州島しょ国の文化遺産保護に関する拠点交流事業)	飯島満	文化庁	4,509
文化遺産国際協力コンソーシアム事業	川野邊渉	文化庁	43,897
文化財保護国際貢献事業(専門家交流)(ネパールにおける文化遺産被災状況調査事業)	友田正彦	文化庁	20,799
美術工芸品修理技術人材等に関する調査研究事業	加藤雅人	文化庁	2,944
国宝 平等院鳳凰堂須弥壇漆塗調査業務	早川泰弘	京都府	591
高精細デジタル画像を活用した「菜蟲譜」複製製作に関する調査研究	早川泰弘	佐野市	1,610
ユネスコ文化遺産保存日本信託基金「中央アジアのシルクロード世界遺産のための支援事業(第2期)」	山内和也	ユネスコ・アルマトイ事務所	3,030
ユネスコ文化遺産保存日本信託基金「バガン建築遺産保存のための技術支援」	友田正彦	ユネスコ・バンコク事務所	1,388
シュエナンドー僧院における漆工部材の保存修復に関する調査研究事業委託	友田正彦	ワールドモニュメント財団	1,247
ラチャプラディット寺院の螺鈿扉の修復計画策定のための調査研究(平成25年から平成27年まで)	川野邊渉	ラチャプラディット寺院	0 (1,135)
国宝銅造阿弥陀如来坐像保存修理及び調査研究	森井順之	宗教法人高德院	32,392
日光の歴史的木造建造物の温風処理等による新たな殺虫処理方法の検討(平成26年から平成29年まで)	木川りか	公益財団法人日光社寺文化財保存会	5,400 (16,200)
文化財展示収蔵施設等のA T P調査における留意点の検討	木川りか	公益財団法人文化財虫菌害研究所	621
絵金屏風の保存修理に関する調査研究	岡田健	公益財団法人熊本市美術文化振興財団	172
X線透過撮影によるピカソ作《青い肩かけの女》の光学調査	犬塚将英	愛知芸術文化センター	325
「大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト「保存修復材料としての和紙研修(エジプト国別研修)」	山内和也	独立行政法人国際協力機構関西国際センター	665
エジプト国大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト(フェーズⅡ)にかかる国内支援業務(平成23年から平成27年まで)	山内和也	独立行政法人国際協力機構	26,485 (116,008)

※契約期間が記載されていない研究課題は、平成27年度単年度の契約
※複数年度にまたがる事業については括弧内に全年度の予算額を記載

(4) 共同研究等一覧

(単位：千円)

研究課題	共同研究者	研究代表者	金額	区分
京都市内出土文化財の保存修復科学的な調査研究	公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所	北野信彦	300	受入
航空資料保存の研究	一般財団法人日本航空協会	中山俊介	400	受入
文化財建造物に使用された金箔に関する保存修復学的な調査研究	金沢箔技術振興研究所	北野信彦	1,500	受入
鎌倉市内遺跡（若宮大路周辺遺跡群等）出土資料の保存修復科学的な調査研究	鎌倉市	北野信彦	300	受入
徳川宗家伝来文化財に関する保存修復科学的な調査研究	公益財団法人徳川記念財団	北野信彦	400	受入

(5) 助成金一覧

(単位：千円)

研究課題	助成元	研究代表者	助成額
タイ所在の幕末期日本製螺鈿製品に関する調査研究	公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団	二神葉子	400
高宗前半期（7世紀第3四半期）の龍門石窟造営における敬善寺洞開窟の意味と初唐龍門仏像様式展開に関する研究	一般財団法人仏教美術協会	岡田健	500

(6) 寄付金一覧

(単位：千円)

研究課題	寄付者	担当部局	受入額
東京文化財研究所における研究事業の助成	株式会社東京美術倶楽部	企画情報部	1,000
東京文化財研究所における研究成果の公表（出版事業）	東京美術商協同組合	企画情報部	1,000

年度内主要事業一覧

期 日	事 業 名
27.4.20	独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会研究所・センター調査研究等部会
27.5.29	独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会総会（東京国立博物館）
27.6.9	鼎談「「かたち」の生成をめぐる一イケムラレイコの場合」
27.7.6	保存担当学芸員フォローアップ研修「水俣条約による水銀規制と展示照明等への影響」
27.7.8-17	在外日本古美術品保存修復協力事業ワークショップ「日本の紙本・絹本文化財の保存修復」基礎編・応用編（ベルリン博物館群アジア美術館）
27.7.13-25	博物館・美術館等保存担当学芸員研修
27.7.16	IPMフォーラム「臭化メチル全廃から10年：文化財のIPMの現在」
27.8.31-9.18	国際研修「紙の保存と修復」
27.10.16-17	染織文化財の技法・材料に関する研究会「ワークショップ 友禅染—材料・道具・技術—」（文化学園大学）
27.10.30-31	第49回オープンレクチャー「モノ／イメージとの対話」
27.11.4-20	国際研修2015「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」（メキシコ国立人類学歴史機構）
27.11.11-12	無形文化遺産（伝統技術）の伝承に関する研究会Ⅱ「染織技術の伝承と地域の関わり」
27.11.13-26	在外日本古美術品保存修復協力事業ワークショップ「漆工品の保存と修復」Workshop I, III, IV（ケルン市博物館東洋美術館）
27.11.13	研究会「東南アジアの遺跡保存をめぐる技術的課題と展望」
27.12.4	第10回無形民俗文化財研究協議会「ひらかれる無形文化遺産—魅力の発信と外からの力」
27.12.18	第10回無形文化遺産部公開学術講座「邦楽の旋律とアクセント—中世から近世へ—」（東京国立博物館）
27.12.22	研究会「無形文化遺産と防災—伝統技術における記録の意義」
28.1.13	研究会「美術史家矢代幸雄における西洋と東洋」
28.1.15	第29回近代の文化遺産の保存修復に関する研究会「近代文化遺産の保存理念と修復理念」
28.1.24	国際シンポジウム「紛争と文化遺産—紛争下・紛争後の文化遺産保護と復興—」
28.1.26	第9回文化財における伝統技術及び材料に関する研究会「文化財建造物の塗装修理に対する日本産漆使用の現状と課題」
28.1.29	被災文化財等保全活動の記録に関する研究会
28.2.5	2015年ネパール・ゴルカ地震による被災文化遺産に関するセミナー
28.2.15	文化財の保存環境に関する研究会「実験用実大展示ケースを用いた濃度予測と清浄化技術の評価」
28.2.22	無形の文化財に関する映像記録作成についての研究会
28.3.9	第4回無形文化遺産情報ネットワーク協議会

*末尾（ ）内に記載のない行事の開催場所は東京文化財研究所

8. 東京文化財研究所プロジェクト索引

- 凡例 (1) この一覧は、平成27年度に、当研究所が運営交付金のもとで実施したプロジェクトを網羅している。
 (2) プロジェクトは、各研究部門ごとにプロジェクト背番号にしたがって配列し、末尾に年度報告の掲載頁を示した。
 プロジェクトには、下記にしたがって、担当部門と分類項目の記号を付している。

担当部門 企：企画情報部 無：無形文化遺産部 保・修：保存修復科学センター セ：文化遺産国際協力センター 支：研究支援推進部 共：共通	分類項目 ①プロジェクト研究 ②国際協力・交流等 ③資料作成・公開 ④研究集会・講座等 ⑤研究指導・研修等 ⑥刊行物
--	---

年次欄には、計画年数の何年目にあたるかを示している。 例 5/5→5年計画の第5年目

企画情報部						
背番号	分類項目	事業名	年次	予算科目名	備考	頁
企01	①プロジェクト研究	文化財の研究情報の公開・活用のための総合的研究	5/5	情報公開事業費		25
企02	①プロジェクト研究	文化財の資料学的研究	5/5	調査研究事業費		26
企03	①プロジェクト研究	近現代美術に関する交流史的研究	5/5	調査研究事業費		27
企04	①プロジェクト研究	美術の表現・技法・材料に関する多角的研究	5/5	調査研究事業費		28
企05	①プロジェクト研究	文化財デジタル画像形成に関する調査研究	5/5	調査研究事業費		32
企06	③資料作成・公開	文化財情報基盤の整備・ウェブサイトの運用	5/5	情報公開事業費		53
企07	③資料作成・公開	専門的アーカイブの拡充（資料閲覧室運営）	5/5	情報公開事業費		55
企08	③資料作成・公開	広報企画事業（ニュースレター・概要・年報）	5/5	情報公開事業費		57
企09	⑥刊行物	平成26年版『日本美術年鑑』刊行事業・出版事業『美術研究』（調査・研究成果の公開）	5/5	展示出版事業費		81

企10	④研究集会・講座等	平成27年度オープンレクチャー（調査・研究成果の公開）	5/5	情報公開事業費		61
無形文化遺産部						
背番号	分類項目	事業名	年次	予算科目名	備考	頁
無01	①プロジェクト研究	無形文化財の保存・活用に関する調査研究	5/5	調査研究事業費		29
無02	①プロジェクト研究	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究	5/5	調査研究事業費		30
無03	③資料作成・公開	無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化	5/5	情報公開事業費		56
無04	⑥刊行物	無形文化遺産部出版関係事業	5/5	展示出版事業費		81
無06	①プロジェクト研究	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集	5/5	国際研究協力事業費		31
保存修復科学センター						
背番号	分類項目	事業名	年次	予算科目名	備考	頁
保修01	①プロジェクト研究	文化財の材質及び劣化調査法に関する研究	5/5	調査研究事業費	平成24年度よりプロジェクト番号変更	35
保修02	①プロジェクト研究	文化財のカビ被害予防と対策のシステム化についての研究	5/5	調査研究事業費	〃	33
保修03	①プロジェクト研究	文化財の保存環境の研究	5/5	調査研究事業費	〃	34
保修04	①プロジェクト研究	周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究	5/5	国際研究協力事業費	〃	36
保修05	①プロジェクト研究	文化財の防災計画に関する研究	5/5	国際研究協力事業費	〃	37
保修06	①プロジェクト研究	文化財における伝統技術及び材料に関する調査研究	5/5	調査研究事業費	〃	38
保修07	①プロジェクト研究	近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究	5/5	調査研究事業費	〃	40
保修09	⑥刊行物	『保存科学』55号の出版	5/5	展示出版事業費	〃	82

保修 10	⑤研究指導・研修等	保存担当学芸員研修	5/5	研修 事業費	平成24年度よりプロジェクト番号変更	73
保修 12	①プロジェクト研究	文化財修復材料の適用に関する調査研究	3/3	調査研究 事業費		39
文化遺産国際協力センター						
背番号	分類項目	事業名	年次	予算科目名	備考	頁
セ01	②国際協力・交流等	文化財保護に関する国際情報の収集・研究・発信	5/5	情報公開 事業費		43
セ02	②国際協力・交流等	東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力	5/5	国際研究 協力 事業費	平成24年度より名称変更	44
セ03	②国際協力・交流等	西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業	5/5	国際研究 協力 事業費	平成24年度よりプロジェクト番号変更	45
セ04	②国際協力・交流等	在外日本古美術品保存修復協力事業	5/5	国際研究 協力 事業費	"	47
セ05	⑤研究指導・研修等	国際研修「紙の保存と修復」	5/5	国際研究 協力 事業費	"	69
セ06	②国際協力・交流等	ユーラシア壁画の調査研究と保存修復	3/3	国際研究 協力 事業費		48

※平成26年度以前に終了したプロジェクトがあるため一部の背番号に欠番がある。

独立行政法人国立文化財機構
東京文化財研究所年報2015

発行日 2016年6月30日

発行所 独立行政法人国立文化財機構
東京文化財研究所
〒110-8713 東京都台東区上野公園13-43
TEL 03-3823-2241 (番号案内)
FAX 03-3828-2434
<http://www.tobunken.go.jp/>

編集 文化財情報資料部
制作 Curio Editors Studio
印刷 よしみ工産株式会社

